

丸谷地区遺跡群

NAKADAIGOROU DAI 1

中大五郎第1遺跡

NAKADAIGOROU DAI 2

中大五郎第2遺跡

MOTOIKE

本池遺跡

MAEHATA

前畑遺跡

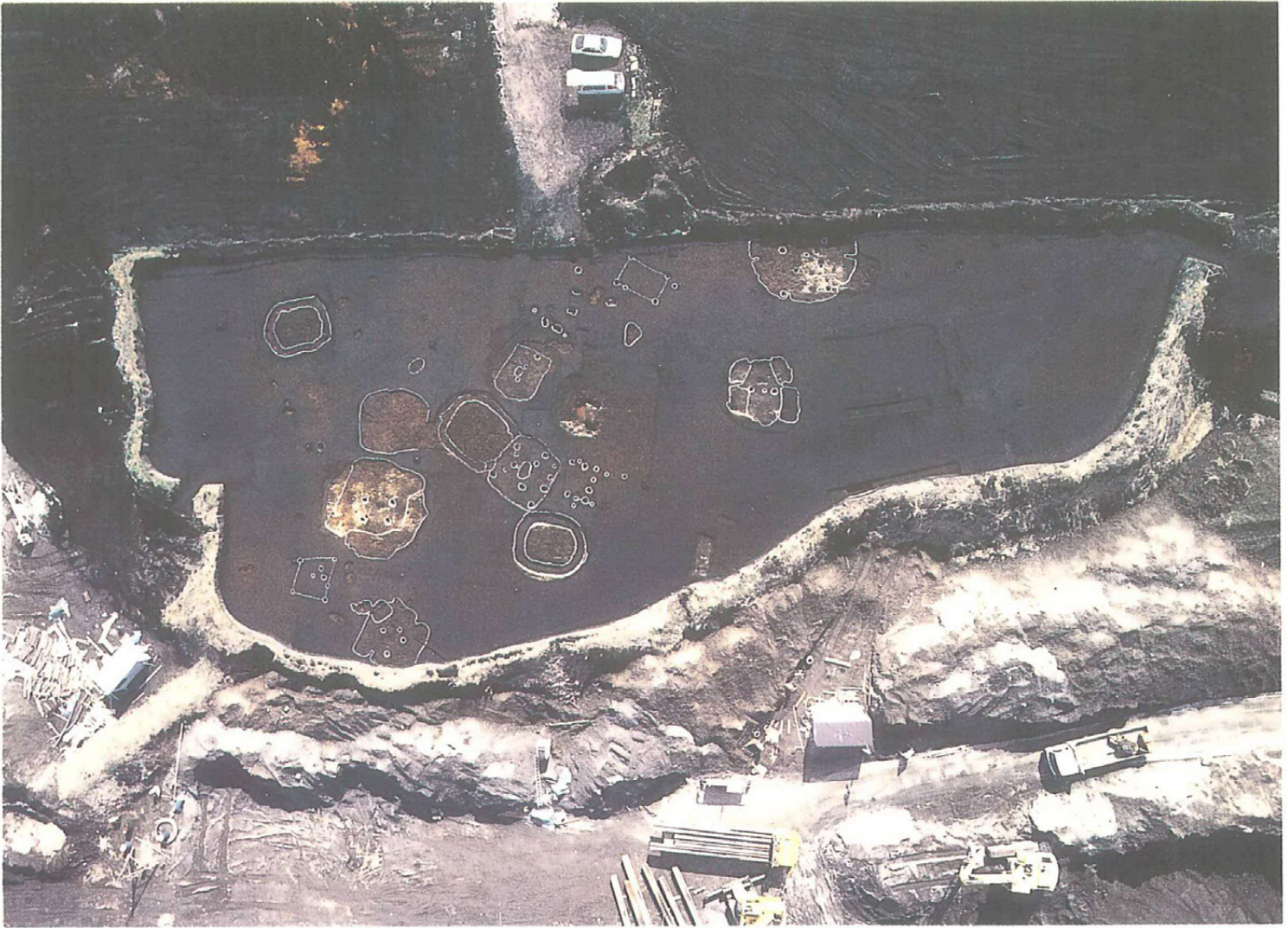
丸谷地区県営ほ場整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書(2)

1996年3月

宮崎県都城市教育委員会



丸谷地区遺跡群全景



中大五郎第1遺跡全景



中大五郎第 2 遺跡全景



本池遺跡 A 区全景



前畑遺跡全景

序 文

この報告書は、平成3・4・5・6・7年度に宮崎県北諸県農林振興局が計画した丸谷地区
県営は場整備事業に伴い、国・県の補助を受け都城市教育委員会が実施した丸谷地区遺跡群の
正式な発掘調査報告です。

調査の結果、当該地区一帯には、縄文時代・弥生時代・古代・中世の広大な集落跡が埋蔵さ
れていたことが判明いたしました。これらの発掘した資料が歴史教材として生かされるととも
に、今後の学術研究や市史解明の一助となることを願っています。

本事業の推進と本書の刊行にあたり発掘調査に参加された皆様、宮崎県北諸県農林振興局、
丸谷地区土地改良区関係者のご協力に対し深甚の謝意を表しますとともに、発掘調査と報告書
作成に日夜ご尽力をいただきました宮崎県文化課の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成8年3月25日

都城市教育委員会

教育長 隈 元 幸 美

例 言

1. この報告書は、丸谷地区県営ほ場整備事業に伴い都城市教育委員会が実施した中大五郎第1遺跡、中大五郎第2遺跡、本池遺跡、前畑遺跡の発掘調査報告書である。
2. 各遺跡の発掘調査期間は次のとおりである。

中大五郎第1遺跡 平成3年10月23日～平成4年2月2日
中大五郎第2遺跡 平成3年10月23日～平成4年2月2日
本池遺跡 平成4年10月5日～平成5年1月29日
前畑遺跡 平成4年11月23日～平成5年3月2日
3. 各遺跡の発掘調査担当者は次のとおりである。

中大五郎第1遺跡 宮崎県教育委員会文化課 主事 長友郁子
中大五郎第2遺跡 宮崎県教育委員会文化課 主事 山田洋一郎
本池遺跡 宮崎県教育委員会文化課 主事 東憲章
前畑遺跡 宮崎県教育委員会文化課 主事 東憲章
4. 発掘調査における図面の作成と写真の撮影は、各現場担当者が補助員の助けを借りて行った。一部の遺構実測図については、業者に作成を委託した。
5. 遺物、図面の整理は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測、拓本、製図等は、各現場担当者が、整理補助員の協力を得て行った。
6. 本書に使用した位置図は、国土地理院発行の25,000分の1図をもとに作成し、周辺地形図は、宮崎県土地改良事業団体連合会作成の1,000分の1図をもとにして作成した。
7. 本書に使用した方位は、遺構分布図については座標北、個別の遺構実測図については磁北である。レベルは、海拔絶対高である。
8. 本書に使用した記号は、以下のとおりである。

S A - 堅穴住居、S B - 掘立柱建物、S C - 土坑、S D - 土壙墓、S E - 溝状遺構
9. 本書に使用した写真は、各調査担当者が撮影し、空中写真については、業者に委託して撮影した。
10. 本書に執筆の分担は次のとおりである。

第1章 第1節 都城教育委員会
第1章 第2節 重山 郁子
第2章 重山 郁子
第3章 山田洋一郎
第4・5・6章 東 憲章

編集は、重山・東が行った。
11. 調査にあたり、宮崎県北諸県郡農林振興局、大五郎土地改良区等の多大な協力を得た。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査に至る経緯と調査の組織	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境	2
第2章 中大五郎第1遺跡の調査	7
第1節 遺跡の立地と環境	7
第2節 調査の概要	7
第3節 層 序	8
第4節 弥生時代の遺構と遺物	9
第5節 中世の遺構と遺物	35
第6節 時期不明の遺構	35
第7節 まとめ	36
第3章 中大五郎第2遺跡の調査	53
第1節 調査区の設定と概要	53
第2節 層 序	53
第3節 弥生時代の遺構と遺物	54
第4節 中近世と時期不明の遺構と遺物	105
第5節 小 結	111
第4章 本池遺跡の調査	147
第1節 遺跡の立地と環境	147
第2節 調査の概要	147
第3節 層 序	148
第4節 本池A区の遺構と遺物	148
1. 掘立柱建物	148
2. 竪穴状遺構	159
3. 土 坑	159
4. 弥生土器	162
5. 土師質土器	162
6. 布痕土器	168
7. 須 恵 器	168
8. 陶 磁 器	173
9. 鉄 器	173
10. 土 錘	173

11. 石 器	173
第5節 本池B区の遺構と遺物	173
1. 竪穴状遺構	173
2. 土 坑	180
3. 縄文土器	180
4. 弥生土器	183
5. 陶 磁 器	189
6. 石 器	189
第6節 まとめ	189
第5章 前畑遺跡の調査	241
第1節 遺跡の立地と環境	241
第2節 調査の概要	241
1. 調査の経過	241
2. 基本層序	242
第3節 弥生時代の遺構と遺物	242
竪穴住居跡	242
第4節 中世の遺構と遺物	276
1. 竪穴状遺構	276
2. 土 坑	276
3. 道路状遺構、溝状遺構	276
第5節 縄文時代の遺構と遺物	280
土 坑	280
第6節 遺構外出土の遺物	280
第7節 まとめ	282
第6章 総 括 一丸谷川地区遺跡群の返遷一	329

插图目次

第1章

第1图	丸谷地区位置图	2
第2图	丸谷地区遺跡群周辺遺跡分布图	3
第3图	前畑遺跡周辺地形图	4
第4图	中大五郎第1・中大五郎第2・本池・前畑遺跡周辺地形图	5～6

第2章

第5图	基本土層图	8
第6图	遺構配置图	10
第7图	S A 1・S L 2 実測图	11
第8图	S A 1 出土遺物実測图	12
第9图	S A 2 実測图	13
第10图	S A 2 出土遺物実測图	14
第11图	S A 2 出土遺物実測图	15
第12图	S A 3 実測图	16
第13图	S A 3～7 出土遺物実測图	17
第14图	S A 4 実測图	18
第15图	S A 5 実測图	19
第16图	S A 6 炭化材出土状況実測图	20
第17图	S A 6 実測图	20
第18图	S A 7 実測图	21
第19图	S L 1 出土遺物実測图	22
第20图	S L 3 実測图	23
第21图	S L 3 出土遺物実測图	24
第22图	遺物包含層出土遺物実測图 (1)	25
第23图	遺物包含層出土遺物実測图 (2)	26
第24图	遺物包含層出土遺物実測图 (3)	27
第25图	S B 1 実測图	33
第26图	S B 2 実測图	34
第27图	時期不明土坑実測图	27

第3章

第28图	中大五郎第2 遺跡土層图	53
第29图	中大五郎第2 遺跡遺構分布图	54

第30図	中大五郎第2遺跡SA1・SA2実測図	55
第31図	中大五郎第2遺跡SA3実測図	56
第32図	中大五郎第2遺跡SA4・SA6実測図	57
第33図	中大五郎第2遺跡SA6・SL1実測図	58
第34図	中大五郎第2遺跡SL2・SL3実測図	59
第35図	中大五郎第2遺跡SB10・SC2実測図	60
第36図	中大五郎第2遺跡SA1出土土器実測図(1)	63
第37図	中大五郎第2遺跡SA1出土土器実測図(2)	64
第38図	中大五郎第2遺跡SA1出土土器実測図(3)	65
第39図	中大五郎第2遺跡SA2出土土器実測図	66
第40図	中大五郎第2遺跡SA2～SA6出土土器実測図	67
第41図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(1)	68
第42図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(2)	69
第43図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(3)	70
第44図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(4)	71
第45図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(5)	72
第46図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(6)	73
第47図	中大五郎第2遺跡SL2出土土器実測図(1)	74
第48図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(2)	75
第49図	中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(3)	76
第50図	中大五郎第2遺跡SL3・SC2出土土器実測図	77
第51図	中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(1)	78
第52図	中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(2)	79
第53図	中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(3)	80
第54図	中大五郎第2遺跡SA2・SA5・SL2出土石器実測図	81
第55図	中大五郎第2遺跡SC1・SB8実測図	105
第56図	中大五郎第2遺跡SB1・SB2実測図	106
第57図	中大五郎第2遺跡SB3・SB4実測図	107
第58図	中大五郎第2遺跡SB5・SB6実測図	108
第59図	中大五郎第2遺跡SB7・SB9・SC3実測図	109
第60図	中大五郎第2遺跡SB8・SC1実測図	110

第4章

第1図	本池遺跡A区遺構分布図	149～150
第2図	本池遺跡B区遺構分布図	151
第3図	本池遺跡A・B区土層断面図	152

第4図	本池遺跡A区SB1・2実測図	154
第5図	本池遺跡A区SB3・4実測図	155
第6図	SB1～4柱穴断面図	156
第7図	本池A区SB5・6・7実測図	157～158
第8図	本池A区SB8・9実測図	160
第9図	本池A区SB10・11実測図	161
第10図	本池A区SB12・13実測図	163
第11図	本池A区SB14～16実測図	164
第12図	本池A区SA1実測図	166
第13図	本池A区SC1・SZ1実測図	167
第14図	本池A区出土遺物実測図(1)	169
第15図	本池A区出土遺物実測図(2)	170
第16図	本池A区出土遺物実測図(3)	171
第17図	本池A区出土遺物実測図(4)	172
第18図	本池A区出土遺物実測図(5)	174
第19図	本池A区出土遺物実測図(6)	175
第20図	本池A区出土遺物実測図(7)	176
第21図	本池A区出土遺物実測図(8)	177
第22図	本池A区出土遺物実測図(9)	178
第23図	本池A区出土遺物実測図(10)	179
第24図	本池A区出土遺物実測図(11)	181
第25図	本池A区出土遺物実測図(12)	182
第26図	本池A区出土遺物実測図(13)	183
第27図	本池B区SA1実測図	184
第28図	本池B区SA2実測図、SC1実測図	185
第29図	本池B区SC2～4実測図	186
第30図	本池B区SC5～7実測図	187
第31図	本池B区SC8・9実測図	188
第32図	本池B区出土遺物実測図(1)	190
第33図	本池B区出土遺物実測図(2)	191
第34図	本池B区出土遺物実測図(3)	192
第35図	本池B区出土遺物実測図(4)	193
第36図	本池B区出土遺物実測図(5)	194

第5章

第1図	前畑遺跡遺構分布図	243～244
-----	-----------	---------

第2図	S A 2・4 実測図	245
第3図	S A 5 実測図	246
第4図	S A 1・2・4・5 出土遺物実測図	247
第5図	S A 5 出土遺物実測図	248
第6図	S A 6・7 実測図	250
第7図	S A 8 実測図	251
第8図	S A 6・7・8 出土遺物実測図	252
第9図	S A 9 実測図	254
第10図	S A 11・12 実測図	255
第11図	S A 8・9・10・11 出土遺物実測図	256
第12図	S A 11・12 出土遺物実測図	257
第13図	S A 13 実測図	259
第14図	S A 14 実測図	260
第15図	S A 13・14 出土遺物実測図	261
第16図	S A 15・16 実測図	263
第17図	S A 14・15 出土遺物実測図	264
第18図	S A 16・18・19・20・21 出土遺物実測図	266
第19図	S A 18・19 実測図	267
第20図	S A 20・22 実測図	268
第21図	S A 21・42 実測図	269
第22図	S A 24・25, S C 5・6・7 実測図	270
第23図	S A 22・25 出土遺物実測図	271
第24図	S A 26, S C 3・8 実測図	272
第25図	S A 27・28・29 実測図	274
第26図	S A 27・26・28・29 出土遺物実測図	275
第27図	S A 38・40 実測図	277
第28図	S A 30・33・38 出土遺物実測図	278
第29図	S A 40 出土遺物実測図	279
第30図	S A 1・3 実測図	281
第31図	S A 17・43 実測図	282
第32図	S C 13・16 実測図	283
第33図	S C 1・3・8・16, S A 3 出土遺物実測図	284
第34図	S E 1 実測図	285
第35図	S E 1 土層断面図	287
第36図	S E 1 遺構外出土遺物実測図	289

目 次

第 2 章

第 1 表	出土土器観察表 (1)	28
第 2 表	出土土器観察表 (2)	29
第 3 表	出土土器観察表 (3)	30
第 4 表	出土土器観察表 (4)	31
第 5 表	土器片加工円盤計測表	31
第 6 表	遺跡出土石器観察表	32
第 7 表	竪穴住居観察表	32
第 8 表	掘立柱建物観察表	34

第 3 章

第 9 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (1)	82
第 10 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (2)	83
第 11 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (3)	84
第 12 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (4)	85
第 13 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (5)	86
第 14 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (6)	87
第 15 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (7)	88
第 16 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (8)	89
第 17 表	中大五郎第 2 遺跡出土弥生土器観察表 (9)	90
第 18 表	中大五郎第 2 遺跡掘立柱建物一覽	91
第 19 表	中大五郎第 2 遺跡竪穴住居跡一覽	91
第 20 表	中大五郎第 2 遺跡土器観察表	104
第 21 表	中大五郎第 2 遺跡石器観察表	104

第 4 章

第 1 表	本池遺跡・掘立柱建物一覽表	165
第 2 表	宮崎県墨書土器・刻書土器出土遺跡一覽表	197
第 3 表	本池遺跡出土土器観察表 (1)	198
第 4 表	本池遺跡出土土器観察表 (2)	199
第 5 表	本池遺跡出土土器観察表 (3)	200
第 6 表	本池遺跡出土土器観察表 (4)	201
第 7 表	本池遺跡出土土器観察表 (5)	202
第 8 表	本池遺跡出土土器観察表 (6)	203

第9表	本池遺跡出土土器觀察表 (7)	204
第10表	本池遺跡出土土器觀察表 (8)	205
第11表	本池遺跡出土土器觀察表 (9)	206
第12表	本池遺跡出土土器觀察表 (10)	207
第13表	本池遺跡出土土器觀察表 (11)	208
第14表	本池遺跡出土土器觀察表 (12)	209
第15表	本池遺跡出土石器觀察表	210
第16表	本池遺跡出土土錘觀察表	210

第5章

第1表	前畑遺跡出土土器觀察表 (1)	291
第2表	前畑遺跡出土土器觀察表 (2)	292
第3表	前畑遺跡出土土器觀察表 (3)	293
第4表	前畑遺跡出土土器觀察表 (4)	294
第5表	前畑遺跡出土土器觀察表 (5)	295
第6表	前畑遺跡出土土器觀察表 (6)	296
第7表	前畑遺跡出土土器觀察表 (7)	297
第8表	前畑遺跡出土土器觀察表 (8)	298
第9表	前畑遺跡出土土器觀察表 (9)	299
第10表	前畑遺跡出土土器觀察表 (10)	300
第11表	前畑遺跡出土石器・土錘觀察表	300

図 版 目 次

卷 頭

- 図版 1 丸谷地区遺跡群全景
- 図版 2 中大五郎第 1 遺跡全景
- 図版 3 中大五郎第 2 遺跡全景
- 図版 4 本池遺跡 A 区全景
- 図版 5 前畑遺跡全景

第 2 章

- 図版 1 SA 1、SA 2 41
- 図版 2 SA 3、SA 4 42
- 図版 3 SA 5、SA 6 炭化材出土状況 43
- 図版 4 SA 6、SA 4・SA 5・SA 7 付近 44
- 図版 5 SL 1、SL 1・SL 2・SA 4・SA 6・SL 3・SB 1 付近 45
- 図版 6 SA 6、SB 2 付近、SC 2 46
- 図版 7 中大五郎第 1 遺跡出土遺物 (1) 47
- 図版 8 中大五郎第 1 遺跡出土遺物 (2) 48
- 図版 9 中大五郎第 1 遺跡出土遺物 (3) 49
- 図版 10 中大五郎第 1 遺跡出土遺物 (4) 50

第 3 章

- 図版 1 中大五郎第 2 遺跡 SA 1 土器出土状況 (1) 115
- 中大五郎第 2 遺跡 SA 1 土器出土状況 (2) 115
- 中大五郎第 2 遺跡 SA 1 土器出土状況 (3) 115
- 中大五郎第 2 遺跡 SA 2 土器出土状況 (1) 115
- 図版 2 中大五郎第 2 遺跡 SA 2 土器出土状況 (2) 116
- 中大五郎第 2 遺跡 SA 3 土器出土状況 (1) 116
- 中大五郎第 2 遺跡 SA 3 土器出土状況 (2) 116
- 中大五郎第 2 遺跡 SA 3 石器出土状況 116
- 図版 3 中大五郎第 2 遺跡 SA 3 土器出土状況 (3) 117
- 中大五郎第 2 遺跡 SC 1 出土土器 117
- 中大五郎第 2 遺跡出土土器 117
- 中大五郎第 2 遺跡 SL 1 土器出土状況 (1) 117
- 図版 4 中大五郎第 2 遺跡 SL 1 土器出土状況 (2) 118
- 中大五郎第 2 遺跡 SL 2 土器出土状況 (1) 118

図版 4	中大五郎第 2 遺跡 S L 2 土器出土状況 (2)	118
	中大五郎第 2 遺跡 S A 2 検出状況	118
図版 5	中大五郎第 2 遺跡 S A 3 検出状況	119
	中大五郎第 2 遺跡 S A 5 検出状況	119
	中大五郎第 2 遺跡 S L 3 検出状況	119
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 完掘状況	119
図版 6	中大五郎第 2 遺跡 S A 2 完掘状況	120
	中大五郎第 2 遺跡 S A 3 完掘状況	120
	中大五郎第 2 遺跡 S A 4 完掘状況	120
	中大五郎第 2 遺跡 S A 6 完掘状況	120
図版 7	中大五郎第 2 遺跡 S L 3 完掘状況	121
	中大五郎第 2 遺跡 S L 2 完掘状況	121
	中大五郎第 2 遺跡 S L 1 完掘状況	121
	中大五郎第 2 遺跡 S B 1 完掘状況 (1)	121
図版 8	中大五郎第 2 遺跡 S B 1 完掘状況 (2)	122
	中大五郎第 2 遺跡 S B 2 完掘状況	122
	中大五郎第 2 遺跡 S B 3 完掘状況	122
	中大五郎第 2 遺跡 S B 4 完掘状況	122
図版 9	中大五郎第 2 遺跡 S B 5 完掘状況	123
	中大五郎第 2 遺跡 S B 6 完掘状況	123
	中大五郎第 2 遺跡 S B 7 完掘状況	123
	中大五郎第 2 遺跡 S B 8 完掘状況	123
図版10	中大五郎第 2 遺跡 S B 9 完掘状況	124
	中大五郎第 2 遺跡掘立柱建物完掘状況 (1)	124
	中大五郎第 2 遺跡掘立柱建物完掘状況 (2)	124
	中大五郎第 2 遺跡掘立柱建物完掘状況 (3)	124
図版11	中大五郎第 2 遺跡完掘状況 (1)	125
	中大五郎第 2 遺跡完掘状況 (2)	125
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (1)	125
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (2)	125
図版12	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (3)	126
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (4)	126
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (5)	126
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (6)	126
図版13	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (7)	127
	中大五郎第 2 遺跡 S A 1 出土土器 (8)	127

図版13	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(9)	127
	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(10)	127
図版14	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(11)	128
	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(12)	128
	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(13)	128
	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(14)	128
図版15	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(15)	129
	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(16)	129
	中大五郎第2遺跡SA1出土土器(17)	129
	中大五郎第2遺跡SA2出土土器(1)	129
図版16	中大五郎第2遺跡SA2出土土器(2)	130
	中大五郎第2遺跡SA2出土土器(3)	130
	中大五郎第2遺跡SA2出土土器(4)	130
	中大五郎第2遺跡SA2出土土器(5)	130
図版17	中大五郎第2遺跡SA2・SA3出土土器	131
	中大五郎第2遺跡SA3出土土器(1)	131
	中大五郎第2遺跡SA3・SA5出土土器	131
	中大五郎第2遺跡SA3・SA4出土土器	131
図版18	中大五郎第2遺跡SA4出土土器(1)	132
	中大五郎第2遺跡SA4・SA5出土土器	132
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(1)	132
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(2)	132
図版19	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(3)	133
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(4)	133
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(5)	133
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(6)	133
図版20	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(7)	134
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(8)	134
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(9)	134
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(10)	134
図版21	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(11)	135
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(12)	135
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(13)	135
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(14)	135
図版22	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(15)	136
	中大五郎第2遺跡SL1出土土器(16)	136

图版22	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器 (17)	136
	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器 (18)	136
图版23	中大五郎第2遺跡S L 1出土土器 (19)	137
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (1)	137
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (2)	137
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (3)	137
图版24	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (4)	138
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (5)	138
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (6)	138
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (7)	138
图版25	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (8)	139
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (9)	139
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (10)	139
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (11)	139
图版26	中大五郎第2遺跡S L 2・S B 8出土土器	140
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (12)	140
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (13)	140
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (14)	140
图版27	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (15)	141
	中大五郎第2遺跡S L 2出土土器 (16)	141
	中大五郎第2遺跡S L 2・S L 3出土土器	141
	中大五郎第2遺跡出土土器 (1)	141
图版28	中大五郎第2遺跡出土土器 (2)	142
	中大五郎第2遺跡出土土器 (3)	142
	中大五郎第2遺跡出土土器 (4)	142
	中大五郎第2遺跡出土土器 (5)	142
图版29	中大五郎第2遺跡出土土器 (6)	143
	中大五郎第2遺跡出土土器 (7)	143
	中大五郎第2遺跡出土土器 (8)	143
	中大五郎第2遺跡出土土器 (9)	143
图版30	中大五郎第2遺跡出土土器 (10)	144
	中大五郎第2遺跡出土土器 (11)	144
	中大五郎第2遺跡出土石器	144
	中大五郎第2遺跡出土土器 (12)	144

第4章

図版1	本池遺跡A区全景、A区平安時代遺構群	213
図版2	A区SB1、A区SB1柱穴断面、A区SB2・3・4	214
図版3	A区SB5・6・7、A区SB8、A区SB9	215
図版4	A区SB10・11・12、A区SB14、A区SA1	216
図版5	A区SC1、A区SZ1、A区平安時代遺物出土状況	217
図版6	白磁出土状況、鉄製鈎針出土状況、土錘出土状況	218
図版7	A区出土弥生土器(1)、A区出土弥生土器(2)、 A区出土弥生土器(3)、A区出土弥生土器(4)	219
図版8	A区出土弥生土器(5)、A区出土土師質土器甕(1)、 A区出土土師質土器甕(2)、A区出土土師質土器甕(3)	220
図版9	A区出土土師質土器甕(4)、A区出土土師質土器甕(5)、 A区出土土師質土器坏(1)、A区出土土師質土器坏(2)	221
図版10	A区出土土師質土器坏(3)、A区出土土師質土器坏(4)、 A区出土土師質土器坏(5)、A区出土土師質土器椀(1)	222
図版11	A区出土土師質土器椀(2)、A区出土土師質土器椀(3)、 線刻土師質土器、A区出土布痕土器	223
図版12	A区出土墨書土器	224
図版13	墨書土器赤外線写真(1)、墨書土器赤外線写真(2)、 墨書土器赤外線写真(3)	225
図版14	墨書土器赤外線写真(4)、墨書土器赤外線写真(5)、 墨書土器赤外線写真(6)	226
図版15	墨書土器赤外線写真(7)、墨書土器赤外線写真(8)、 墨書土器赤外線写真(9)	227
図版16	A区出土須恵器(1)、A区出土須恵器(2)、A区出土須恵器(3) A区出土須恵器(4)	228
図版17	A区出土須恵器(5)、A区出土須恵器(6)、A区出土須恵器(7) A区出土須恵器(8)	229
図版18	A区出土須恵器(9)、A区出土越州窯青磁、A区出土中国産白磁、 A区出土国産白磁	230
図版19	A区SB2出土鉄鏃(表)、同左(裏)、A区出土鉄鏃鈎針、A区出土土錘 A区出土石器	231
図版20	本池遺跡B区全景、B区SA1検出状況、B区SA1完掘状況	232
図版21	B区SA1ステップ状遺構、B区SA2土層断面、B区SA2完掘状況	233
図版22	B区SC1、B区SC2、B区SC3	234
図版23	B区出土縄文土器(1)、B区出土縄文土器(2)	235

図版24	B区出土弥生土器（1）、B区出土弥生土器（2） B区出土弥生土器（3）、B区出土弥生土器（4）	236
図版25	B区出土弥生土器（5）、B区出土弥生土器（6） B区出土弥生土器（7）、B区出土弥生土器（8）	237
図版26	B区出土磁器、B区出土石皿、B区出土石器、B区出土石器未製品	238

第5章

図版1	前畑遺跡完掘状況、遺構検出状況	303
図版2	前畑遺跡空中写真（1）、空中写真（2）	304
図版3	空中写真（3）、空中写真（4）	305
図版4	SA2、SA4	306
図版5	SA5土器出土状況、SA7	307
図版6	SA11、SA12	308
図版7	SA14、SA19	309
図版8	SA21・42、SA22	310
図版9	SA25、SA27	311
図版10	SA29、SA38	312
図版11	SA17、SA43	313
図版12	SE1土層断面、SE1硬化面	314
図版13	SE1門状遺構、SE2	315
図版14	SA1・2出土土器、SA4出土土器、SA5出土土器（1）	316
図版15	SA5出土土器（2）、SA5出土土器（3）、SA5出土土器（4）	317
図版16	SA6出土土器、SA7出土土器、SA8出土土器	318
図版17	SA9出土土器、SA10・11出土土器、SA11出土土器	319
図版18	SA12出土土器、SA13出土土器、SA14出土土器	320
図版19	SA15出土土器、SA16・18・19出土土器、SA20・21出土土器	321
図版20	SA22出土土器、SA25出土土器、SA27出土土器	322
図版21	SA26・28・29出土土器、SA30・33・38出土土器、SA40出土土器	323
図版22	住居跡出土石包丁(表)、住居跡出土石包丁(裏)、SA1・3、SA3出土遺物	324
図版23	SE1出土遺物(外)、SA1出土遺物(内)、SC16出土縄文土器（1）	325
図版24	SC16出土縄文土器（2）、遺構外出土縄文土器、遺構外出土弥生土器	326
図版25	遺構外出土陶磁器(外)、遺構外出土陶磁器(内) 前畑遺跡出土銭貨(外)、前畑遺跡出土銭貨(裏)	327
図版26	SA16・SA13・SA15・SA18・遺構外出土土器 上大五郎遺跡SD1、上大五郎遺跡SD1出土銭貨	328

NAKADAIGOROU DAI 1

中大五郎第 1 遺跡

第1章 はじめに

第1節 調査に至る経緯と調査の組織

1. 調査に至る経緯

宮崎県都城市丸谷地区では丸谷川の河川改修と県営ほ場整備事業が平成2年度から同時並行で進められている。

それらに伴って数次にわたる発掘調査が実施されている。ほ場整備事業の面工事については、前年度あるいは当年度に宮崎県文化課が行った試掘調査の結果と造成計画とを照らし合わせながら、宮崎県北諸県農林振興局・宮崎県文化課・都城市文化課の三者間で協議をもち、事業施工上保存が困難な部分については記録保存のための発掘調査を行った。発掘調査を実施した遺跡は下記のとおりである。なお、調査総面積は41,000㎡である。

- ①平成3年度 中大五郎第1遺跡 [調査面積：3,000㎡]
中大五郎第2遺跡 [調査面積：6,000㎡]
- ②平成4年度 本池遺跡 [調査面積：10,000㎡]
- ③平成5年度 上大五郎遺跡 [調査面積：18,000㎡]
前畑遺跡 [調査面積：4,000㎡]

2. 調査の組織

調査の主体は都城市教育委員会であり、経費の運用も同市文化課が行った。ただし、現場における調査および出土遺物の整理・報告書作成は宮崎県文化課の埋蔵文化財担当職員があたった。なお、現場における発掘調査が平成3～5年度で、正式報告書の作成が平成6・7年度である。発掘調査の体制については各年度に刊行した概要報告書に記しているため、以下に、最終年度である平成7年度の報告書作成にかかわる調査体制を掲げる。

調査責任者	都城市	教育長	隈元	幸美
調査総括	都城市	文化課長	遠矢	昭夫
調査事務局	同	文化課長補佐	永野	元保
	同	文化財係長	中村	久司
	同	主事	下鶴	咲子（庶務担当）
	同	主事	桑畑	光博（事務連絡）
調査指導	宮崎県	教育庁文化課主査	石川	悦雄
調査員	同	主任主事	山田	洋一郎
	同	主事	重山	郁子
	同	主事	東	憲章

整理作業員

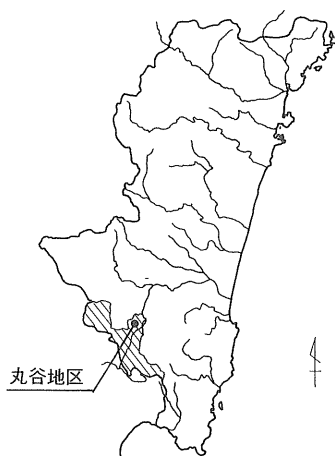
馬場 薫、山崎 孝子、佐藤 雪子、井上 典子、池田 芳枝、市野瀬ふさ子、長谷川恵子、松田 綾子、高橋 茂子、井野 貞代

第2節 遺跡の立地と歴史的環境

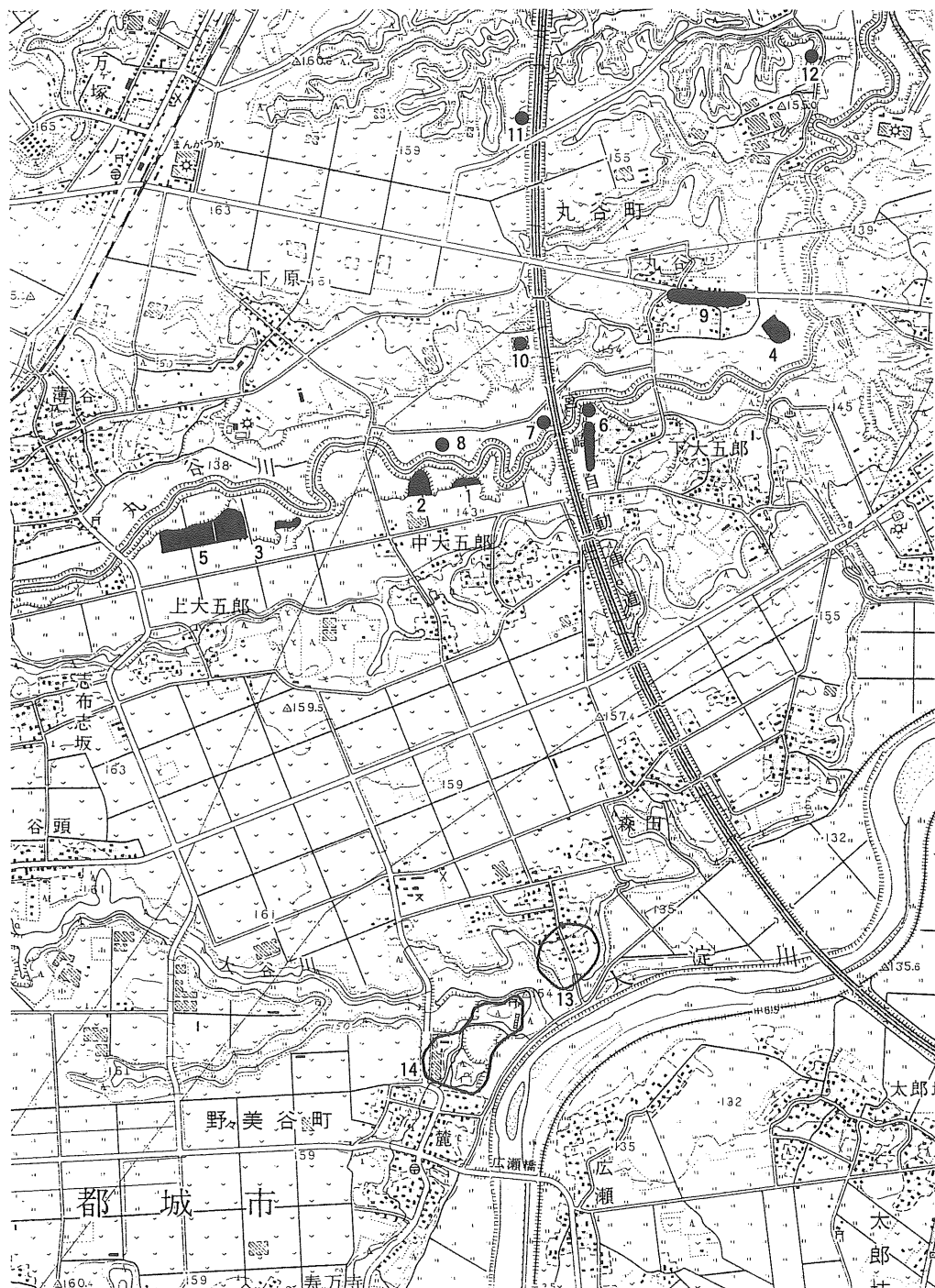
丸谷地区遺跡群は、宮崎県の南西部に位置する都城市の北東部に所在する。都城市は、宮崎県の南西部端に位置し、東・西・南の三方を山に囲まれた盆地の中央にあり、北西には、標高1,574mの秀峰高千穂ノ峰をあおぎ、南西は鹿児島県に接している。丸谷地区遺跡群は都城市内北部を東流する大淀川水系の丸谷川沿いの河岸段丘上に点在する。標高は約140m～約142mを計る。遺跡群からは、霧島連山の秀峰高千穂ノ峰を遠望することができる。

その歴史的環境は、九州縦貫自動車道建設に伴う発掘調査や平成2年度から行われた丸谷川河川改修事業、県営ほ場整備事業に伴う発掘調査で明らかになりつつある。

丸谷地区遺跡群においては、霧島連山に近いこともあり、火山灰や火砕流などの火山性堆積物が厚いため、縄文後期より遡る遺跡は確認されていない。今回報告する本池遺跡で縄文時代後期の土器が包含層中から確認されているが、これがこの一帯の遺跡での最も古い遺物である。住居跡などは確認されていない。弥生時代になると丸谷地区には多くの遺跡が営まれるようになったようである。今回報告する中大五郎第1遺跡、中大五郎第2遺跡、前畑遺跡、未報告の下大五郎遺跡、山ノ田第1遺跡で集落が確認されている。古墳時代についても前畑遺跡、上大五郎遺跡で集落跡が確認されている。この時期の古墳は、近くに県指定文化財の志和池古墳群が知られている。上大五郎遺跡では、中世館跡が確認されており、この地に当時有力な豪族の存在があったことが明らかになった。今回報告の本池遺跡でも多数の中世の柱穴が見られる。丸谷川北岸の谷ノ口遺跡や、下川原遺跡では中世以降の水田跡が検出されている。



第1図 丸谷地区位置図

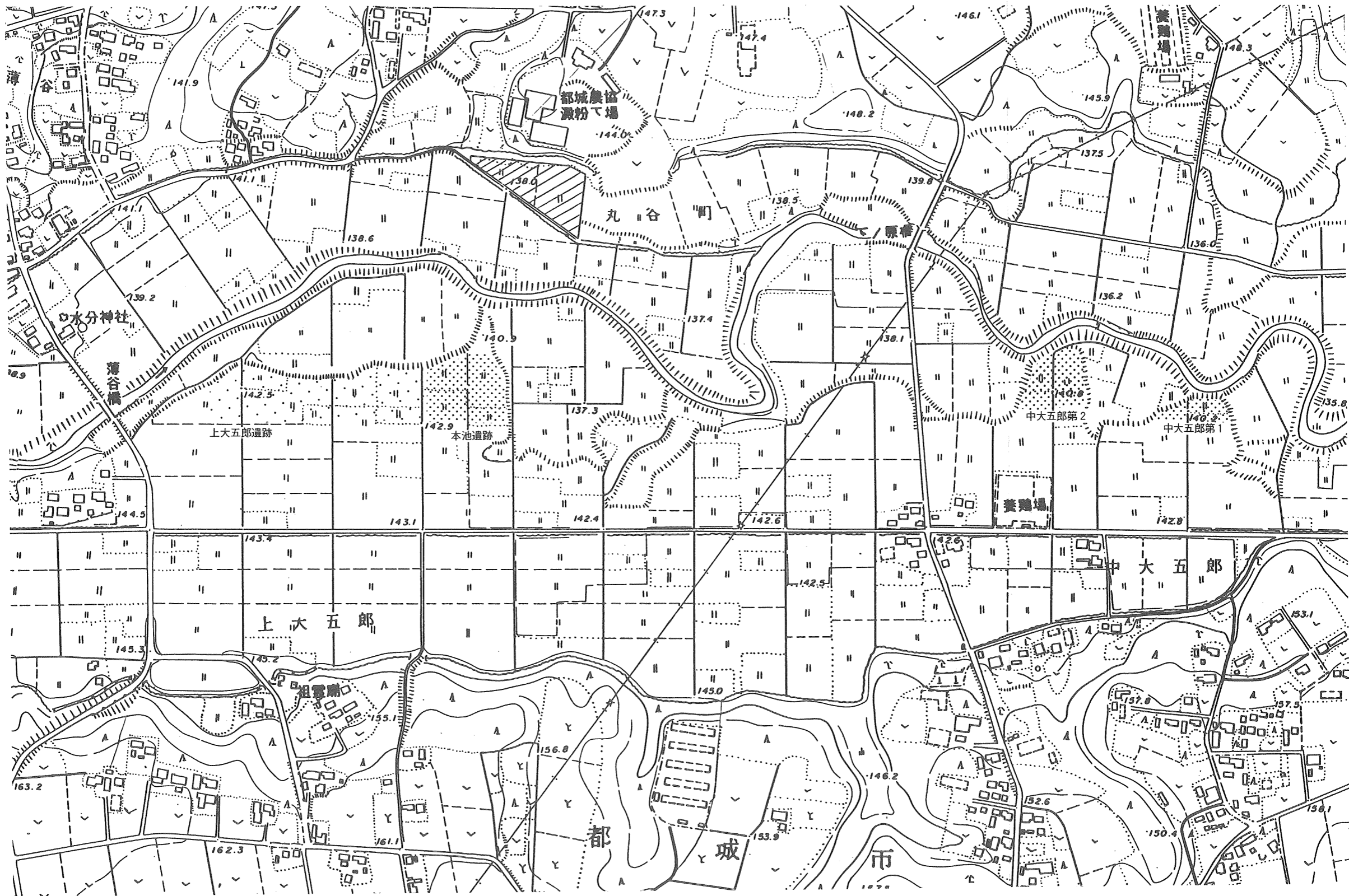


- | | | | |
|-------------|-------------|------------|----------|
| 1. 中大五郎第1遺跡 | 2. 中大五郎第2遺跡 | 3. 本池遺跡 | 4. 前畑遺跡 |
| 5. 上大五郎遺跡 | 6. 下大五郎遺跡 | 7. 下川原遺跡 | 8. 谷ノ口遺跡 |
| 9. 山ノ田第1遺跡 | 10. 丸谷第1遺跡 | 11. 丸谷第2遺跡 | 12. 下藪遺跡 |
| 13. 神竹遺跡 | 14. 野々美谷城址 | | |

第2図 丸谷地区遺跡群周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第3図 前畑遺跡周辺地形図 (1/5,000)



第4図 中大五郎第1・中大五郎第2・本池・前畑遺跡 周辺地形図 (1/5,000)

第2章 中大五郎第1遺跡の調査

第1節 遺跡の立地と環境

中大五郎第1遺跡は、宮崎県都城市丸谷町に所在する弥生時代の集落遺跡である。遺跡は、丸谷川の低位段丘上の標高約140mに位置する。本遺跡は丸谷川の川面からの比高差が7 m程度の丸谷川に直接張りだした低い段丘上に立地する。本報告書で報告されている中大五郎第2遺跡は西隣の段丘の張り出し部に所在する。近辺には同じく弥生時代の集落跡の下大五郎遺跡、中世遺跡の上大五郎遺跡、本池遺跡が丸谷川沿いの南側に並んで所在する。丸谷川の対岸には、近世以後の水田跡が確認された谷ノ口遺跡、下川原遺跡が所在する。

本遺跡は、調査前は水田として耕作されていたが、一部分中世の遺構を含む弥生時代の遺物包含層は護られていた。中大五郎第1遺跡は、丸谷川に張りだした低い段丘上に立地するため、改修されていない丸谷川により川に面した崖面は大きく抉られていた。このことから本遺跡は過去に遺跡の北端部が崩落した可能性が考えられる。

中大五郎第1遺跡は丸谷川の南岸に位置し、西隣の段丘張り出し部には、中大五郎第2遺跡が所在する。中大五郎第1遺跡の所在する段丘はなだらかで、南は次の段丘の斜面まで広い平坦面を作っている。東西は丸谷川の作る河岸段丘が長く延びている。北西には高千穂ノ峰を望む。丸谷川の対岸には、近世以後の水田跡が確認された谷ノ口遺跡、下川原遺跡が所在するが、こちらは中大五郎第1遺跡、中大五郎第2遺跡が所在する段丘よりも一段低い段丘である。また、丸谷川の北岸は谷ノ口遺跡、下川原遺跡のある段丘が比較的広く開けている。中大五郎第1遺跡の所在する段丘に対応する段丘は丸谷川南岸よりも広く開けている。

遺跡の所在する都城盆地は北西に霧島連山をひかえているため火山性堆積物が厚く堆積している。特に遺跡から北西に直線で約12kmのところにある御池から約4,200年前に噴出した御池ボラが厚い。本遺跡近くで約5 mの厚さが確認されている。したがって、この地区においては縄文時代前期に遡る遺跡は確認されていない。しかし、前記したとおり、弥生時代においては多くの集落が営まれたことが確認されている。

第2節 調査の概要

中大五郎第1遺跡の調査は、グリット法を用いて行った。10m×10mのメッシュを調査区の形に合わせて磁北を基準にして設定した。グリッドは南北方向を数字で表し、東西方向をアルファベットで表した。検出した遺構は、弥生時代の竪穴住居7軒、溝状遺構3基、中世の掘立柱建物1棟、柱穴36個、時期不明の土坑2基である。出土遺物は弥生時代のもものがほとんどで、中世の遺物は出土しなかった。

都城盆地の遺跡の特徴として火山性堆積物が厚く堆積しているということがある。本遺跡も例外ではなく、黒色土の下には、中大五郎第1遺跡から北西に直線で約12kmのところにある御池を噴出源とする御池ボラが約5 mの厚さで堆積している。御池ボラの噴出年代は約4,200年前と考えられる。本遺跡は、調査前は水田であったので、遺跡の上位の土層は耕作により破壊さ

れていた。しかし、いわゆる水田の床土の下にクロボク土と呼ばれる黒色土が残っており、遺物はこの層の下位から御池ボラ混じりの層にかけて出土した。遺構は、御池ボラの多い黒色土中から検出された。

第3節 層 序

都城盆地は、北西に霧島連山をひかえており、南には鹿児島県の桜島もあるので、火山性堆積物が豊富に、厚く堆積している。その中の代表的なものに約4,200年前に御池から噴出された御池ボラがある。中大五郎第1遺跡付近でも約5 mの厚さが確認されている。このことから、当遺跡の調査は御池ボラを遺構確認面とした。御池ボラの上層には、いわゆるクロボク土があり、遺物はこの黒色土の下部から御池ボラ混じりの黒色土中にかけて出土している。第5図は中大五郎第1遺跡における基本土層である。

I層：灰褐色軟質土

水田の耕作土である。粘性が強いが、軟らかい。

II層：赤褐色硬質土

いわゆる水田のバン層である。鉄分の沈澱により、赤錆色を呈する。非常に硬くポロポロしている。

III層：漆黒色軟質土

いわゆるクロボク土である。御池ボラやスコリアをほとんど含まず、非常に軟らかい。粘性が高い。遺物包含層である。

IV層：漆黒色軟質土

御池ボラをIII層よりも多く含むが、まばらで細かい。御池ボラの直径は2 mm程度である。スコリアもわずかに、疎らに含む。遺物包含層である。

V層：暗黒色軟質土

御池ボラを多く含み、下部にいくにしたがって褐色を呈する。御池ボラの大きさはさまざま、2 mm程度から2 cm程度までであるが、ほとんどは2～5 mm程度である。層の下部の方が上部よりも御池ボラの粒が大きい傾向が見られる。遺物包含層である。

VI層：褐色硬質土

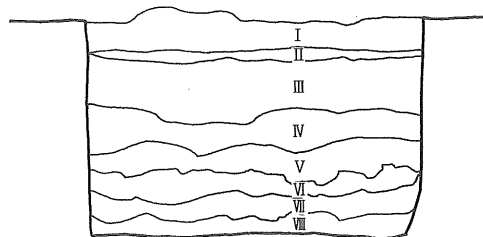
粘性が少なく硬い。ポロポロしている。直径2 mm～2 cm程度の御池ボラを多く含み主体となる土は火山灰質の砂質のものである。場所により御池ボラをきわめて多く含むところがある。

VII層：灰褐色砂質土

粘性はほとんど無く、御池ボラとスコリアを多く含む。

VIII層：黄色ボラ土

御池ボラの純粋層である。



第5図 基本土層図

第4節 弥生時代の遺構と遺物

中大五郎第1遺跡では、弥生時代の遺構が10基検出されている。内訳は、竪穴住居7軒、周溝状遺構3基である。検出地点は、調査区の中央部から東よりの部分に集中している。グリッド番号で表すとB-2・C-3・C-4・C-5・D-3・D-4・D-5・E-3・E-4・F-1・F-2・F-3・G-1・G-2・G-3となる。

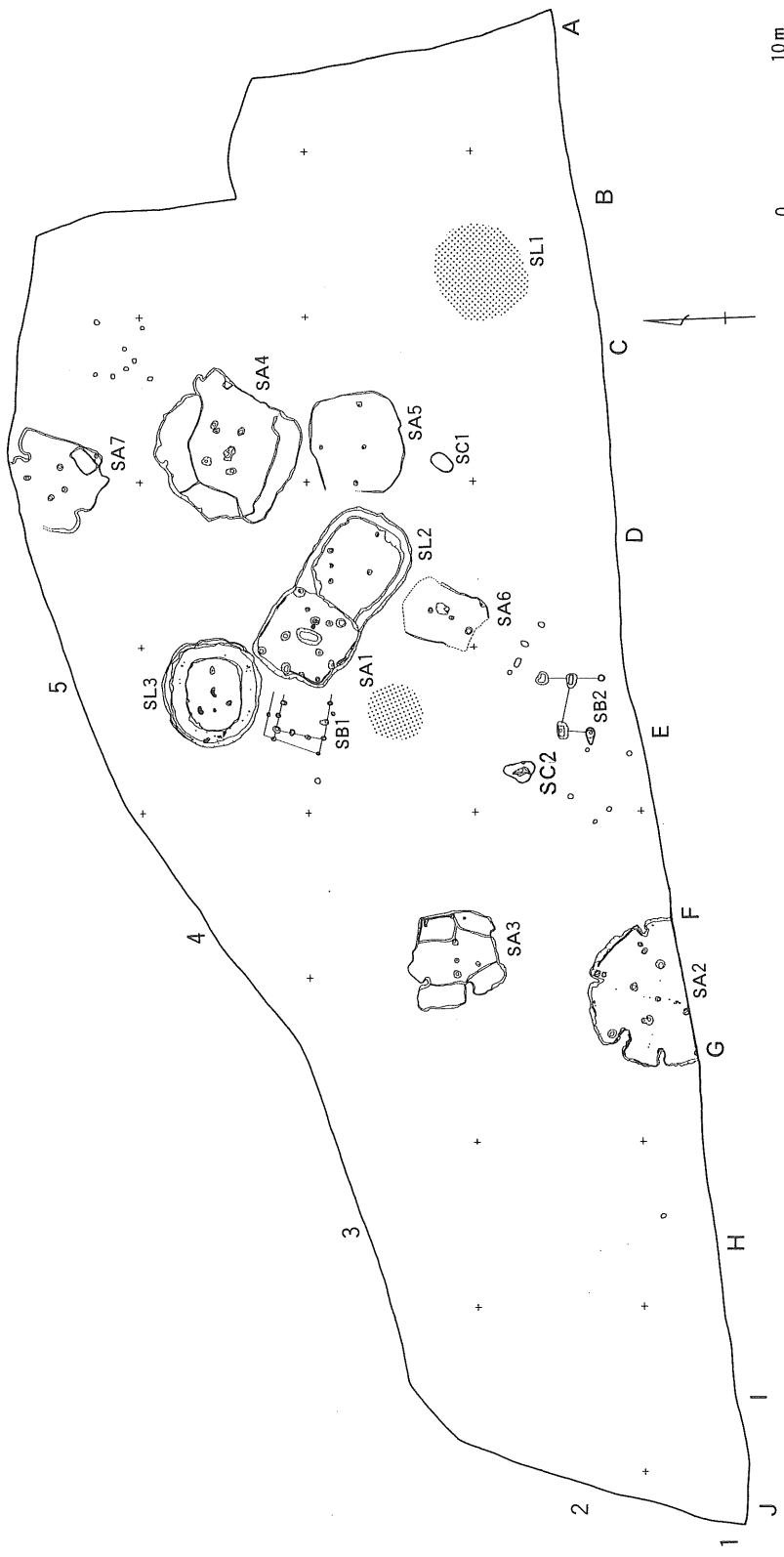
検出した遺構の概要は、竪穴住居は、宮崎県南部の弥生時代後期に特徴的に見られる間仕切を持つタイプ3軒（SA2・SA3・SA7）、ベット状遺構を持つタイプ2軒（うち間仕切を持つタイプが1軒、SA3・SA4）、炭化材が出土しているものが1軒（SA6）である。出土遺物は、細かい土器片が多い。周溝状遺構は、いずれも長軸が6～7m、短軸が5～6mである。どの遺構も検出面からの深さは浅い。特に周溝状遺構からは、大きな土器片が多く出土している。

SA1（第7図）

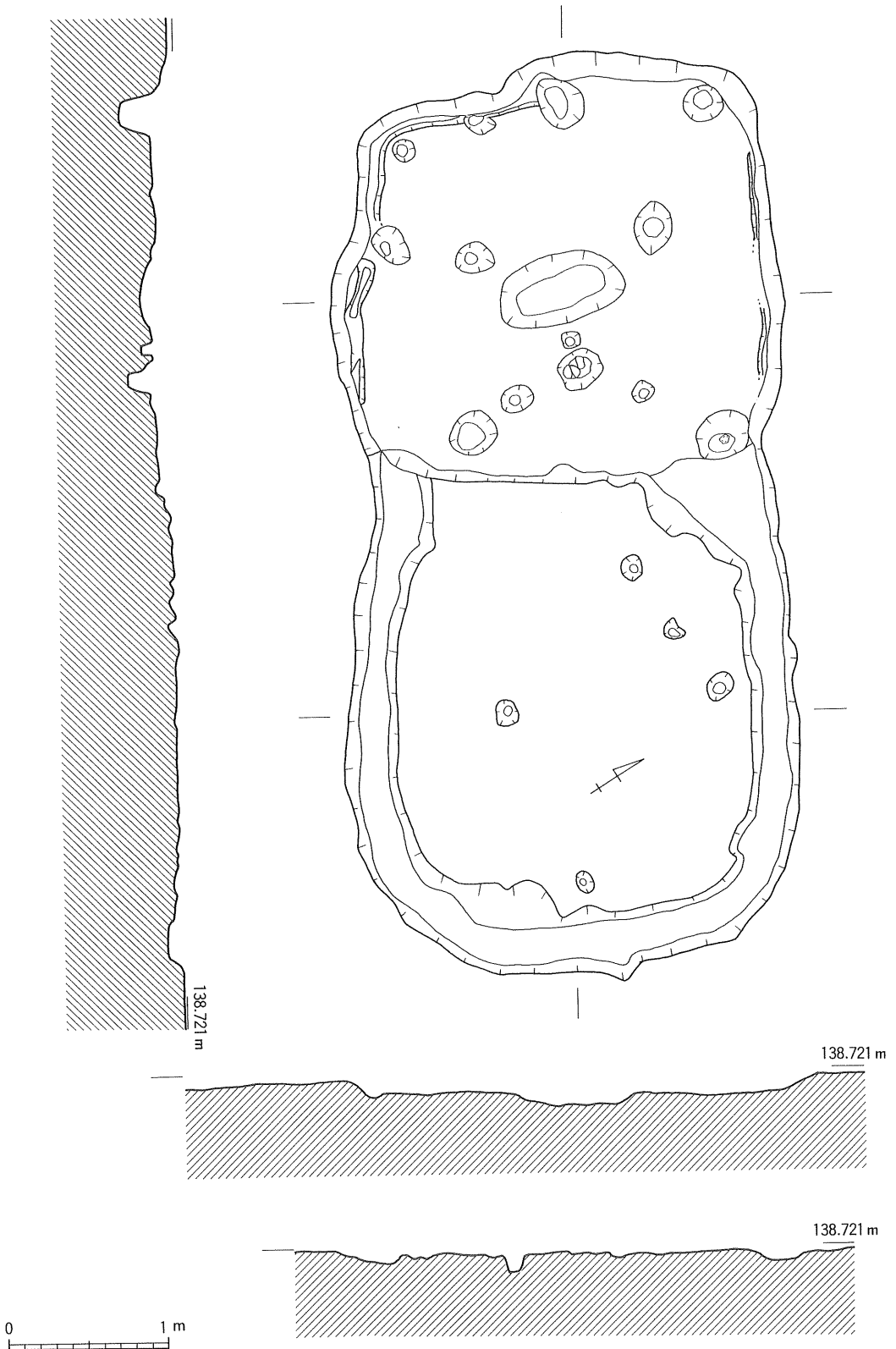
D-3・D-4・E-3・E-4にまたがって位置する。SL2を切っている。柱穴は中央部に6個、壁際に7個見られる。検出時には一部分壁帯溝が巡るが使用時には全体に巡っていたと考えられる。中央部に土坑が検出された。土坑の深さは検出面から約18cm、住居跡の床面から約10cmである。焼土は見られなかった。出土遺物は多くなく、床面から浮いた状態のものが多。

SA1出土遺物（第8図）

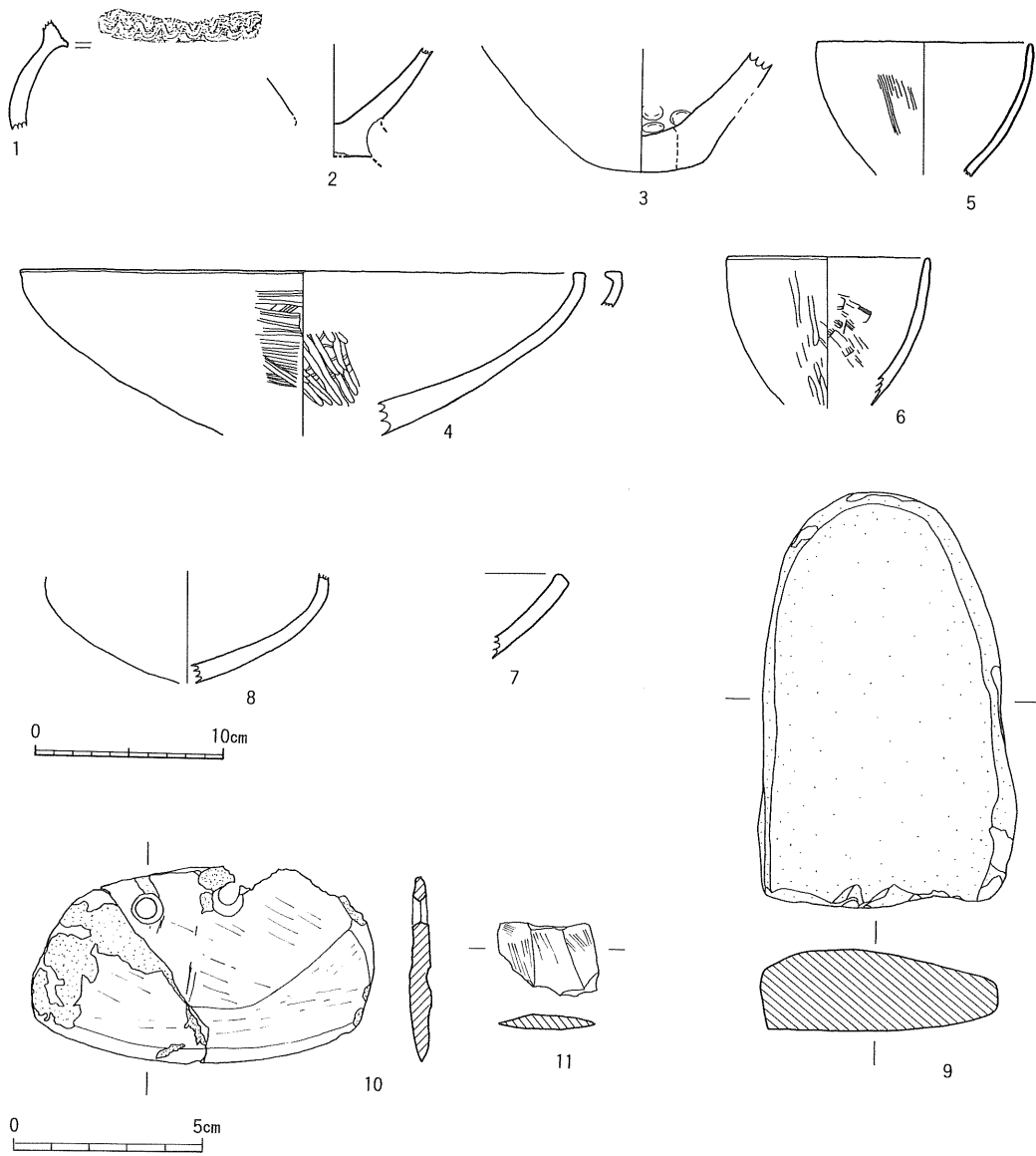
1は複合口縁の壺である。口縁部に櫛描波状紋が施される。口唇部は残存していない。2は成川式土器のカメの底部付近である。胴部の底部付近が残存しているが、底部は脚の外表面部分が剥離している。土器を製作する時に脚部分を貼り付けた部分が剥離したと考えられる。3は壺の底部である。内面に指頭痕が見られる。4は大型のハチである。器高に対して口径が非常に大きいのが特徴である。口縁部の残りは良いが、底部を欠いている。内面、外面共にミガキが施されている。口唇部が一部分内側に突出している。底部付近に黒斑がある。5・6・7・8はハチである。5・6は器高対口径の比が1に近いタイプのものである。7は内・外面共に風化気味である。8の内面の口縁部近くにススが付着している。外面には薄く付着する。9は砂岩の砥石である。使用面は上下平坦面と側面にもおよんでいる。特に実測図で示した面は使い込まれてあり、表面はツルツルとした手触りで光沢がある。10は緑色岩類の石包丁である。刃部中央から割れており、穿孔部も欠損している。一部分節理しているが、きれいに研磨されている。表面は研磨時の擦痕が顕著に見られる。穿孔は両面から回転運動によりあけられている。刃部の仕上げは丁寧で現在でも使用に耐えられそうな部分がある。刃部には切損部以外に大きな刃こぼれは見られないが、小さな使用痕は刃部向かって右側に多く見られる。この部分は刃部左側に比べて刃部の摩耗が大きい。11は大型の磨製石鏃の基部近くである。石材は10と同じく緑色岩類である。この石材は薄く剥がれる性質があるのでその性質を利用していたと考えられる。



第6图 中大五郎 第1遺跡遺構分布图



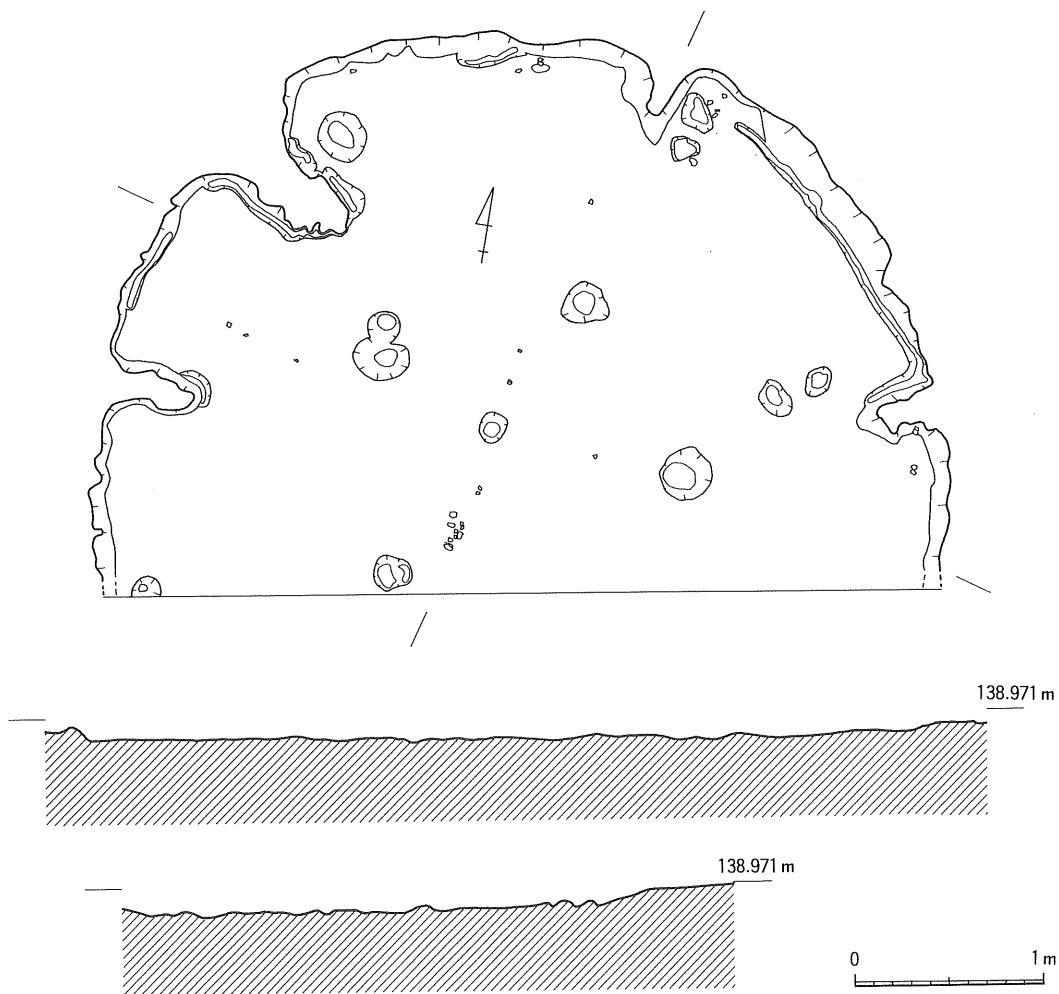
第7図 SA1・SL2 実測図



第8図 SA1 出土遺物実測図

SA 2 (第9図)

調査区の南端に位置するため全体の約半分しか発掘できなかった。円形プランの突出壁を持つ住居跡である。柱穴は中央部に6個壁際に6個確認された。壁際には壁帯溝も見られる。遺構確認面からの深さは約5~10cmである。掘り込みの深さが浅いため調査時に遺構の平面プランを確認するのが困難であった。焼土は確認されなかった。突出壁は住居跡全体の大きさに比べて小型で間仕切りとしての機能は十分では無かったと考えられる。遺物との関係で、弥生時

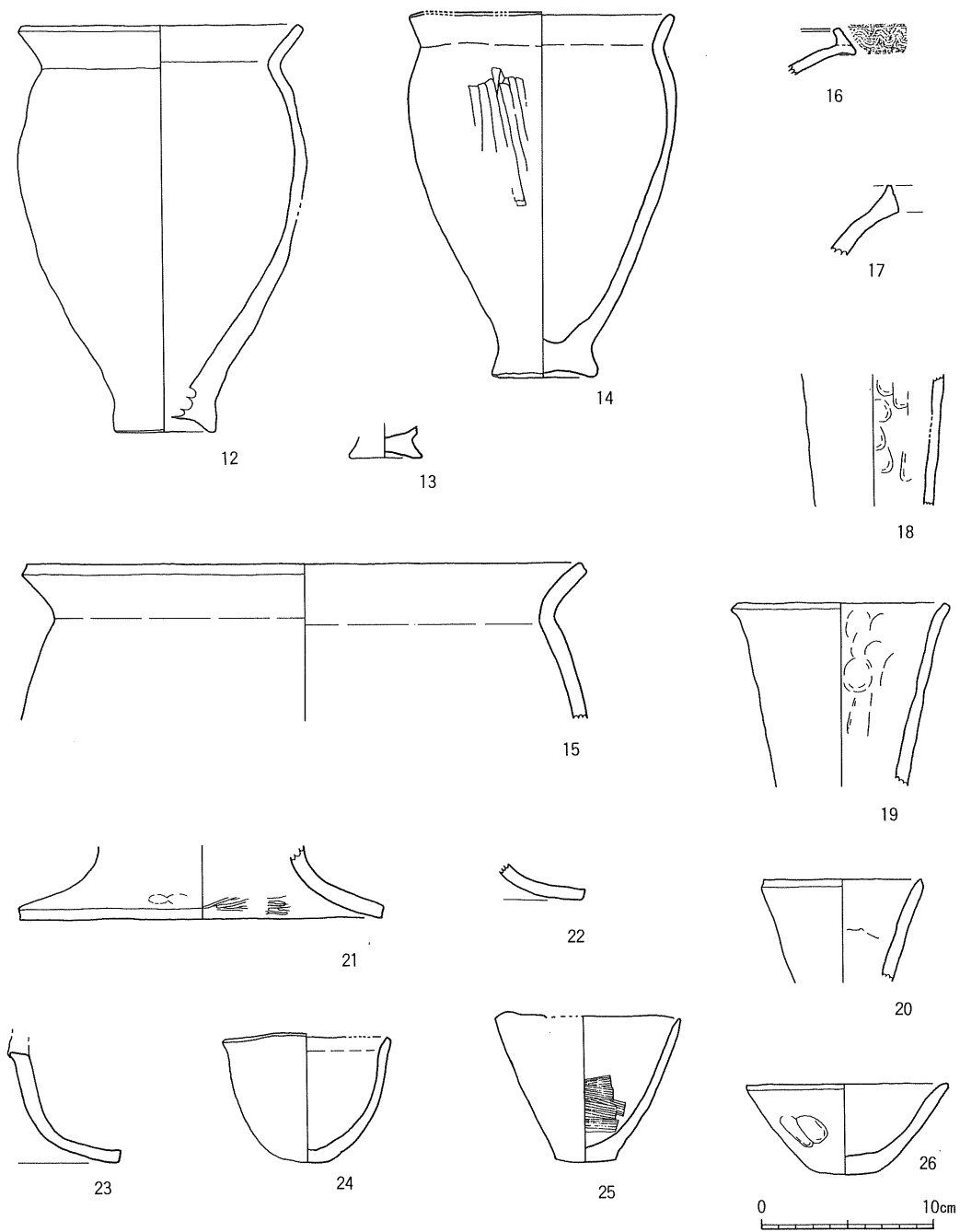


第9図 SA 2 実測図

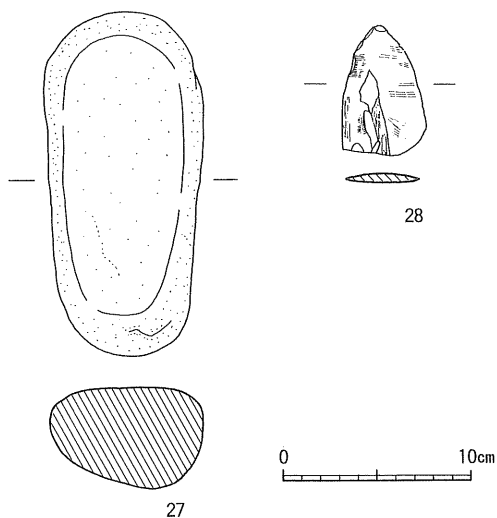
代後期後半の、突出壁を持つ住居跡としては新しいものであると考えられる。出土遺物は多いが床面の直上から出土した遺物は少ない。

SA 2 出土遺物 (第10図)

12・14は小型のカメである。12は、外面の胴部上半部から口縁部にかけてススが付着している。外面の胴部上半部はナデが施されているが、下半部は斜め方向のハケ目が施されている。全体的に調整は粗い。口唇部は平坦に仕上げられている。13はきわめて小型のカメの底部である。内・外面共にナデが施されている。口唇部は丸みを帯びている。やや上げ底になっている。14の胴部上半部は工具ナデで仕上げられているが、胴部下半部は指によるナデが施されている。脚部の外面は指痕が顕著に見られる。内面は工具ナデが見られる。17はカメの口縁部から胴部



第10图 SA 2 出土遺物実測図



第11図 SA 2 出土石器実測図

る。18は19・20に比べ口縁部の開きが少ない。19は大型の長頸ツボである。口縁部が頸部に比べ比較的大きく開く。調整は全体的に丁寧でナデが施されている。内面に指押さえが多く見られる。19は18・19・20の3点の中で最も丁寧に作られた土器である。20は内面に粘土の継ぎ目が見られる。21・22・23は高坏の脚部である。21の内面は非常に丁寧にミガキが施されている。外面はやや風化気味で調整が不明瞭であるが、下部に指押さえが見られる。スノ部側面の中央部がわずかに窪んでいる。22は内・外面共に風化気味で調整が不明瞭である。23は上部に透かしを持つ。内・外面共に風化気味で調整が不明瞭である。24・25・26共に小型のハチである。24・25は薄手でいびつな土器である。27は砂岩の砥石である。使用面は1面の可能性が高い。28は緑色岩類の磨製石鏃である。基部付近と先端部が欠損している。

SA 3 (第13図)

調査区の西よりのF-2・3・G-2・3グリッドに位置する。2個の突出壁と4個のベット状遺構を持つ。柱穴は中央部に3個、壁際に2個持つ。北東のベット状遺構部分に壁帯溝を有する。掘り込みは遺構確認面から約10cm~20cmである。遺構内から出土した遺物は少ない。

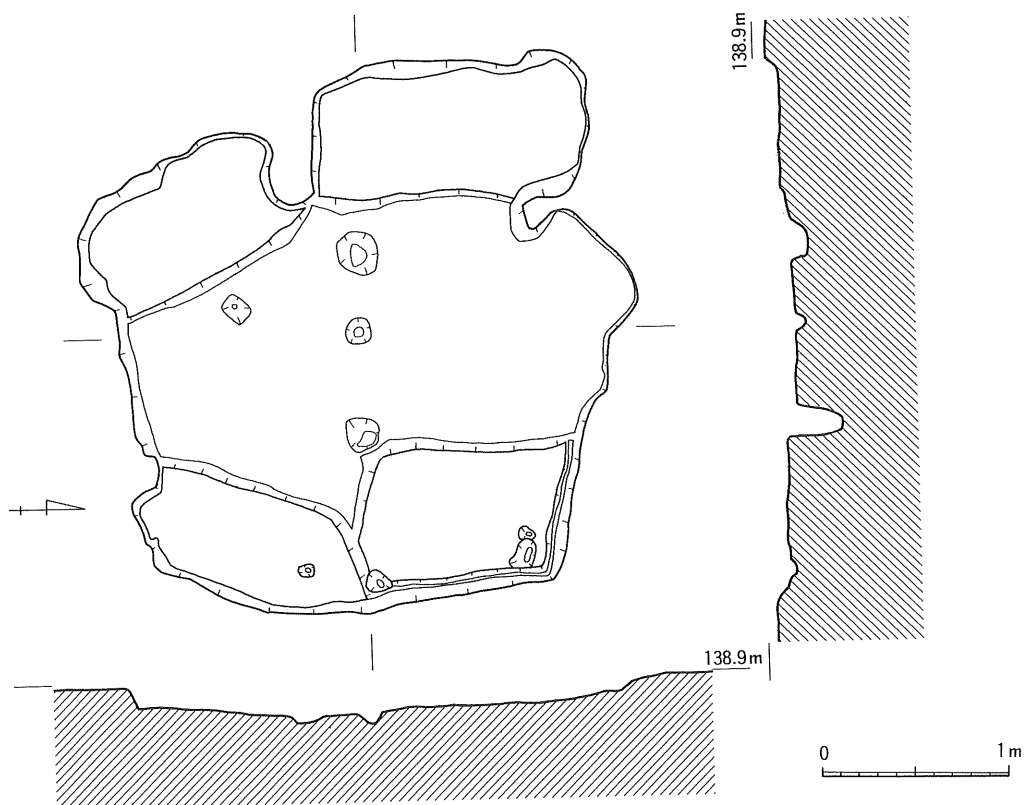
SA 3 出土遺物 (第12図29・40)

数少ない遺物である。カメの胴部上半部で貼り付け突帯を有する。突帯の頂部がわずかに窪む。40は凝灰質頁岩の剥片である。磨製石鏃の素材剥片で剥離による成形中に放棄されたものと考えられる。

SA 4 (第14図)

調査区の中央やや東よりの部分のC-3グリッドに位置する。大型の住居跡のSA-5の北側で、SL-1の東側にある。SA-5からは最も近い部分で約20cm、SL-1からは最も近い部分で約50cmしか離れていない。方形で掘り込みの浅いタイプである。遺構確認面から床面までの深さが非常に浅いため住居跡の北西隅は削平によりプランの確認ができなかった。柱穴

にかけての破片である。SA 2 から出土した外の土器片に比べて赤味の強い色調である。外・内面共に調整が丁寧できれいなナデが施されている。口唇部の中央部が窪んでいる。頸部の稜線は外・内面共に明瞭ではない。16・17は二重口縁ツボの口縁部である。16の口縁部に櫛描波状紋が施文されている。口縁部外面はナデの後施文されており、それ以外の部分の調整はナデが施されている。17の頸部下には黒斑が見られる。調整は外・内面共にナデが施されているが、やや風化気味である。18・19・20は長頸ツボの頸部である。18は口唇部は失われているが、薄手で外・内面共に調整が丁寧できれいなナデが施されている。内面に指押さえが多く見られ



第12図 SA 3 実測図

は中央に1個、壁際に3個確認された。この住居跡から出土した遺物もきわめて少ない。

SA 4 出土遺物 (第12図30・31・32・41)

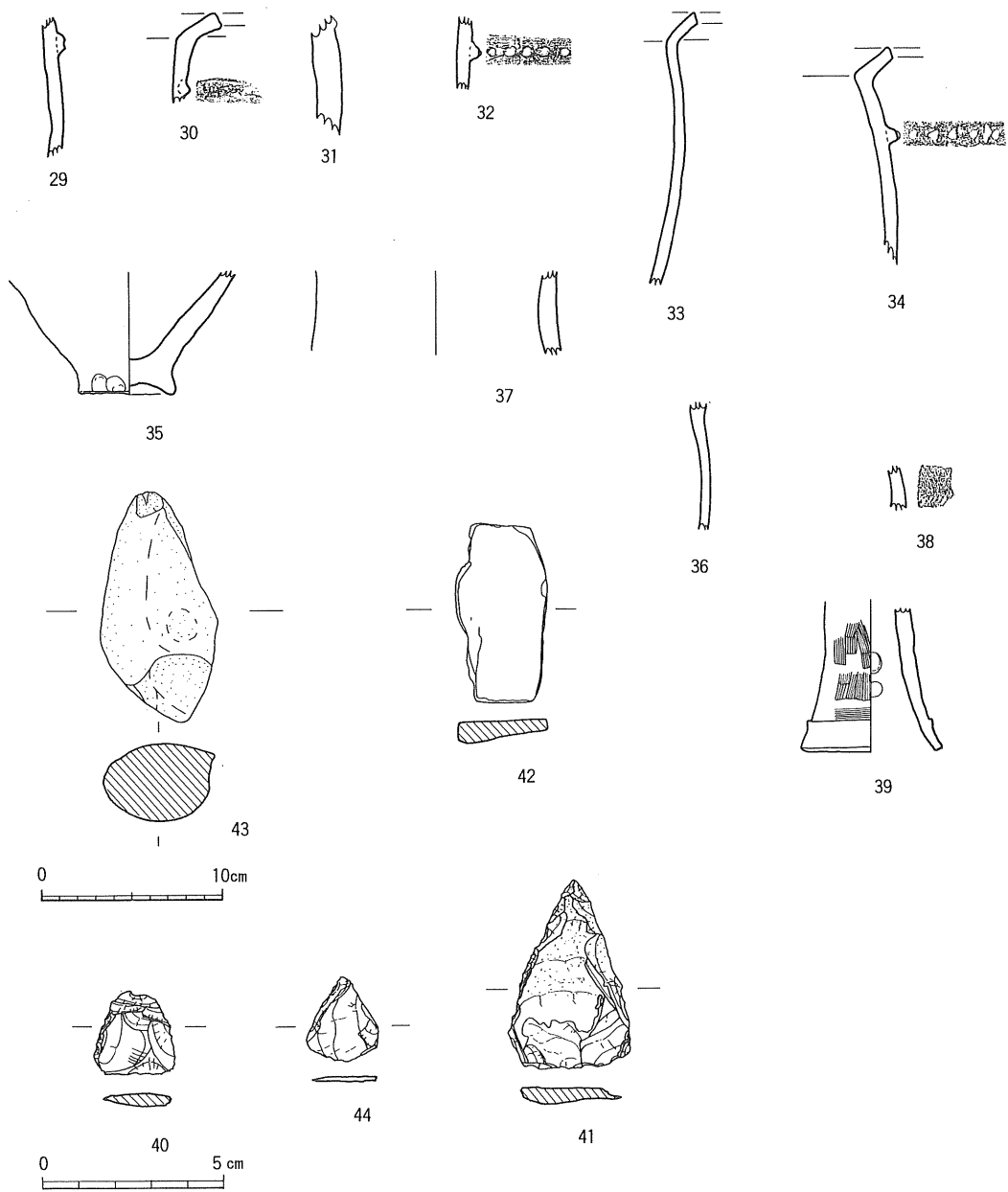
30はカメの口縁部である。胴部にキザミ目突帯を有するが、風化が著しくキザミが明瞭ではない。外面全体にススが付着している。31はカメの胴部である。上部に貼り付け突帯を有する。器壁がきわめて厚く色調も赤黒く外の土器と趣を全く異にしている。都城地方に特徴的に見られる土器である。32はカメの胴部片である。キザミ目突帯を有し、キザミ目は押圧による。41は凝灰質頁岩の剥片である。磨製石鏃の素材剥片である。

SA 5 (第15図)

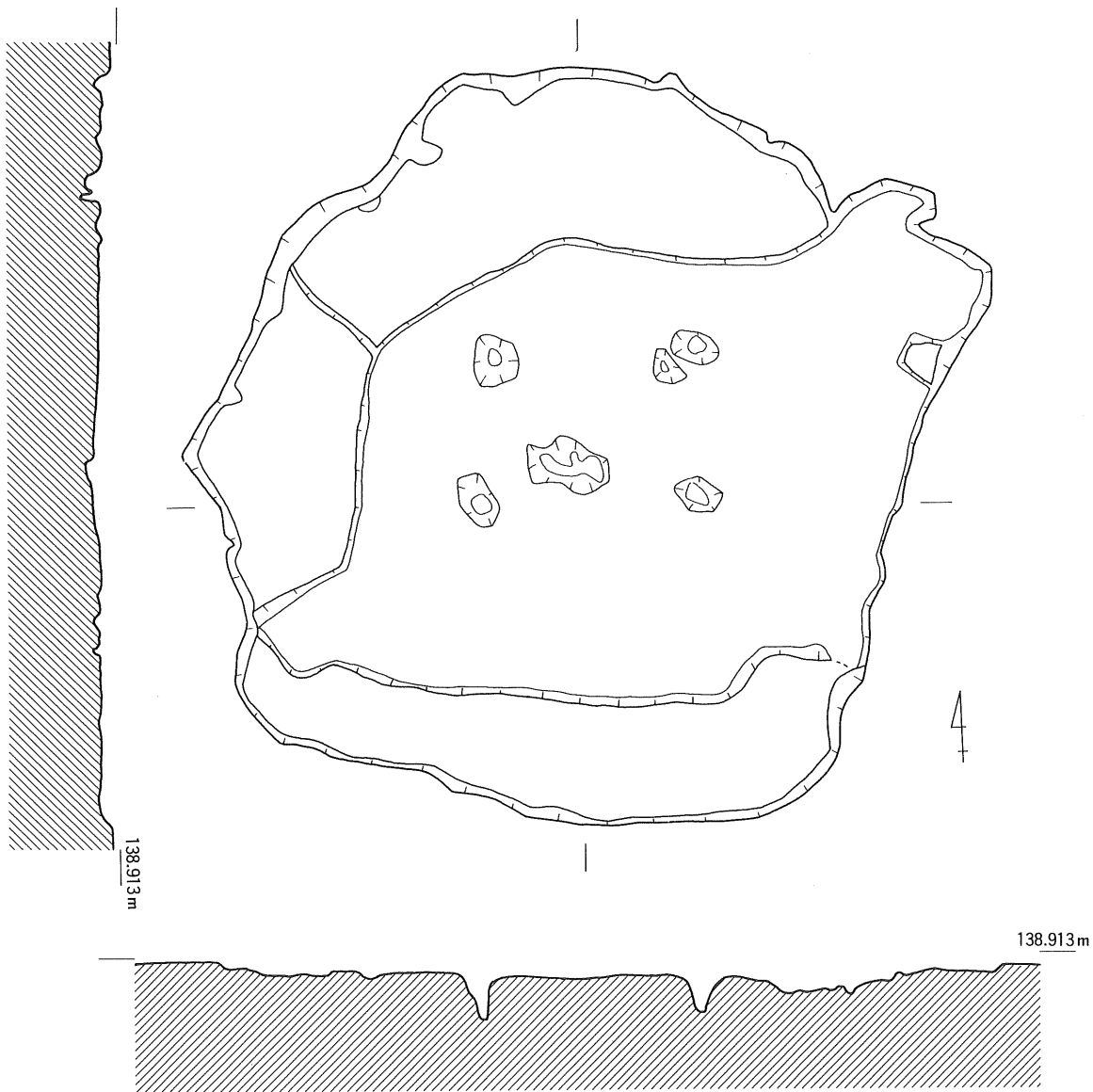
不定型のベット状遺構を持つ住居跡である。柱穴は中央に5個、壁際に1個見られる。住居跡の北東部分が張り出している。中央の土坑には焼土は見られなかった。外の部分にも焼土は見られなかった。この住居跡も遺構確認面からの深さはない。住居跡内出土の遺物は少ない。

SA 5 出土遺物 (第12図33・35・37)

33はカメである。胴部の張りは弱く、頸部外面の稜線も明瞭ではない。外面にはスが多く付着する。口唇部の中央部がわずかに窪む。胴部上部は、木目の幅の広いハケメが顕著に見られる。35はカメの胴部下部から底部にかけての部分である。調整は雑で胴部下部にケズリによ



第13図 SA 3 ~ SA 7 出土遺物実測図



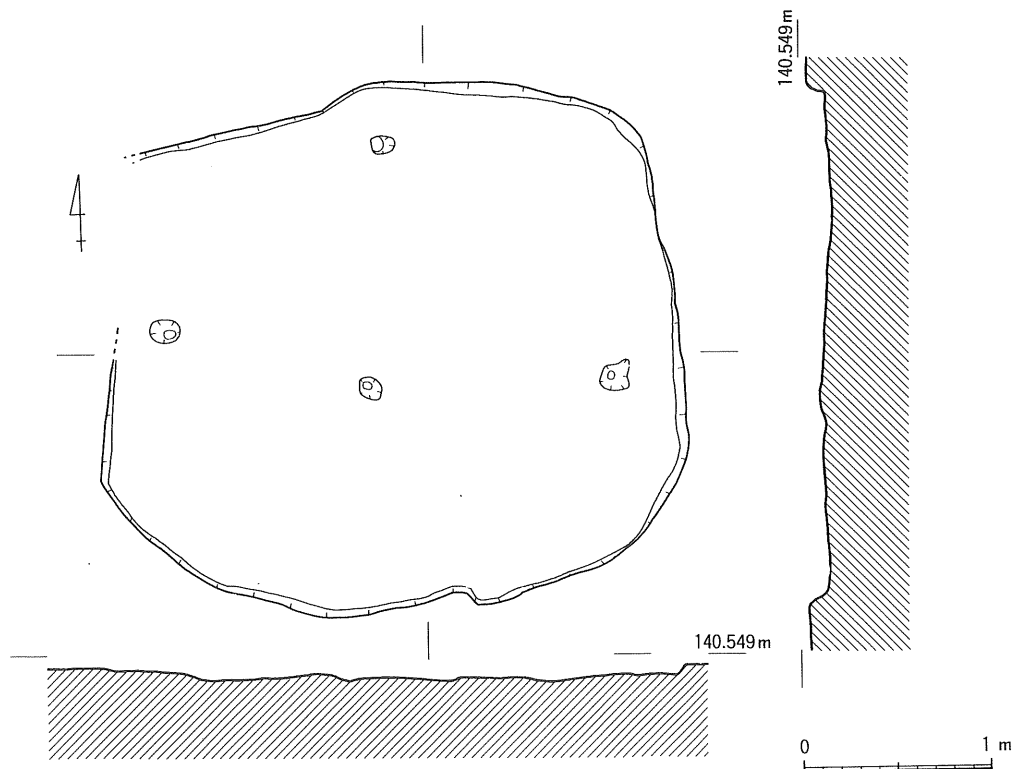
第14図 SA 4 実測図

0 1 m

る窪みがある。また、底部外面の指押さえが多く見られる。外面にはススが付着している。37は器台である。器面は風化気味であるが、外面にはハケメが見られる。

SA 6 (第16・17図)

調査区の中央のD-2グリッドに位置し、SL-1の南側にあたる。SL-1との間隔は最も近い部分で約40cm離れている。埋土中より炭化した木材が出土しており、中心から放射状に出土したことから屋根材と考えられる。しかし、遺存状況が悪い部分が多いため屋根材として原型をとどめるものはない。この住居跡も遺構確認面からの掘込みは浅いため削平により住



第15図 SA 5 実測図

居跡の短辺側が検出できなかった。辛うじて下端の推定ラインが検出できたに留まった。柱穴は中央に2個、壁際に1個確認された。中央に浅いスリバチ状の土坑が認められた。中から焼土は確認されなかった。住居跡内の外の部分からも焼土は確認できなかった。

SA 6 出土遺物 (第12図38・42)

SA 6 からの出土遺物はきわめて少ないがその中に瀬戸内系の遺物がある。38がそれであるが、ツボの胴部片と考えられる。その小さな破片の外面には在地系の土器には見られないキザミメが見られる。42は凝灰質頁岩の砥石である。偏平な剥片を素材としており、側面も使用により摩滅している。

SA 7 (第18図)

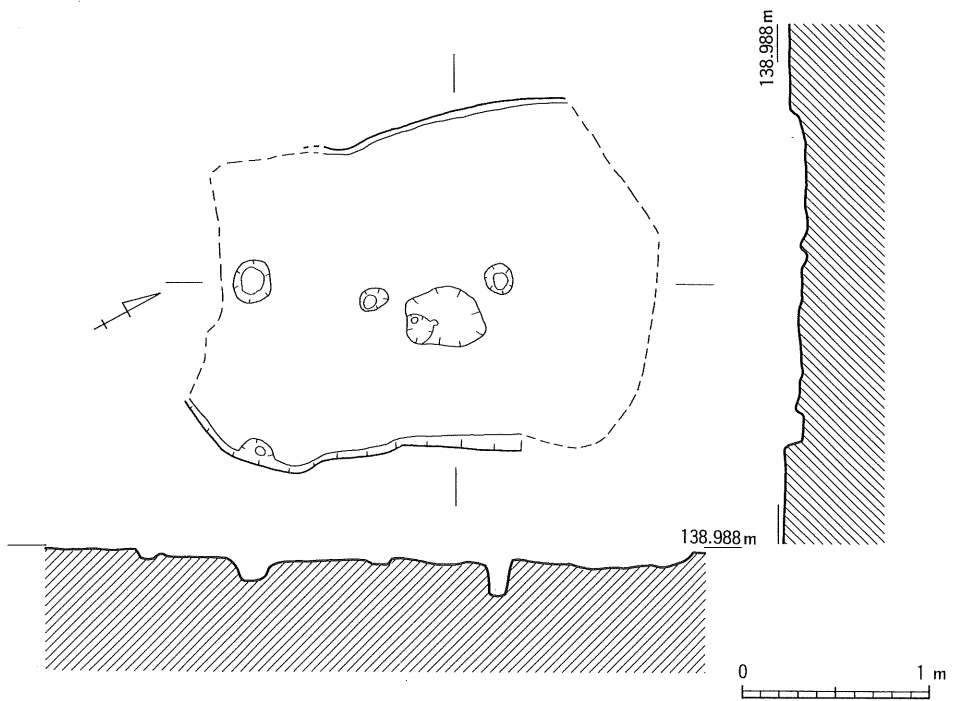
調査区の北の端に位置する。調査区の中で最も丸谷川に近く、その北側部分は丸谷川に崩落していると考えられる。残存部分を見ると平面プランはいびつな方形で小さな間仕切りを2個有している。柱穴は中央に4個確認された。壁際には1個確認された。住居跡内に攪乱が切っている。遺構確認面からの深さが浅く、出土遺物は少ない。

SA 7 出土遺物 (第13図36・39・43・44)

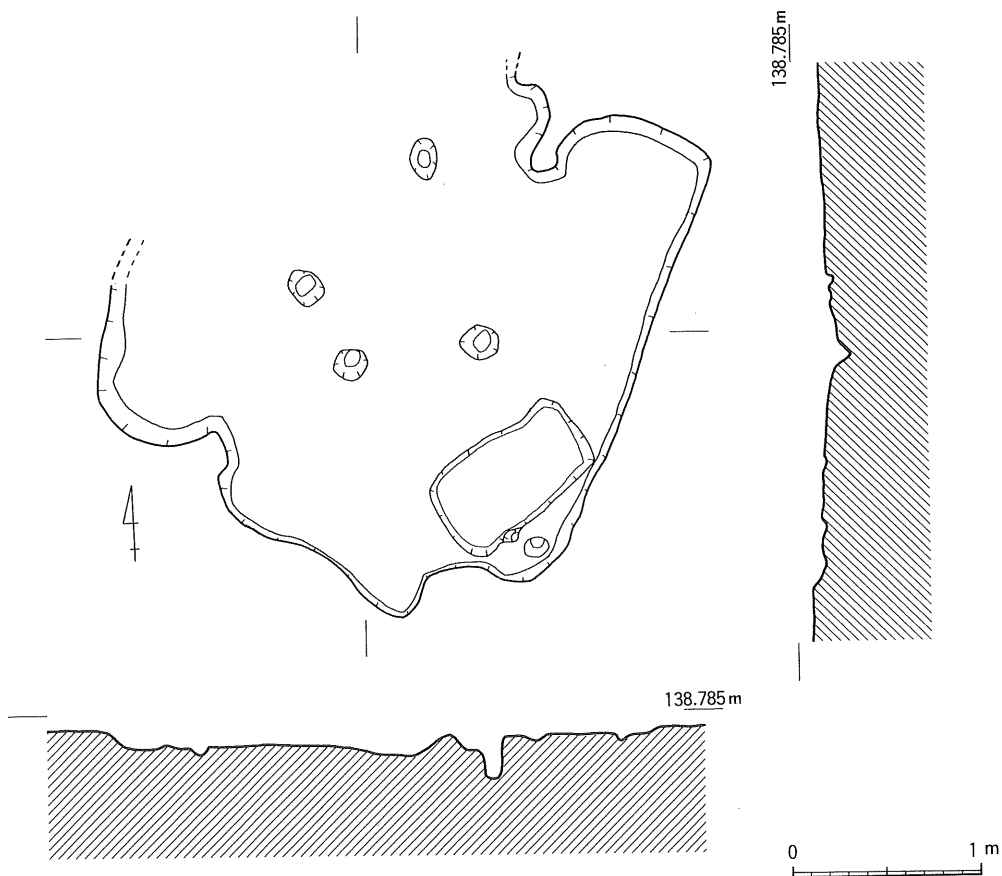
36はカメの胴部である。胴部の張りの弱い薄手のカメである。外面は丁寧に磨かれており、顔料を塗布したような仕上げになっている。内面は指押さえの痕が多くみられるが、上部にはハケメも見られる。39は小型の高坏の脚部である。外面にはハケメが見られる。43は砂岩の砥



第16図 SA 6 炭化材出土状況実測図



第17図 SA 6 実測図



第18図 SA 7 実測図

石である。長楕円形の砂岩の転礫を使用していたが、使用中に何らかの要因によって切損したものと考えられる。44は凝灰質頁岩の剥片である。磨製石鏃の素材剥片である。

SL 1 出土遺物 (第19図)

45は中型のカメである。胴部にキザミメを持つ。キザミはヘラ状工具の押圧により施されている。口唇部中央がわずかに窪む。調整は丁寧で外面上部はナデ、下部はハケメが見られる。46は中型のカメである。胴部にキザミメを持つ。キザミはヘラ状工具の押圧により施されている。器壁はやや風化気味であるが、内・外面はナデにより調整されている。47はカメの胴部である。貼り付け突帯を有し、突帯の中央部がわずかに窪む。器壁は丁寧にナデが施されている。48・49はカメの底部である。48は上げ底で外面に4～6mm幅の工具痕が見られる。49はわずかに上げ底である。50はツボの口縁部である。頸部に貼り付け突帯を有する。頸部内面にヘラケズリの痕が見られる。外面は丁寧にナデで仕上げられている。51は大型のハチである。器高に対して口径が非常に大きい。内面にススが付着している。

SL 2 (第7図)

調査区の中央部D-3グリッド付近に位置し、SA 1に切られている。周構内に柱穴を4個持つが、本遺跡では中世の柱穴も確認されているためこの周溝状遺構に伴うものかどうかは調

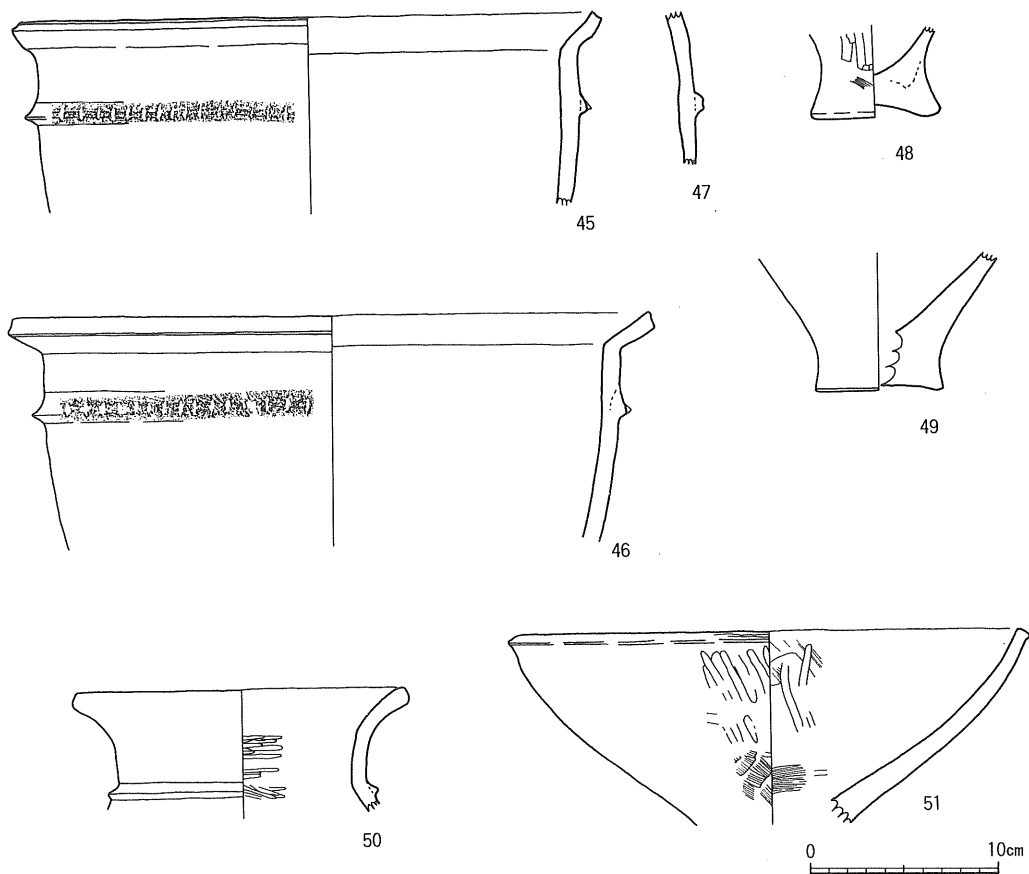
査時には確証が掴めなかった。しかし、この周溝状遺構が南北方向の棟の上屋を持つ可能性も否定できない。

S L 3 (第20図)

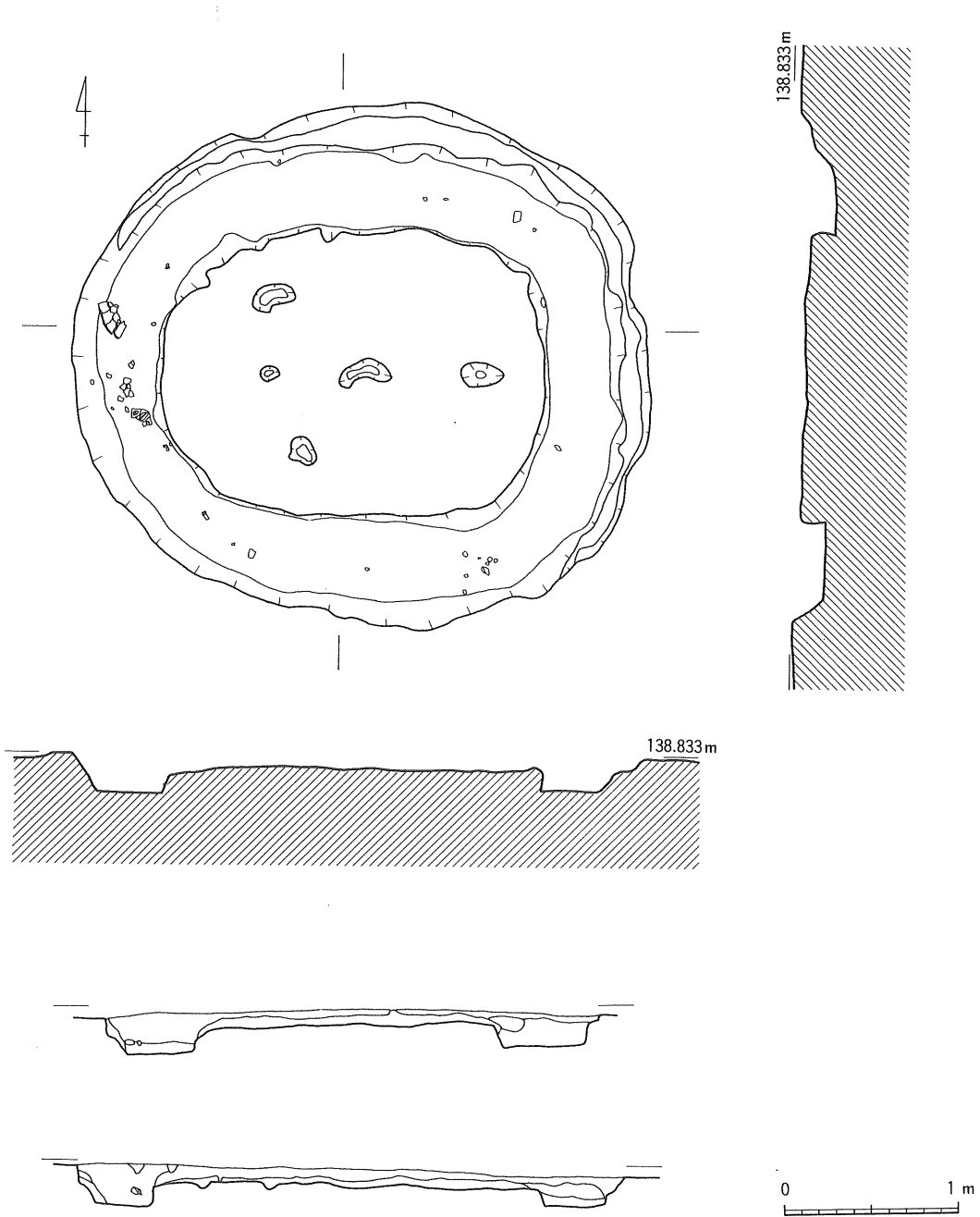
調査区中央部北より部分に位置し、S A - 1 に隣接している。周構内に柱穴を 2 個持ち、東西方向の棟の上屋を持つ可能性が考えられる。周溝の北側から東側にかけての部分は乾燥すると崩れ易い土質のため崩壊したものと考えられる。

S L 3 出土遺物 (第21図)

52は口唇部が角張って、その中央部がやや窪む。外面にはススが付着している。胴部外面には下半部を中心としてハケメが見られる。53は平底で作りが比較的粗雑なカメである。52と比較して型式が違う土器であるが、それが時期差であるのか単に精製、粗製の問題であるのかは現時点では不明である。54は52と同じタイプのカメである。55は53に似たタイプの比較的作りの粗い土器である。胎土に大きな砂粒を多く含む。56は外面に線刻が見られる。2本の横方向

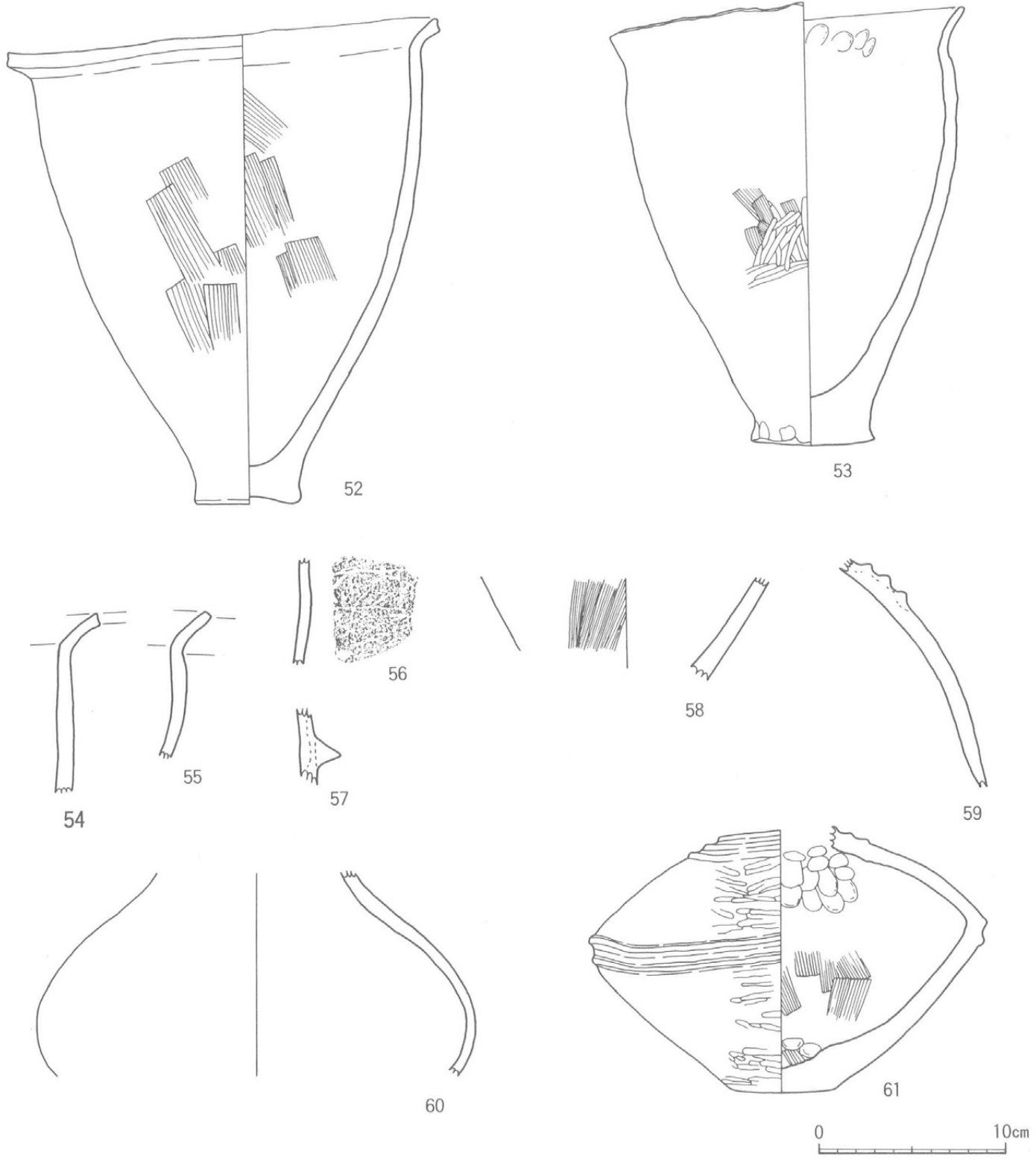


第19図 S L 1 出土遺物実測図



第20図 SL 3 実測図

の直線に上下に毛羽状に線が描き加えられている。57はカメの胴部片で高い貼り付け突帯を有する。58はカメの胴部下半部である。外面にハケメが顕著に見られる。59はツボの胴部上半である。上部に3本の貼り付け突帯がまわる。60は短頸ツボの胴部である。胴部中央部の張りが

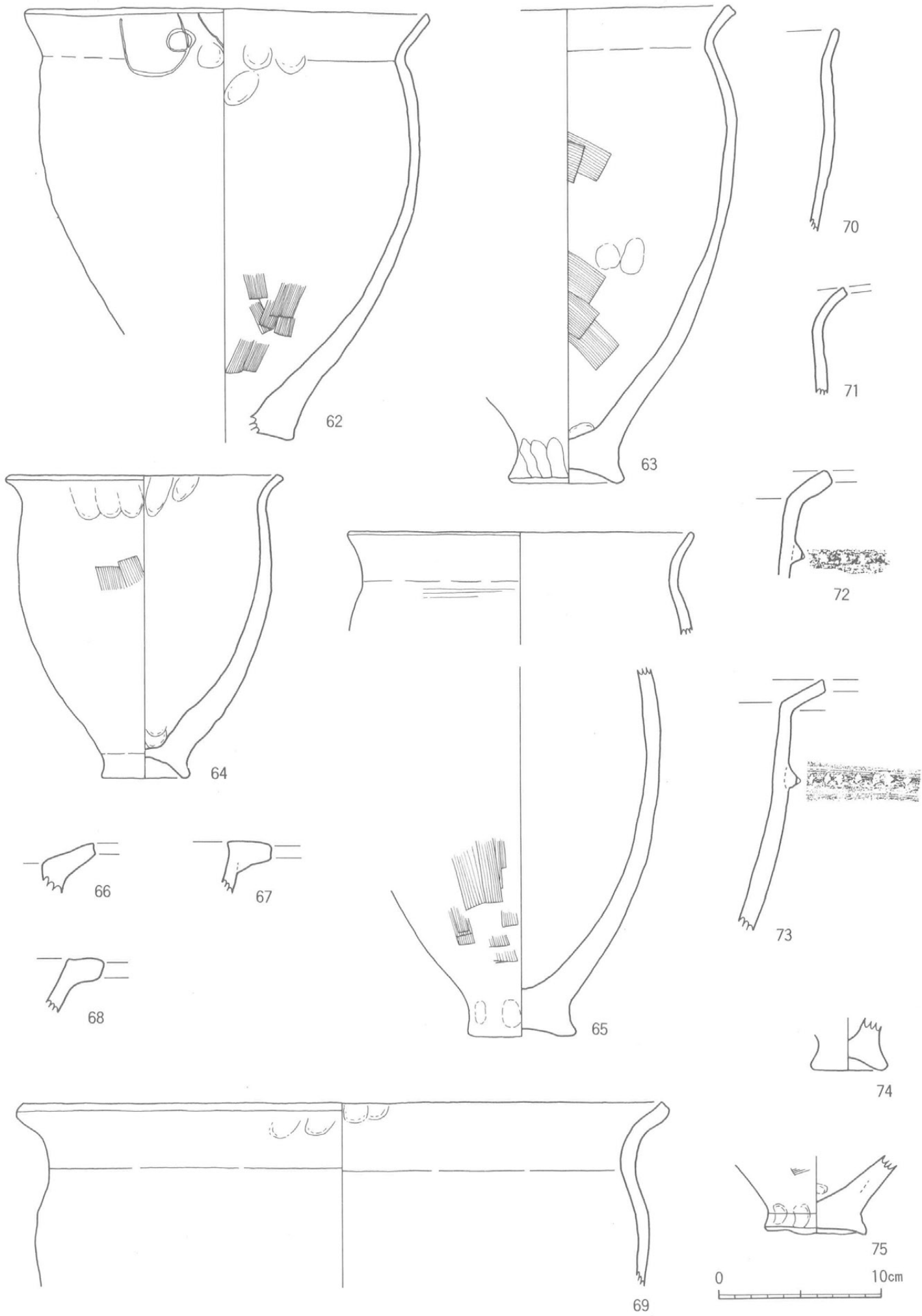


第21図 S L 3 出土遺物実測図

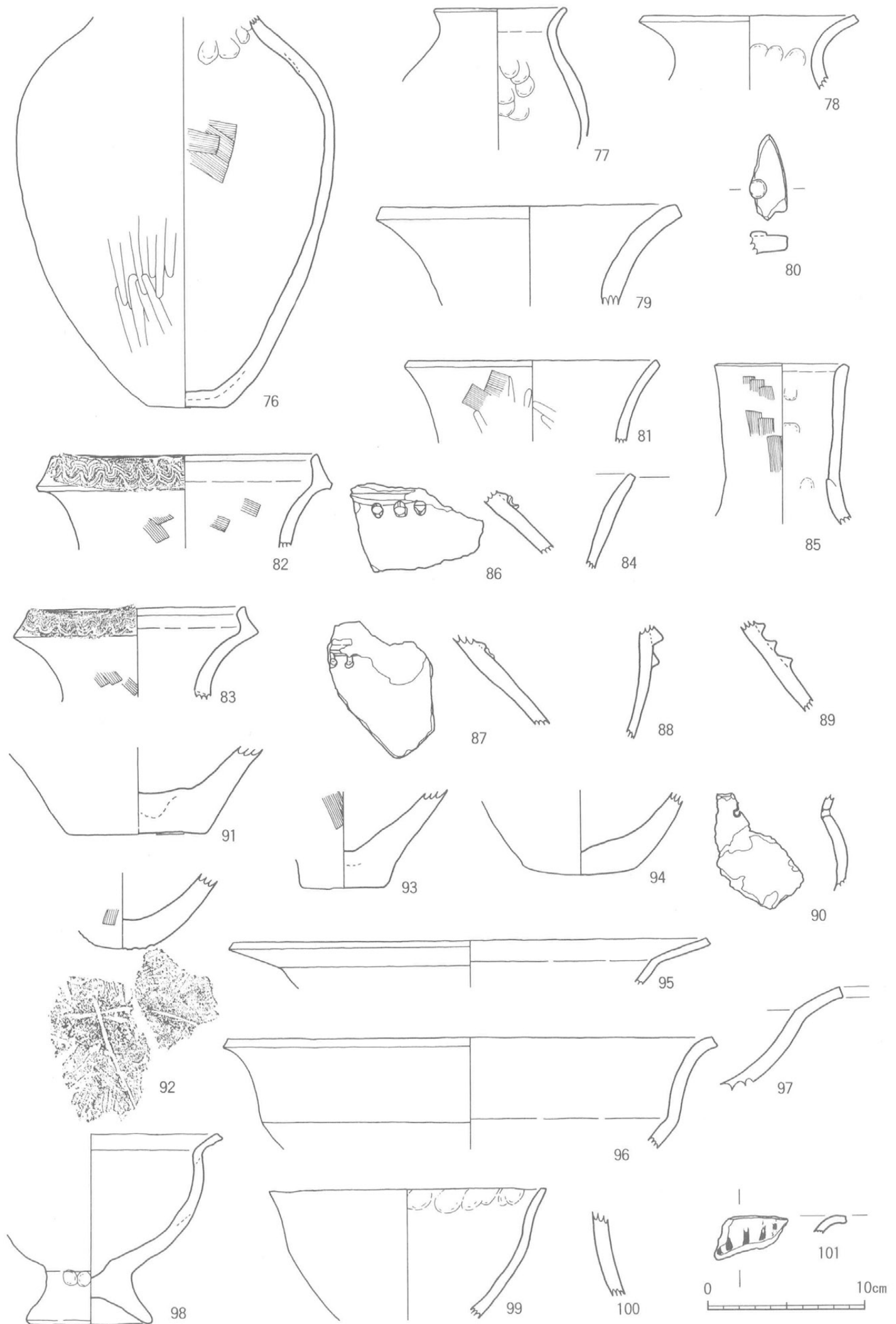
強い薄手のツボである。61は胴部が算盤玉状に張った長頸ツボの胴部である。上部と中央部に低い突帯が巡る。在地系の土器には見られない特徴を持っており、瀬戸内系土器の匂いのする土器である。

遺物包含層出土遺物 (第22図)

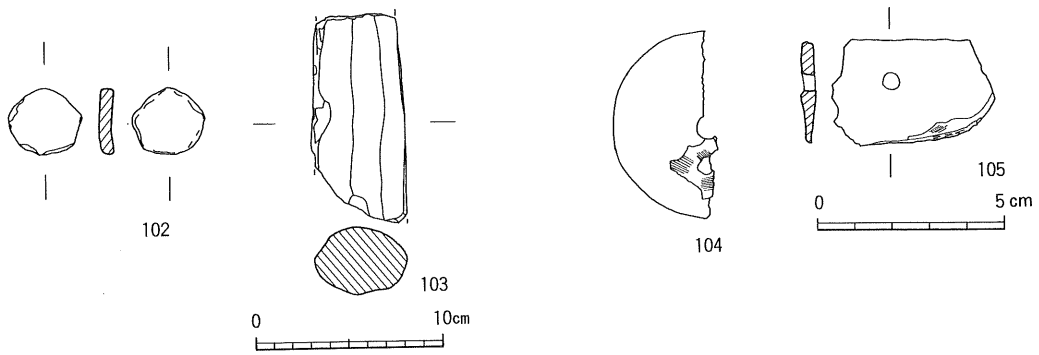
62は口縁部から頸部にかけて線刻が施されている。線刻は3個施されており、1個は口唇部



第22図 遺物包含層出土遺物実測図(1)



第23図 遺物包含層出土遺物実測図(2)



第24図 遺物包含層出土遺物実測図(3)

から頸部にかけて半長楕円形を描いている。長楕円形の右側の線上に直径約1.5cmの円がかかっている。その右側には口唇部から頸部にかけて斜め方向に線刻が入る。胴部外面上部にはススが付着しているもの丁寧な調製が残っているが、胴部下半部は火にあたったためか風化が激しい。器形はきわめていびつである。63はカメであるが、底部は上げ底状で外側にややつまみ出されている。口縁端部はやや丸みを持つ。64は63よりも上げ底で底部のつまみ出しも大きくなっている。口縁部の仕上げも丸みを持ったものになっており、63よりも新しい様相がみられる。65は胴部の上部が一部欠損して残っておらず、歪みが激しく図上で復元できなかった。やや上げ底で底部のつまみ出しもあまり顕著ではない。66・67・68はカメの口縁部である。68は第13図31と同じタイプのカメであると考えられる。都城地方の弥生時代後期に特徴的なカメである。69は本遺跡出土土器のなかでは大型のカメである。口唇部外面は丸く仕上げられている。頸部のくびれも胴部の張りも弱い。70・71もカメの口縁部から胴部にかけての部分である。どちらも69同様頸部のくびれも胴部の張りも弱い。72・73は胴部上部にキザミ突帯を有する。キザミはヘラ状工具の押圧による。74は小型のカメの底部である。75もカメの底部であるが、わずかに底部の端をつまみ出して上げ底風にしてている。76は頸部から口縁部を欠いたツボである。頸部内面には指押さえが見られ、胴部外面にはヘラ磨きが見られる。胴部の張りは弱い。77は小型のツボである。薄手で口唇部が丸みを帯びている。78はツボの口縁部である。口唇部は四角く仕上げられている。頸部が締まり口縁部が朝顔状に開いているタイプのものであり、口縁部が屈曲していて開く角度が大きい。79は厚手で大型のツボの口縁部である。口縁部は長く屈曲が弱い。80はツボの口縁部の内面に直径約1.2cmの浮文を持つ。81は薄手ではあるが79と同タイプのツボの頸部である。口唇部は四角く仕上げられており調整は丁寧なナデである。82は二重口縁のツボの頸部から口縁部である。口縁部に櫛描き波状文を有する。頸部外面下部と内面にハケメが見られる。口縁下端部が四角く調整されている。83も82同様に二重口縁のツボの口縁部から頸部である。口縁部に櫛描き波状文を有する。83と異なる点は口縁下端部が四角く調整されておらず、口縁部と頸部の断面がなめらかな三角形状を呈する。84は長頸ツボの頸部から口縁部である。口唇部は四角く調整されている。85長頸ツボの頸部から口縁部である。口唇部は丸く調整されている。86・87は頸部に突帯を巡らし、その最下位に曲玉状の浮文を貼

第1表 出土土器観察表(1)

年代 層	種別	器種	出土 地点	量 法 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
1	弥生	壺	SA1				ナデ 斜・縦方向の ハケ目	ナデ 斜・縦方向の ハケ目	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/3)	4ミリ大の淡橙色粒、2ミリ以下の 黒・灰・褐・赤褐色の砂粒を含む。	歯描波状文 二重口縁
2	弥生末 ~古墳 初 頭	甕	SA1				ナデ	斜・縦・横 方向のナデ	黄橙(10YR 8/6) にふい黄橙 (10YR 7/3)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰 (5Y 5/1)	4ミリ以下の暗褐・黒・灰色の砂粒、 2ミリ大の透明光沢粒を含む。	成川式か 内面に一部黒斑
3	〃	壺	SA1	6.4			ナデ 一部、斜・縦方 向の工具痕あり	縦・横方向の ナデ、指押え	にふい黄橙 (10YR 8/4) 7/4 8/4	淡黄橙(10YR 8/4) にふい黄(5YR 5/4) 黄褐(7.5YR 3/4)	4ミリ大の褐色粒、3ミリ以下の暗褐・赤 褐・灰色の砂粒を多量に含む。2ミリ以下 の透明・半透明・黒の光沢粒を含む。	
4	〃	鉢	SA1	28.9			斜・縦方向の ハケ目、一部ナ デ	ナデ、ハケ目 ミガキ	浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄(2.5Y 8/3 8/4) 浅黄橙(10YR 8/4) 黒褐(10Y 3/1)	4ミリ以下の褐・赤褐・灰・黒色の砂 粒、1~3ミリの透明光沢粒を含む。	内面に一部黒斑 外面に部分的に スス付着
5	〃	鉢	SA1	11.3			横ナデ やや斜方向の ハケ目か	横ナデ	黄橙 (10YR 8/6) 橙(5YR 7/6)	黄橙 (10YR 8/6) 7.5YR 7/8	4ミリ大の乳白色、3ミリ大の赤褐色の粒2ミ リ以下の灰白・黒・褐の微砂粒、1ミリ以下の 微細な黒・透明の光沢粒を多量に含む。	全体的に 風化気味
6	〃	鉢	SA1	10.8			ナデ、ハケ目 ミガキ	ナデ ハケ目	淡橙 (2.5Y 8/3) 褐(10YR 4/4)	淡黄 (2.5Y 8/3) 褐(10YR 4/6)	4ミリ大の灰色粒、2ミリ以下の褐・ 黒・灰色の砂粒、黒・透明・半透明 光沢粒を含む。	外面の一部スス 内面に一部炭化 物
7	〃	鉢	SA1				横ナデ 縦方向の ハケ目	横ナデ 横・斜方向の ハケ目	淡黄(2.5Y 8/3) にふい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	3ミリ以下の褐・黒・灰色の砂粒、1ミリ以 下の黒い透明の光沢粒を含む。	
8	〃	鉢	SA1				ナデ	ナデ	橙(7.5YR 7/6) 黄橙 (7.5YR 7/8)	にふい黄橙 (10YR 7/4)	2ミリ以下の褐・黒・半透明の砂粒を含む。 1ミリ以下の微砂粒が多い。	風化の為、 調整不明瞭
12	〃	甕	SA2	15.6	5.5	23.45	ナデ 斜・縦方向の ハケ目	斜・横方向の ナデ	にふい黄橙(10Y R 7/3)にふい 橙(7.5YR 7/3)	淡橙(5YR 8/4) にふい橙 (7.5YR 7/4)	4ミリ以下の褐・黒・灰色の砂粒を多く含 む。0.5~2ミリ大の透明・半透明・黒色の 光沢粒を含む。	
13	〃	甕	SA2	4.05			ナデ	ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	2ミリ以下の褐・黒・灰色の砂粒を多く 含む。1ミリ以下の黒・透明の光沢粒を 含む。	
14	〃	甕	SA2	14.85	5.5	21.05	口縁底部…ナデ 胴部…斜・縦方 向のヘラケズリ	ナデ	橙 (2.5YR 7/6 5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) 橙(7YR 7/6)	5ミリ以下の褐色、3ミリ以下の灰白・赤 褐・黒色の砂粒、2ミリ以下の黒・透明の 光沢粒を含む。	底部に黒斑
15	〃	甕	SA2	31.8			縦・横方向の ナデ (工具痕あり)	横ナデ	橙 (5YR 7/8 6/8、6/6)	橙(5YR 6/6) にふい橙 (7.5YR 6/4)	2ミリ以下の乳白・灰・黒・褐色の砂粒、 黒・透明の光沢粒を含む。	
16	〃	壺	SA2				横ナデ 縦方向の ミガキ	横ナデ	橙 (7.5YR 7/6、6/6)	橙 (7.5YR 7/6)	3ミリ以下の褐・灰色・半透明の砂粒を含 む。	歯描波状文 二重口縁 外面に顔料塗付か
17	〃	壺	SA2				横ナデ	横ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 褐灰(10YR 4/1)	4ミリ以下の褐・灰・黒色の砂粒を多く含 む。2ミリ以下の透明光沢粒を含む。	口縁腹部に沈線か 二重口縁 内面に黒変
18	〃	壺	SA2				やや斜方向の ナデ	指押え、 指ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	にふい橙 (7.5YR 7/4) 橙(7.5YR 7/6)	2ミリ以下の暗褐・褐色の砂粒、1.5ミリ 以下の透明・半透明・黒色の光沢粒を含 む。	
19	〃	壺	SA2	12			斜・横方向の ナデ	斜・横方向に ナデ 指押え、指ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4 10YR 8/3)	3ミリ以下の褐・赤褐・黒・灰色・半透明の 砂粒を含む。	
20	〃	壺	SA2	9.2			縦・横方向の ナデ	横ナデ	浅黄橙(7.5YR 8/4) 灰白 (7.5YR 8/2)	灰白 (2.5Y 8/2)	3ミリ以下の黒・灰・赤褐色・半透明の 砂粒、1ミリ以下の透明光沢粒を含む。	
21	〃	高坏	SA2	20.8			ナデ 指押え	斜・横方向の ミガキ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (5YR 7/6 7.5YR 7/6)	3ミリ以下の褐・黒・灰色の砂粒、3ミリ以 下の黒・透明の光沢粒を含む。	
22	〃	高坏	SA2				ナデ 斜方向の ハケ目か	ナデ	浅黄橙(7.5Y R 8/6) 黄橙 (7.5YR 7/8)	橙(5YR 7/8) 浅黄橙 (10YR 8/6)	2ミリ以下の灰・黒・褐色・半透明の砂粒を 含む。	風化気味
23	〃	高坏	SA2				ナデ、下部は 丁寧なナデ	ナデ(指ナデか) 下部は丁寧な ナデ	黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙(5YR 7/8)	3ミリ以下の灰・褐色の砂粒を含む。	穿孔
24	〃	鉢	SA2	9.35	7.45		口縁部…ナデ胴 底部…縦方向 のヘラケズリ	ナデ	黄橙(7.5YR 7/8) にふい黄(7.5YR 7/4) 黄褐(7.5YR 4/1)	浅黄橙 (7.5YR 8/6 8/4)	6ミリ大の黒色粒、3ミリ以下の褐・黒・灰 色の砂粒を含む。	
25	〃	鉢	SA2	10.3	3.4	9.65	ナデ	斜・横方向の ハケ目	浅黄橙(7.5YR 8/3) にふい橙(7.5YR 7/4) 黄褐(7.5YR 7/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/3) 褐灰(10YR 4/1)	5ミリ大の黄橙の粒、3ミリ以下の褐・灰・ 黒色の砂粒、2ミリ以下の透明・半透明・ 黒色の光沢粒を含む。	内面下部に黒斑
26	〃	鉢	SA2	11.5	3.7	5.2	ナデ 指押え	ナデ 一部指押えか	にふい赤褐 (5YR 5/4) 灰褐(5YR 4/2)	にふい橙 (5YR 6/4)	3ミリ以下の乳白・黒・赤褐・灰色の砂 粒、1.5ミリ以下の透明・黒色の光沢粒を 含む。	
29	弥生 後期	甕	SA3				ナデ	ナデ	明褐(7.5YR 5/8) にふい褐 (7.5YR 5/4)	橙 (5YR 6/6)	2ミリ以下の金・黒色の光沢粒、1ミリ以 下の乳白・褐色の微細な砂粒を含む。	貼付突帯
30	〃	甕	SA4				ナデ	ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6) 黄褐 (10YR 5/6)	2ミリ以下の褐・乳白色の砂粒を含む。1 ミリ以下の微細な黒色・透明の光沢粒が 多い。	刻み目突帯 外面にスス付 着

第2表 出土土器観察表(2)

1791 種別	器種	出土 地点	量法 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考	
			口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面			
31	弥生 甕	SA4				ナデ	ナデ	黒褐 (10YR 3/2) 褐(7.5YR 4/3)	にぶい赤褐 (5YR 4/4) 暗赤褐(6YR 3/3)	3ミリ以下の橙・乳白色の砂粒を少し 2ミリ以下の黒い透明・半透明の砂粒 を多く含む。	貼付突帯 外面にスス 附着	
32	〃 甕	SA4				ナデ	ナデ ハケ目	橙 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	3ミリ以下の褐・黒・乳白色の砂粒を 含む。微細な砂粒が多く、透明・黒色 の光沢粒を少し含む。	押圧による 刻み目突帯	
33	〃 甕	SA5				口縁部・横ナデ 胴部・縦方向の ハケ目	口縁部・横方向のハ ケ目、斜ナデ 胴部・縦方向のハ ケ目	にぶい褐 (7.5YR 5/4)	にぶい橙(7.5YR 6/4) にぶい褐 (7.5YR 5/4)	3ミリ以下の赤褐・黒・淡褐・乳白色の砂粒 を含む。		
34	〃 甕	SA7				横ナデ 斜方向の ハケ目	ナデ	浅黄橙 (10YR 8/3) 灰褐(2.5YR 4/2)	橙(7.5YR 7/6) 浅黄(2.5Y 8/3)	3ミリ以下の赤褐・灰・黒色の砂粒、 2ミリ以下の透明・半透明・黒色の光 沢粒を含む。	外面一部に スス附着 貼付突帯	
35	〃 甕	SA5		5.2		ナデ 指押え	ナデ 指押え	橙 (7.5YR 7/6・6/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 黒褐(10YR 3/1)	4~5ミリ大の褐色粒、3ミリ以下の黒・灰・褐 色の砂粒を多量に含む。	外面に炭化物 附着 内面に黒変	
36	〃 甕	SA7				ミガキ 顔料を塗つ た跡か	ナデ 指押えが多数 顕著に見られる	にぶい褐(7.5YR 5/3)、にぶい橙 (7.5YR 7/3)	灰白 2.5Y 8/1・8/2)	3ミリ以下の灰・淡橙・褐色の砂粒を 少し含む。		
37	〃 器台	SA5				工具による 縦方向の ナデ	ナデ	橙 (5YR 7/6)	黄橙 (7.5YR 7/8) 橙(7.5YR 7/6)	3ミリ以下の褐色の砂粒が多い。7ミ リ大の灰白粒、1ミリ以下の微細な 灰・黒色・半透明の砂粒を含む。	風化気味	
38	〃 高坏	SA6				ナデ	やや斜方向の ナデ	橙 (7.5YR 6/6)	灰黄褐 (10YR 5/2)	2ミリ以下の乳白色の粒を少し含む。	外面に斜方向 のヘラ状工具 による刻み	
39	〃 高坏	SA7		7.1		縦方向のハケ目 あとナデ、一部、工具 によるコナデ	ナデ 指押え	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/3) (7.5YR 8/4)	2ミリ以下の灰褐・赤褐色の砂粒を含む。 1ミリ以下の微細な灰・黒色の砂粒を多 く含む。		
45	〃 甕	SL1	30.2			横方向の ハケ目 横ナデ	斜・横方向のハ ケ目、ナデ (一部縦方向)	にぶい橙 (5YR 7/3) 褐灰(5YR 5/1)	にぶい橙 (5YR 7/4)	2ミリ大の褐色粒、1.5ミリ以下の微細な 灰・橙・乳白色の砂粒、黒色の光沢粒を 含む。	刻み目突帯 外面に黒斑	
46	弥生 中味~ 後 初	甕	SL1	33.4		ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙 (5YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	2ミリ以下の褐・黒・灰色の砂粒、透明 ・黒色の光沢粒を含む。微細な砂粒、 光沢粒を多く含む。	刻み目突帯 外面に一部ス ス附着、風化気味	
47	弥生	甕	SL1			斜・縦・横方向の ナデ (一部工具痕か)	ナデ 横ナデ	明赤褐 (2.5YR 5/6)	赤橙 (10R 6/6)	2ミリ以下の金色光沢粒、乳白色、半透 明の砂粒、微細な乳白色の砂粒を含む。	貼付突帯 外面にスス着 内面に黒変	
48	〃	甕	SL1	6.9		横ナデのあとヘラ タズリ、一部斜 方向のハケ目か	工具による 斜方向のナ デか	にぶい黄褐 (10YR 5/3, 4/3)	黒褐 (2.5Y 3/1)	2ミリ以下の黒・褐・乳白色・半透明の砂粒 を含む。	内面に炭化物 附着	
49	〃	甕	SL1	6.8		縦・横方向 のナデ	斜方向の ナデ	にぶい橙(7.5YR 7/3) 灰褐 (7.5YR 5/2)	褐灰 (10YR 4/1)	2ミリ以下の灰白・灰・褐色・半透明の砂粒 を含む。	外面、 風化気味 内面に黒斑	
50	〃	壺	SL1	17.3		横ナデ	横ナデ ヘラミガキ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	3ミリ以下の灰色の砂粒、1.5ミリ以下の 黒・褐色の砂粒、微細な光沢粒を含む。	貼付突帯	
51	〃	鉢	SL1	26.6		横ナデ、斜方向 のハケ目、横・斜 方向のミガキ	横ナデ、斜・横 方向のハケ目、縦・ 横方向のミガキ	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい黄褐 (10YR 5/4)	濃黄橙(10YR 8/4) にぶい橙 (7.5YR 6/4)	5ミリ大の灰白色粒、2ミリ以下の褐・黒・ 灰色・半透明の砂粒、黒色光沢粒を含む。	外面に黒変、ス ス附着、内面に 炭化物附着	
52	〃	甕	SL3	23.0	5.2	26.0	横ナデ、斜・ 縦方向の ハケ目	横ナデ、斜・ 横方向の ハケ目	灰褐(7.5YR 4/2) にぶい黄褐(10YR 7/4) 灰褐(10YR 5/2)	にぶい褐(7.5YR 5/4) 黒褐 (7.5YR 3/1)	1~2ミリ大の透明・半透明光沢粒を多 く含む。2ミリ以下の黒色光沢粒、褐・黒 ・灰白色の砂粒を含む。	外面にスス着 内面底部付近に 炭化物附着
53	〃	甕	SL3	18.9	6.55	23.8	斜・横方向のナ デ ハケ目のあとミ ガキが、指押え	斜・横方向の ナデ 指押え	にぶい黄橙(10YR 7/4) にぶい橙(7.5YR 7/4) 灰褐(5YR 5/1)	にぶい橙(2.5YR 6/4 7.5YR 7/4) 灰褐(5YR 6/2)	3ミリ以下の暗褐・黒・灰色の砂粒、2ミリ 以下の透明・半透明光沢粒を含む。	外面に黒変か
54	〃	甕 SL SL3				横ナデ、斜・ 横方向の ハケ目	横ナデ、斜・ 横方向の ハケ目	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3) にぶい黄橙 (10YR 6/3)	1.5ミリ以下の半透明光沢粒等を少量含 む。	外面にスス着	
55	〃	甕	SL3			ナデ 横ナデ	ナデ	灰白(2.5Y 8/2) 黒褐 (7.5YR 3/1)	浅黄橙 (10Y 8/3)	4ミリ以下の褐・灰・黒色の砂粒、2ミリ以 下の透明光沢粒を含む。	外面に炭化物着 内面にも一部	
56	〃	甕	SL3			ナデ	横ナデ	にぶい橙 (10YR 6/4) 浅黄(2.5Y 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	4ミリ以下の灰白・灰・黒色の砂粒を含む。	外面に木の葉痕 炭化物附着	
57	〃	甕	SL			横ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	2ミリ以下の灰白・褐・黒色・半透明の砂粒 を多く含む。	貼付突帯 外面にスス着	
58	〃	甕	SL3			縦方向の ハケ目	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 4/2・ 5/2・6/2)	灰黄褐 (10YR 4/2・ 5/2・6/2)	2.5ミリ以下の灰白・褐・橙色粒、半透 明光沢粒、1.5ミリ以下の黒色光沢粒を 含む。	外面にスス着 内面に黒変か	
59	〃	壺	SL3			ナデ	ナデ 指押え	橙(2.5YR 7/3) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	3ミリ以下の褐・灰白・灰・黒色の砂粒を多 く含む。1ミリ以下の透明光沢粒を少し 含む。	貼付突帯	
60	〃	壺 SL SL3				ナデ	ナデ	淡黄 (2.5Y 8/3)	灰黄 (2.5Y 7/2)	2ミリ以下の黒・褐・赤褐色の砂粒を含む。 1ミリ以下の微細な砂粒を多く含む。		

第3表 出土土器観察表(3)

イ 79 群	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
61	弥生 後半	壺	SL3		5.6		横ナデ ヘラミガキ	指押え、指ナデ 縦方向のハケ目	にぶい橙(5YR 7/4) 浅黄橙(10YR 8/4) 暗灰(N3)	灰オリーブ (5Y 6/2) 灰黄(2.5Y 7/2)	3ミリ以下の赤褐・褐・灰・灰白色の砂粒を含む。微細な砂粒が多い。	長頸壺、彩色か 貼付突帯、 外面に黒斑
62	弥生	甕		24.2	8.4	26.5	横ナデ、 指押え、 丁寧なナデ	横ナデ 斜方向の ハケ目	にぶい橙 (5YR 7/4) 灰褐(6YR 6/2)	にぶい橙 (7.5YR 7/4) 褐灰(7.5YR 4/1)	4ミリ以下の褐・黒・灰褐色の砂粒、3ミリ以下の透明・半透明の光沢粒を含む。	縁刻、外面にス ス付着、風化気 味、内面に黒変
63	〃	甕		23.2	7.2	29	縦・横方向のナデ 縦方向の指ナデ	工具による斜・ 横方向のナデ、 指押え	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	4.5ミリ以下の褐色粒、4ミリ以下の乳白色粒、3.5ミリ以下の黒・赤褐色粒、3ミリ以下の黒色光沢粒・灰色粒、2.5ミリ以下の半透明光沢粒を含む。	外面にスス付着 内面に黒斑
64	〃	甕		17.0	5.5	18.6	工具による斜方向 のウケ目、縦・横方 向のナデ、指押え	指ナデ、斜・ 横方向のナデ 指押え	浅黄橙(10YR 8/3) 淡赤橙 (2.5YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/3) 褐灰(10YR 5/1)	1~5ミリの褐色の砂粒、3ミリ以下の赤褐・ 灰・乳白色の砂粒を多く含む。2ミリ以下の 黒・透明の光沢粒を少し含む。	一部風化著しい 為、調整不明
65	〃	甕		20.9	6.5		ナデ(横方向の工 具痕あり)、斜方向 のウケ目、指ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	5ミリ以下の褐色粒、3ミリ以下の黒色・透明 ・半透明光沢粒、乳白色粒を含む。	内面に黒変
66	〃	甕					横ナデ	横ナデ	明赤褐 (2.5YR 5/6)	明赤褐 (2.5YR 5/6)	3ミリ以下の金色光沢粒、2.5ミリ以下 の赤色粒、2ミリ以下の半透明粒、 乳白色粒を含む。	口唇部に凹線
67	〃	甕					横ナデ	横ナデ	淡黄(2.5Y 8/4) 浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	3ミリ以下の褐・赤褐・乳白色の砂粒、2ミ リ以下の透明・黒色の光沢粒を含む。	口唇部に凹線か 外面にスス付着
68	〃	甕					横ナデ	横ナデ	黒褐(5YR 2/1) 明赤褐 (5YR 5/6)	にぶい赤褐 (5YR 4/3) 黒褐(6YR 2/1)	3.5ミリ以下の褐色粒、2.5ミリ以下の金 色光沢粒、1.5ミリ以下の半透明粒を 含む。	
69	〃	甕		39.0			斜・横方向の ナデ、 指押え	斜・横方向の ナデ、 指押え	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	4ミリ以下の黒・褐色粒、3ミリ以下の半 透明光沢粒、灰色粒、2ミリ以下の黒色 光沢粒を含む。	
70	〃	甕					斜方向のナデ (工具痕あり)	斜方向のナデ 指押え	淡黄 (2.5Y 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/2) 浅黄橙(10YR 8/4)	4ミリ以下の褐・灰・灰白色の砂粒を 含む。2ミリ以下の黒色・透明の光沢粒を 少し含む。	
71	〃	甕					斜・横方向のヘ ラ状工具による ナデ	斜・横方向 のナデ	淡黄橙(2.5Y 8/3) 褐灰 (10YR 5/1)	淡黄(2.5Y 8/3) 褐灰 (10YR 5/1)	3ミリ以下の褐・灰白・黒色の砂粒を含む。	内面に黒斑
72	〃	甕					横ナデ ナデ	横ナデ	橙 (5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	3ミリ以下の灰褐・乳白・灰色の砂粒を 多く含む。黒色・透明・半透明の光沢粒を 含む。	刻み目突帯
73	〃	甕					横ナデ 斜・縦・横方 向のハケ目、 ナデ	横ナデ、斜・ 横方向のハケ 目、ナデ	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい黄橙(10Y R 7/3) 灰黄 褐(10YR 6/2)	2.5ミリ以下の赤褐色粒、1ミリ以下の半 透明・黒色等光沢粒、褐色粒を含む。	刻み目突帯
74	〃	甕			4.5		ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5Y R 7/4) 黒褐 (10YR 3/4)	にぶい橙 (7.5YR 6/4)	2.5ミリ以下の褐色粒・半透明光沢粒、 1ミリ以下の灰色粒、黒色光沢粒を含む。	底部に黒斑 鉢の可能性あり
75	弥生 後半	甕			6.1		ナデ(部分的 に工具痕あり) 指押え	ナデ 指押え	灰白 (7.5YR 8/2)	黒褐 (2.5Y 3/1)	4ミリ以下の褐・黒色粒、2ミリ以下の透 明・半透明等光沢粒・乳白色粒を含む。	内面に黒変
76	弥生	壺			5.0		斜・縦方向の工 具によるヘラミ ガキ、ナデ	斜方向のナデ 指押え	浅黄橙(7.5YR 8/4) 明褐灰 (7.5YR 7/2)	灰白 (7.5YR 8/2)	1~4ミリ大の赤褐色の砂粒、3ミリ以下 の灰・褐色の砂粒、黒色・透明・半透明 の光沢粒を含む。	外面に黒変 風化気味
77	〃	壺			8.2		口縁部…ナデ 胴部…不明	ナデ 指押え	橙 (5YR 7/8)	灰褐 (7.5YR 6/2)	5ミリ以下の褐色粒、2ミリ以下の乳白色 粒、黒色光沢粒、1.5ミリ以下の半透明 光沢粒を多量に含む。	外面は風化の 為、調整不明
78	〃	壺			13.4		縦・横方向 のナデ ナデ	斜・横方向の ナデ、 指押え	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8 /4) にぶい黄 橙(10YR 7/3)	4ミリ以下の褐・黒・灰・灰白色の砂粒 を含む。	
79	〃	壺			18.0		横ナデ ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい黄 橙(10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	3ミリ以下の褐・黒・灰色の砂粒を多く 含む。2ミリ以下の黒色・透明の光沢粒を 含む。	
80	〃	壺					横ナデ	風化の為、 調整不明	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	2ミリ以下の微細な褐・乳白・灰色の砂粒、 黒・透明・半透明の光沢粒を多く含む。	円形浮文
81	〃	壺					ナデ、 ハケ目の後 ミガキ	斜方向のナデ ミガキ	橙(7.5YR 7/6、6/6)	明黄褐 (10YR 7/6) 橙(7.5YR 6/6)	3ミリ以下の灰・褐色の砂粒、2ミリ以下 の黒・半透明の光沢粒を含む。	
82	〃	壺			16.6		横ナデ 斜・縦方向 のハケ目	ナデ、横ナデ、 斜方向の ハケ目	淡黄 (2.5Y 8/4、8/3)	淡黄 (2.5Y 8/4、8/3)	4ミリ以下の褐・灰・黒・赤褐色の砂粒 を含む。	飾描波状文 二重口縁
83	〃	壺			13.7		横ナデ、ナデ 斜方向の ハケ目	横ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1~4ミリ大の褐色粒、3ミリ以下の褐・ 黒色の砂粒、1ミリ大の黒・透明の光沢粒 を含む。	飾描波状文 二重口縁
84	〃	壺					横ナデ、ナデ 縦方向の ハケ目	横ナデ ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐・褐・黒色の砂粒、透明 の光沢粒、1ミリ大の黒色光沢粒を含む。	長頸壺
85	〃	壺			7.9		横ナデ 縦方向の ハケ目	ナデ	にぶい黄橙(10Y R 7/4) にぶい 橙(7.5YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐・褐・黒色の砂粒、2ミリ 以下の透明・黒色光沢粒を含む。	長頸壺

第4表 出土土器観察表(4)

レイト 791 器	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
86	弥生	壺					丁寧な横ナデ	縦方向の指ナデ	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/8)	0.5~6ミリ大の乳白色粒、2ミリ以下の赤褐色粒、3ミリ大の黒色光沢粒を含む。	貼付帯、貼付槽 浮文の上にヘラ 状工具による押圧
87	〃	壺					横ナデ、丁寧な 横ナデ、一部ヘ ラミガキ	縦方向の指 ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	にぶ褐 (7.5YR 5/3)	3ミリ以下の乳白色・半透明の砂粒、 微細な光沢粒を含む。	貼付帯、貼付槽 浮文の上にヘラ 状工具による押圧
88	〃	壺					横ナデ	横ナデ	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 7/6)	4ミリ大の灰白粒、0.5~4ミリ大の乳白色 粒、2ミリ以下の赤褐色粒、透明光沢粒 を含む。	貼付突帯
89	〃	壺					横ナデ	横ナデ、指ナデ、 斜方向のヘラ状 工具ナデ	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0.5~4ミリ大の乳白色粒、1.5~4ミ リ大の褐色粒、微細な砂粒を含む。	貼付突帯
90	〃	壺					横ナデ ナデ	横ナデ	橙 (7.5YR 7/6 5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	4ミリ以下の灰・褐色の砂粒、2ミリ以下の黒 色の砂粒、2ミリ大の透明光沢粒を含む。	穿孔
91	〃	壺		8.6			ナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	黄灰 (2.5Y 6/1)	4ミリ以下の赤褐色粒、3ミリ以下の 灰色粒、2ミリ以下の透明・黒色等 光沢粒、乳白色粒を含む。	風化気味
92	〃	壺					ナデの上 一部ハケ目	ナデ	にぶ黄橙 (10YR 6/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	5.5ミリ以下の褐色、3ミリ以下の乳白・ 黒色の粒、2.5ミリ以下の半透明・黒色等 光沢粒を含む。	底部にヘラ 記号
93	〃	壺		5.3			ハケ目 ナデ	ナデ	にぶ黄橙 (10YR 7/2)	灰白 (10YR 8/1) 暗灰 (N 3/0)	5ミリ以下の褐色粒、4ミリ以下の灰色 粒、3ミリ以下の乳白色粒、黒色光沢粒 を含む。	内面に黒斑
94	〃	壺		7.0			ハケ目 ナデ	ハケ目 ナデ	浅黄橙 (10YR 8/3)	灰白 (7.5YR 8/2)	5ミリ以下の褐色粒、3ミリ以下の赤褐 色粒、半透明・透明光沢粒を含む。	
95	〃	高坏		30.0			横ナデ	横ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	5ミリ大の灰色粒を、4ミリ以下の灰・褐・ 黒色の砂粒、2ミリ以下の透明・黒色の砂 粒を含む。	内面に黒変
96	〃	鉢		30.7			ナデ 横ナデ	ミガキ	浅黄橙 (10YR 8/4 7.5YR 8/3)	暗橙 (10YR 8/6) に 似る (10YR 7/4) 暗黄 (10YR 5/2)	2ミリ以下の褐・赤褐・灰・黒色の砂粒、 1ミリ以下の透明・黒色光沢粒を含む。微 細な砂粒が多い。	一部風化著し い為、調整不 明
97	〃	鉢					横ナデ	横ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	浅黄橙 (10YR 8/3 8/4)	4ミリ以下の灰・褐色の砂粒、2ミリ以下 の乳白・灰白色の砂粒、透明・黒色光沢粒 を含む。	風化気味
98	〃	鉢		7.8	12.1		ナデ 指押え	ナデ ヘラケズリか	浅黄橙 (7.5YR 8/6) 明黄灰 (7.5YR 7/2)	灰褐 (7.5YR 6/2) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	0.5~4ミリ大の褐・灰・黒色の砂粒を多く 含む。2ミリ以下の透明・半透明・黒色光 沢粒を含む。	脚付き鉢 内面に黒変 風化気味
99	〃	鉢		16.8			ナデ	ナデ 指押え	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/3)	3ミリ以下の褐・灰・黒・乳白色の砂粒 を含む。	外面一部褐色 に変色
100	〃	器台					縦方向の ハケ目	ナデ	明黄褐 (10YR 7/6) 褐 (7.5YR 4/3)	明黄褐 (10YR 6/6)	2ミリ以下の灰・褐色の砂粒、1ミリ以下 の微細な光沢粒を含む。微細な砂粒が 多い。	三条の浅く細 い沈線
101	〃	壺					ナデ 横ナデ	ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	3ミリ大の白い鉱物粒、2ミリ以下の褐色 ・半透明の砂粒を含む。	丹塗り

第5表 土器片加工円盤計測表

レイト 791 器	種別	出土 地区	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	調 整		色 調		胎 土	備 考
							外 面	内 面	外 面	内 面		
102	弥生		3.5	3.9	0.65	10.8	風化の為、 調整不明	ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	3ミリ以下の橙色粒、2.5ミリ以下の灰色粒、 2ミリ以下の黒・乳白色粒、1.5ミリ以下の黒 色・半透明・透明光沢粒等を多量に含む。	

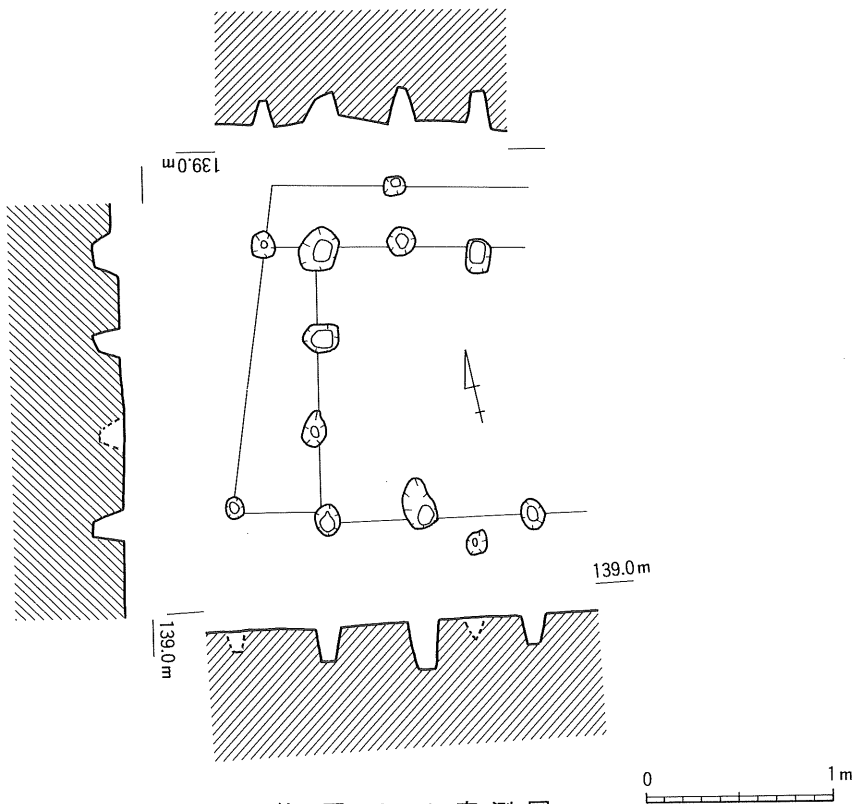
第 6 表 遺跡出土石器観察表

以外 番号	出土 地点	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
9	SA1	砥 石	22.1	13.9	4.35	2220.0	砂 岩	
10	SA1 SA6	石 包 丁	5.3	9.1	0.6	43.3	凝灰質頁岩	
11	SA1	石 鎌	1.95	2.7	0.4	2.6	凝灰質頁岩	
27	SA2	砥 石	18.3	8.5	5.4	1290.0	砂 岩	
28	SA2	石 鎌	3.4	2.2	0.2	2.7	凝灰質頁岩	
40	SA3	剥 片	2.3	2.2	0.35	2.3	凝灰質頁岩	石鎌の素材剥片
41	SA4	剥 片	5.2	3.4	0.5	7.9	凝灰質頁岩	ク
42	SA6	砥 石	10.0	5.1	1.3	91.0	凝灰質頁岩	
43	SA7	砥 石	12.75	6.5	4.29	413.5	砂 岩	
44	SA7	剥 片	2.35	2.0	0.15	0.8	凝灰質頁岩	石鎌の素材剥片
103		砥 石	11.0	5.0	3.6	277.9	砂 岩	
104		紡 錘 車	5.0	2.85	0.5	6.3	凝灰質頁岩	
105		石包丁片	2.8	4.3	0.4	6.6	凝灰質頁岩	

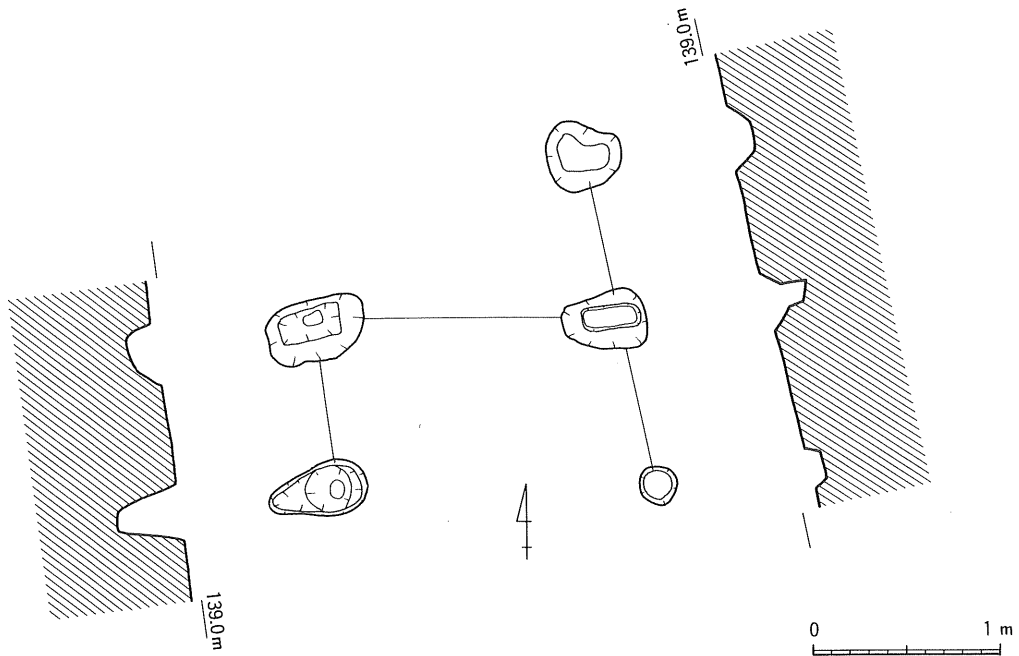
第 7 表 竪穴住居観察表

遺構 番号	平面形	棟方位	規 模 (cm)			床面積 (㎡)	柱穴数	柱穴状態 (cm)		備 考
			長 軸	短 軸	深 さ			平均径	平均深	
SA1	方 形	N36° E	570	540	13.7	23.3	10	42~52	28.7	
SA2	円 形	N66° E	—	—	9.4	40.3	12	36~43	22.5	突出壁を持つ
SA3	不定形	N84° W	577	515	13.3	23.7	6	29~35	16.8	突出壁ベッド 状遺構を持つ
SA4	方 形	N82° W	600	553	16.1	29.0	4	24~31	12.6	
SA5	不定形	N87° W	850	775	7.9	52.9	5	38~56	47.9	ベッド状遺構を 持つ
SA6	—	N19° E	470	330	13.3	15.1	2	31~36	29.8	削平により、平面形 未確認炭化材出土
SA7	不定形	N84° E	558	545	12.1	24.3	5	30~38	26.2	削平により、 平面形未確認

り付けている。大分県に多くみられる土器で安国寺式と呼ばれるものである。88・89は胴部に貼り付け突帯を巡らすカメの胴部である。88は2条、89は3条の突帯が見られるが、それぞれこれ以上の突帯が巡っていた可能性も否定できない。90は頸部に穿孔のある小型のツボである。この穿孔は焼成前に開けられたものと考えられる。91は本遺跡では大型のツボの底部である。平底で厚みがある。92は小型のツボの底部である。底部外面にヘラ状工具により十字に線刻が施されている。線刻は勢いのある線で描かれており、胴部下部にまで延びている。93はツボの底部である。外面に間隔の広いハケメが見られる。94はツボの底部である。平底であるが底部外面はやや外側に丸みを帯びているので、安定が悪かったと考えられる。95は高坏の坏部である。薄手で口唇部が四角く調整されている。96は大型の鉢である。口唇部は四角く調整されており、口縁部は緩やかに外反する。胴部中央が屈曲するため外面に稜線を持つ。内面の稜線は不明瞭である。97も鉢である。こちらは口縁部が開く器形のため胴部の屈曲による稜線は内面側に明瞭に見られる。98は脚台付き鉢である。遺存状態が良かったため概報にも掲載した資料である。本遺跡では脚台付きの遺物はこの1点だけである。口唇部は四角く平坦に調整されている。胴部の張りはあまり強くないが、脚台の脚部は比較的外側に延びている。99は鉢である。胴部の張りは弱く薄手で口縁部の調整が粗い。頸部の屈曲もわずかである。100は器台である。外面には全体的に縦方向のハケメが見られるが、下端部にはヘラ状工具による横方向の沈線が3本見られる。101は小型のツボの口縁部である。口唇部は四角く平坦に調整されている。口唇



第25図 SB1 実測図

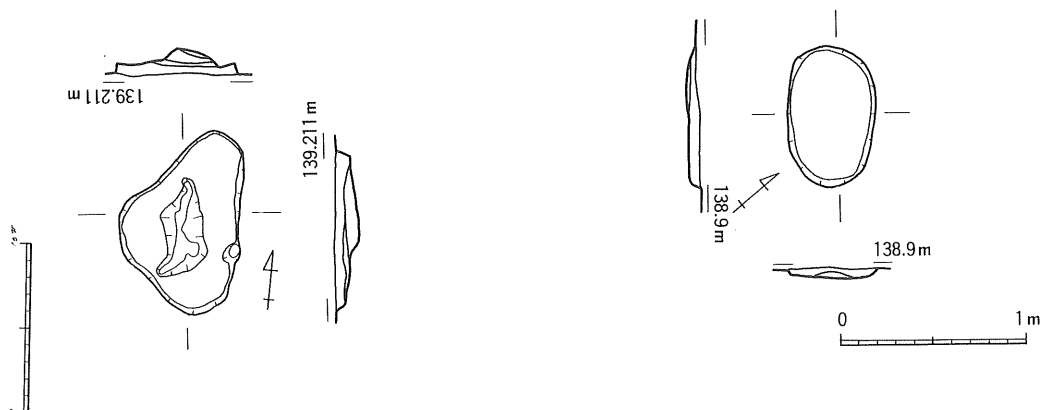


第26図 SB2 実測図

第8表 掘立柱建物観察表

遺構 番号	規模 (間)	方向	桁 行		梁 行		方位	床面積	柱 穴 状 態			備 考
			実長 (cm)	柱間 (cm)	実長 (cm)	柱間 (cm)			柱数 (個)	pit径 (cm)	pit深 (cm)	
SB1	—	E~W	—	96	292	98	N77.5° W	—	11	26~36	14~52	二面庇
SB2	—	S~N	—	181	317	317	N12° W	—	5	60~86	16~66	

部と口縁部の内・外面に赤色顔料が塗布されている。102は土器片を円盤状に加工したものである。薄手の土器を素材としており用途は不明である。103は砂岩の砥石である。表側は砥石としての使用痕が明瞭であるが、裏側は敲石としての使用痕が見られる。104は薄手の紡錘車と考えられる。石材は凝灰質頁岩である。表・裏両面に研磨時の擦痕が見られることから使用時も厚さ約5mmであったと考えられる。105は石包丁である。最大長2.8cmしかなく、横長の形を呈する。石材は凝灰質頁岩である。表・裏両面ともに節理が多く見られ、使用時の表面は上下両端にわずかに残存するだけである。



第27図 時期不明土坑実測図

第5節 中世の遺構

中大五郎第1遺跡では2軒の掘立柱建物が確認されているが、いずれも完全な形ではない。それに伴う遺物は無い。

S B 1 (第25図)

調査区の中央部E-3グリッド付近に位置する。棟方向は東西で北と西側に庇を持つ。

S B 2 (第26図)

調査区の中央部南側に位置する。棟方向は南北である。柱穴の遺存状態が悪いため建物の規模等が不明である。柱穴の平面形が方形であることや中大五郎第2遺跡で掘立柱建物が検出されていることなどから弥生時代の柱穴である可能性も否定できない。

第6節 時期不明の遺構 (第27図)

中大五郎第1遺跡では、2基の時期不明土坑が検出された。この土坑は調査区中央部の遺構の集中する場所に位置しているが、遺構確認面から遺構の底までの深さが浅く、遺構内からの出土遺物も無かったので遺構の営まれた時期を決定することができなかった。

第7節 まとめ

中大五郎第1遺跡は前記したとおり弥生時代を中心とする遺跡である。これより当遺跡から出土した弥生土器について若干の考察を加える。

弥生土器はカメ・ツボ・高坏・器台・鉢が出土しており、このうち比較的個体数が有り、器形の分かるものの多いカメについてタイプ分けしたい。カメ以外の器種は出土数が少なく分類の資料とならないためである。

タイプⅠ：胴部に突帯が巡るもの。

a：突帯にキザミ目を持つもの。

b：突帯にキザミ目を持たないもの。

タイプⅡ：胴部に突帯が巡らないもの。

a：口唇部が四角く調整されており、その中央部がわずかに窪むもの。底部は平底かやや上げ底になる。器形の成形及び器壁の調整が丁寧なものが多い。

b：口唇部が丸く仕上げられており、底部は上げ底になり、外方につまみ出される。器形の成形及び器壁の調整は粗雑なものが多い。

これらの遺物の時期設定であるが、石川悦雄氏¹⁰⁾、吉本正典氏¹¹⁾らの研究により弥生時代後期に属するものと考えられる。タイプⅡbはタイプⅡaよりも後出するものである。したがって大まかな時期を区切るとするとタイプⅡaは弥生時代後期前半、タイプⅡbは弥生時代後期後半に比定できるであろう。

この結果から、各遺構の時期差について考えてみたい。SA1は第8図1・2を見る限りでは後期後半の時期が比定されるだろう。SA2は第10図15は古い様相を呈しているが、12・14・16は新しい様相を呈している。これを1軒の家の中に古いものと新しいものが共存する状態であるとすれば新しい時期、後期後半が考えられる。SA2の平面形について考えたとき、日向地方に特徴的な間仕切住居であるが、間仕切り自体が小型化している。このことから後期後半の時期が考えられる。SA3～SA7は出土遺物が極端に少ないため時期決定が困難である。SL1は第19図48・49等より後期前半の可能性が考えられる。SL3は遺物で時期を考える上で若干の問題がある。第21図52のカメは後期前半の特徴を良く表した遺物であるがそれと共存する53のカメは全体的な器形の成形の具合や調整方法などを観察すると52に比べて非常に雑である。これだけを見ると後期前半の時期が考えられる52よりも新しい時期が考えられるが底部が平底であることから、精製の土器である52と粗製の土器である53が時期を同じくして作成され使用された可能性も考えられる。その判断については資料数の少ない現段階においては不可能である。後世の研究者に判断を委ねたい。

以上のことから、SA1・SA2とSL1・SL3の間には時間差が考えられる。これはSA1がSL3と近接していることから判断できる。この状態でこの2基の遺構は同時に存在したとは考えられないからである。このように遺構の分布状況からSA4とSA5、SA6とSL1は同時には存在しなかった可能性がきわめて高いと考えられる。

中大五郎第1遺跡は遺構確認面が御池ボラを多く含む層の上面であるために弥生時代の遺構

の深さが5～15cm程度ときわめて浅いので遺構内出土遺物が非常に少ない。この少ない遺物に考察を加えて時期決定の一助とするのはやや危険かもしれないが、遺構内から出土した遺物についてはより床面に近い遺物である割合が多いというメリットも否定できないものである。

以上のような状況により中大五郎第1遺跡の位置付けは今後の研究に委ねたい。

中大五郎第1遺跡は黒色土中に中世の文化層が希薄ではあるが遺存していたと考えられる。試掘調査でその存在が把握されなかったため、また期間的・予算的余裕も無かったため調査することが無かった。このような状況に対してどう対処して行くか今後の課題である。

最後に報告書作成に当たり宮崎県埋蔵文化財センターの整理作業員のみなさんに大変お世話になった。また、宮崎県文化課石川悦雄氏、同・谷口武典氏、同・吉本正典氏には多大なるご教示を賜った。ここに記して謝したい。

(註)

- 1) 吉本正典「日向の庄内式併行期の土器」『考古学ジャーナル』363 1993
- 2) 山中悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案」『研究紀要』No.8 宮崎県総合博物館 1983
石川悦雄「日向における外葉系の土器の伝播とその地域性(1) -瀬戸内・畿内系土器の流入とその展開-」『研究紀要』No.9 宮崎県総合博物館 1984

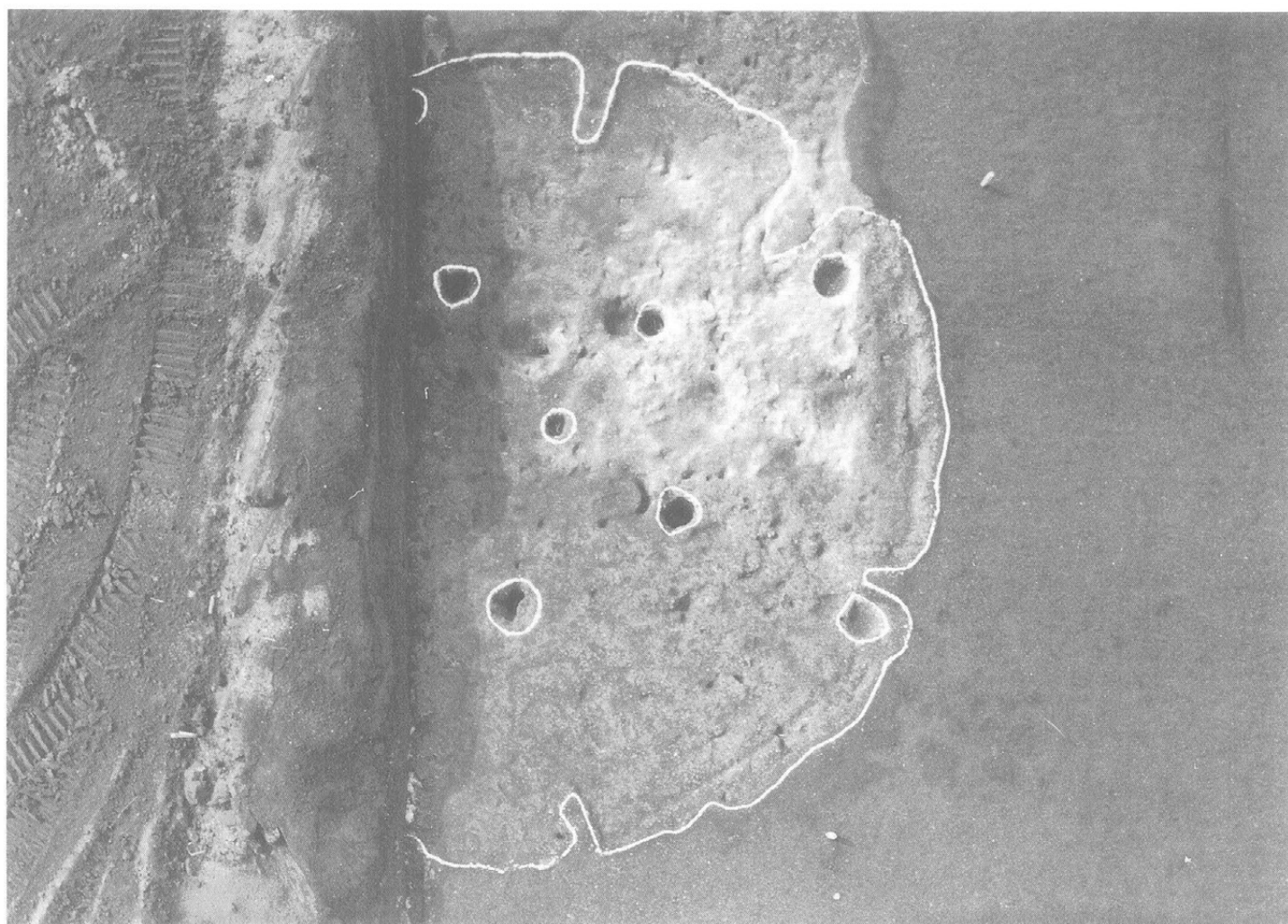
参考文献

- 1) 山中悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案」『研究紀要』No.8 宮崎県総合博物館 1983
- 2) 石川悦雄「日向における外葉系の土器の伝播とその地域性(1) -瀬戸内・畿内系土器の流入とその展開-」『研究紀要』No.9 宮崎県総合博物館 1984
- 3) 石川悦雄「新田原遺跡」『新田原遺跡 瀬戸口遺跡 蔵園地下式横穴墓』宮崎県児湯郡新富町文化財調査報告書第4集 新富町教育委員会 1986
- 4) 菅付和樹「熊野原遺跡A・B地区の調査」『熊野原遺跡A・B地区の調査 前原西遺跡 陣ノ内遺跡 前原南遺跡 前原北遺跡 今江(仮称)跡 車坂城西ノ城跡』宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第4集 宮崎県教育委員会 1988
- 5) 谷口武典・津隈久美子「下那珂貝塚」『埋蔵文化財調査研究報告II』宮崎県総合博物館 1988
- 6) 吉本正典「日向の庄内式併行期の土器」『考古学ジャーナル』363 ニューサイエンス社 1993
- 7) 松林豊樹「学頭遺跡」『学頭遺跡・八見遺跡』県道高岡・郡司分線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 宮崎県教育委員会 1995
- 8) 東 憲章「丸谷地区遺跡群 上大五郎遺跡」『丸谷地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』都城市文化財調査報告書31集 都城市教育委員会 1995

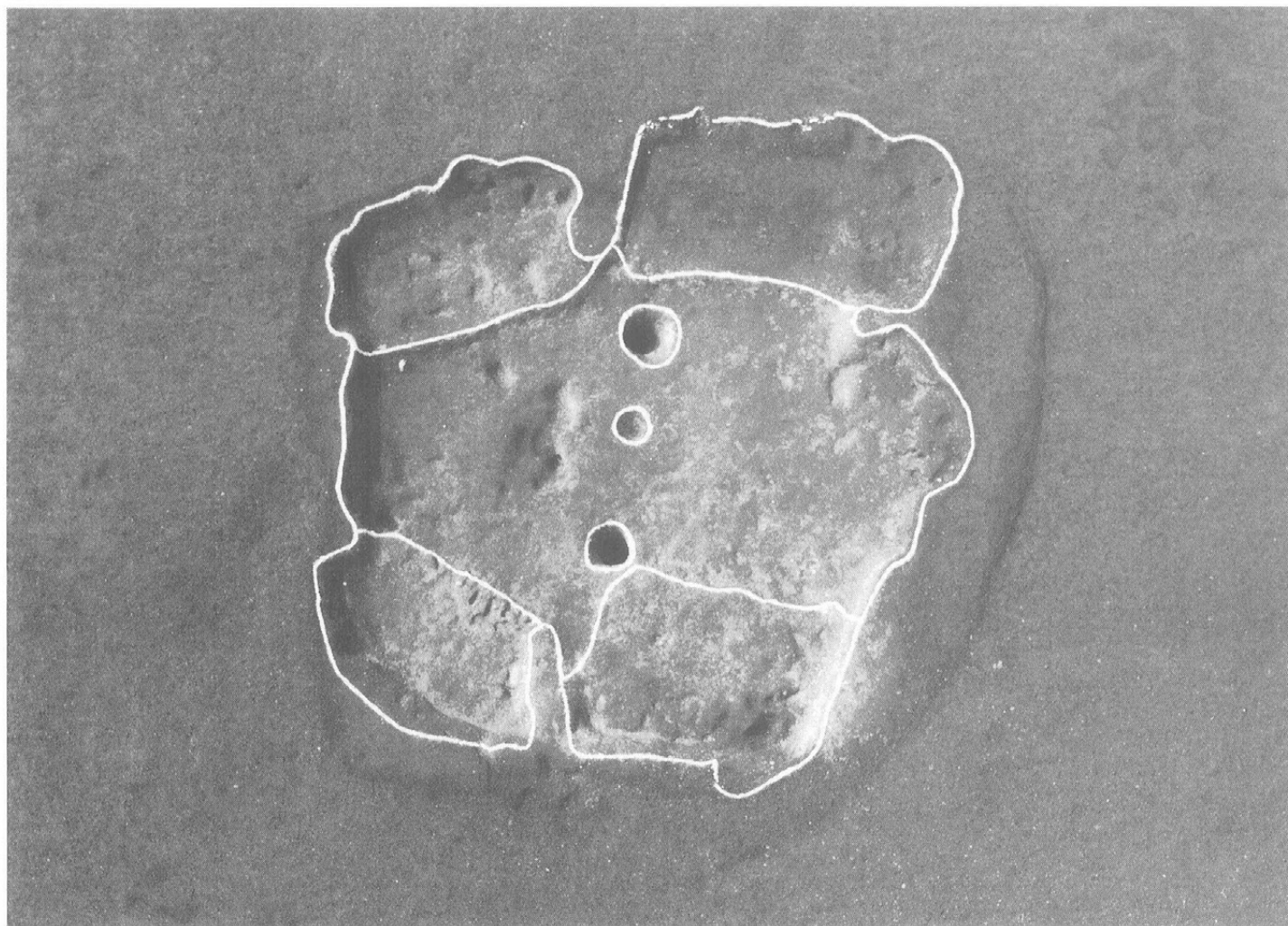
版 图



SA 1



SA 2



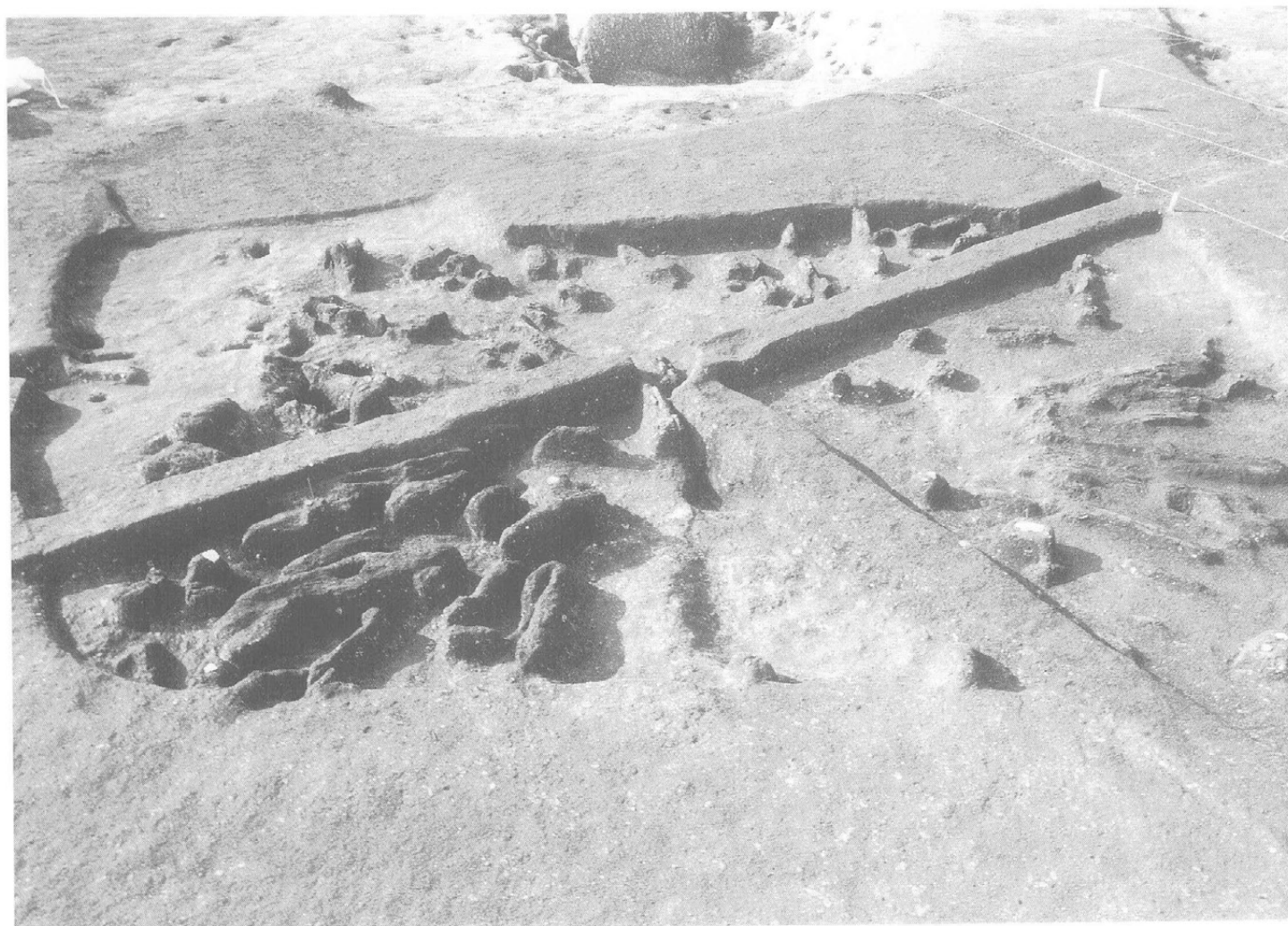
SA 3



SA 4



SA 5



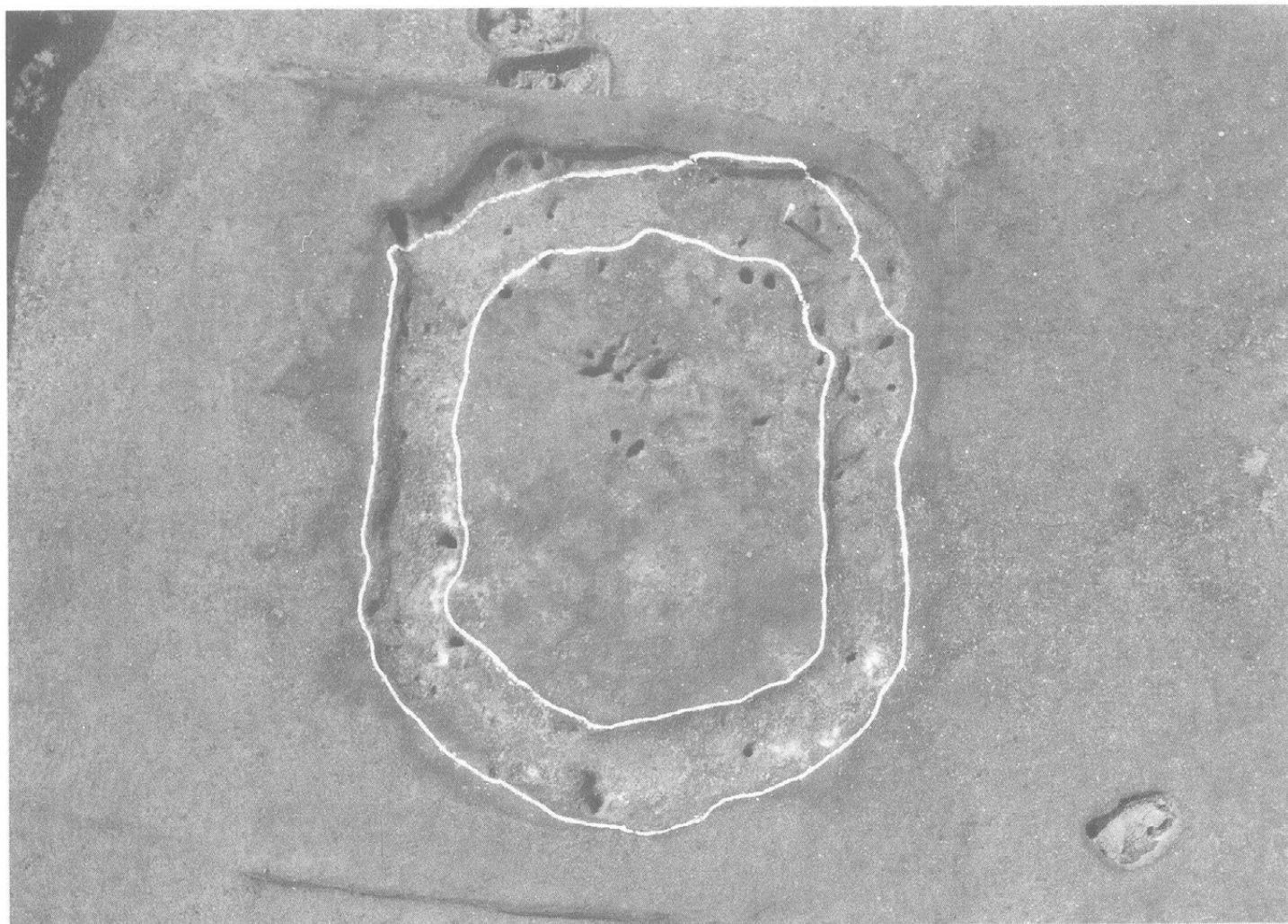
SA 6 炭化材出土状況



SA 6



SA 4 · SA 5 · SA 7 付近



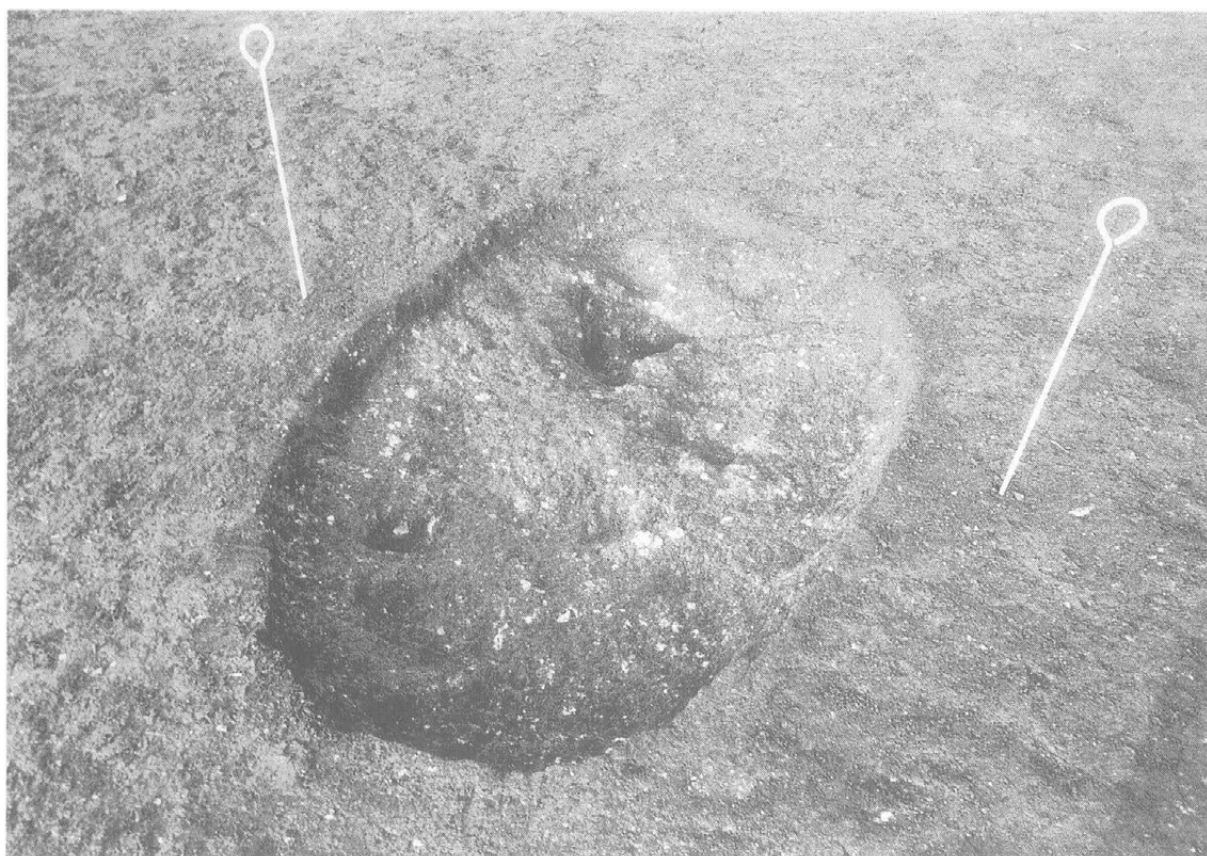
SL 1



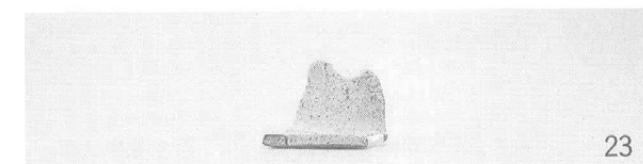
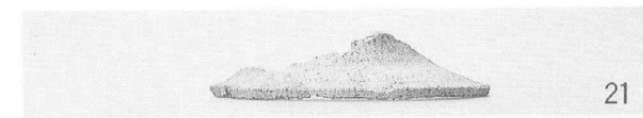
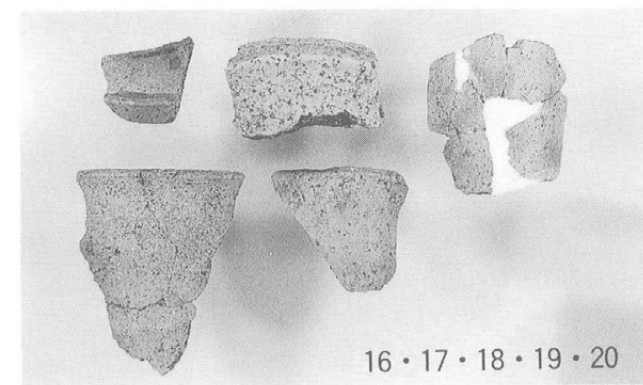
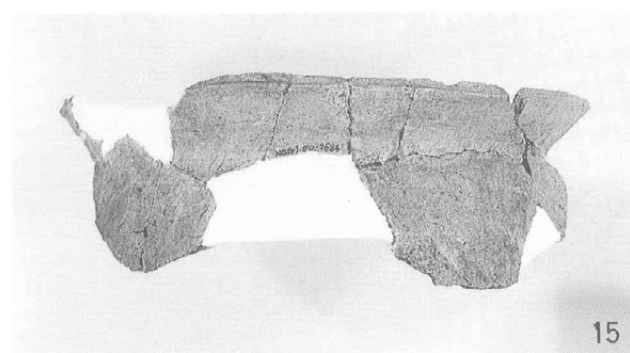
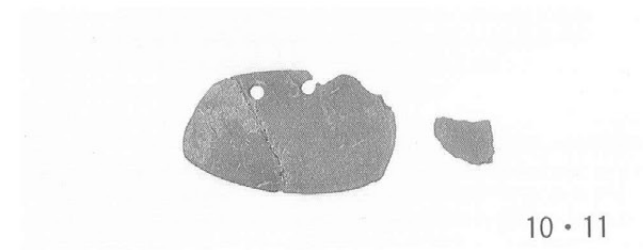
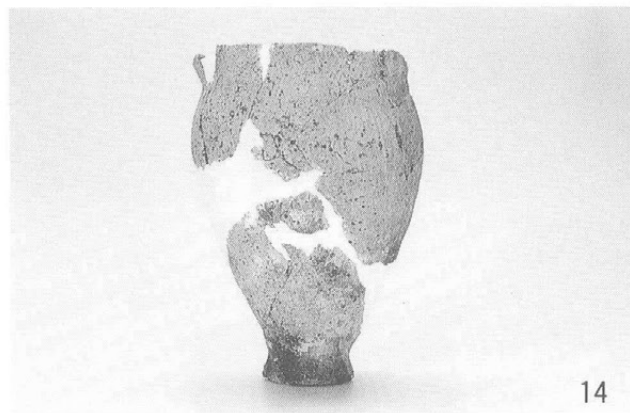
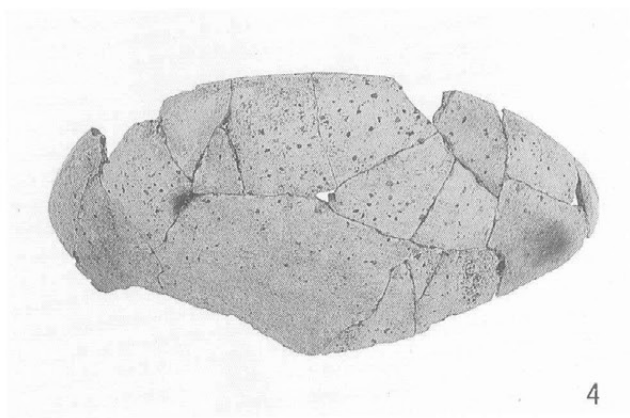
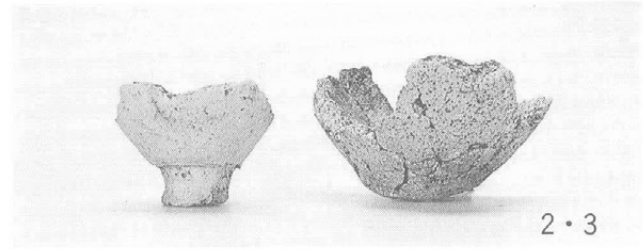
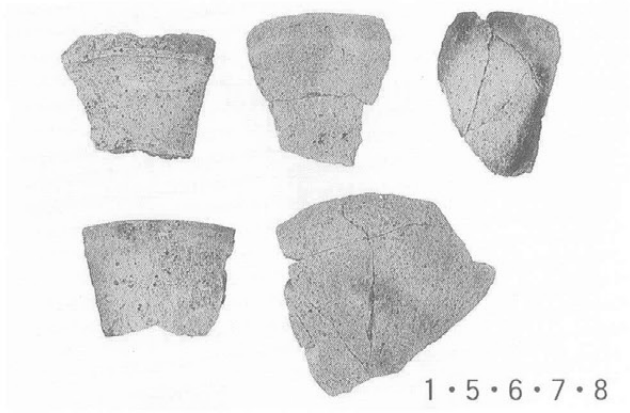
SA 1 · SL 2 · SA 4 · SA 6 · SL 3 · SB 1 付近



SA 6・SB 2 付近

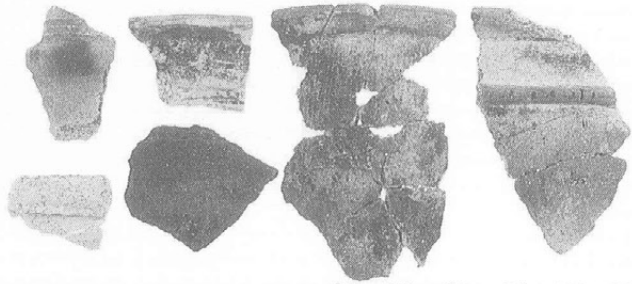


SC 2



中大五郎第1遺跡出土遺物(1)

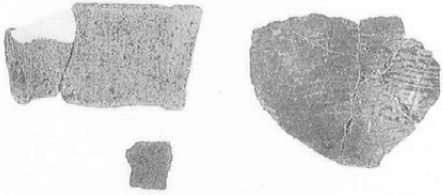
図版 8



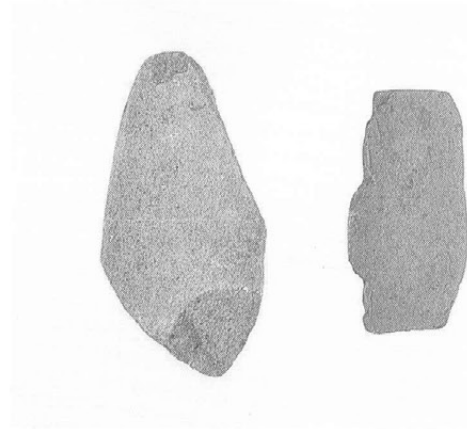
29・30・31・32・33・34



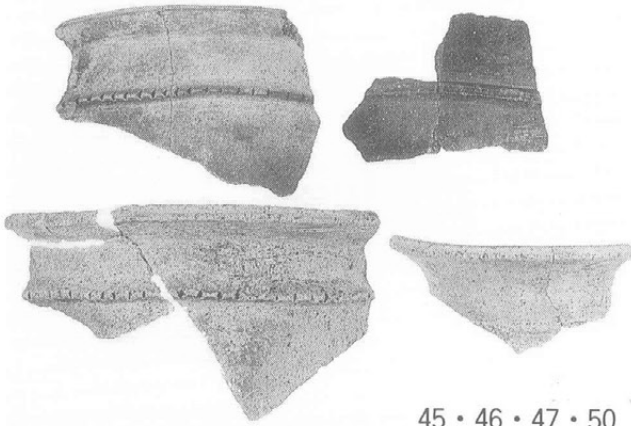
35



36・37・38



43・42



45・46・47・50



40・44・41



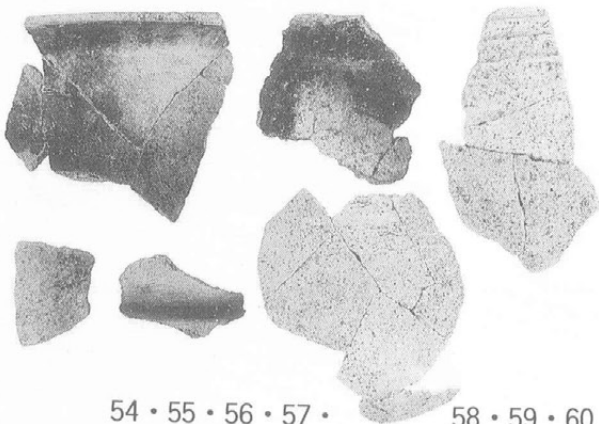
48・49



51



52



54・55・56・57・58・59・60

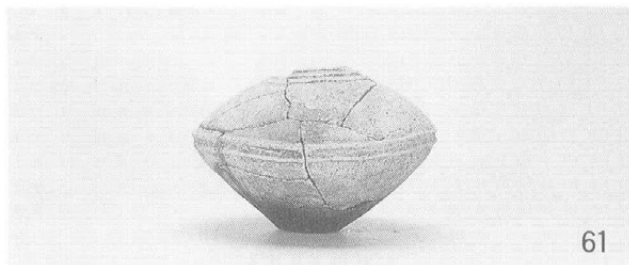


53

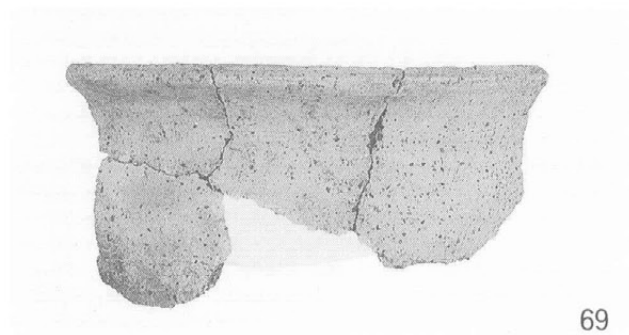
中大五郎第1遺跡出土遺物(2)



58



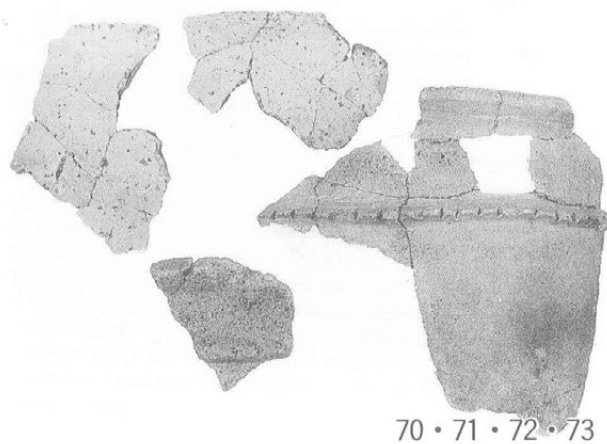
61



69



66・67・68



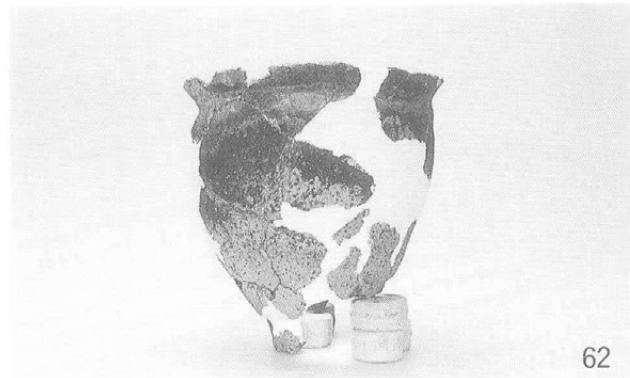
70・71・72・73



83



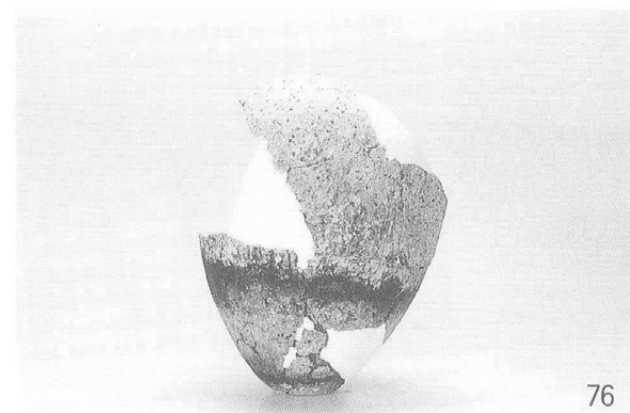
74



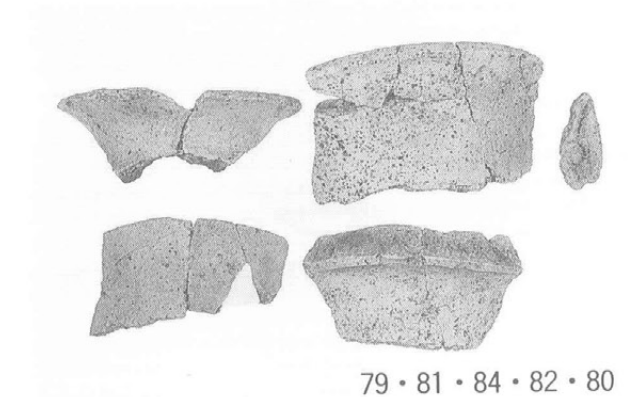
62



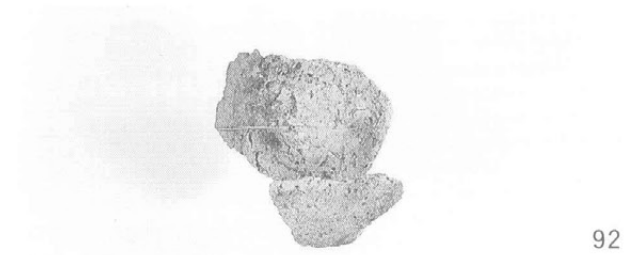
62



76



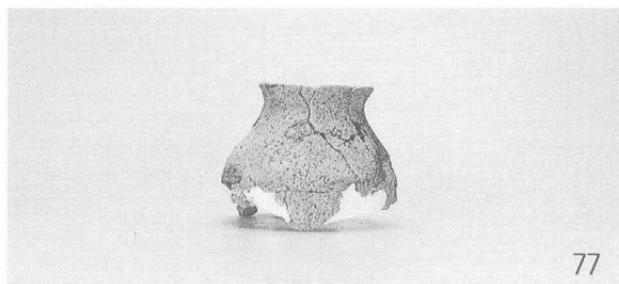
79・81・84・82・80



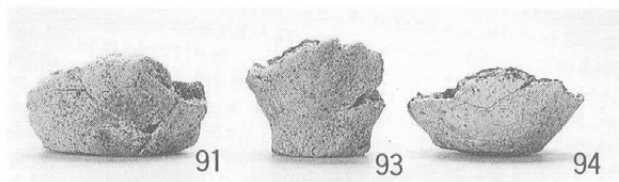
92

中大五郎第1遺跡出土遺物(3)

図版10



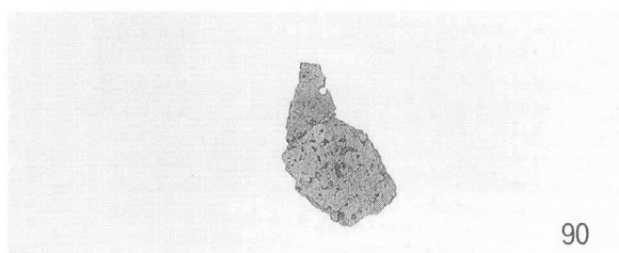
77



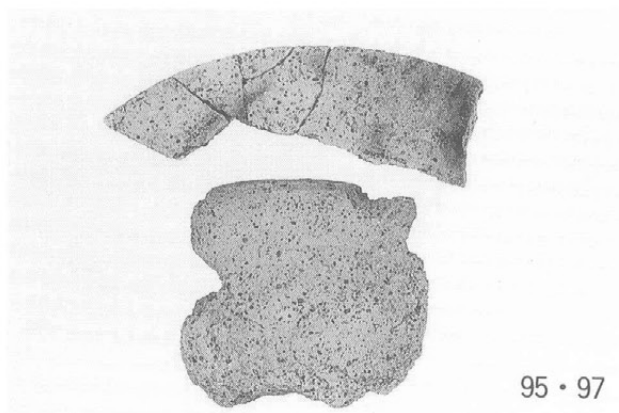
91

93

94



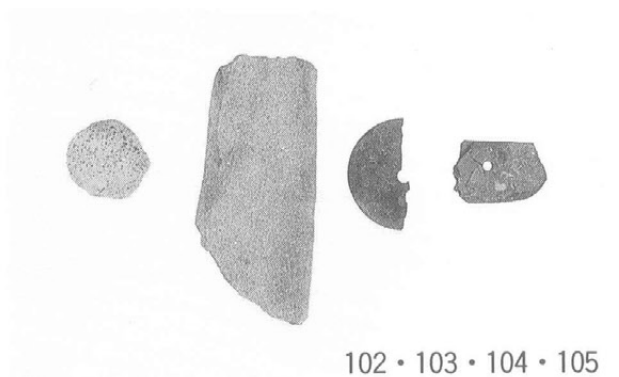
90



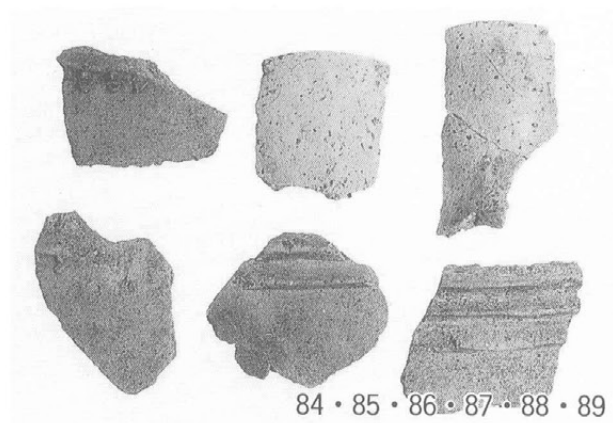
95・97



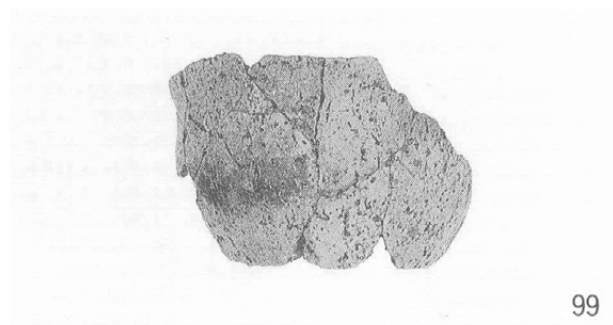
98



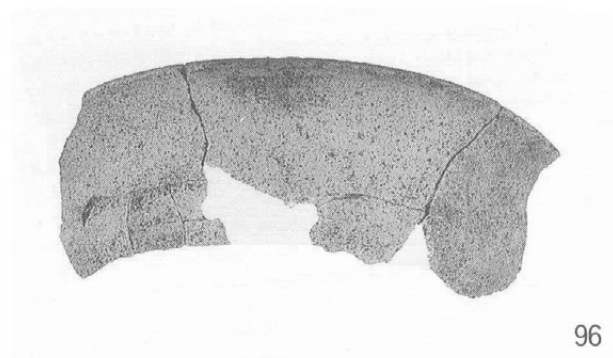
102・103・104・105



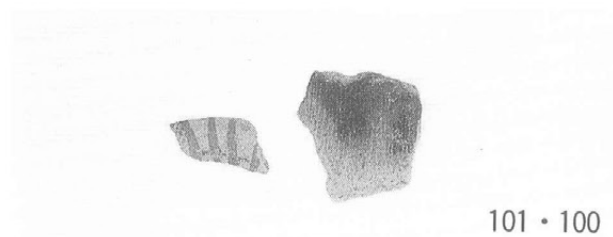
84・85・86・87・88・89



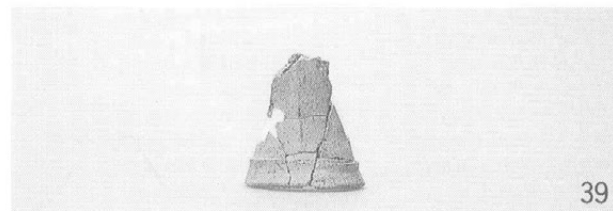
99



96



101・100



39

中大五郎第1遺跡出土遺物(4)

NAKADAIGOROU DAI 2

中大五郎第 2 遺跡

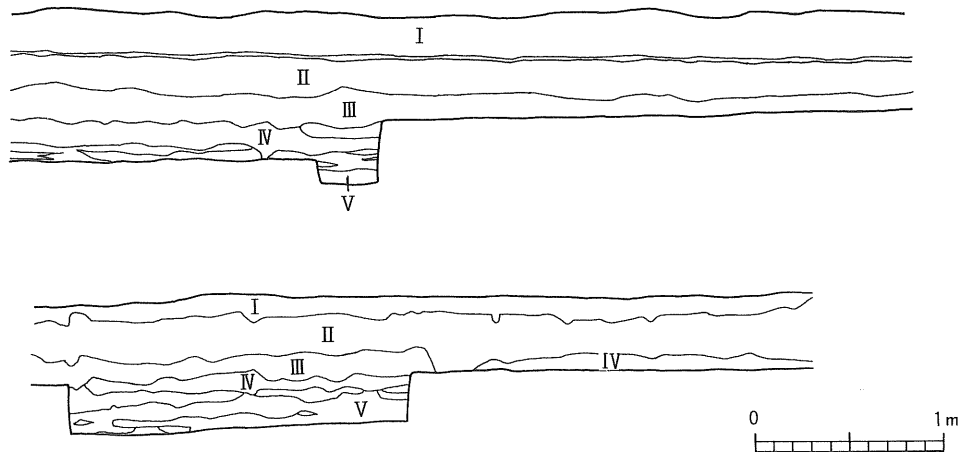
第3章 中大五郎第2遺跡の調査

第1節 調査区の設定と概要

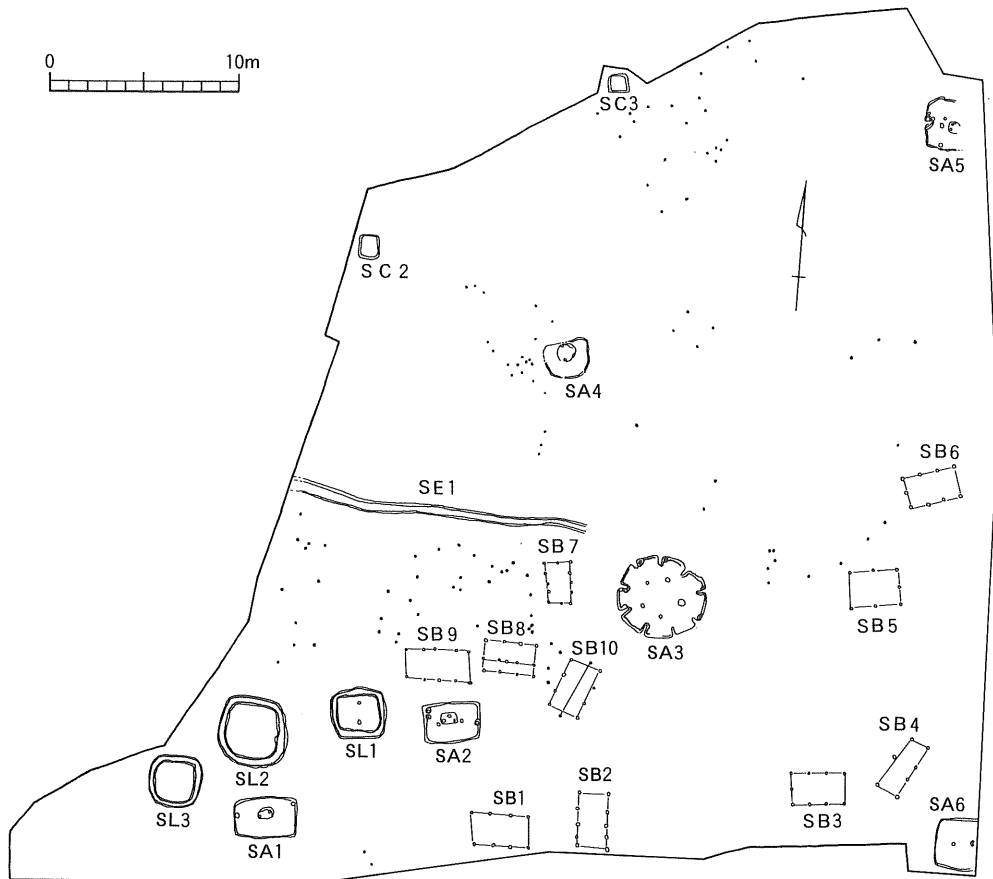
中大五郎第2遺跡は、第1遺跡の西側約50mの所に位置し、平成3年10月22日から平成4年2月2日まで調査を行なった。第2遺跡の調査面積は6000㎡で調査期間の関係から、御池ボラ直上まで重機で剥いで調査を行なった。調査方法はグリッド法で行ない、10mのメッシュに区画した。その結果検出された遺構は、弥生時代の竪穴住居跡6軒・周溝状遺構3基・棟持ち型掘立柱建物1軒・土坑1基等である。弥生時代の竪穴住居は方形プランが主体であるがSA3は、円形の花弁状住居で掘り込みは他の遺構に比べ浅かった。SA5は、半分しか検出できていないが方形の花弁状住居と思われる。中近世の遺構は、掘立柱建物1軒・土坑1基などである。SC2は、SB8の敷地内にあり北方向に土師器の碗が並べられていることから土墳墓と考えられる。また、SB1～SB7・SB9は、時期を確定できる遺物等が検出できていないことから時期不明としたい。遺物は、全体的に広がってはいなくて遺構毎に集中部がみられた。

第2節 層序

本遺跡の基本層序は、I層が耕作土で乾燥すると白っぽくなる。I層の厚さは、平均40cm程度である。II層が黒色土層で御池ボラが少量交じり粒が細かくパサパサしている。II層の厚さは平均30cm程度で遺物包含層である。III層が黒褐色土層で御池ボラの含有率が高く粒が多少粗くなっている。III層の厚さは40cm程度である。この層になると遺物の破片も大きいものがみられるようになる。IV層は褐色土層でボラの含有率が非常に高くなっている。IV層の厚さは20cm程度である。中大五郎第2遺跡の掘立柱建物以外の遺構はほとんどこの面で検出している。V層は御池ボラ層である。



第28図 中大五郎 第2遺跡土層図



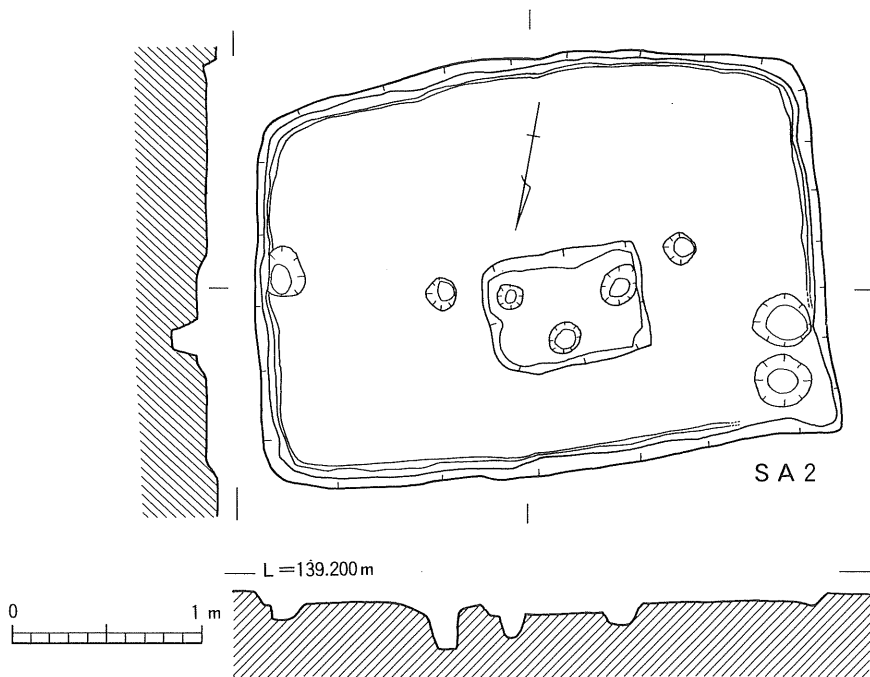
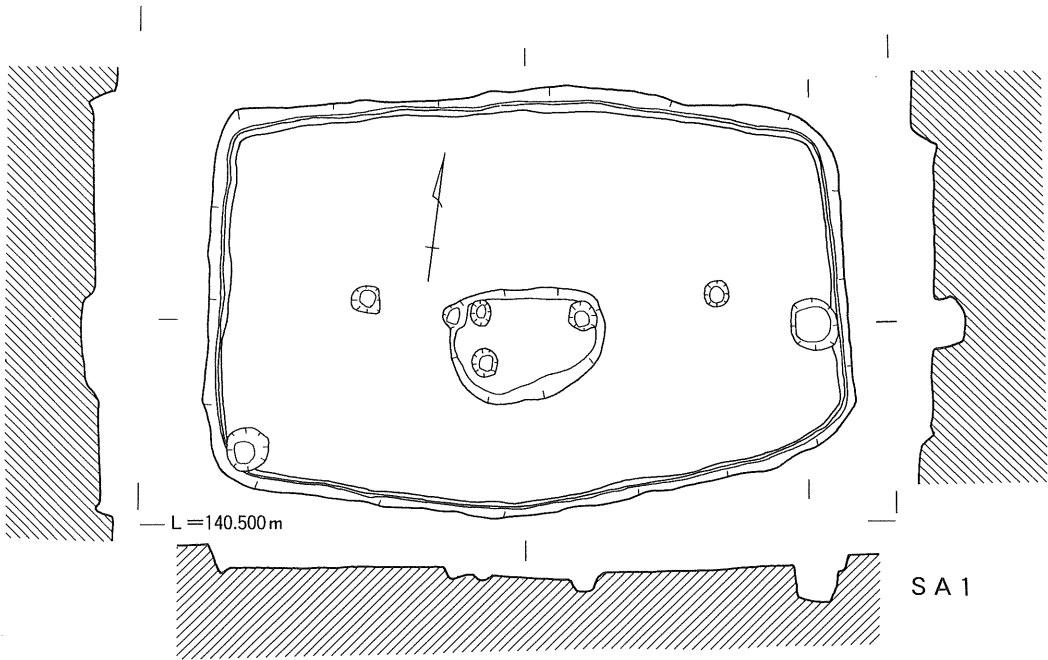
第29図 中大五郎第2遺跡遺構分布図

第3節 弥生時代の遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

SA1

SA1は、長軸6.8m×短軸4.5m・深さ28cmの長方形型の方形プランで支柱穴は、2本柱である。P1は、長軸35cm×短軸34cm・深さ40cmでP2は、長軸30cm×短軸26cm・深さ37cmである。また、住居跡内土坑が5基あり、順に土1は、長軸46cm×短軸44cmで深さ34cmである。土2は、長軸25cm×短軸20cmで深さ6cmである。土3は、長軸30cm×短軸28cmで深さ37cmである。土4は、長軸32cm×短軸24cmで深さ15cmである。土5は、長軸52cm×短軸46cmで深さ31cmである。その外に壁面に壁帯溝がみられ幅12cm深さ35cmである。



第30図 中大五郎第2遺跡SA1・SA2実測図



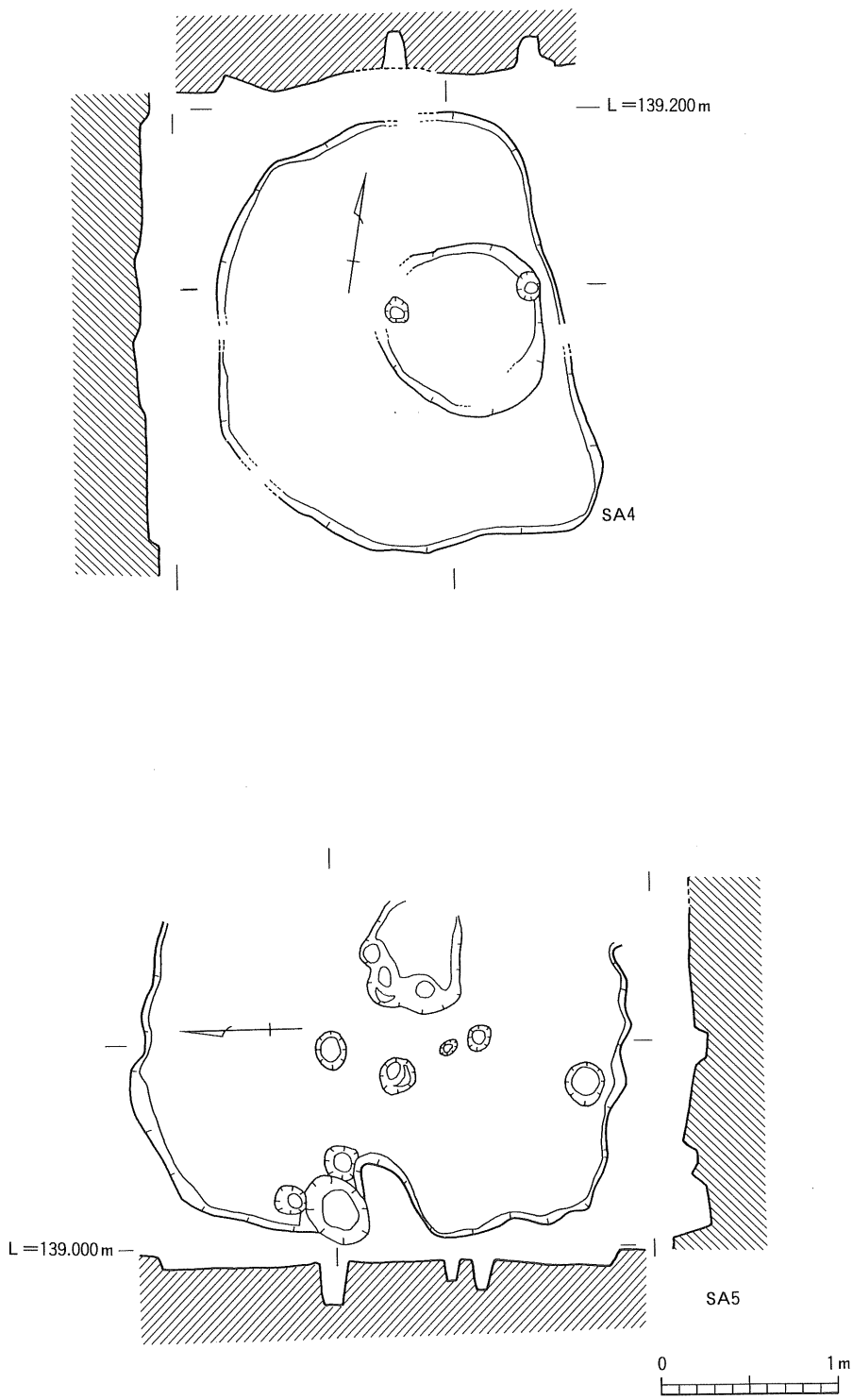
第31図 中大五郎第2遺跡 S A 3 実測図

S A 2

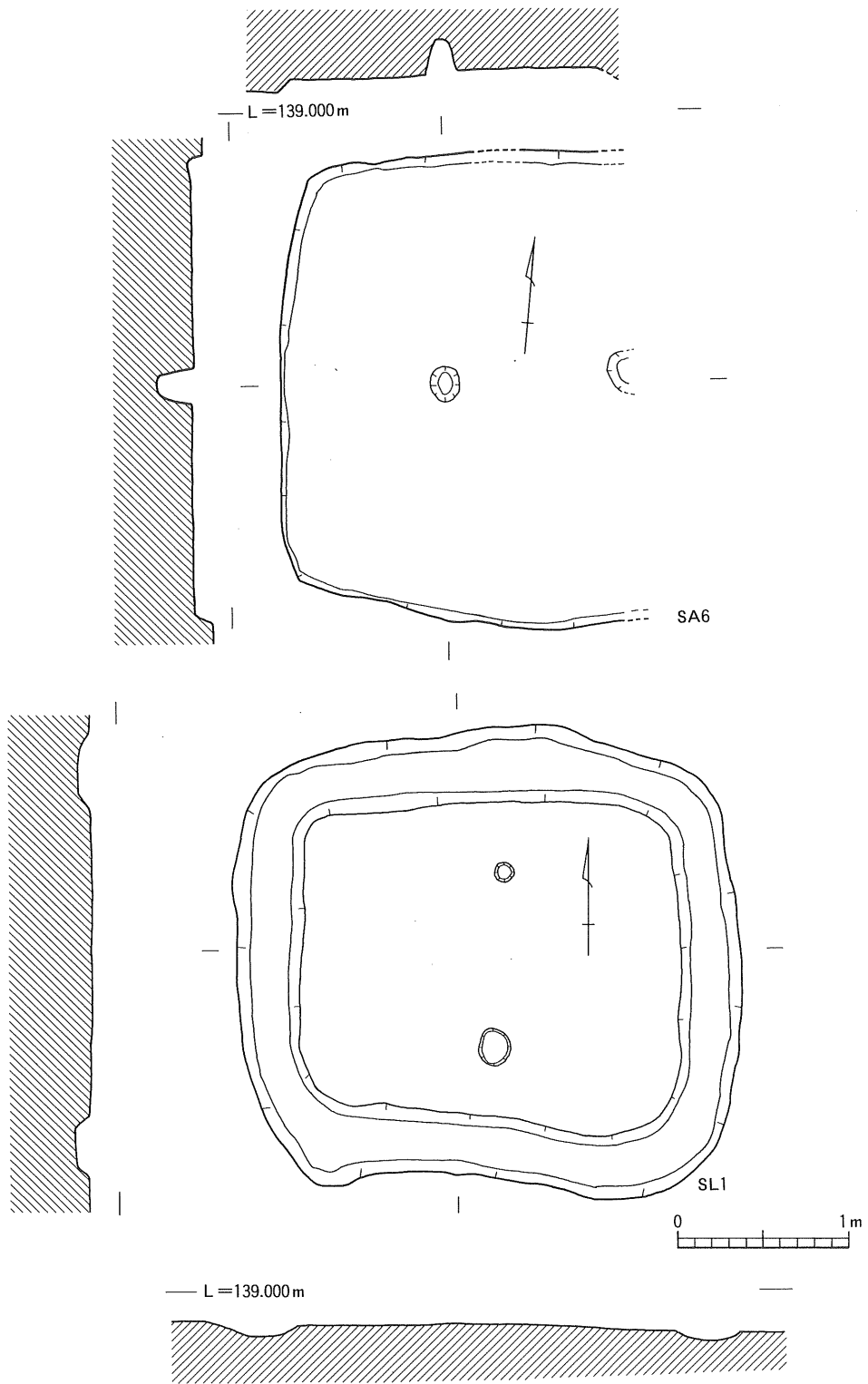
S A 2 は、長軸6.0m×短軸4.5m・深さ12.5cmの長方形プランで支柱穴は、2本柱である。P 1 は、長軸21cm×短軸19cm・深さ51cmである。P 2 は、長軸31cm×短軸29cmで深さは58cmである。住居跡内に土坑が6基ある。順に土1は、長軸50cm×短軸37cm・深さ18cmである。土2は、長軸53.5cm×短軸53cmで深さ19.5cmである。土3は、長軸39cm×短軸35cm・深さ15.5cmである。土4は、長軸32cm×短軸30cm・深さ27cmである。土5は、長軸55cm×短軸53cm・深さ28cmである。土6は、長軸57cm×短軸52cm・深さ28cmである。その外に幅10cmで深さ3cmの浅い壁帯溝もみられる。

S A 3

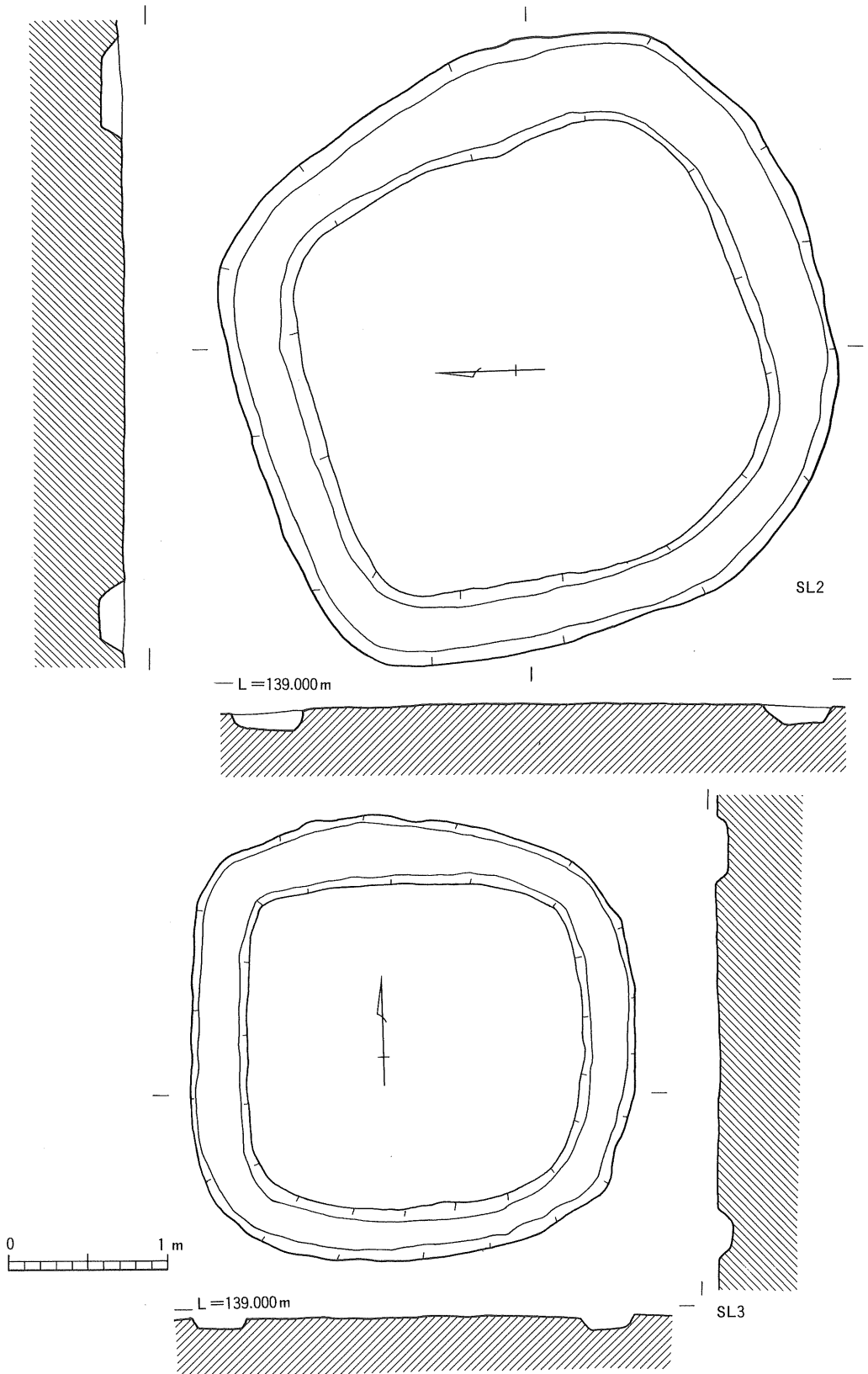
S A 3 は、長軸9.3m・短軸9m・深さ16cmの本遺跡唯一の円形花弁状住居跡である。検出面



第32図 中大五郎第2遺跡SA4・SA5実測図



第33図 中大五郎第2遺跡SA6・SL1実測図

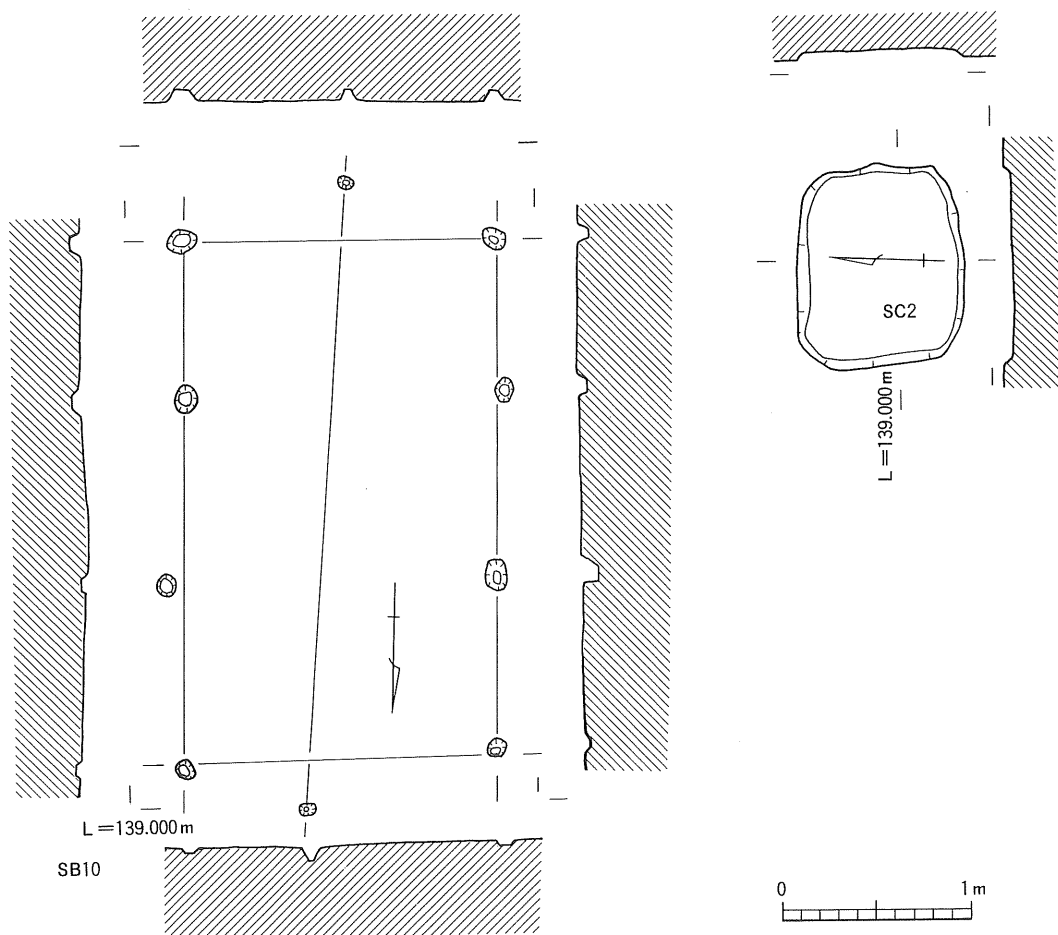


第34図 中大五郎第2遺跡SL2・SL3実測図

は黒色土の除去の段階では検出できず、御池ボラの強くなる基本土層の第Ⅲ層から検出できた。主柱穴は、5本柱で、P1は、長軸33cm×短軸31cmで深さ42.5cmである。P2は、長軸30cm×短軸28cm・深さは43.5cmである。P3は、長軸33cm×短軸30cm・深さは36.5cmである。P4は、長軸36cm×短軸34cm・深さは39cmである。P5は、長軸31cm×短軸27cm・深さ40.5cmである。この住居跡も住居跡内土坑をもっているが、住居の花弁の突出部分に全部で9基あった。土1は、長軸45cm×短軸44cm・深さ24.5cmである。土2は、長軸53.5cm×短軸52cm・深さ19.5cmである。土3は、長軸44cm×短軸38cm・深さ20.5cmである。土4は、長軸55cm×短軸53cm・深さ23cmである。土5は、長軸66cm×短軸53cm・深さ40.5cmである。土6は、長軸39cm×短軸36cm・深さ21.5cmである。土7は、長軸60cm×短軸56cm・深さ30.5cmである。土8は、長軸47cm×短軸34cm・深さ18cmである。土9は、長軸44cm×短軸40cm・深さ16cmである。その外に幅13cmで深さ5cmの浅い壁帯溝もみられる。

SA4

SA4は、長軸4.85m×短軸3.87m・深さ22cmの不整形プランで主柱穴は2本柱である。P1は、長軸26cm×短軸25cm・深さ44cmである。P2は、長軸30cm×短軸26cm・深さ41cmである。



第35図 中大五郎第2遺跡SB10・SC2実測図

他に中央土坑がみられる。この土坑は、長径1.96m×短径1.9m・深さ10cmとわりと浅い。壁帯溝等は検出されなかった。

SA5

SA5は、長軸5.45m×短軸3.80m・深さ13cmの方形の花弁状住居跡で主柱穴は、1本しか確認できなかった。P1は、長軸39cm×短軸37cm・深さ31cmである。また、住居跡内土坑を4基確認した。土1は、長軸77cm×短軸67cm・深さ44cmである。土2は、長軸47cm×短軸44cm・深さ18cmである。土3は、長軸29cm×短軸27cm・深さ14.5cmである。土4は、長軸38cm×短軸36cm・深さ14cmである。他に長軸1.4m×短軸1.21m・深さ12cmの中央土坑がある。壁帯溝等は検出できていない。

SA6

SA6は、長軸5.5m×短軸4mの隅丸方形プランで、調査区外にかかる部分があるために一部分しかできなかった。主柱穴は2本柱で、P1は、長軸41cm×短軸33cmで深さは42cmである。P2は、長軸40cm×短軸33cmで深さは9cmある。ほかに幅12cmで深さ6cmの壁帯溝がある。

2. 周溝状遺構

SL1

SL1は、長軸5.85m×短軸5.28mの方形プランで、周溝は、幅が70cmで深さは51cmである。周溝に囲まれたところに2つの柱穴部分があるが掘り込み等は、検出できなかった。したがって、周溝墓ではないと思われる。出土土器が他の周溝状遺構より多く、その多くは周溝の東側部分に集中していた。

SL2

SL2は、長軸7.70m×短軸7.60mの方形プランで周溝は幅130cm・深さ18.9cmである。SL2は遺構の東側部分に遺物が集中してみられ二重口縁の櫛描波状紋や高坏・甕等が出土している。

SL3

SL3は、長軸5.55m×短軸5.60mの方形プランで周溝は、幅66cmで深さは12.4cmである。他の2基に比べ遺物の数が少なかった。

3. 棟持ち型掘立柱建物

SB10

SB10は、棟持ち型の掘立柱建物でP1が直径23cmで深さ6cmである。P2は、長軸32cm・短軸30cmで深さ15cmである。P3は、長軸30cm・短軸26cmで深さ10cmである。P4は、長軸29cm・短軸28cmで深さ13cmである。P5は、長軸16cm・短軸15cmで深さ10cmである。P6は、長軸33cm・短軸31cmで深さ10.5cmである。P7は、長軸32cm・短軸29cmで深さ10.5cmである。P8は、直径26cmで深さが12cmである。

SC2

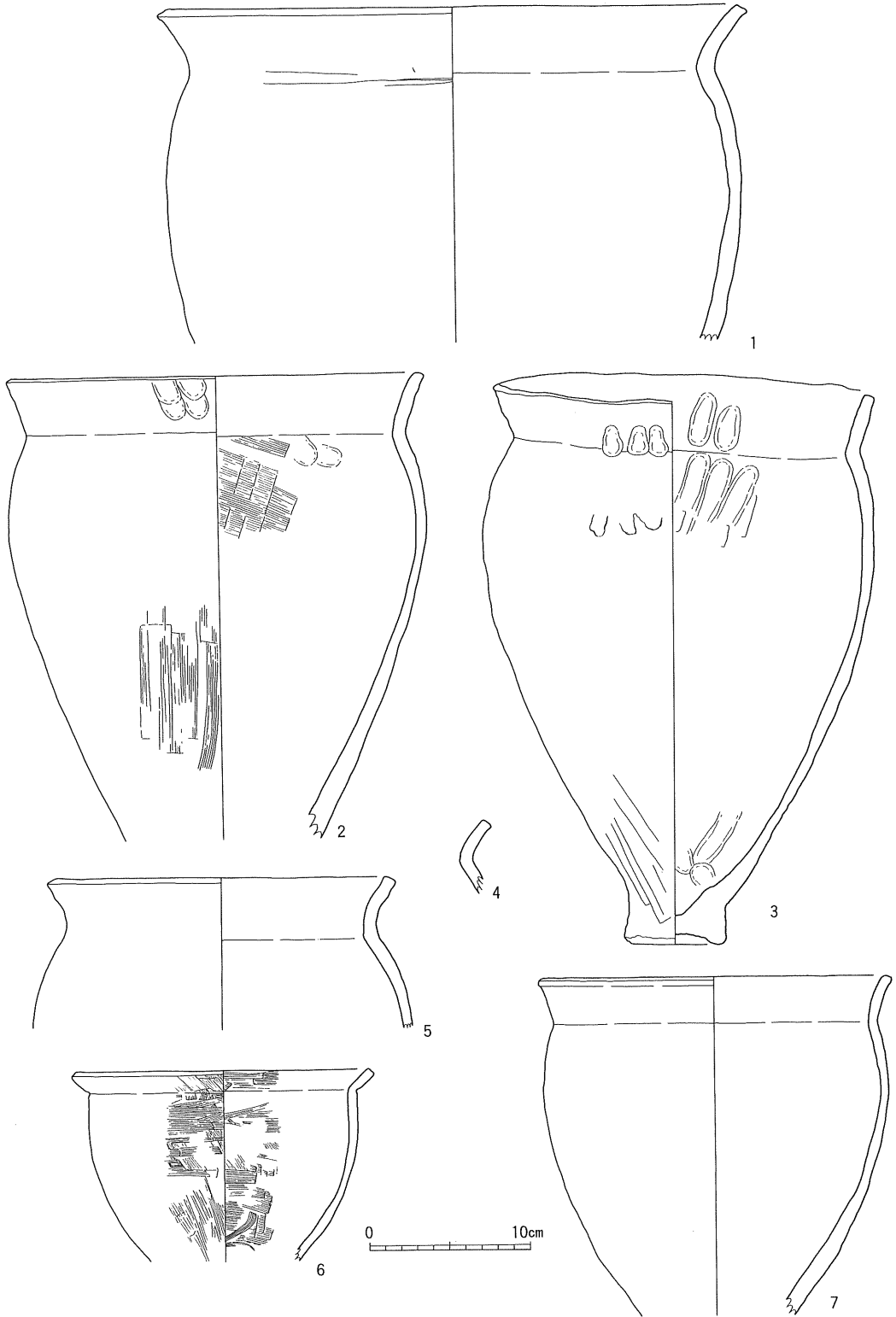
SC2は、方形のプランでとても浅く深さは、10cm程度である。

4. 弥生時代の遺物

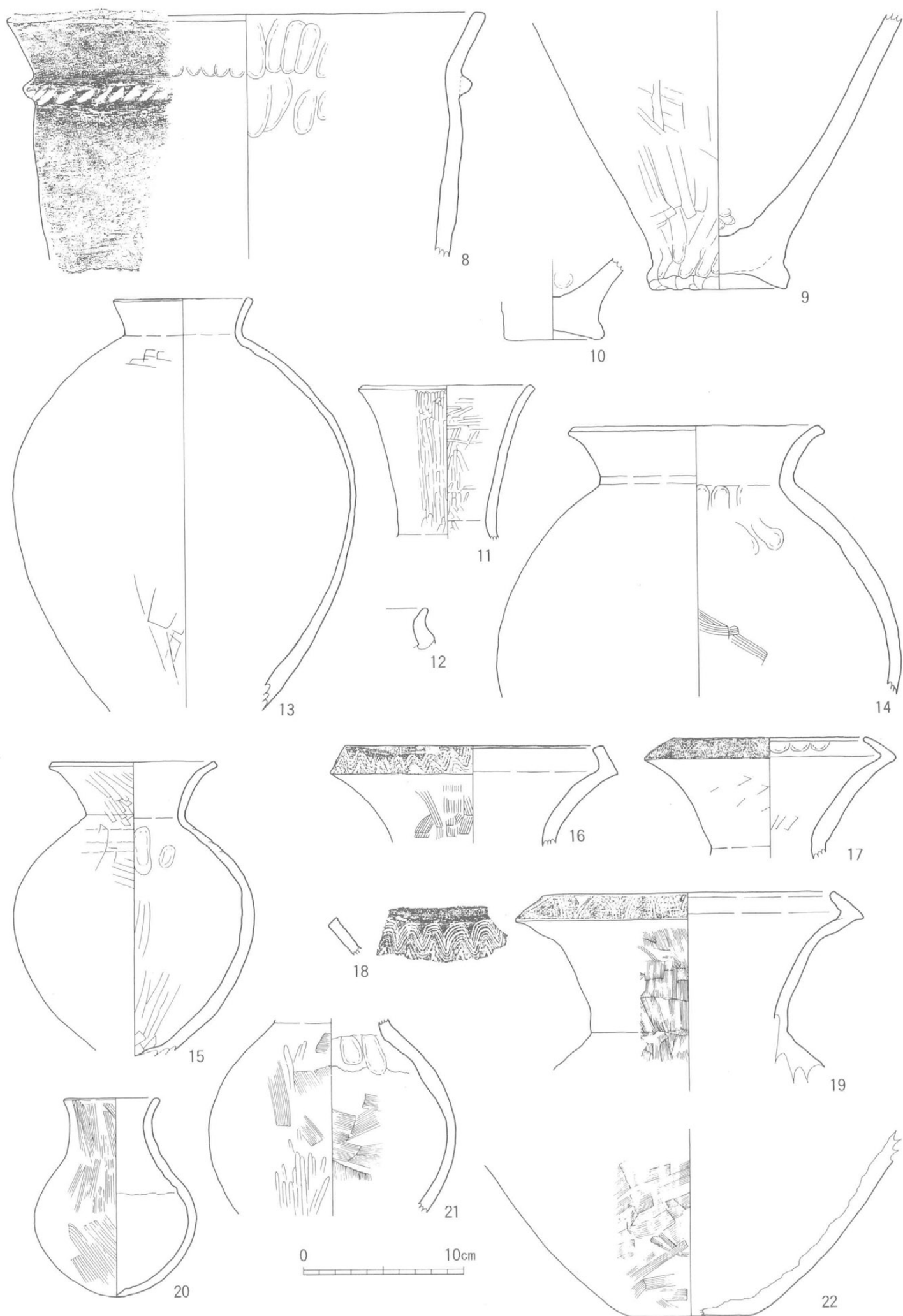
SA1出土の遺物

甕（1～10）

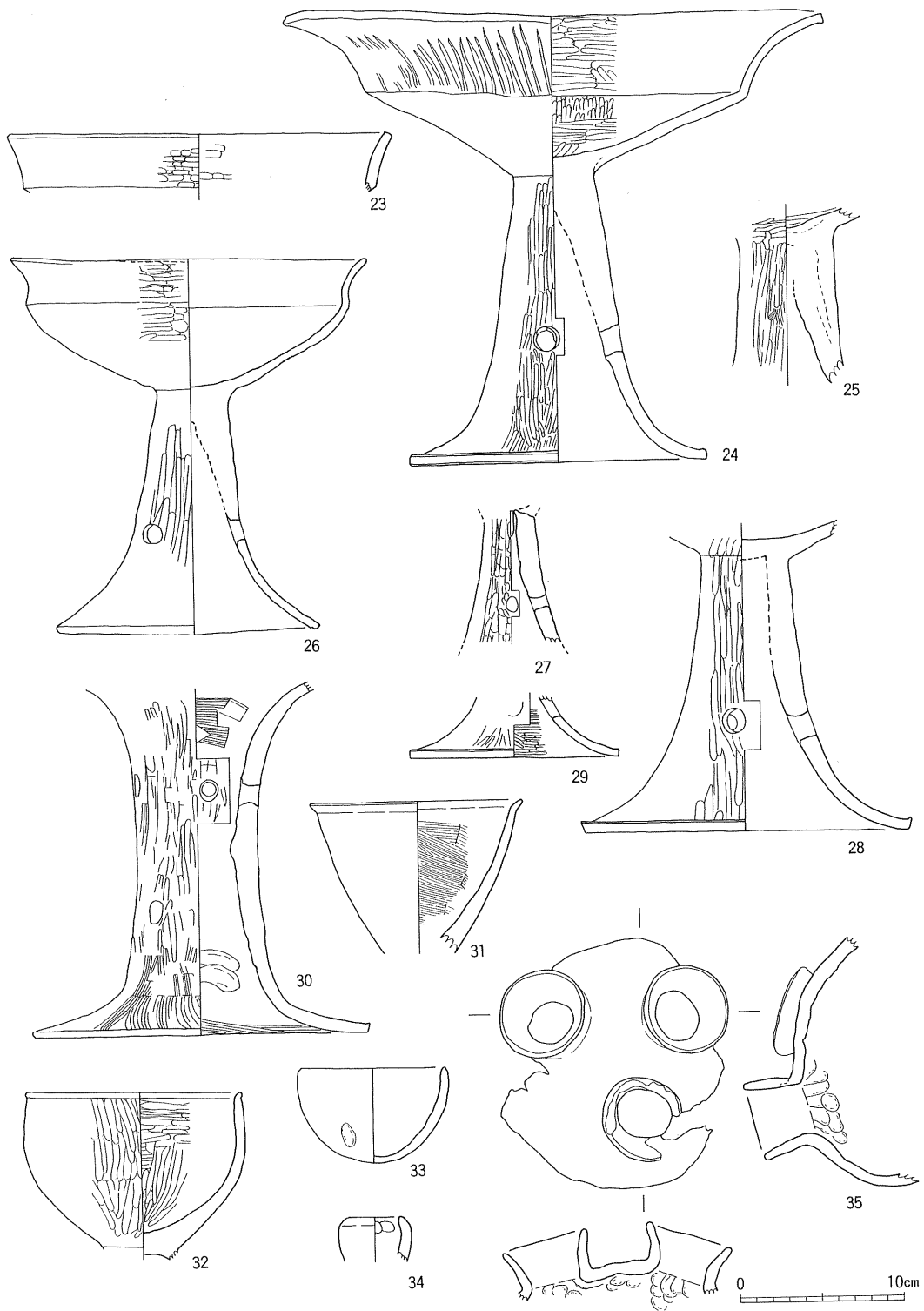
1は口径が35.5cmで、口縁部が短く緩やかに外反し口唇部は下方に摘み出している。外面は、ナデと横ナデ調整が施してあり、内面はナデ調整である。色調は、黄橙である。胎土は、4mm大の褐色粒で3mm以下の灰・黒・乳白色・半透明の砂粒を含んでいる。また、外面に煤が付着している。2は、口縁部が直線的に斜め方向に外反し、口唇部は平坦気味にしあげているものである。口径は、24.8cmである。外面は横ナデ・ナデ・指押さえ・縦方向のハケ目の調整がみられ、内面に縦・横方向のナデ・指押さえ・斜め方向のハケ目がみられる。外面の色調は浅黄橙とにぶい黄橙とにぶい橙である。内面はにぶい黄橙と褐色灰である。胎土は、5mm以下の黄色粒・4.5mm以下の褐色粒・3mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の半透明の黒色等光沢粒・乳白色の粒を含んでいる。外面に煤が付着して内面に炭化物が付着している。3は、完形品で口縁部から口唇部にかけては、2に近いもので口径は、22.8cm・器高35.6cmで、調整は、外面に横ナデやナデが施され、内面にナデや指ナデが施されている。色調は外面がにぶい橙やにぶい褐である。内面が浅黄橙と灰黄褐である。6mm以下の褐色粒・4mm以下の赤褐灰・白色・半透明光沢粒・3.5mm以下の黒色光沢粒・3mm以下の黄色粒を含む。なお底部は、上げ底である。4は、口縁部の形状は1に近い。外面はナデ調整で内面は横ナデ調整である。色調は内外面とも橙である。胎土は、3mm以下の灰色・赤褐色粒・0.5mm以下の半透明光沢粒・淡黄色粒を含んでいる。5は、甕で口径は、20.3cmである。調整は外面にナデ調整で内面に横ナデ調整がみられる。色調は、外面はにぶい橙で内面はにぶい黄橙である。胎土は3mm以下の赤褐色・黒・灰白色の砂粒を含む。6は、甕で口径は18.2cmで調整は外面に横ナデ・斜め方向のハケ目・斜め方向のハケ目の後横方向のハケ目を施している。内面が横・斜め方向のハケ目が施してある。色調は外面が赤橙で内面は橙である。胎土は5mm大の灰褐・茶色粒・1.5mm以下の乳白色・茶色の砂粒・3mm大の半透明の光沢粒を含んでいる。また、外面に一部煤がついている。7は、甕で口径は21.2cmで調整は、横・斜め方向のナデで内面に横・縦・斜め方向のナデがみられる。色調は内外面とも橙で胎土は4～7mmの暗褐色粒・3mm以下の灰色・黒・暗褐色・半透明の光沢粒を含んでいる。8は甕の口縁部から胴部で頸部に刻目突帯を持っている。口径は28.8cmで外面の調整は横ナデと縦・横方向の指ナデを施している。内面は斜め・横方向の指ナデと指押さえの後、斜め方向の指ナデが施されている。色調は外面が浅黄橙で内面が淡橙である。7～4mmの灰・褐色粒を多く含み、3mm以下の灰白・灰・褐色・半透明の砂粒、黒い光沢粒も含んでいる。9は、上げ底の底部で底径は8.5cmで調整は外面が斜め方向のナデの後縦方向の工具ナデと指ナデとナデが施してある。内面は斜め・横方向の指ナデと指押さえの後斜め方向の指ナデが施してある。色調は、外面が橙と浅黄橙で内面が浅黄橙である。4mm大の灰白色粒・3mm以下の褐・灰白・黒・赤褐色の砂粒、黒色の光沢粒を含む。10は、甕の底部で底径は6.05cmである。調整は外面に縦方向のナデが施され内面はナデと指押さえが施してある。色調は内外面とも浅黄橙である。4mm大の褐灰・褐色粒・3mm以下の茶・灰白・灰色・半透明の砂粒・透明の光沢粒を



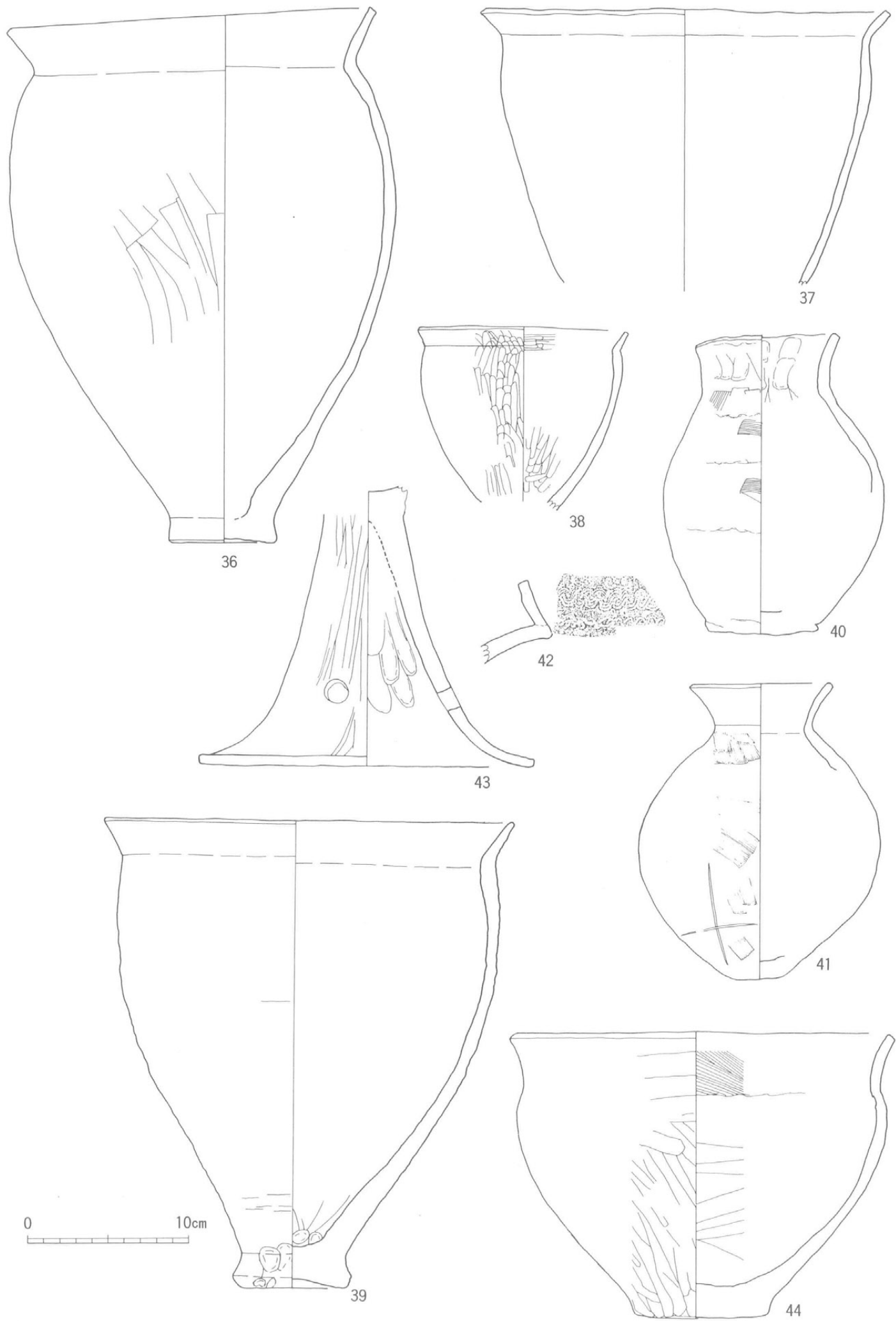
第36図 中大五郎第2遺跡S A 1出土土器実測図(1)



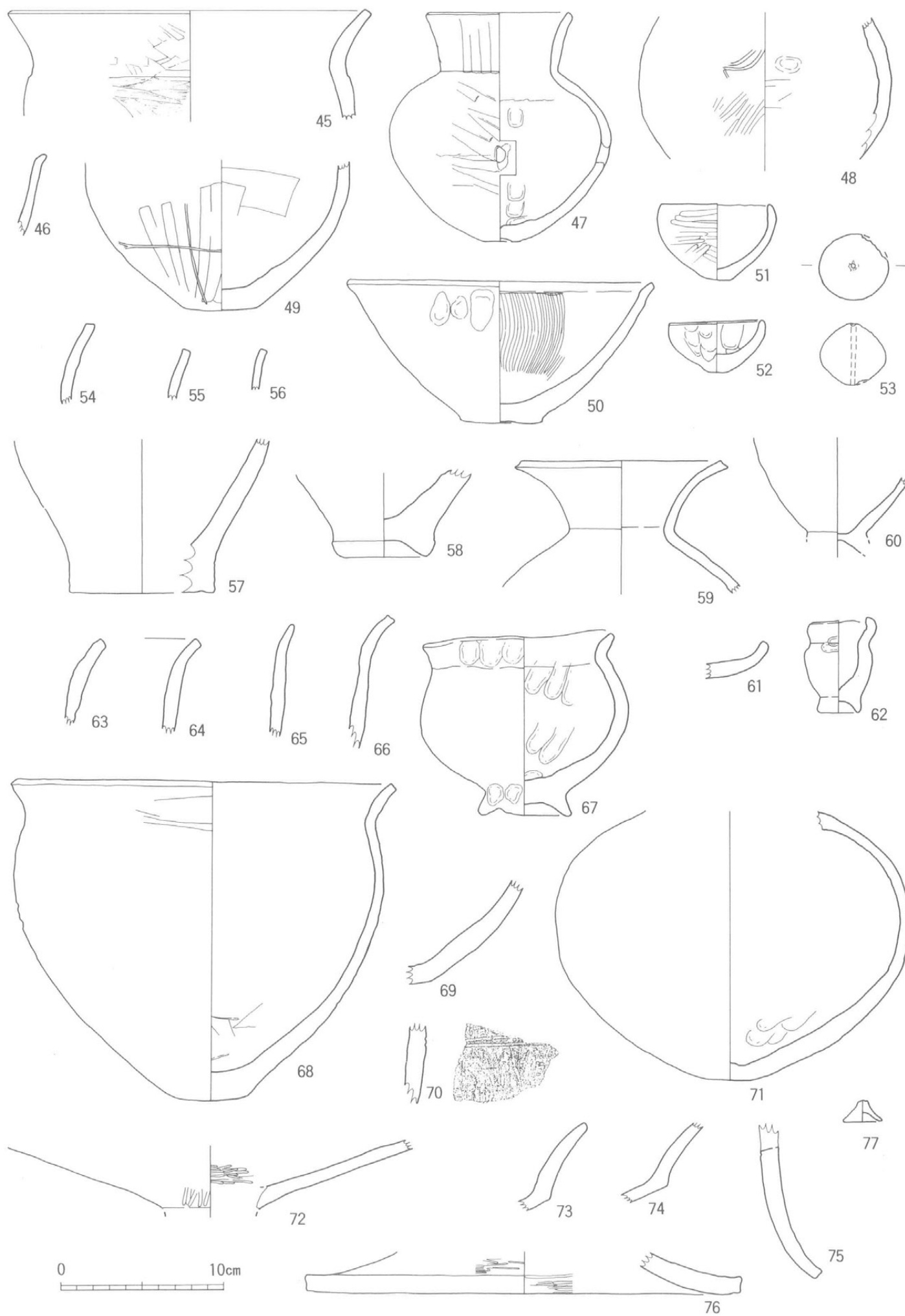
第37図 中大五郎第2遺跡SA1出土土器実測図(2)



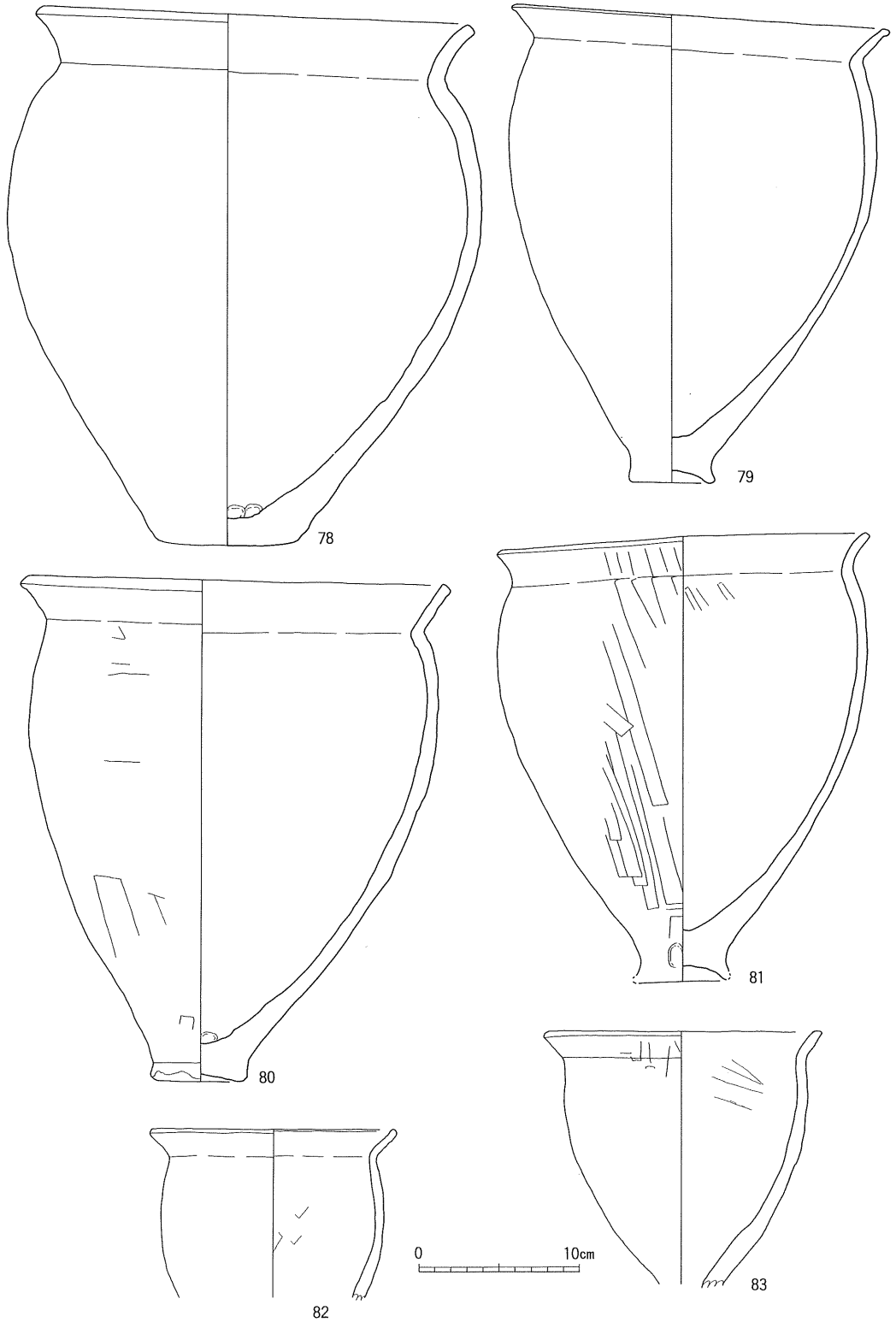
第38図 中大五郎第2遺跡SA1出土遺物実測図(3)



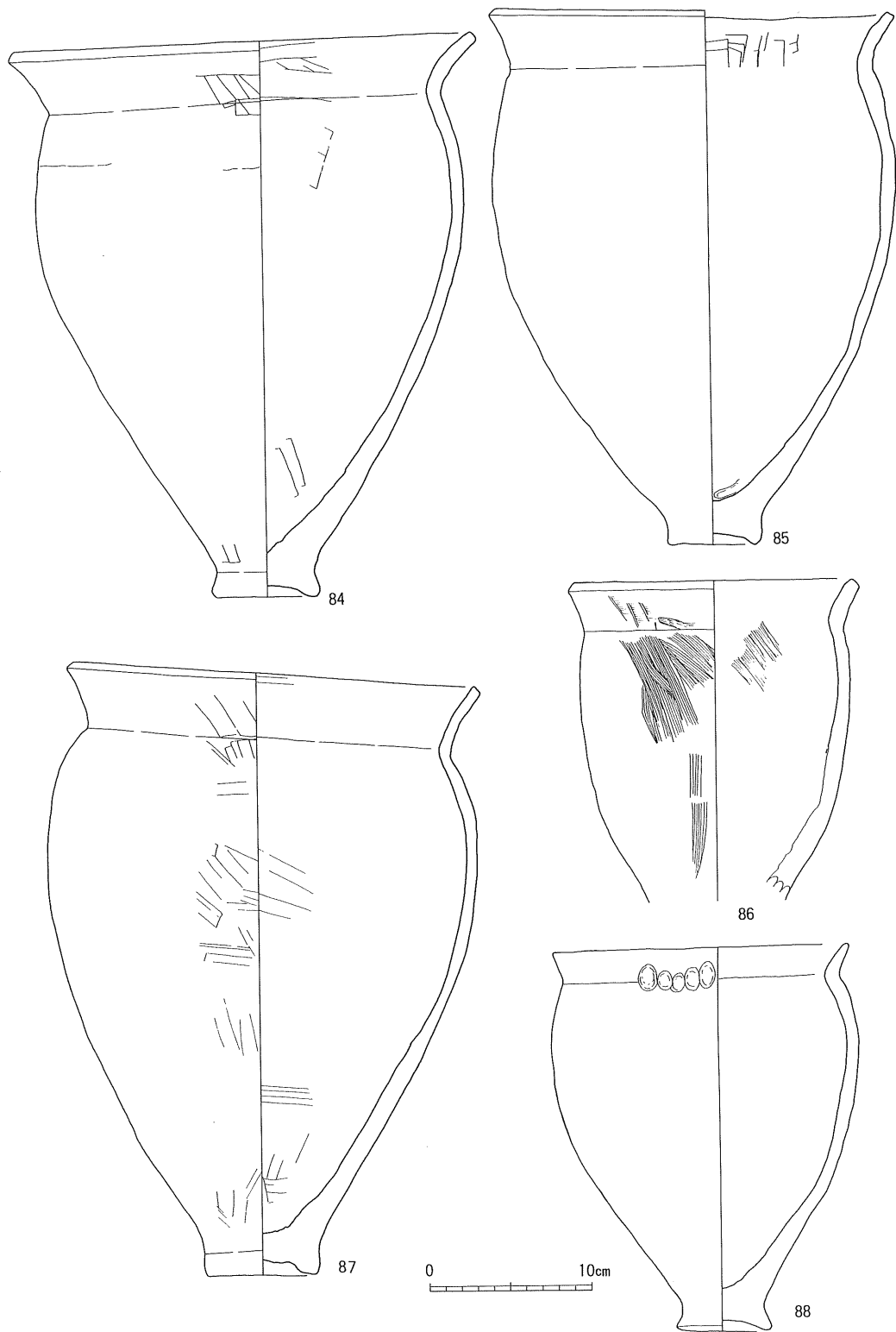
第39図 中大五郎第2遺跡SA2出土土器実測図



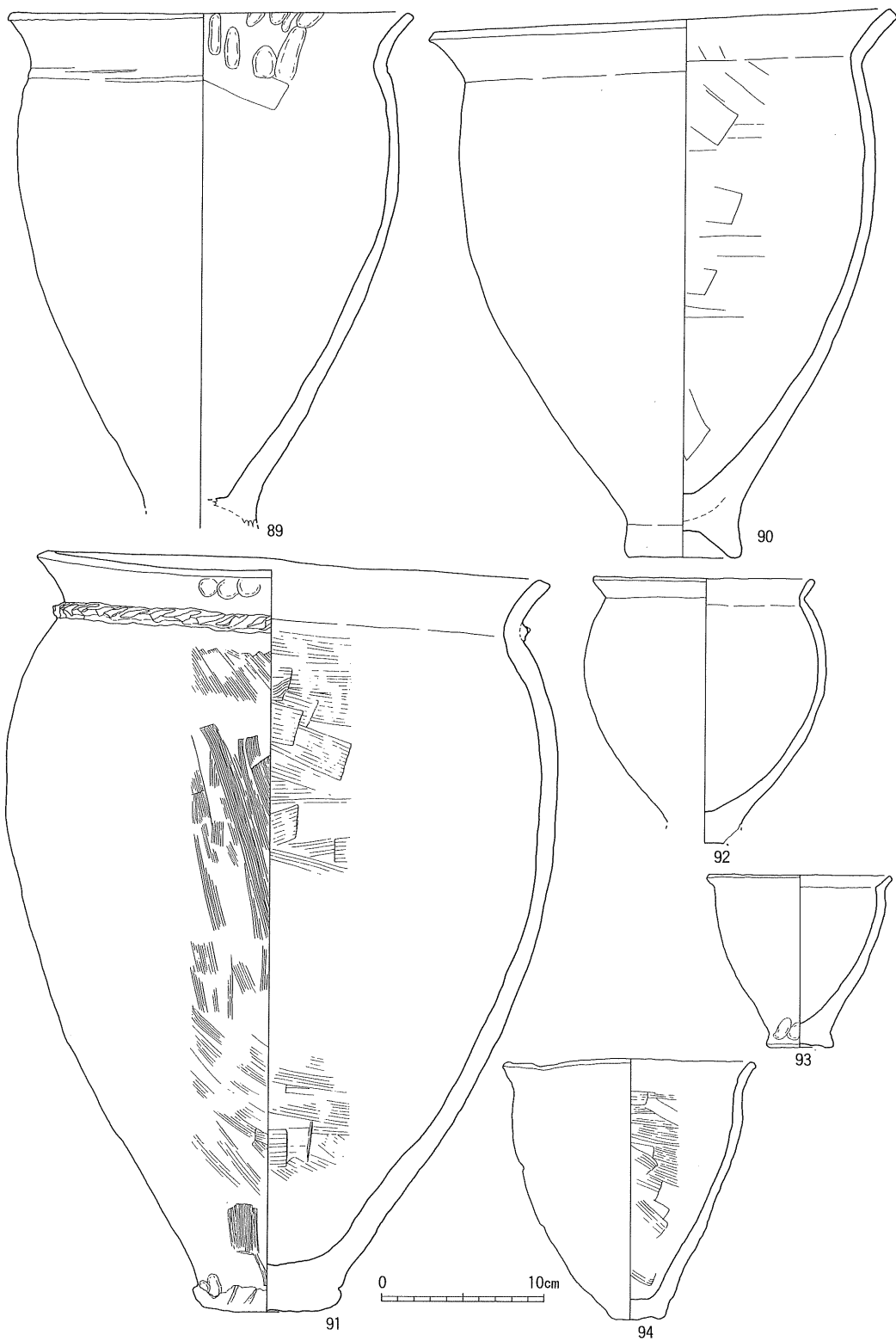
第40図 中大五郎第2遺跡S A 2～S A 6出土土器実測図



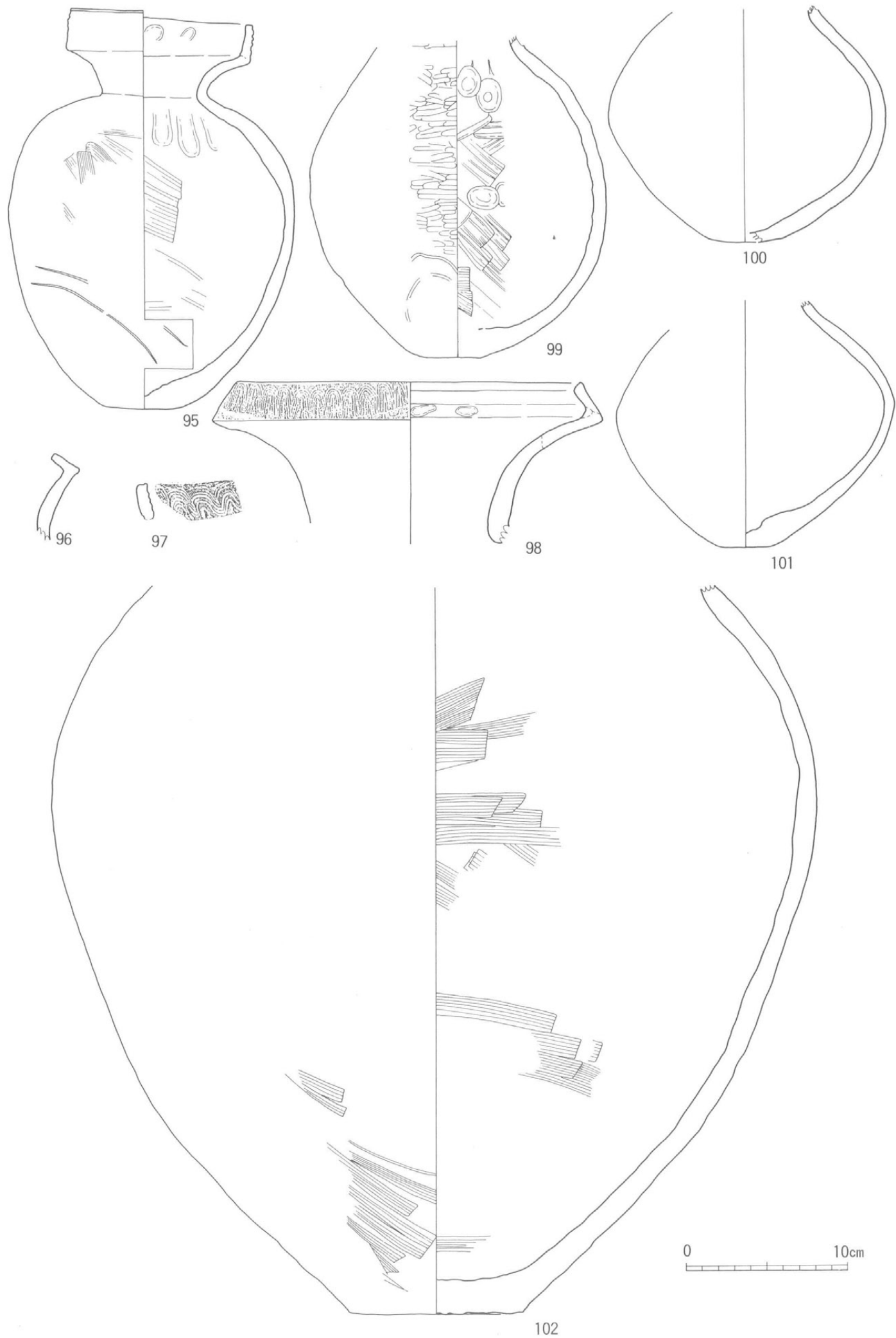
第41図 中大五郎第2遺跡S L 1 出土土器実測図 (1)



第42図 中大五郎第2遺跡 S L 1 出土土器実測図 (2)



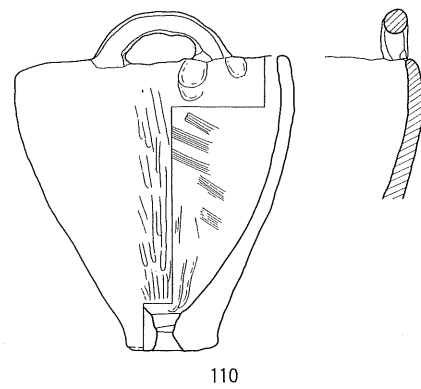
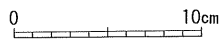
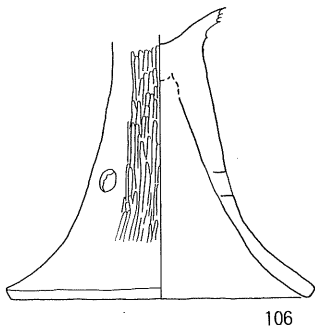
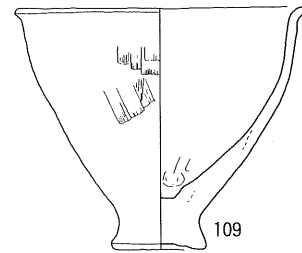
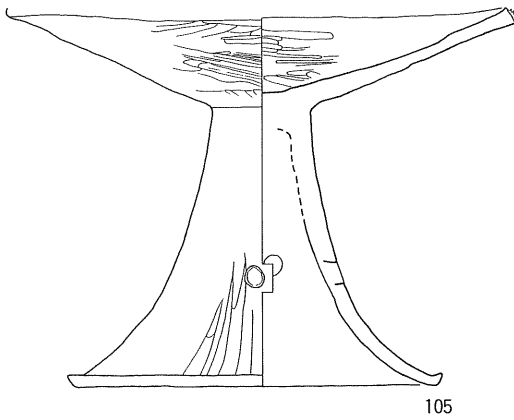
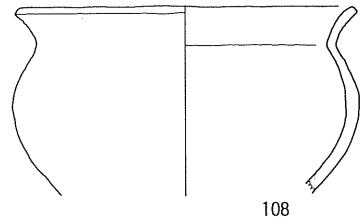
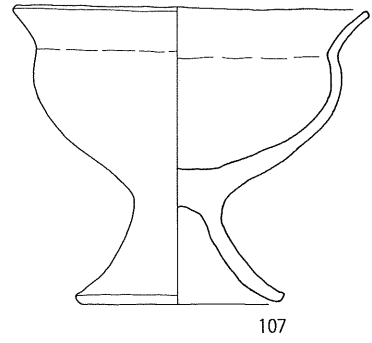
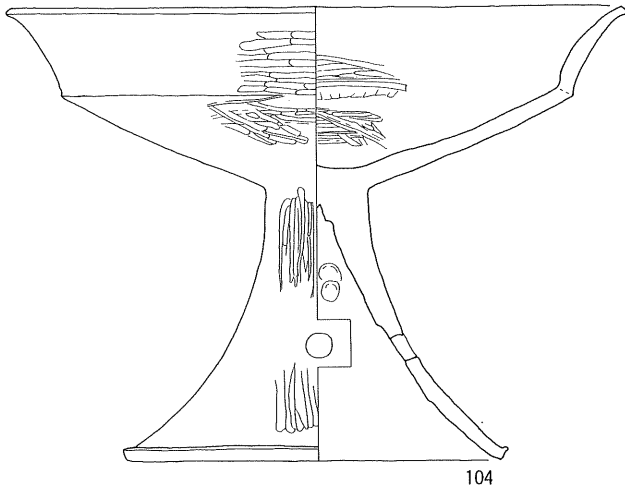
第43図 中大五郎第2遺跡S L 1出土土器実測図(3)



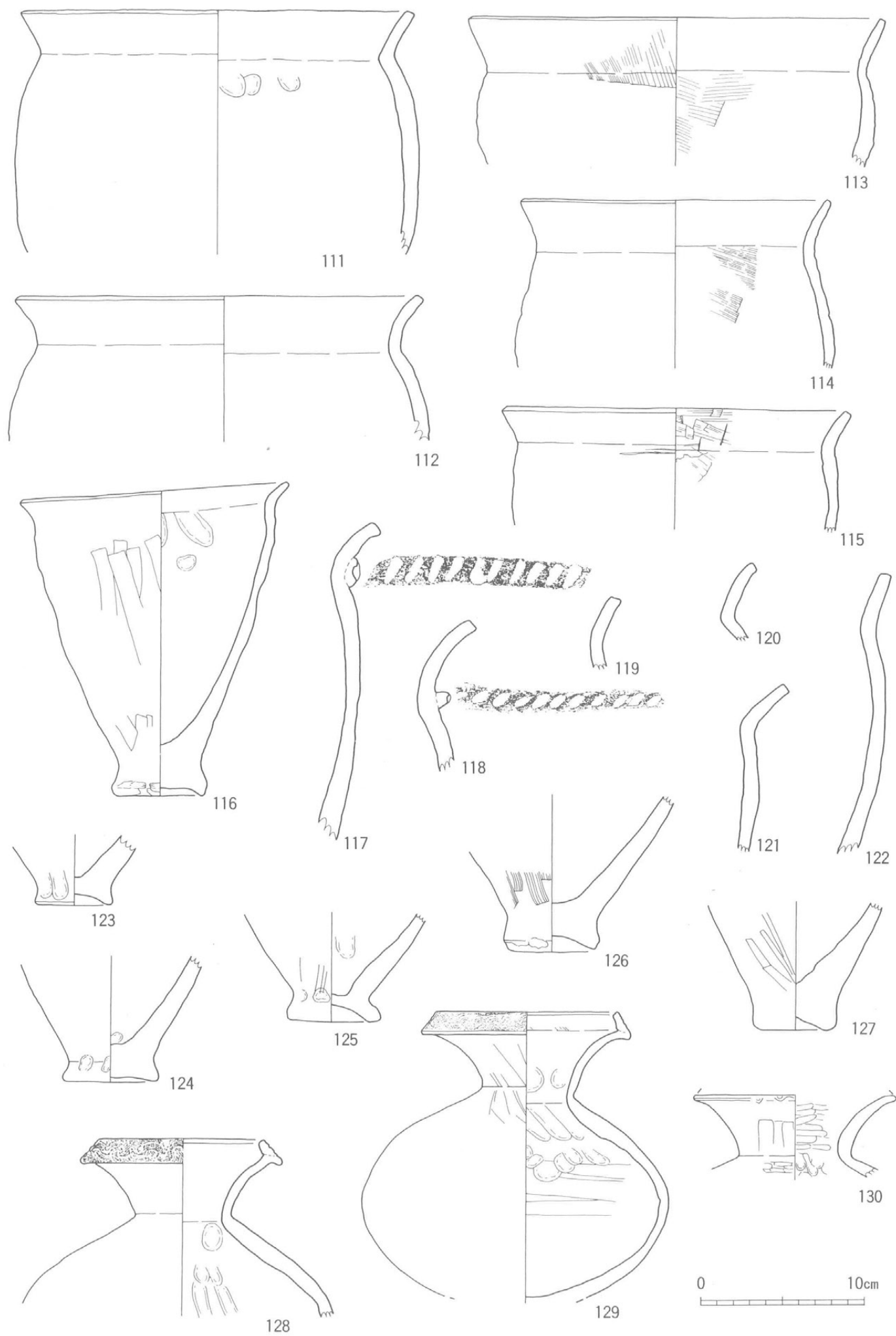
第44図 中大五郎第2遺跡S L 1 出土土器実測図(4)



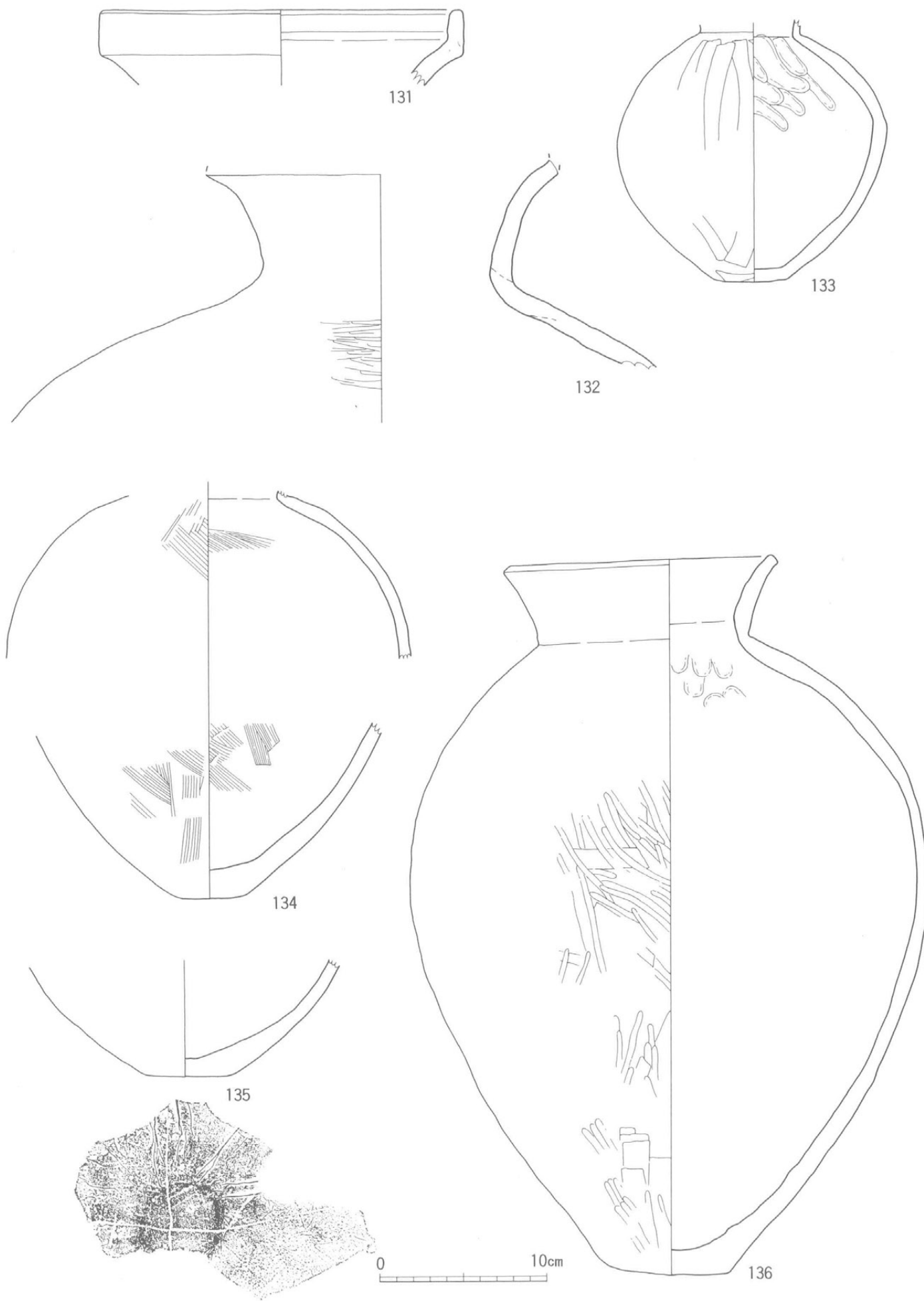
第45図 中大五郎第2遺跡SL1出土土器実測図(5)



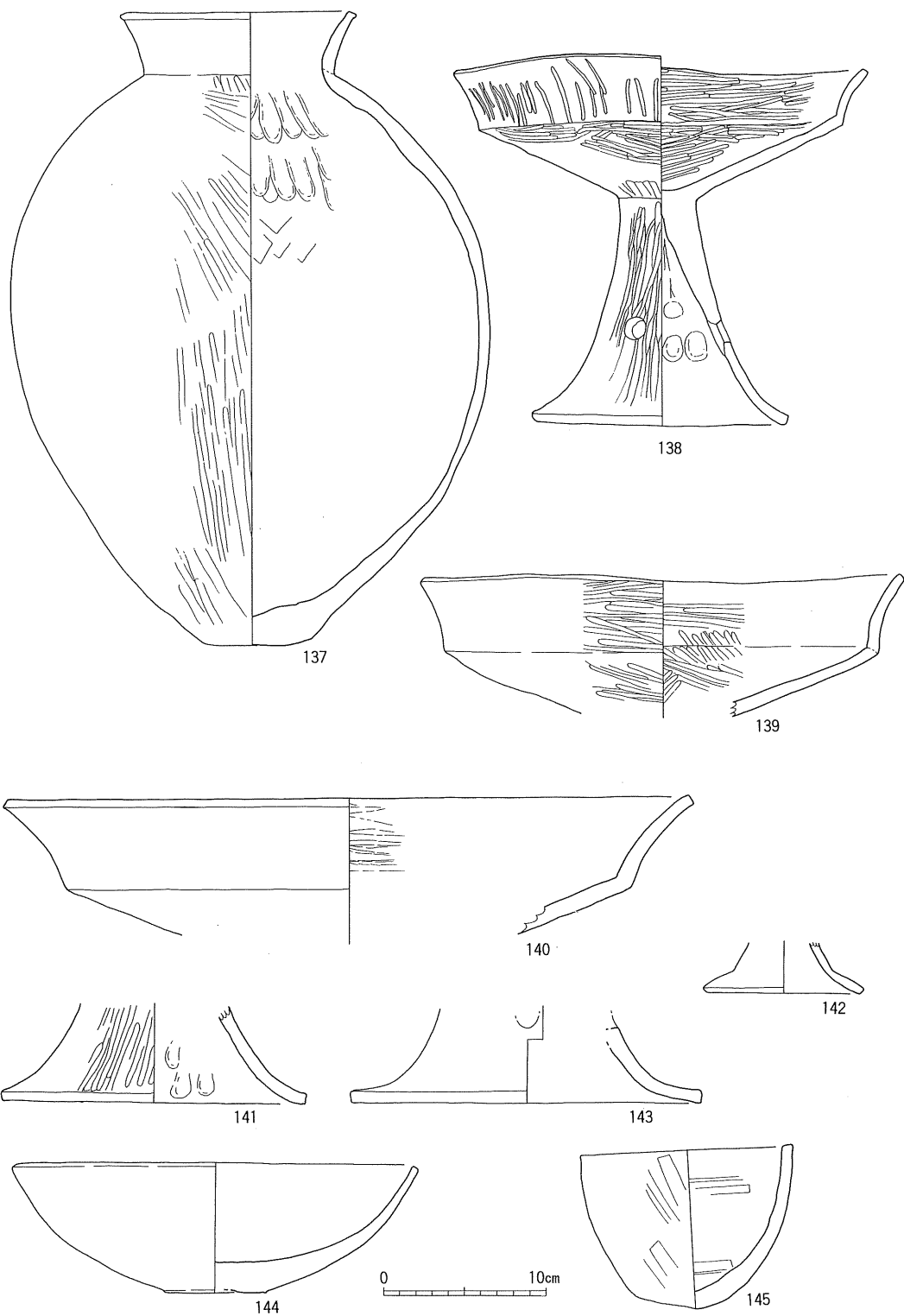
第46図 中大五郎第2遺跡S L 1 出土土器実測図(6)



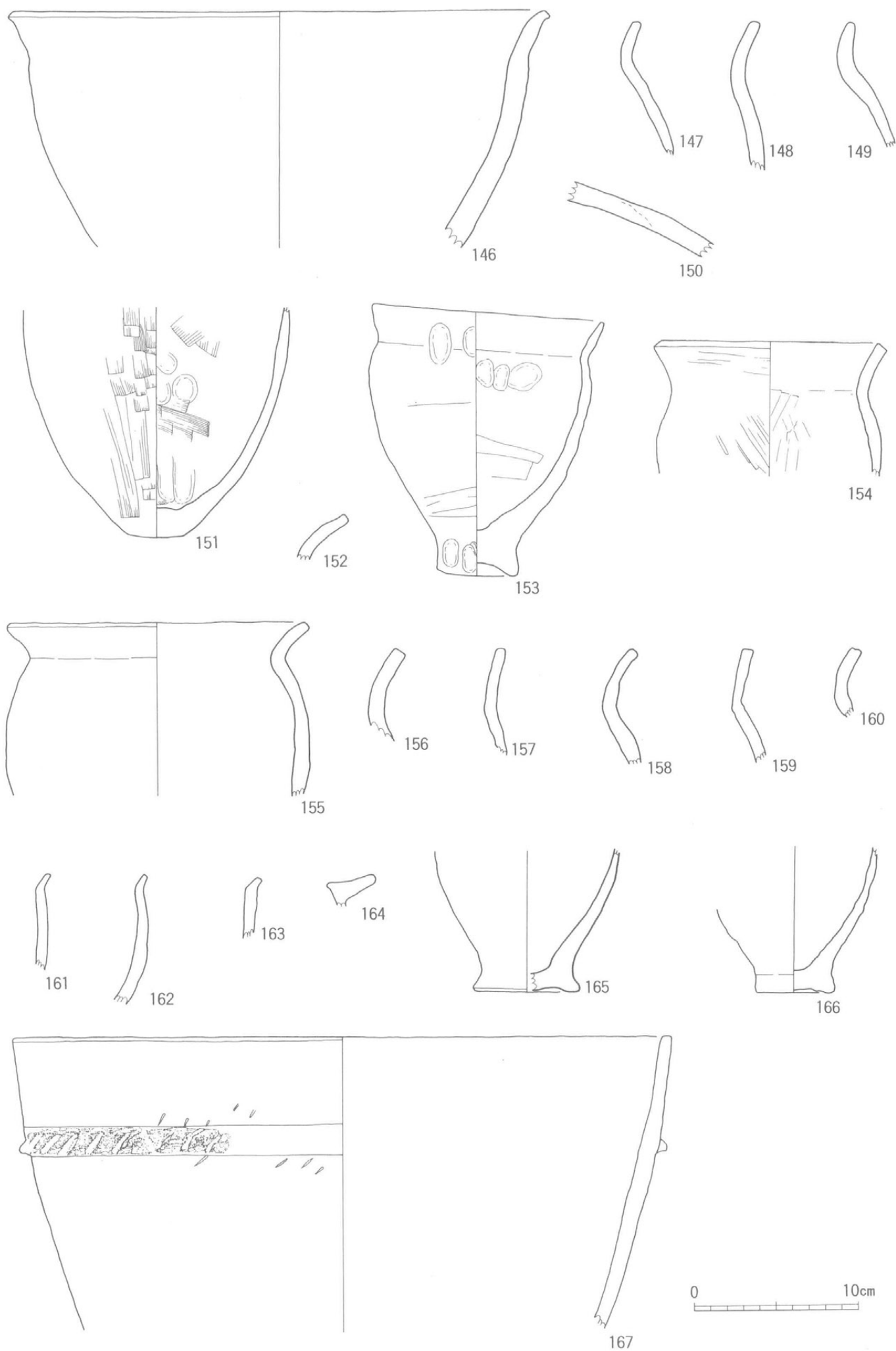
第47図 中大五郎第2遺跡S L 2出土土器実測図(1)



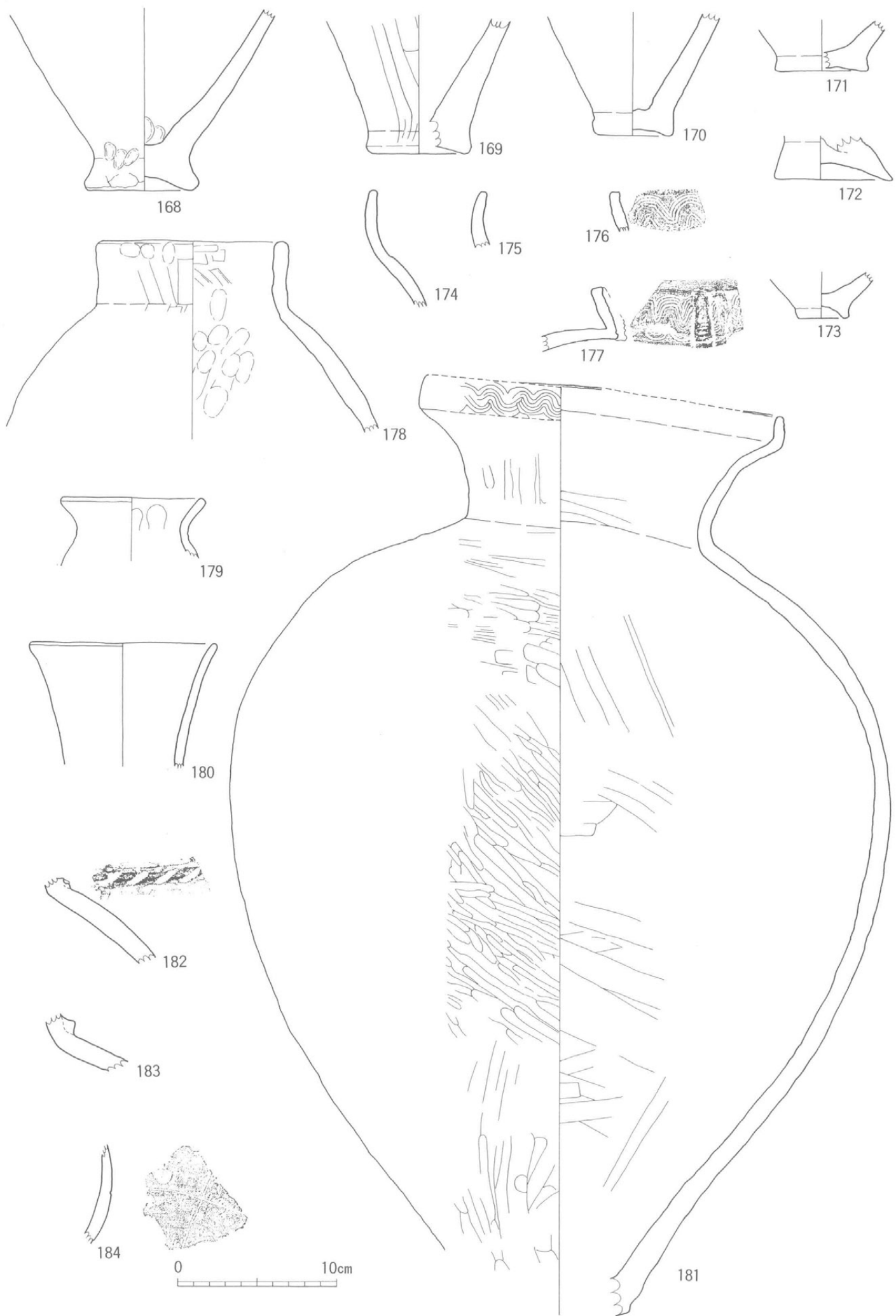
第48図 中大五郎第2遺跡S L 2 出土土器実測図(2)



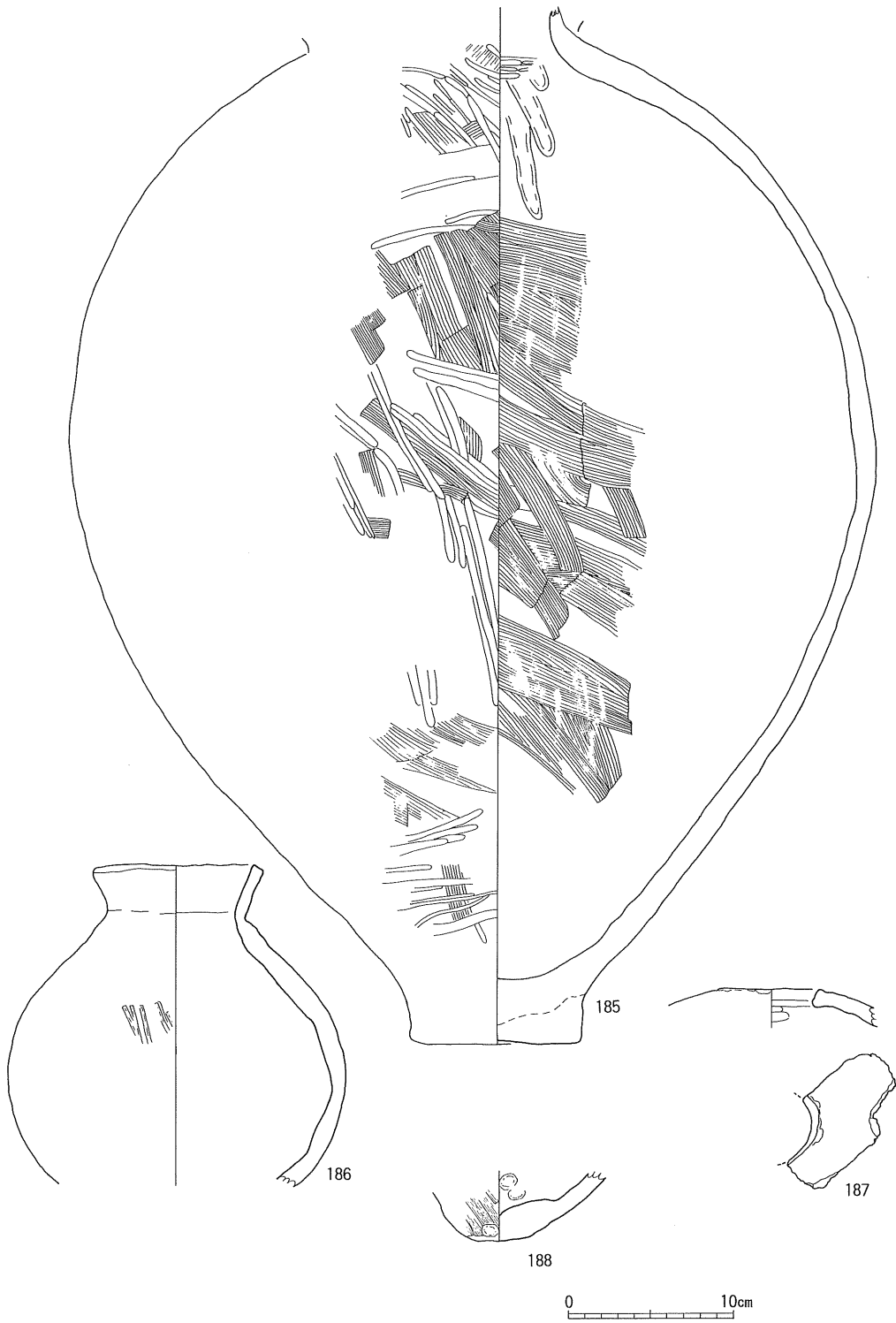
第49図 中大五郎第2遺跡S L 2 出土土器実測図(2)



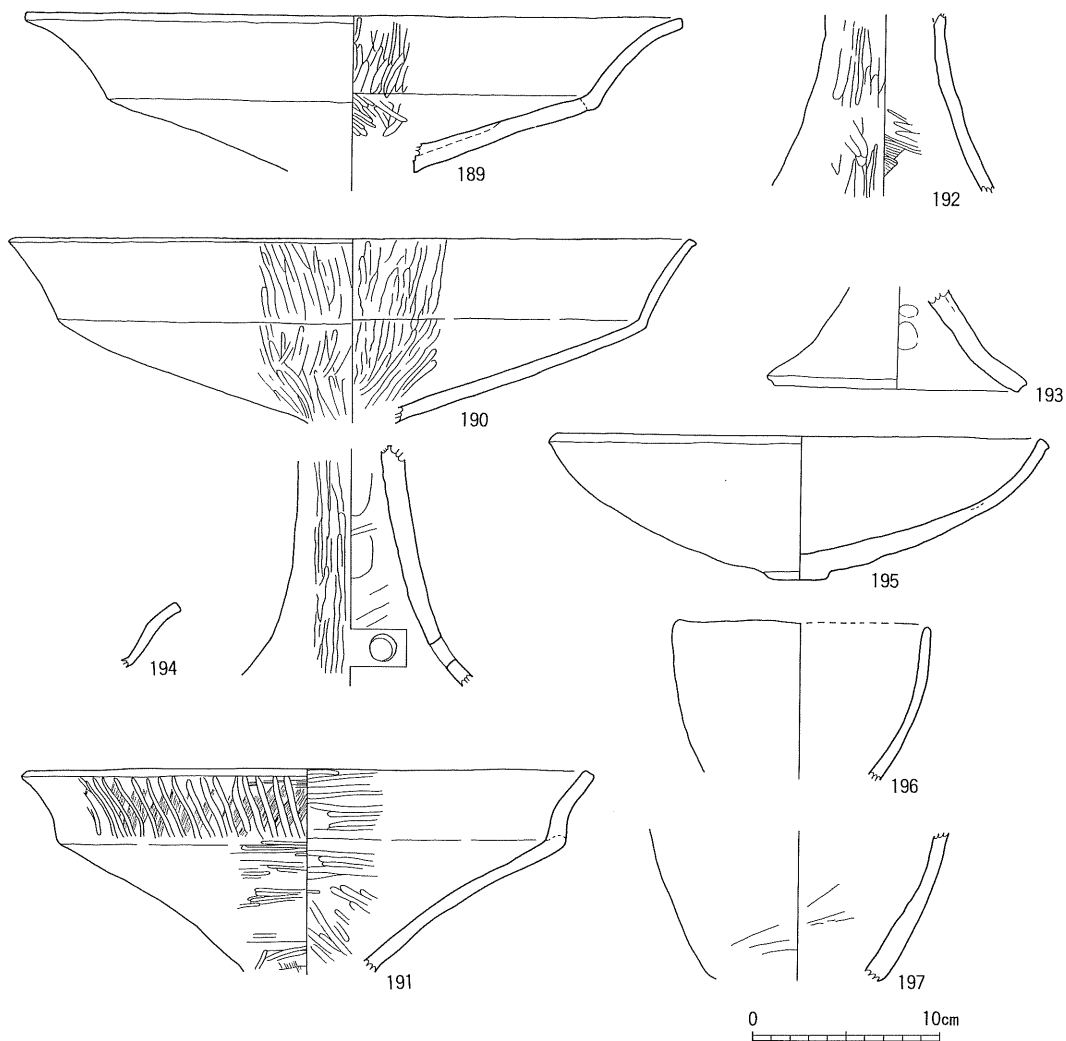
第50図 中大五郎第2遺跡SL3・SC2・包含層出土土器実測図



第51図 中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(1)



第52図 中大五郎第2遺跡包含層出土土器実測図(2)

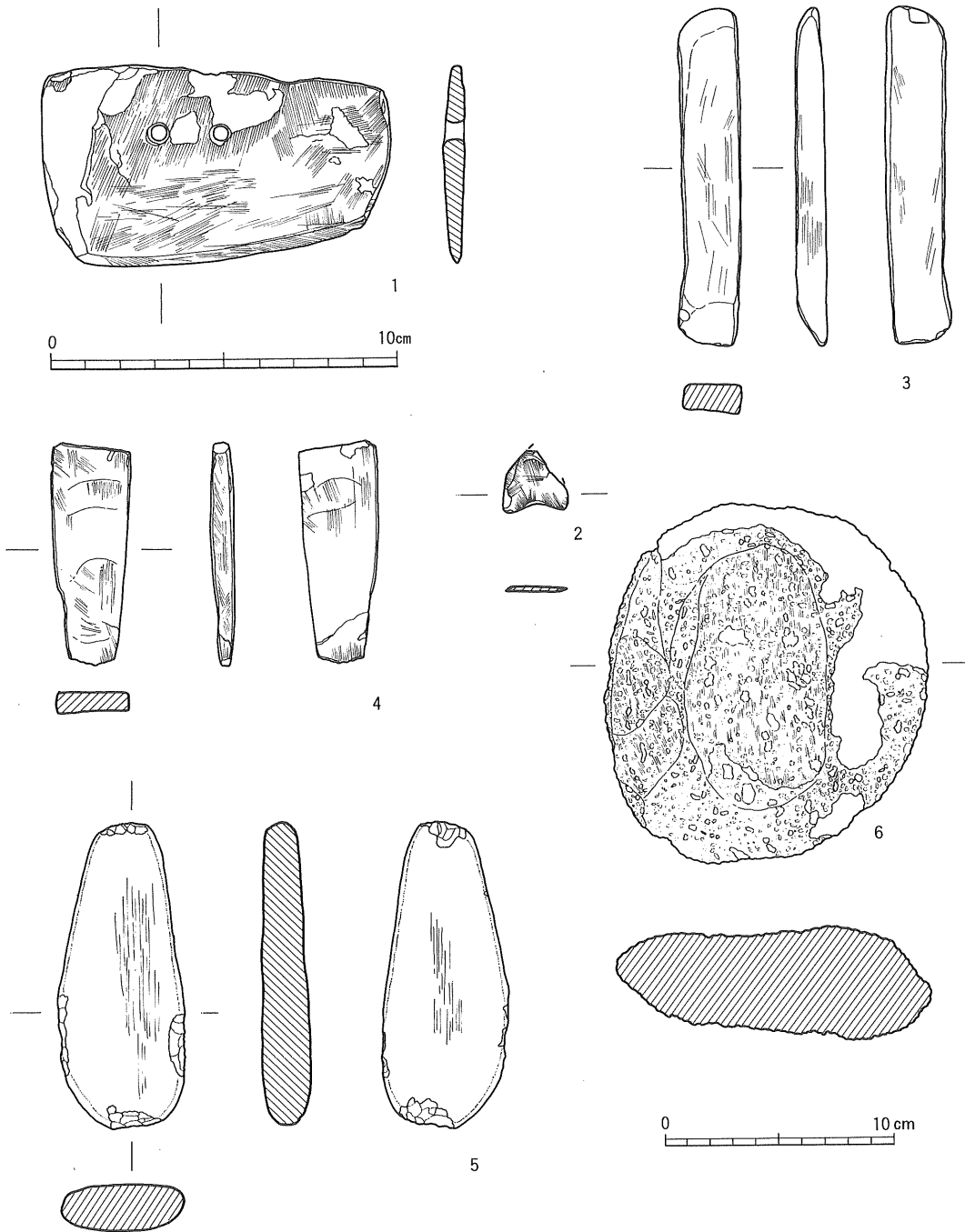


第53図 中大五郎第2遺跡出土包含層土器実測図(3)

含み上げ底である。

壺 (11~22)

11は、頸部がほぼ直立的に長く伸び口縁部で若干外反している長頸壺で口径は10.5cmである。調整は外面に縦方向にヘラ磨きやミガキが施され、内面は横・縦・斜め方向に粗いヘラ磨きが施されている。12は、頸部が極小さいもので内外面とも横ナデ調整が施されている。色調はにぶい橙と橙では胎土は4mm大の茶・灰褐色の粒を含んでいる。13は頸部が短く外反する壺で口径は11.4cmである。調整は外面は、横・縦・斜め方向のナデ内面は横ナデ・ナデ調整である。色調は内外面ともに橙である。胎土は、3mm以下の灰褐・黒・灰白色の砂粒を多く含む。また、2mm以下の透明の光沢粒を含んでいる。14も頸部が短く緩やかに外反する壺で口径は、15.3mmで調整は外面が横・斜め方向のナデで内面が横・斜め方向のナデや指押さえが施してある。色



第54図 中大五郎第2遺跡SA3・SA5・SL2出土石器実測図(1)

調は外面が橙と黄橙で内面は灰白である。15は、頸部が14よりさらに大きく外反するもので径は10.2cmである。外面の調整は、横ナデと縦・斜め方向の工具ナデが施してある。内面は、横ナデやナデ、縦方向の指ナデや斜め方向の工具ナデなどがみられる。色調は外面が橙で、内面が橙とにぶい橙である。胎土は、5mm以下の褐色粒・3mm以下の赤褐色・して灰白色粒を含み他に2mm以下の黒色光沢粒も含んでいる。16は、口縁部が二重口縁部になっていて外面部に

櫛描波状紋を施すもので、外面に縦・斜め方向のハケ目を施し内面は横ナデやナデを施している。色調は内外面ともに浅黄橙である。17も二重口縁部で口唇部に櫛描波状紋を施しているタイプのものである。頸部が緩やかに外反しているもので口径は12.2cmで調整は、外面に横ナデや工具ナデを施して内面は指押さえや工具ナデが施してある。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土は、3mm以下の赤褐・灰・黒色・灰色・半透明の砂粒を多く含んでいる。18も壺で外面に櫛描波状紋をもつもので、調整は外面に横ナデやナデ調整が施され外面に横ナデや斜め方向のナデを施している。色調は外面がにぶい橙と橙で内面は浅い黄橙である。

表9 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(1)

179 種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
			口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
1	弥生 甕	SA1	35.5			ナデ・横ナデ (一部工具痕 あり)	ナデ	黄橙 (7.5YR 7/8)	黄橙 (10YR 8/6)	4ミリ大の褐色粒・3ミリ以下の灰・黒 乳白色・半透明の砂粒を含む	外面にスス付着
2	弥生 甕	SA1	24.8			横ナデ・ナデ 指押さえ、縦方向 斜め方向のハケ目	縦・横方向のナデ 指押さえ、縦方向 斜め方向のハケ目	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい黄橙(10YR 7/3) にぶい橙(5YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 褐灰(10YR 4/1)	5ミリ以下の黄色粒、4.5ミリ以下の褐色粒、 3ミリ以下の赤褐色粒、2.5ミリ以下の半透 明、黒色等光沢粒、乳白色粒を含む	外面にスス付着 内面に炭化物付着
3	弥生 甕	SA1	22.8	6.4	35.6	横ナデ・ナデ (工具痕あり)	ナデ・指ナデ (工具痕あり)	にぶい黄橙(10YR 7/3) にぶい橙(5YR 6/3)	浅黄橙(10YR 8/4) 灰黄褐(10YR 5/2) 黒褐(10YR 3/1)	6ミリ以下の褐色粒、4ミリ以下の赤褐・ 灰白色、半透明光沢粒、3.5ミリ以下の黒 色等光沢粒、3ミリ以下の黄色粒を含む	外面にスス付着 あけ底
4	弥生 甕	SA1				ナデ	横ナデ	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	3ミリ以下の灰色・赤褐色粒、0.5ミリ以下 の半透明光沢粒、淡黄色乳粒を含む	
5	弥生 甕	SA1	20.3			ナデ	横ナデ	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	3ミリ以下の赤褐・黒・灰白色の砂粒 を含む	外面にスス付着
6	弥生 甕	SA1	18.2			横ナデ・斜方向のハ ケ目、斜方向のハ ケ目、斜方向のハ ケ目	横・斜方向の ハケ目	赤橙 (10YR 6/6)	橙 (2.5YR 6/6)	5ミリ大の灰褐・茶色粒、1.5ミリ以下 の乳白・茶色の砂粒、3ミリ大の半透 明の光沢粒を含む	外面にスス付着 内面に一部炭化 物付着
7	弥生 甕	SA1	21.2			横・斜方向の ナデ	横・縦・斜方 向のナデ	橙 (2.5YR 6/6)	橙 (2.5YR 6/8)	4~7ミリの暗褐色粒、3ミリ以下の灰 白・黒・暗褐色、半透明の砂粒、透明 の光沢粒を含む	外面にスス付着 外面 風化気味
8	弥生 甕	SA1	28.8			横ナデ、縦・横 方向の指ナデ	斜・縦方向の指 ナデ、指押さえる 後斜方向の指ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	淡橙 (5YR 8/4)	7~4ミリの灰・褐色粒を多く含む 3ミリ以下の灰白・灰・褐色、半透明 の砂粒、黒い光沢粒を含む	刻目突帯
9	弥生 甕	SA1		8.5		斜方向のナデの後 縦方向の工具ナデ 指ナデ、ナデ	横・斜・縦方向 のナデ、指ナデ	橙(2.5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	4ミリ大の灰白・褐色粒、3ミリ以下の褐 灰・灰白・黒・赤褐色の砂粒、黒色の光 沢粒を含む	あけ底
10	弥生 甕	SA1		6.05		縦方向のナデ	ナデ・指押さえ	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	4ミリ大の褐灰・褐色粒、3ミリ以下の 茶・灰白・灰を半透明の砂粒、透明の 光沢粒を含む	あけ底
11	弥生 壺	SA1	10.5			縦方向にヘラ ミガキ ミガキ	横・縦・斜方 向に粗なヘラ ミガキ	灰黄褐 (10YR 5/2)	褐灰 (10YR 4/1)	3~4ミリ大の淡橙の粒 3ミリ以下の透明の光沢粒、黒い灰白 の砂粒を含む	
12	弥生 壺	SA1				横ナデ	横ナデ	にぶい橙 (5YR 7/4)	橙 (5YR 7/6)	4ミリ大の茶・灰褐色の粒を含む	
13	弥生 壺	SA1	11.4			横・縦・斜方向 のナデ (一部工具痕あり)	横ナデ、ナデ	橙 (2.5YR 6/6) (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	3ミリ以下の灰褐・黒・灰白色の砂粒 を多く含む。2ミリ以下の透明の光 沢粒を少し含む	外面にスス付着
14	弥生 壺	SA1	15.3			横・斜方向の ナデ	横・斜方向のナ デ、指押さえる 一部斜方向のハ ケ目	橙(2.5YR 6/8) 黄橙 (7.5YR 7/8)	灰白 (7.5YR 8/1)	4ミリ以下の橙・灰・白色の粒、3ミリ 以下の透明の光沢粒、赤褐・黒色粒を 多く含む	
15	弥生 壺	SA1	10.2			横ナデ・縦・斜 方向の工具ナデ	横ナデ・ナデ 縦方向の指ナデ 斜方向の工具ナデ	橙(5YR 7/6) (5YR 7/6)	橙(5YR 7/6) にぶい橙 (5YR 7/4)	5ミリ以下の褐色粒、3ミリ以下の赤 褐色・灰白色粒、2ミリ以下の黒色光 沢粒を含む	
16	弥生 壺	SA1	16.0			縦・斜方向の ハケ目	横ナデ、ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	3ミリ以下の赤褐・灰・黒色、半透明の 砂粒、透明・黒色の光沢粒を含む	二重口縁 櫛描波状文
17	弥生 壺	SA1	12.2			横ナデ 工具ナデ	指押さえ 工具ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	3ミリ以下の赤褐・黒・灰色、半透明の 砂粒を多く含む	二重口縁 櫛描波状文
18	弥生 壺	SA1				横ナデ ナデ	横ナデ 斜方向のナデ	にぶい橙 (5YR 7/4) 橙(2.5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	2ミリ以下の灰色・茶色の砂粒 黒い半透明の光沢粒を含む	櫛描波状文
19	弥生 壺	SA1	18.3			横ナデ 縦方向のハ ケ目	横ナデ 一部斜方向のナ デ	橙(5YR 7/6) 浅黄橙(7.5YR 8/4) (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) (10YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐・黒・灰白・半透明の 砂粒を多く含む。2ミリ以下の黒色 透明の光沢粒を少し含む	二重口縁 櫛描波状文 内面風化著しい
20	弥生 小型壺	SA1	5.8	—	12.4	ナデ・縦・斜 方向のハケ目	ナデ・指押さえ	明黄褐(10YR 7/6) 赤褐(2.5YR 7/4)	明黄褐 (10YR 7/6)	0.5~3ミリの淡黄・茶・灰・灰色粒を多 く含む	外面にスス付着 丸底

表10 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(2)

レ 79 群	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
21	弥生	壺	SA1				横・斜方向のハケ目、縦方向のナデの後ミガキ	縦方向の指ナデ、縦・横・斜方向のハケ目	橙 (5YR 7/6) (7.5YR 7/6)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	3ミリ以下の赤褐・茶・淡橙色の砂粒を多く含む	内面…黒変 外面に黒斑
22	弥生	壺	SA1		7.4		横・斜方向のハケ目、ナデ	風化著しい為調整不明	浅黄橙 (7.5YR 8/4) (10YR 8/4)	褐灰 (10YR 4/1)	3ミリ以下の灰白・褐・黒色、半透明の砂粒を多く含む。2ミリ以下の黒色透明の光沢粒を含む	内面…全面剥離 色透明の光沢粒を含む
23	弥生	高坏	SA1	22.5			横ナデ・ミガキ	横ナデ、工具ナデの後ミガキ	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/8)	2ミリ以下の茶・灰・灰白の砂粒、1ミリ以下の黒色、透明の光沢粒を含む	
24	弥生	高坏	SA1	32.8	18.2	27.9	横・斜方向のナデ、丁寧なミガキ	横・縦方向のミガキ、ナデ	橙(5YR 6/6) 浅黄橙(10YR 8/4)	橙(5YR 6/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	4ミリ大の褐色粒、3ミリ以下の褐・灰・黒色・半透明の砂粒、黒い透明の光沢粒を含む	暗紋、四方透かし 裾部の一部に炭化物付着
25	弥生	高坏	SA1				横・縦方向のミガキ	ミガキ 縦方向のナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	褐灰 (10YR 4/1)	3ミリ以下の茶・黒・灰褐色の砂粒 黒色、透明の光沢粒を少し含む	
26	弥生	高坏	SA1	21.8	16.15	23.3	横、縦方向のミガキ 横、縦方向のナデ	ナデ、横・斜方向のナデ、指ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 黄橙(10YR 8/6)	黄橙(2.5YR 8/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐・灰・褐色の砂粒、半透明の光沢粒を多く含む	外面に風化気味 三方透かし
27	弥生	高坏	SA1				縦方向のミガキ	紋りの後ナデ指押さえ、ナデ	橙(2.5YR 6/8) (5YR 7/6)	にぶい橙 (5YR 7/4)	3ミリ以下の黒・灰・茶色の砂粒、透明・黒色の光沢粒を含む	四方透かし
28	弥生	高坏	SA1		19.85		ミガキ・ナデ	ナデ・ミガキ	橙(5YR 7/6) (7.5YR 7/6) 浅黄橙(10YR 7/4)	橙 (5YR 7/6)	3ミリ以下の褐・黒色半透明の砂粒、透明・黒色の光沢粒を含む。微細な砂粒が多い	外面に黒斑 四方透かし
29	弥生	高坏	SA1		12.8		ミガキ・横ナデ	横方向のミガキ	橙(2.5Y 6/8) (5YR 7/6)	橙(2.5YR 6/8) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	2ミリ以下の赤褐・灰・黒色、半透明の砂粒を含む	透かし(四方?)
30	弥生	器台	SA1		20.4		ハケ目の後、縦方向のミガキ、縦方向のハケ目、ナデ	ハケ目、工具ナデ、縦・横・斜方向のナデ、横・斜方向のミガキ	橙 (7.5YR 7/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	7ミリ以下の赤褐色粒、4ミリ以下の灰色粒、3ミリ以下の灰白・黒色粒、25ミリ以下の半透明の光沢粒、2ミリ以下の黒色光沢粒を含む	二段の四方透かし
31	弥生	台付鉢	SA1	12.8			ナデ 縦方向のナデ	縦・斜方向のハケ目	黄橙(10YR 8/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黄橙(10YR 8/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	2ミリ以下の赤褐色・褐色・灰色の粒 1ミリ以下の半透明光沢粒、乳白色の粒を含む	内面に一部黒変
32	弥生	高台樽	SA1	13.0			縦・斜方向のミガキ	縦・斜方向のミガキ	橙(5YR 7/6) 橙(7.5YR 7/6)	橙(5YR 6/6) 橙(7.5YR 7/6)	1ミリ以下の褐色・赤褐色・半透明光沢粒 0.5ミリ以下の黒色光沢粒・乳白色粒を含む	
33	弥生	ミニナフ	SA1	8.8	—	5.8	ナデ	ナデ指押さえ	黄橙 (7.5YR 7/8) 橙(7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	3ミリ以下の褐灰・灰白・赤褐色粒、黒色光沢粒、2ミリ以下の黒色粒、半透明光沢粒を含む	丸底
34	弥生	ミニナフ	SA1	3.3			ナデ	ナデ指押さえ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	2ミリ以下の灰白色粒 1ミリ以下の黒色粒・赤褐色粒・半透明黒色等光沢粒を含む	
35	弥生	壺	SA1				横ナデ指押さえ	横ナデ指押さえ 縦方向に工具痕	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	黄橙 (10YR 8/6)	2ミリ以下の灰色・黒・半透明の微細な砂粒を多く含む 黒い透明の光沢粒を含む	
36	弥生	甕	SA2	22.3	6.3	33	ナデ、横ナデ 縦・斜方向の工具痕	ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/4) (10YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	5ミリ以下の灰褐色粒、4.5ミリ以下の灰色粒、4ミリ以下の赤褐色粒、3.5ミリ以下の黒色粒、2.5ミリ以下の半透明光沢粒、乳白色粒を多く含む	外面にスス附着 あげ底
37	弥生	甕	SA2	25.1			横・斜方向のナデ	横・斜方向のナデ	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	4.5ミリ以下の赤褐色粒、4ミリ以下の黒色・灰色の粒、3ミリ以下の半透明・透明光沢粒・乳白色粒を多く含む	外面…黒変
38	弥生	甕	SA2	13.2			斜・縦方向のミガキ	横方向のミガキハケ目の後、横・斜方向のミガキ	橙 (5YR 6/8)	黒褐 (7.5YR 3/1) 橙(5YR 7/8)	2ミリ以下の茶・灰褐色・灰色の砂粒	内面…黒変
39	弥生	甕	SA2	36.2	7.5	27.25	指押さえ 横・縦方向のナデ	横・斜方向のナデ工具による上方向のナデ指押さえ	浅黄橙 (7.5YR 8/6) 黄橙(10YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	6ミリ以下の灰色粒、4ミリ以下の乳白色粒 5ミリ以下の褐色・赤褐色の粒 2ミリ以下の黒色光沢粒を多量に含む	あげ底
40	弥生	壺	SA2	8.45	18.95	10.05	横ナデハケ目 指ナデ 底部に工具痕あり	指ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	7ミリ以下の赤褐色粒 2.5ミリ以下の褐色粒・半透明光沢粒 1.5ミリ以下の黒色・透明等光沢粒・乳白色粒	
41	弥生	壺	SA2	8.4	4.4	18.5	横ナデ 斜方向のケズリに近いナデ	横ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	橙 (7.5YR 7/6)	4ミリ大の赤褐色の粒 3ミリ以下の半透明・透明の光沢粒 灰色・黒・茶色の砂粒を含む	ヘラ記号
42	弥生	壺	SA2				ナデ 工具痕あり	横方向の指ナデ指押さえ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	黄橙 (10YR 8/6)	4ミリ以下の茶・灰・褐色・半透明の砂粒を含む	二重口縁 櫛波状文
43	弥生	高坏	SA2				縦方向のミガキ	ナデ 指ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	2.5ミリ以下の赤褐色粒 2ミリ以下の灰色粒 1ミリ以下の乳白色粒、半透明黒色等の光沢粒	内・外面に黒斑 三方透かし 外面に黒変
44	弥生	鉢	SA2	22.3	8.4	17.8	工具による横・斜方向のナデハケ目、ナデ	工具による横・斜方向のナデ、斜方向のハケ目、ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙(5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	3ミリ以下の赤褐色・茶色・灰色の砂粒を含む	外面にスス附着
45	弥生	甕	SA3	21.6			横ナデ ハケ目 工具ナデ	横ナデ	橙 (2.5YR 7/8)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) 橙(5YR 7/6)	3ミリ以下の茶色・灰色・半透明・黒の砂粒	

表11 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(3)

レイト 分類	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
46	弥生	甕	SA3				斜方向のナデ	斜方向のナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	黄橙 (10YR 8/6)	2ミリ以下の灰黒・褐色の砂粒を含む	
47	弥生	壺	SA3	8.5	2.1	14.1	横ナデ ナデ 指押さえ	横ナデ ナデ 指押さえ	にぶい橙 (5YR 7/4)	明褐色 (7.5YR 7/2) 淡橙(5YR 8/4)	3ミリ以下の灰白・茶色・乳白色、半透明の砂粒を含む。	外面に黒斑 ややあげ底
48	弥生	壺	SA3				斜方向の工具 ナデ	斜方向の工具 ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4) 褐灰(10YR 4/1)	灰白 (10YR 8/2)	3ミリ以下の灰白・黒・茶の砂粒、2ミリ以下の透明の砂粒を含む	外面に線刻
49	弥生	壺	SA3			14.3	工具ナデ 指ナデ ナデ	横・縦方向の 工具ナデ	橙(5YR 7/6) にぶい橙 (5YR 7/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	3ミリ以下の茶・灰・灰白の砂粒、透明の光沢粒を含む	外面に線刻
50	弥生	鉢	SA3	18.7	5.5	8.8	横ナデ ナデ 放射状にハケ目 指押さえ	ナデ	橙(7.5YR 7/6) 灰褐(7.5YR 6/2) 黒褐(7.5YR 3/1)	褐灰(10YR 4/1) 灰黄(7.5YR 8/6) にぶい橙(5YR 7/4)	4ミリ以下の暗灰・灰白・茶色の砂粒を含む	
51	弥生	ミナナフ	SA3	6.6	2.2	4.7	ミガキ	ナデ	褐灰(6YR 4/1) にぶい赤褐 (2.5YR 5/4)	暗赤褐(5YR 3/1) にぶい橙 (2.5YR 6/4)	2ミリ以下の乳白色、半透明の砂粒、透明の光沢粒を少し含む	外面に黒斑
52	弥生	ミナナフ	SA3	5.55	2.05	3.3	指ナデ ナデ	指ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	3ミリ以下の灰・茶・半透明の砂粒を含む	
53	弥生	紡鐘車	SA3				ナデ		灰褐 (5YR 4/2)		3ミリ以下の茶褐色・乳白色の砂粒を含む。	
54	弥生	甕	SA4				ナデ 横ナデ	指ナデ 斜方向に工具 痕	淡黄 (2.5YR 8/3)	灰白 (7.5YR 8/2)	4ミリ大の茶色の粒 3ミリ以下の灰・赤・褐色・茶色の砂粒を含む	
55	弥生	甕	SA4				横ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR 3/4)	灰白(10YR 8/2) 浅黄橙 (10YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐色・茶色の砂粒、透明の光沢粒を含む。	外面にスス付着
56	弥生	甕	SA4				ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	2ミリ以下の灰褐・茶色の砂粒を含む	
57	弥生	甕	SA4			8.8	横・縦方向の ナデ	ナデ	明褐色 (7.5YR 7/2)	灰白 (7.5YR 8/1)	3~5ミリ大の茶・灰褐色の粒 2ミリ以下の灰・茶色・灰白・黒の砂粒を含む	外面…風化気味
58	弥生	甕	SA4			5.1	ナデ (工具痕あり)	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	4~7ミリ大の茶・灰褐色の粒 3ミリ以下の灰白・茶・半透明の砂粒を含む	あげ底
59	弥生	壺	SA4	12.3			横ナデ 縦ナデ(工具 痕あり)	ナデ 縦方向の指ナ デ	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	橙 (7.5YR 7/6)	2ミリ以下の灰白・褐灰・半透明の砂粒、黒透明の光沢粒を含む	
60	弥生	壺	SA4				あらいナデ ナデ	あらいナデ	橙 (5YR 7/8)	黄橙 (10YR 8/6)	3ミリ以下の灰白・茶・灰色の砂粒を多く含む	
61	弥生	壺	SA4				横方向の工具 指ナデ ナデ	横方向の工 具ナデ	にぶい橙 (10YR 7/3)	明褐色 (7.5YR 7/2)	3ミリ以下の褐色・灰白・黒の砂粒を含む	口唇部にスス付着
62	弥生	壺	SA4	2.2	2.65	5.9	粗なナデ 指押さえ ナデ	ナデ	黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	2ミリ以下の黒い灰白・灰色の砂粒を多く含む 半透明・黒の光沢粒を含む	
63	弥生	甕	SA5				ナデ	横・斜方向の ナデ	黄灰 (2.5YR 6/1)	灰黄 (2.5YR 7/2)	4ミリ大の褐色の粒 3ミリ以下の灰白・灰褐色の砂粒を含む	
64	弥生	甕	SA5				横ナデ ナデの後斜方 向のハケ目	ナデの後斜方 向のハケ目	黄橙 (7.5YR 8/8)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	2ミリ以下の赤褐色・黒・灰色の微細な砂粒を含む	
65	弥生	甕	SA5				ナデ、横ナデ	横ナデ 指ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	3ミリ以下の灰褐・灰・茶・黒色、半透明の砂粒、黒色の光沢粒を含む	
66	弥生	壺?	SA5				横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/8)	3ミリ以下の灰白・褐・黒色・半透明の砂粒を含む	
67	弥生	壺	SA5	11.9	5.8	11	横・斜のナデ ナデ 指ナデ 指押さえ	ナデ 指ナデ 指押さえ	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	4ミリ以下の灰・黒・褐色の砂粒を含む	あげ底
68	弥生	甕	SA6	23	4.1	19.3	ナデ (工具痕あり) ナデ	ナデ 横・斜方向の工 具ナデ	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい橙 (10YR 7/4)	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい橙 (10YR 7/3)	4.5ミリ以下の灰色粒、4ミリ以下の黒褐色粒、3ミリ以下の黒色粒、2.5ミリ以下の褐色・赤褐色・黒色光沢粒、2ミリ以下の黄色粒	外面にスス付着
69	弥生	甕	SA6				あらいナデ 斜方向のナデ ナデ	ナデ	赤黒 (10YR 2/1)	赤褐 (10YR 5/4)	2ミリ以下の暗赤褐色・乳白色・半透明の砂粒を少し含む	
70	弥生	甕	SA6				横・斜方向の ナデ	横・斜方向の 工具ナデ	黄橙(10YR 8/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	3ミリ以下の褐色・灰白・黒・半透明の砂粒を含む	外面に沈線

表12 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(4)

レ 79 群	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
71	弥生	壺	SA6				ナデ	ナデ 指押さえ 指ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	黄灰 (2.5Y 6/1)	5ミリ以下の橙色粒、35ミリ以下の黒色・灰白色 粒、25ミリ以下の半透明・黒色・光沢粒、2ミリ 以下の赤褐色・乳白色透明光沢粒を含む	外面にスス附着 内面…一部黒変 丸底
72	弥生	高坏	SA6		—		斜方向のナデ ミガキ	斜方向のナデ ヘラ磨き	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 褐灰(10YR 6/1)	3ミリ以下の灰・褐色、半透明の砂粒 黒の光沢粒を含む	内面に黒斑
73	弥生	高坏	SA6				ミガキ	ミガキ	橙(5YR 7/6) 黒褐(7.5YR 3/1)	橙 (2.5YR 6/8)	3ミリ以下の赤褐・茶・黒の砂粒、透 明、黒の微細な光沢粒を含む	外面…一部黒斑 風化気味
74	弥生	高坏	SA6				横方向のミガキ	横方向の丁寧な ミガキ	浅黄橙 (10YR 8/3) 褐灰(10YR 4/1)	黒褐 (10YR 3/1)	4ミリ大の黒色粒、3ミリ以下の灰白・ 黒・半透明砂粒、黒の光沢粒を含む	外面…黒斑
75	弥生	高坏	SA6				縦方向のミガキ 縦方向のナデ	横・斜方向のハケ目 ヨコナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	4ミリ大の黒色粒、3ミリ以下の黒褐 色、灰白・黄橙・半透明砂粒を含む	透かし
76	弥生	高坏	SA6		21.7		ミガキ 横ナデ	ミガキ	橙 (5YR 6/8)	黄橙 (7.5YR 7/8)	3ミリ以下の赤褐色、灰色、黒の砂 粒を含む	内面…一部風化
77	弥生		SA6				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	1ミリ以下の赤褐色粒を含む	
78	弥生	甕	SL1	26.4	8.6	33.1	横・斜方向の ナデ	横・斜方向の ナデ 工具痕	橙(7.5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	橙 (7.5YR 7/6)	65ミリ以下の赤褐色、55ミリ以下の灰色、5ミリ以下 の黄色、4ミリ以下の褐色・乳白色・半透明光沢粒、35 ミリ以下の無色、3ミリ以下の黒色光沢粒を多く含む	外面に黒斑 風化気味
79	弥生	甕	SL1	22.8	5.3	29.75	斜方向のナデ 横・縦方向の 工具ナデ	横・縦・斜方 向のナデ	橙(5YR 7/6) 7.5YR 7/6 にぶい黄(5YR 5/4)	橙(7.5YR 7/6)6/6 黒褐(7.5YR 3/1)	45ミリ以下の灰色・乳白色粒、35ミリ以下の褐 色粒、3ミリ以下の半透明光沢粒、2.5ミリ以下 の赤褐色粒、2ミリ以下の黒色粒を含む	内面…炭化物着 あけ底
80	弥生	甕	SL1	25.7	5.9	31	横・縦・斜方 向のナデ(工 具痕)	ナデ・斜方向 のナデ 指押さえ	橙(5YR 7/6) にぶい黄(5YR 7/4) 黒褐(5YR 3/1)	橙(5YR 7/8) 灰褐(5YR 6/2) 黒褐(5YR 3/1)	5.5ミリ以下の赤褐色、4ミリ以下の 灰色・黒色の褐色粒、及び半透明褐 色粒を多く含む	外内面にスス附着 二重線、あけ底
81	弥生	甕	SL1	22.65	5.6	27.7	縦・斜方向の 工具 ナデ・横ナデ	縦・斜方向の 工具ナデ 横ナデ	橙(5YR 7/6)6/6 にぶい赤褐 (5YR 5/3)	橙 (5YR 7/6 6/6)	3ミリ以下の褐・灰褐・赤褐・黒の砂粒 微細な黒い透明光沢粒を多く含む	外面にスス附着 あけ底
82	弥生	甕	SL1	14.8			横ナデ 縦方向のナデ	工具ナデ	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	6ミリ以下の灰色・灰白色粒、5ミリ以下の赤 褐色粒、3ミリ以下の半透明光沢粒を含む	
83	弥生	甕	SL1	17.1			工具ナデ	工具ナデ	橙(7.5YR 7/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	7ミリ以下の乳白色、4ミリ以下の褐、赤 褐色粒、2.5ミリ以下の半透明光沢粒、 黒色光沢粒を含む	外面にスス附着 一部風化著しい
84	弥生	甕	SL1	28.1	6.2	34.75	ナデ 工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄(7.5YR 7/4) 橙(7.5YR 7/8) 黄(7.5YR 8/8) 黒(7.5YR 4/1)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	6ミリ以下の褐色・赤褐色、4.5ミリ以 下の灰褐色、4ミリ以下の灰白色、3 ミリ以下の半透明光沢粒を含む	スス附着 あけ底
85	弥生	甕	SL1	24.15	5.4	33.35	横・斜方向の ナデ	横・斜方向の ナデ	橙 (5YR 7/6 7.5YR 7/6)	橙(5YR 7/6) にぶい赤褐 (5YR 5/3)	3~5ミリ大の灰色・褐色粒、3ミリ以 下の灰・灰白・黒の砂粒を多く含む。 3ミリ以下の透明光沢粒を少し含む	外面…一部スス附着
86	弥生	甕	SL1	17.2			横・縦・斜方 向のハケ目 横ナデ	斜方向のハケ目 ヨコナデ	にぶい赤褐 (5YR 4/4) 赤褐(5YR 4/6)	明赤褐 (5YR 5/6)	8ミリ以下の淡黄色粒、4ミリ以下の赤褐 色粒、2ミリ以下の透明光沢粒を含む	外面…一部スス附着
87	弥生	甕	SL1	24.7	7.8	33.1	横・縦・斜方向 の工具ナデ	横・縦・斜方向 の工具ナデ	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄(5YR 6/4) 灰褐(5YR 4/2)	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	4.5ミリ以下の赤褐、4ミリ以下の灰 白色粒、3ミリ以下の透明・半透明光沢 粒を含む	外面…一部スス附着 内面…一部炭化物着 あけ底
88	弥生	甕	SL1	18.3	5.85	23.8	ナデ 指押さえ	ナデ	浅黄橙(10YR 8/4) 7.5YR 8/6 にぶい黄(5YR 6/4)	橙(5YR 6/6) にぶい黄(7.5YR 5/4) 浅黄橙(10YR 8/4)	6ミリ以下の赤褐色・褐色粒、4ミリ以下の黄 灰白色粒、3ミリ以下の半透明光沢粒、1.5 ミリ以下の黒色光沢粒を含む	外面にスス附着 内面に炭化物着 あけ底
89	弥生	甕	SL1	24.3			横ナデ 工具ナデ	斜方向のナデ 工具ナデ	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙(7.5YR 7/6) 灰黄褐 (10YR 6/2)	55ミリ以下の赤褐・白色粒、5ミリ以下の灰褐色の粒、4.5 ミリ以下灰色粒、35ミリ以下の半透明光沢粒、25ミリ以下 の黒色光沢粒、2ミリ以下の透明光沢粒を多く含む	外面にスス附着
90	弥生	甕	SL1	28.1	6.9	34.15	横・斜方向の 工具ナデ・横 ナデ	横・斜方向の 工具ナデ・横 ナデ	橙 (5YR 7/6 2.5YR 6/8)	橙 (2.5YR 6/8)	6ミリ以下の赤褐色、4ミリ以下の灰白 白色粒・半透明光沢粒、3.5ミリ以下の 黒色粒、3ミリ以下の黒色光沢粒を多く含む	外面…一部スス附着 あけ底
91	弥生	甕	SL1	30.4	7.85	47.2	斜方向のハケ目 ナデ・指押さえ	横・斜方向の ハケ目・指ナデ	橙(7.5YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/4) にぶい黄(10YR 7/4)	橙(7.5YR 6/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	5ミリ以下の褐色、4ミリ以下の灰色・半 透明黒色光沢粒、3.5ミリ以下の赤褐色 粒を多く含む	刻目目突帯 黒斑
92	弥生	甕	SL1	13	—	16.5	ナデ・ヨコナ デ	横ナデ	橙(5YR 6/6) にぶい橙 (5YR 6/4)	橙(5YR 6/6) にぶい褐 (7.5YR 6/3)	3ミリ以下の褐・黄色粒、2.5ミリ以下の灰色 粒、2ミリ以下の半透明光沢粒、1.5ミリ以 下の透明・黒色等光沢粒を含む	外面…一部スス附着 内面…風化味
93	弥生	甕	SL1	11.15	3.8	10.7	横方向のハケ目 横・斜方向の ナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	黄橙 (7.5YR 7/8)	4ミリ以下の褐色、35ミリ以下の灰色・乳白色、3ミ リ以下の黒・赤褐色粒・半透明光沢粒、2.5ミリ以下 の透明光沢粒、2ミリ以下の黒色光沢粒を多く含む	外面…風化気味 一部スス附着
94	弥生	甕	SL1	15.2	3.4	16.1	横・斜方向の 工具	横・斜方向の ハケ目 指押さえ	橙(7.5YR 6/6) にぶい褐 (7.5YR 5/3)	橙 (7.5YR 7/6 6/6)	6ミリ以下の赤褐色、4ミリ以下の黄色粒、3 ミリ以下の褐色粒・灰色粒・黒色半透明等 光沢粒を含む	外面…一部スス附着
95	弥生	壺	SL1	10.8	4.8	24.3	ハケ目 丁寧なナデ	横・斜方向の ハケ目 横ナデ・指ナデ	黄橙 (10YR 8/6)	黄橙 (10YR 8/6)	7.5ミリ以下の赤褐色、3.5ミリ以下の灰色、3 ミリ以下の黒色・乳白色・半透明光沢粒、2 ミリ以下の黒色光沢粒を多く含む	簡描波状文 外面…一部黒斑 線刻・二重目縁

表13 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(5)

レイト 分類	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調整		色調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
96	弥生	壺	SL1				横ナデ 横・斜方向の ハケ目	ナデ・横ナデ	橙(5YR 6/6 7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 7/6)	5ミリ以下の赤褐色・灰色、4.5ミリ以下の 黒色、2ミリ以下の白色・半透明光沢 粒を含む	内面風化著しい 二重口縁
97	弥生	壺	SL1					ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	2.5ミリ以下の褐色粒、2ミリ以下の 灰色・赤褐色粒・黒色光沢粒を含む	櫛描波状文 二重口縁
98	弥生	壺	SL1	21.2			ナデ	横ナデ 指押さえ	浅黄橙 (10YR 8/4) 淡黄(2.5YR 8/4)	淡黄(10YR 8/4) 黄橙(10YR 8/6)	4ミリ以下の灰・茶・黒・半透明の 砂粒、1ミリ以下の砂粒を多く含む。 2ミリ以下の黒色透明光沢粒を含む	櫛描波状文 二重口縁
99	弥生	壺	SL1		4.0		横方向のミガキ 縦方向の工具ナデ	工具ナデ 斜方向のハケ目 指押さえ	明黄褐 (10YR 7/6)	明黄褐(10YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/4)	8ミリ以下の褐色粒、4.5ミリ以下の赤褐色粒、3.5 ミリ以下の灰白色粒、3ミリ以下の半透明黒色等 光沢粒・褐色粒、2.5ミリ以下の白色粒を含む	線刻 130と同一個体 と思われる
100	弥生	壺	SL1		?		タテ・横ナデ	ナデ	橙(7.5YR 6/6) にぶい橙 (7.5YR 6/4)	橙 (7.5YR 6/6)	5ミリ以下の赤色粒、4ミリ以下の褐色粒 3ミリ以下の灰白色粒・半透明光沢粒、1 .5ミリ以下の黒色光沢粒を含む	外面スス付着
101	弥生	壺	SL1		3.1		ナデ	ナデ 指押さえ	橙 (7.5YR 7/6)	明黄褐(10YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	3ミリ以下の灰白・黒・灰・褐色の砂粒 2ミリ以下の黒色透明光沢粒を含む	外面一部黒変 スス付着
102	弥生	壺	SL1		10.8		斜方向のハケ目 ヨコ	斜方向のハケ目	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	橙(5YR 7/6 7.5YR 7/6)	6.5ミリ以下の赤色粒、3.5ミリ以下の 褐色粒、2.5ミリ以下の半透明光沢 粒、2ミリ以下の灰・黒色粒を含む。	
103	弥生	壺	SL1		8.5		斜方向のハケ目の 後斜方向のミガキ 工具ナデ、指押さえ	横・斜方向の ハケ目 斜方向の工具ナデ	橙(7.5YR 7/6) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 浅黄橙(10YR 8/4)	5ミリ以下の赤褐・褐色粒、2ミリ以下の 黒色光沢粒、1.5ミリ以下の半透明光沢 粒を多く含む	外面……一部黒変 線刻か、刻み目 突帯
104	弥生	高坏	SL1	32.4	19.8	24.2	横・縦方向の ミガキ	横・斜方向の ミガキ、指押さえ	橙 (7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6) 黒(7.5YR 2/1)	6.5ミリ以下の赤褐色、4.5ミリ以下の灰白 色、3ミリ以下の褐色粒、2.5ミリ以下の半 透明黒色等光沢粒を多く含む	外面……一部黒変
105	弥生	高坏	SL1		19.2		縦方向のミ ガキ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	橙(5YR 7/6) 黄橙 (10YR 8/6)	6.5ミリ以下の赤褐色、3.5ミリ以下の灰色粒・半 透明光沢粒、3ミリ以下の淡黄色、白色粒、2.5ミ リ以下の黒色光沢粒を多く含む。	外面…風化気味
106	弥生	高坏	SL1		16		ナデの上をミ ガキ	指ナデ	橙 (5YR 6/8)	橙(5YR 7/6) 灰黄褐 (10YR 4/2)	5ミリ以下の赤褐色、3.5ミリ以下の褐色粒、 2ミリ以下の黒色・半透明光沢粒を含む	透かし3ヶ所 内面…黒斑
107	弥生	脚台鉢	SL1	18.8	11.2	15.95	横ナデ・ナデ	ナデ	橙(7.5YR 7/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	5.5ミリ以下の赤褐色・灰色・褐色粒 4ミリ以下の黒色光沢粒、2.5ミリ以下 の半透明光沢粒を多く含む	外面……一部黒変
108	弥生	脚台鉢	SL1	17.8			縦方向の工具 ナデ ナデ	ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	5ミリ以下の赤褐色粒、2.5ミリ以下の褐 色・灰色粒・半透明光沢粒、2ミリ以下 の黒色光沢粒を含む	
109	弥生	脚台鉢	SL1	15.3	5.1	12.8	ナデ・横ナデ ハケ目の後ナデ	横ナデ 指押さえ (工具痕あり)	橙(5YR 7/6 7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	4ミリ以下の褐色粒、3ミリ以下の灰色粒、2 .5ミリ以下の乳白色・赤褐色の粒、2ミリ以下 の半透明・黒色等光沢粒を多量に含む	外面にスス付着
110	弥生	脚台鉢	SL1	14.1	4.95	15.7	ナデ・指押さえ 横・斜のナデ 一部縦方向のミガキ	斜方向のハケ目	橙(7.5YR 7/6 5YR 7/6)	橙 (7.5YR 6/8)	6ミリ以下の赤褐色粒、3.5ミリ以下の半透明光沢粒 3ミリ以下の灰白色粒・透明光沢粒、2.5ミリ以下の 褐色粒、2ミリ以下の黒色光沢粒を多量に含む。	取って2ヶ所あり 貫通した突孔あり
111	弥生	甕	SL2	24			横・斜方向のナ デ部分的に煤付 着痕	横・斜方向の ナデ 指押さえ	にぶい橙(7.5YR 7/4) にぶい黄橙(7.5YR 6/3) 橙(2.5YR 6/3)	橙(2.5YR 6/6) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	4~5ミリ以下の褐色の粒、3ミリ以下の 灰褐色・褐色・黒・淡黄橙の砂粒を含む	
112	弥生	甕	SL2	23.3			ナデ?	横ナデ?	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/3)	浅黄橙 (10YR 8/4)	3ミリ以下の茶・黒・灰褐色・灰色の砂 粒を多量に含む。1ミリ以下の透明 黒の光沢粒を少し含む	内・外面…同化
113	弥生	甕	SL2	24.8			ハケ目 ナデ	横・斜方向の ハケ目	淡黄(2.5YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 浅黄橙(10YR 8/4)	4ミリ大の褐色の粒、3ミリ以下の褐色灰 褐色の砂粒、2ミリ以下の透明光沢粒 を含む	外面…風化気味
114	弥生	甕	SL2	18.5			ナデ	ハケ目	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 淡黄(2.5YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3 7/4)	3ミリ以下の灰褐色・灰・茶・半透明の 砂粒を含む	外面…スス付着
115	弥生	甕	SL2	20.8			横・縦・斜方向のナ デ工具による?横方 向の端部痕	工具ナデ	橙 (7.5YR 7/6)	明黄褐(10YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/4)	4~5ミリ大の茶・灰褐色の粒、3ミリ以下 の灰・茶・黒の砂粒を含む	外面にわずかに スス付着
116	弥生	甕	SL2	16	5.2	19.1	ヘラ工具による 縦方向のナデ 横・斜方向のナデ	横・縦・斜方 向のナデ 指押さえ	橙(7.5YR 7/6)にぶい 黄橙(10YR 8/4)にぶい 黄橙(10YR 7/4)にぶい 黄橙(10YR 7/4)	にぶい橙(5YR 7/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	3ミリ以下の褐色・灰・黒・半透明 の砂粒を含む	外面…一部黒斑 スス付着、お底
117	弥生	甕	SL2				ナデ	ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/6) 黄橙(10YR 8/6)	黄橙 (7.5YR 8/8 10YR 8/6)	5ミリ以下の褐色粒、4ミリ以下の赤褐色・灰白色 ・乳白色の粒、3.5ミリ以下の黒色粒、3ミリ以下の半 透明光沢粒、2ミリ以下の黒色光沢粒を多量に含む	刻み目突帯 外面にスス付着 内面…風化気味
118	弥生	甕	SL2				ナデ	ナデ	黄橙(10YR 8/6) 淡黄(2.5YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	4ミリ以下の灰色粒、3.5ミリ以下の褐色粒、 3ミリ以下の半透明光沢粒・乳白色粒、2.5 ミリ以下の黒色粒を多量に含む	刻み目突帯
119	弥生	甕	SL2				ナデ縦方向のナ デの上から横方向 のナデ(工具痕あり)	横方向のナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	4ミリ以下の赤褐色粒、3.5ミリ以下の灰 白色粒、3ミリ以下の褐色粒、2ミリ以下 の半透明光沢粒を含む	
120	弥生	甕	SL2				横・斜方向のナ デ縦方向のナデの上 から横方向のナデ	横・斜方向の ナデ	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4 10YR 8/4)	4.5ミリ以下の褐色粒、3ミリ以下の灰白 色粒、2ミリ以下の半透明光沢粒を含む	外面全体にスス 付着

表14 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(6)

レイ 7分 群	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
121	弥生	甕	SL2				ナデ(斜方向の工具によるナデ)	横・斜方向のナデ	橙(7.5YR 7/6) 黄橙(7.5YR 7/8)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	3~4ミリ大の褐色の粒、3ミリ以下の灰褐色・黒・半透明の砂粒を多く含む	外面にスス付着
122	弥生	甕	SL2				ナデ部分的ハケ目	横ナデ	橙(7.5YR 7/6) 褐灰(10YR 6/1)	橙(5YR 7/6) 浅黄橙(7.5YR 8/3)	5ミリ以下の赤褐色・灰色の粒を含む	
123	弥生	甕	SL2		4.7		ナデ指押さえ	ナデ	灰白(10YR 8/2)	灰白(10YR 8/1) 褐灰(10YR 5/1)	4ミリ以下の褐色・灰・淡橙の砂粒を含む	あけ底
124	弥生	甕	SL2		5.9		縦・斜方向のナデ指押さえ	横・縦方向のナデ指押さえ	浅黄橙(10YR 8/3)	褐灰(10YR 5/1)	3ミリ以下の暗褐色・灰白・半透明の砂粒を含む	内面…全体的に黒変
125	弥生	壺	SL2		5.7		工具でナデした後指押さえ	指ナデ指押さえ	浅黄橙(7.5YR 8/4) 明褐(7.5YR 7/3) 灰褐(7.5YR 5/2)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	2~4ミリ大の褐色の砂粒、2ミリ以下の黒・灰色の砂粒、2ミリ大の透明の光沢粒を含む	外面…黒変あけ底
126	弥生	甕	SL2		5.2		ハケ目・ナデ横ナデ	横ナデ	浅黄橙(10YR 8/3)	にぶい黄橙(10YR 7/2)	4ミリ以下の茶・灰褐色・灰色の砂粒、2ミリ以下の透明・黒の光沢粒を含む	外面…粘土の垂れ外内面…スス付着あけ底
127	弥生	甕	SL2		5		工具による斜方向のナデ(一部指ナデ)	ナデ縦方向のナデ	にぶい橙(7.5YR 7/4) 灰褐(7.5YR 6/2)	にぶい黄橙(5YR 7/4)	3ミリ以下の黒・褐色の砂粒、2ミリ以下の透明の光沢粒を含む	外面…黒変あけ底内面…一部黒変
128	弥生	壺	SL2	10.1			ナデ・工具によるナデ	指ナデ・ナデ指押さえ	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6) 淡黄(2.5YR 8/3)	4ミリ以下の灰色・褐色・黒色・赤褐色の粒3ミリ以下の白色粒、2ミリ以下の半透明光沢粒を含む	二重口縁・横溝波状文
129	弥生	壺	SL2				ナデ(上部丁寧なナデ指押さえ(上部ナデ)に斜方向の工具)	指ナデ指押さえ	浅黄橙(10YR 8/4) 明褐(10YR 7/6)	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい黄橙(10YR 7/2)	3ミリ以下の赤褐色・褐色・灰・黒の砂粒、2ミリ以下の透明・黒の光沢粒を含む	二重口縁・横溝波状文
130	弥生	壺	SL2	12.2			横・縦方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ横方向のミガキ	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	3ミリ以下の褐色粒・灰白色粒・半透明光沢粒1ミリ以下の黒色光沢粒を含む	二重口縁99と同一個体と思われる
131	弥生	壺	SL2	20.7			横ナデ	横ナデ	黄橙(7.5YR 8/8)	浅黄橙(10YR 8/4)	4~5ミリ大の褐色の粒、3ミリ以下の灰白・灰・黒・灰褐色の砂粒、黒透明の光沢粒を含む	二重口縁
132	弥生	壺	SL2				ナデ・ミガキと思われるが、風化の高単位がはっきりしない	ナデ	淡黄橙(7.5YR 8/4) にぶい黄橙(10YR 7/4) 橙(7.5YR 7/6)	淡黄橙(10YR 8/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	4~5ミリ大の灰・黒・褐色の粒、3ミリ以下の灰褐色・黒・赤褐色の砂粒を多く含む。2ミリ以下の半透明・黒の光沢粒を含む	風化気味二重口縁か。
133	弥生	壺	SL2	4			ヨコナデ・ヘラ状工具による横・縦方向のナデ	横ナデ・指ナデヘラ状工具によるナデ	淡黄橙(10YR 8/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	4ミリ以下の灰色・赤褐色の粒、3ミリ以下の乳白色・黒色・褐色の粒、2.5ミリ以下の半透明・透明光沢粒を多量に含む	外面…スス付着黒斑
134	弥生	壺	SL2	3.9			ハケ目	ハケ目	明褐(10YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 5/3) にぶい黄橙(10YR 7/3)	2ミリ以下の半透明・乳白色の砂粒を少し含む	内面…黒変
135	弥生	壺	SL2	4.9			斜方向のナデ	縦方向のナデ	にぶい橙(7.5YR 7/4)	明褐灰(7.5YR 7/2)	3ミリ以下の灰褐色・茶・黒の砂粒、2ミリ以下の黒透明の光沢粒を含む	ヘラ記号
136	弥生	壺	SL2	15.7	6.15	43.3	横ナデ・ナデの後ミガキ。底部…ミガキ	ナデ(工具痕あり)	橙(5YR 7/6) 7.5YR 7/6)	にぶい黄橙(10YR 7/4) 橙(5YR 7/6)	4.5ミリ以下の赤褐色粒、4ミリ以下の灰色・黒色・褐色の粒、3.5ミリ以下の半透明光沢粒・橙色粒、3ミリ以下の黒色光沢粒を多量に含む	風化著しい
137	弥生	壺	SL2	13.6	6.5	39	ナデ・横・縦・斜方向のミガキ	ナデ・指押さえ工具による横・縦・斜方向のナデ	橙(5YR 7/8) 浅黄橙(7.5YR 8/6)	橙(5YR 7/8) にぶい橙(7.5YR 7/3)	7ミリ以下の褐色粒、3.5ミリ以下の赤褐色粒、2.5ミリ以下の半透明光沢粒、2ミリ以下の透明・黒色等光沢粒を多量に含む	外面に一部黒斑
138	弥生	高坏	SL2	25.0	15.45	22.9	ナデ・横・縦・斜方向のミガキ	横・斜方向のミガキナデ・指押さえ	橙(5YR 8/7) にぶい黄橙(10YR 6/4) 黒(6.5YR 6/4)	橙(5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 6/4) 黒(6.5YR 2/4)	4ミリ以下の赤褐色粒、2.5ミリ以下の灰色粒2ミリ以下の透明光沢粒を含む	暗紋三方透かし
139	弥生	高坏	SL2	29.4			横・斜方向のミガキ	横・斜方向のミガキ	橙(5YR 7/6) 7.5YR 7/6)	橙(5YR 6/6) にぶい橙(7.5YR 7/4)	3~6ミリ褐色の粒、2ミリ以下の透明・黒の光沢粒を少し含む。2ミリ以下の褐色・灰色の砂粒を含む	
140	弥生	高坏	SL2	426			横ナデ丁寧なナデ	ナデミガキ	黄橙(10YR 8/6)	橙(7.5YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/4) 褐灰(10YR 4/1)	3ミリ以下の褐色粒・半透明光沢粒、1.5ミリ以下の黒色光沢粒を含む	内面…一部黒斑風化気味
141	弥生	高坏	SL2	18.6			ミガキ横ナデナデ(部分的)	ナデ指押さえ	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/8) 7.5YR 7/6)	5ミリ以下の赤褐色粒、2ミリ以下の半透明・黒色等、光沢粒を含む	外面…スス付着
142	弥生	高坏	SL2	9.4			ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/3)	3ミリ以下の灰褐色・灰・白・黒・半透明の砂粒、透明の光沢粒を含む	
143	弥生	高坏	SL2	21.5			横方向のナデ	横方向のナデ	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	4ミリ以下の灰褐色粒、3ミリ以下の赤褐色粒、2.5ミリ以下の黒色光沢粒、2ミリ以下の半透明光沢粒・灰色粒を含む	透かし裾部に沈線
144	弥生	鉢	SL2	24.3	62	8.05	ナデ・横・縦・斜方向のナデ	横・縦・斜方向のナデ	橙(7.5YR 7/6)	橙(2.5YR 6/6) 橙(7.5YR 7/6)	3ミリ以下の茶・灰褐色・灰・半透明の砂粒2.5ミリ以下の透明・黒の光沢粒を含む	外面の広範囲に黒斑
145	弥生	鉢	SL2	11.9	-	9.75	荒いナデハケ目	荒いナデハケ目	黄橙(7.5YR 7/8) 明褐(10YR 7/6) 灰褐(10YR 6/2)	橙(7.5YR 7/6) 灰黄褐(10YR 6/2)	5ミリ以下の褐色粒、2.5ミリ以下の黒色光沢粒、4ミリ以下の灰色・赤褐色の粒3ミリ以下の乳白色粒・半透明光沢粒	丸底

表15 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(7)

レ イ 791 器	種別	器種	出土 地点	法 量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
146	弥生	甕	SL2	32.8			横・斜方向のナデ	横ナデ	浅黄橙(10YR 8/4)	橙(10YR 8/4) 黄橙(10YR 8/6) にぶ黄橙(10YR 7/3)	3ミリ以下の褐色・灰・灰褐色・半透明の砂粒を含む	内面は風化気味
147	弥生	甕	SL3				ナデ 工具ナデ	ナデ 横ナデ	浅黄橙(10YR 8/4)	淡黄(2.5Y 8/4) 暗灰黄(2.5Y 5/2)	3ミリ以下の灰褐・赤褐・褐・褐灰色の砂粒、2ミリ以下の半透明、透明の光沢粒を含む	内面に炭化物着
148	弥生	甕	SL3				ナデ 斜方向の工具 ナデ	横・斜方向の ナデ	明褐(7.5YR 5/6) 暗褐(7.5YR 3/3) 明灰褐(10YR 7/6)	黄橙(10YR 8/6) 浅黄橙(10YR 8/4)	5ミリ以下の赤褐・灰褐・灰色の砂粒、1~2ミリの半透明の光沢粒を少し含む。	
149	弥生	甕	SL3				横・斜方向の ナデ	工具ナデ	黄橙(10YR 8/6)	浅黄橙(10YR 8/4)	3ミリ以下の黒・灰・褐色・灰白の砂粒を多く含む 2ミリ以下の黒・透明の光沢粒を少し含む。	
150	弥生	壺	SL3				ナデ (工具痕あり)	ナデ (工具痕あり)	黄橙(10YR 8/6) 浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4) にぶ黄橙(10YR 7/4)	4ミリ以下の赤褐・褐灰色の砂粒 3ミリ以下の灰・灰褐・灰白色の砂粒 2ミリ以下の透明・黒色の光沢粒を含む	
151	弥生	壺	SL3		3.4		斜方向のハケ目 の後ナデ、ナデ	指押さえ ハケ目	黄(5YR 7/6) にぶ黄(5YR 7/4) にぶ黄橙(10YR 7/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	2ミリ以下の赤褐・橙・灰・褐灰色の砂粒 2ミリ以下の黒色の光沢粒を含む	外面にスス附着
152	弥生	甕	SC2				横ナデ	横ナデ	橙(5YR 7/6)	黄橙(10YR 8/6) 橙(5YR 7/6)	2ミリ以下の灰・褐色・黒・半透明の砂粒を含む。	外面にスス附着
153	弥生	甕	SC2	13.9	4.95	15.5	粗いナデ・指 押さえ (工具痕あり)	ナデ (工具痕あり) 指押さえ	にぶ黄(10YR 7/4) にぶ黄橙(10YR 7/3)	浅黄橙(10YR 8/3) 褐灰(10YR 6/1) 褐灰(10YR 4/1)	4~5ミリ以下の褐・赤褐色粒 3ミリ以下の灰・褐色砂粒を含む	外面全体にスス附着 あげ底
154	弥生	甕		13.1			横・斜方向の ナデ(工具痕 あり)	横・斜方向の ナデ(工具痕 あり)	橙(5YR 7/6) にぶ黄橙(10YR 7/4)	橙(5YR 7/6)	5ミリ以下の褐色・赤褐色粒 4ミリ以下の灰色・乳白色粒 2ミリ以下の黒色・半透明等光沢粒を含む	
155	弥生	甕		17.7			ナデ 横・斜方向の ナデ	ナデ 横・斜方向の ナデ	橙(5YR 7/8)	淡橙(5YR 8/4) 浅黄橙(7.5YR 8/6)	4~5ミリ大の褐色の粒 3ミリ以下の灰・褐色・黒い半透明の砂粒 2ミリ以下の透明の光沢粒を含む。	
156	弥生	甕					横ナデ	横ナデ	にぶ黄橙(10YR 7/3 6/3)	にぶ黄(10YR 5/4) にぶ黄橙(10YR 7/3)	6.5ミリ以下の褐色粒、3.5ミリ以下の半透明光沢粒、3ミリ以下の白色粒を含む	
157	弥生	甕					ナデ	ナデ	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	4ミリ以下の黒褐・赤褐色粒 3.5ミリ以下の灰白色粒 2ミリ以下の半透明・黒色等光沢粒を含む	
158	弥生	甕					ナデ 斜方向のナデ	ナデ (工具痕あり)	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/6) にぶ黄橙	3~4ミリ大の灰褐色の粒 2ミリ以下の褐色・灰褐色・半透明の砂粒を含む	外面にスス附着
159	弥生	甕					ナデ (工具痕)	横ナデ・斜方 向のナデ (工具痕)	橙(5YR 7/6)	浅黄橙(10YR 8/4)	3ミリ以下の褐色粒、2ミリ以下の黒色粒・半透明・透明・黒色等光沢粒を含む。	
160	弥生	甕					ナデ(縦・斜 方向のハケ目)	ナデ(横・斜 方向のハケ目)	にぶ黄橙(10YR 7/3)	浅黄橙(10YR 8/4) にぶ黄橙(10YR 7/4)	4ミリ以下の赤褐色粒、2.5ミリ以下の灰色・乳白色粒、2ミリ以下の半透明光沢粒を含む。	
161	弥生	甕					ナデ (一部にミガキ)	ミガキ	橙(7.5YR 6/6) にぶ褐(7.5YR 5/3)	灰褐(5YR 4/2)	2ミリ以下の赤褐・灰色粒 1ミリ以下の光沢粒を含む	
162	弥生	甕					ナデ	ナデ 横ナデ	灰白(2.5YR 8/2) にぶ橙(5YR 7/4) 淡橙(5YR 8/4)	灰白(2.5YR 8/2) にぶ橙(5YR 7/4)	2.5ミリ以下の褐・黒・灰色・半透明光沢粒、2ミリ以下の透明光沢粒、1.5ミリ以下の黒色光沢粒を含む	
163	弥生	甕					ナデ	ナデ	明黄橙(10YR 7/6) にぶ黄橙(10YR 6/3)	にぶ黄橙(10YR 6/3 7/4)	1.5ミリ以下の褐色粒・黒色・半透明等光沢粒及び、微細な淡黄色粒を含む	
164	弥生	甕					ナデ	ナデ	明黄橙(10YR 7/6) にぶ黄橙(10YR 6/3)	にぶ黄橙(10YR 6/3 7/4)	1.5ミリ以下の褐色粒・黒色・半透明等光沢粒 微細な淡黄橙を含む	
165	弥生	甕		6.5			ナデ	ナデ	橙(5YR 7/6) 橙(7.5YR 7/6) 黒褐(5YR 3/1)	浅黄橙(10YR 8/4)	2.5ミリ以下の褐色粒 2ミリ以下の半透明・黒色等光沢粒を含む	外面にスス附着 あげ底
166	弥生	甕		4.6			ナデ	ナデ	淡黄(2.5YR 8/4) 黒褐(2.5YR 3/1)	淡黄(2.5YR 8/3) 灰(2.5Y 6/1)	3ミリ以下の褐色・乳白色・半透明・黒・灰褐色の砂粒を多く含む。 2ミリ以下の透明の砂粒を含む	内外面に風化気味 外面に一部黒斑
167	弥生	甕					ナデ (工具痕あり)	ナデ (工具痕あり)	にぶ赤褐(5YR 5/4) 暗赤褐(5YR 3/2)	橙(5YR 6/6) 橙(7.5YR 6/6)	4ミリ以下の赤褐色粒 2.5ミリ以下の半透明光沢粒・白色粒を含む	刻み目突帯 外面にスス附着
168	弥生	甕		6.5			縦方向のナデ 指ナデ ナデ・指押さえ	縦・斜方向の ナデ 指押さえ	明褐(10YR 7/4) 橙(5YR 7/6)	明褐灰(7.5YR 7/2)	4~5ミリ大の褐色の粒 3ミリ以下の灰・褐色・灰白の砂粒 2ミリ以下の透明の光沢粒を含む	底部付近に粘土の たるみ 内面に炭化物お底
169	弥生	甕		6.4			斜方向の工具 ナデ	斜方向のナデ	にぶ黄(7.5YR 6/4) 橙(7.5YR 7/6)	黒褐(10YR 2/2)	3ミリ以下の灰・黒・褐色・半透明の砂粒を含む	
170	弥生	甕		4.8			粗なナデ ナデ	ナデ	橙(5YR 7/6) 褐灰(5YR 4/1)	橙(5YR 7/6) 褐灰(5YR 4/1)	4ミリ大の灰褐色・暗褐色の粒 3ミリ以下の灰褐色・灰白・褐色・乳白色・黒の砂粒・透明の光沢粒を含む	あげ底

表16 中大五郎第2遺跡出土弥生土器観察表(8)

レイト 分類	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
171	弥生	甕			5.9		ナデ	ナデ	にぶい橙(5YR 7/4) にぶい橙(10YR 7/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	3ミリ以下の灰褐色・灰・赤褐色・黒・半透明の砂粒、黒・透明の光沢粒を含む	
172	弥生	壺			7.4		ナデ (縦方向の工具痕あり)	ナデ	浅黄橙(5YR 8/4) 明黄灰(5YR 7/1) 橙(2.5YR 7/6)	にぶい橙(7.5YR 7/4) 褐灰(10YR 4/1)	3ミリ以下の赤褐色・黒・半透明・灰褐色の砂粒 2ミリ以下の黒い光沢粒を含む	あげ底
173	弥生	壺			3.0		ナデ	ナデ	淡橙(5YR 8/4)	橙(5YR 7/6)	3ミリ以下の灰・褐色・黒の砂粒を多量に含む 2ミリ以下の半透明・透明・黒の光沢粒を含む	
174	弥生	壺					ナデ 工具痕	ナデ 指押さえ	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	4~5ミリ大の灰褐色の粒 3ミリ以下の灰・黒・灰白・褐色の砂粒を多量に含む。	外面にス付着砂粒を含む。
175	弥生	壺					ナデ	ナデ	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	3ミリ以下の灰色・褐色粒 2ミリ以下の半透明光沢粒を含む	
176	弥生	壺						ナデ	浅黄橙(10YR 8/4)	にぶい橙(7.5YR 7/4)	4ミリ以下の褐色粒、3ミリ以下の灰色粒 2ミリ以下の黒色・半透明等光沢粒を含む	櫛描波状文 二重口縁
177	弥生	壺					ナデ	ナデ	にぶい橙(5YR 7/4)	浅黄橙(10YR 8/3) 淡橙(5YR 8/4)	6ミリ以下の褐色粒、2ミリ以下の乳白色粒・半透明・黒色等光沢粒を含む。	櫛描波状文 二重口縁
178	弥生	壺		10.3			横ナデ 縦・斜方向の 工具ナデ	工具ナデ・ナデ 指押さえ	橙(5YR 7/8 7/6)	灰白(7.5YR 8/2) 浅黄橙(10YR 8/3)	4ミリ以下の赤褐色粒 35ミリ以下の灰色粒、25ミリ以下の半透明光沢粒、2ミリ以下の黒色光沢粒・乳白色粒を含む	
179	弥生	壺		8.6			横ナデ	横ナデ 指押さえ	浅黄橙(10YR 8/4)	淡黄(2.5YR 8/4)	3.5ミリ以下の灰色・赤褐色粒 1.5ミリ以下の半透明光沢粒を含む	
180	弥生	壺		11.5			横・縦のナデ	横・斜方向の ナデ	橙(2.5YR 7/6) にぶい橙(5YR 7/4)	灰褐(10YR 5/1) にぶい橙(7.5YR 7/4)	3~4ミリ大の灰褐色の粒を少し含む 微細な砂粒・光沢粒を多く含む。	内外面に黒斑
181	弥生	壺		22.2			横・縦・斜方向 のミガキ、ナデ	横・縦・斜方向 のナデ、ナデ	にぶい橙(10YR 7/4) にぶい橙(7.5YR 7/4) 浅黄橙(7.5YR 8/4)	にぶい橙(10YR 7/4) にぶい橙(7.5YR 7/4) 浅黄橙(10YR 8/4)	5.5ミリ以下の灰色粒、5.5ミリ以下の赤褐色粒、3.5ミリ以下の黒・褐色粒、2.5ミリ以下の透明光沢粒、2ミリ以下の黒色光沢粒を多く含む	二重口縁 櫛描波状文 外面に黒斑
182	弥生	壺					ナデ	横ナデ	浅黄橙(10YR 8/4) 灰黄橙(10YR 6/2)	褐灰(10YR 6/1)	4ミリ以下の灰・灰白・黒・褐色の砂粒を含む	刻目突帯 外面一部分的に黒変
183	弥生	壺					横ナデ、ナデ	ナデ	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	0.5~4ミリ大の赤褐色粒を少し、2ミリ以下の褐・黒・灰・灰褐色の砂粒を多く含む	貼付突帯
184	弥生	壺					横ナデ	横ナデ	橙(5YR 7/6)	褐灰(5YR 5/1)	3ミリ以下の灰・黒色・半透明の砂粒・透明の光沢粒を含む。	線刻
185	弥生	壺		10.5			横・斜方向のミガキ 斜方向のハケ目 斜方向のハケ目 一部縦方向の指ナデ	横方向のミガキ 斜方向のハケ目 一部縦方向の指ナデ	明黄橙(2.5YR 5/6) 橙(5YR 6/6) 7.5YR 7/6	橙(7.5YR 6/8) にぶい橙(5YR 7/3)	6ミリ以下の褐色粒、3ミリ以下の赤褐色粒、2.5ミリ以下の半透明光沢粒を含む。	内面…風化気味
186	弥生	壺		9.4			横・縦・斜方向 のナデ 工具痕あり	横・斜方向の ナデ	橙(2.5YR 7/6) 浅黄橙(7.5YR 8/4) 褐灰(10YR 4/1)	灰白(10YR 8/2) 褐灰(10YR 5/1) 橙(2.5YR 7/6)	4~5ミリ大の灰褐色・暗褐色の粒 3ミリ以下の灰・黒・褐色・暗褐色の砂粒を多く含む	
187	弥生	壺					ナデ	ナデ 指押さえ	明褐(7.5YR 5/6) 橙(5YR 6/6)	橙(5YR 6/6) にぶい橙(5YR 6/4)	3ミリ以下の褐色粒を含む	
188	弥生	高坏			3.1		ナデ 指押さえ 斜方向のハケ目	ナデ 指押さえ	にぶい黄橙(10YR 7/4)	灰白(2.5YR 7/1) 黄灰(2.5YR 5/1)	3ミリ以下の灰・褐色・灰白の砂粒 2ミリ以下の透明の光沢粒を含む	
189	弥生	高坏			34.9		ナデ	ミガキ	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	5ミリ以下の赤褐色 4ミリ以下の灰色・黒色の粒 2ミリ以下の半透明・黒色等光沢粒・乳白色粒を含む	外面は全体的に風化 内面は風化気味
190	弥生	高坏			35.8		横ナデ 縦方向のミガキ	横方向のミガキ …坏部・脚部	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4) 黒(10YR 7/1)…坏部 にぶい橙(7.5YR 7/4)…脚部	5ミリ以下の赤褐色の粒、3ミリ以下の赤褐色・灰・黒・褐色・半透明の砂粒を含む	四方透しか。
191	弥生	高坏			29.7		横ナデ 横・斜方向 のミガキ 縦・斜方向のミガキ	横・斜方向の ミガキ	浅黄橙(10YR 8/4) 7.5YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4) 灰黄(2.5YR 6/2) にぶい橙(10YR 8/3)	3ミリ以下の褐・赤褐色粒・半透明の光沢粒、 2ミリ以下の黄・灰白色粒・黒色光沢粒を含む	暗紋
192	弥生	高坏					ミガキ	ナデ、ハケ目の後 ミガキ、ハケ目	橙(5YR 6/6)	にぶい橙(5YR 7/4) 橙(2.5YR 6/6)	3ミリ以下の暗褐・灰白色の砂粒・ 黒色光沢粒を少し含む	
193	弥生	高坏			13.0		ナデ・横ナデ 指押さえ	ナデ・横ナデ 指押さえ	橙(5YR 6/6)	橙(5YR 7/6 6/6)	4.5ミリ以下の褐色粒 3ミリ以下の赤褐色粒 1ミリ以下の乳白色粒を含む	
194	弥生	高坏					横ナデ	横・縦方向の ナデ	橙(2.5YR 6/6)	黄灰(2.5YR 4/1)	2ミリ以下の赤褐色・灰色粒 1.5ミリ以下の黒色光沢粒を含む	内面…黒変
195	弥生	鉢		25.8	3.1	7.2	ナデ	ナデ	橙(5YR 7/6) 黄橙(10YR 8/6) 灰褐(7.5YR 5/2)	浅黄橙(7.5YR 8/6) 浅黄橙(10YR 8/4) 灰黄橙(10YR 5/2)	3ミリ以下の赤褐色・褐色・灰・黒の砂粒 1ミリ以下の微細な砂粒・光沢粒を多く含む	内外面に風化気味 内外面共に一部黒変

第18表 中大五郎第2遺跡 掘立柱建物一覽表

遺構番号	規模(間)	方向	桁		行		梁		行間	方位	床面積	柱 状 態		備考	
			実長	柱間	実長	柱間	柱 数	p i t 径				p i t 深			
S B 1	1 × 3	E ~ W	594	198	335	335	335	335	335	N90° E	208.8cm	8	22~34	11~24	
S B 2	1 × 4	S ~ N	581	145	316	316	316	316	316	N 6° E	184.8cm	10	30~49	10~24	
S B 3	2 × 3	E ~ W	620	207	357	179	357	179	179	N84° E	219.6cm	10	20~34	6 ~ 14	
S B 4	1 × 3	NW ~ SE	628	209	218	218	218	218	218	N28.5° E	233.186cm	8	22~31	9 ~ 22	
S B 5	2 × 2	E ~ W	523	262	385	193	385	193	193	N82° E	199.43cm	8	17~29	5 ~ 14	
S B 6	2 × 3	E ~ W	566	189	325	163	325	163	163	N74° E	181.256cm	9	19~29	7 ~ 14	
S B 7	2 × 4	S ~ N	439	110	256	128	256	128	128	N 7° W	123.84cm	12	12~29	9 ~ 18	
S B 8	2 × 3	E ~ W	692	208	418	209	418	209	209	N87.5° W	290.368cm	13	29~40	13~45	一面庇
S B 9	1 × 4	E ~ W	689	172	312	312	312	312	312	N87° E	200.31cm	10	26~38	7 ~ 13	
S B 10	2 × 3	NW ~ SE	552	184	349	175	349	175	175	N14° E	190.784cm	10	15~32	6 ~ 14	

第19表 中大五郎第2遺跡 竪穴住居跡一覽表

遺構番号	平面形	棟方位	規 模 (cm)			柱 穴 数	柱 状 態 (cm)	備考		
			長 軸	短 軸					平均径	平均深
				深さ	深さ					
S A 1	長方形	N88° E	680	450	28.0	2	30~32.5	38.5		
S A 2	長方形	N81° E	600	450	12.5	2	31.5~33	54.5		
S A 3	円形花卉状	N7.5° W	930	900	16.0	5	30~32.6	40.4		
S A 4	不整形	N6.5° W	485	387	22.0	2	25.5~28	42.5		
S A 5	方形花卉状	N 0° E	545	380	13.0	1	37~39	31.0		
S A 6	方 形	N84.5° E	550	400	19.0	2	33~40.5	40.5		

胎土は2mm以下の灰色・茶色の砂粒を含んでいる。19も二重口縁の櫛描波状紋をもつタイプで、口径は18.3cmである。調整は、外面に横ナデと縦方向のハケ目を施してある。内面は横ナデや一部斜め方向のナデ調整が施されている。胎土は、3mm以下の灰褐・黒・灰白・茶色半透明の砂粒を多く含む。また、2mm以下の黒色・透明の光沢粒を含んでいる。20は、小型の壺で底部は、丸底である。胴部が丸く張り、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反するものである。口径が5.8cmで器高が12.4cmである。外面の調整はナデや縦・斜め方向のハケ目がみられ内面は、ナデや指押さえがみられる。21は、壺で胴部が丸く張りをもつタイプで外面の調整は、横・斜め方向のハケ目・縦方向のナデの後ミガキが施され、内面は縦方向の指ナデ縦・横・斜め方向のハケ目を有する。色調は、外面が橙で内面が鈍い橙になっている。胎土は、3mm以下の赤褐・茶・淡橙の砂粒を多く含んでいる。22は、壺の底部で平底のタイプである。底径は、7.4cmである。外面の調整は、縦・斜め方向のハケ目やナデを施されている。色調は外面が浅黄橙で内面が褐灰である。胎土は、3mm以下の灰白・褐・黒色・半透明の砂粒を多く含んでいる。

高坏 (23~29)・器台 (30)・台付鉢 (31)・高台付碗 (32)・ミニチュア (33・34) 壺 (35)

23は、高坏の口縁部で口径は、22.5cmである。内外面の調整は横ナデやミガキ・横ナデや工具ナデの後ミガキが施されている。内外面の色調は橙である。胎土は2mm以下の茶・灰・灰白の砂粒、1mm以下の黒色・透明の光沢粒がみられる。24は、高坏の完形品で口縁部が大きく外反するもので底部はラッパ状を呈している。内外面の調整は横・斜め方向のナデやミガキ等が施してある。色調は、外面が橙と浅黄橙で内面が橙とにぶい黄橙である。胎土は、4mm大の褐色粒・3mm以下の褐・灰・黒色・半透明の砂粒・黒・透明の光沢粒を含む。25は、高坏の脚部で調整は、外面が横・縦方向のミガキで内面が縦方向のナデとミガキである。色調は外面が浅黄橙で内面が褐灰である。胎土は3mm以下の茶・黒・灰褐色の砂粒・黒色・透明の光沢粒を少し含んでいる。26は、高坏で脚部に三方透かしをもつもので口縁部が外反するが24よりも短めである。27は、高坏で調整は外面が縦方向のミガキで内面が指押さえとナデ調整が施されている。色調は、外面が橙で内面にぶい黄橙である。3mm以下の黒・灰・茶色の砂粒で透明・黒色の光沢粒を含む。28は、高坏の脚部で調整は内外面は、ナデやミガキなどである。色調は外面が橙と浅黄橙で内面が橙である。3mm以下の褐・灰・黒色・半透明の砂粒である。透明・黒色の光沢粒を含む。微細な砂粒が多い。29は、高坏で脚部がラッパ状を呈したものである。調整は、ミガキや横方向のミガキをもつものである。色調は内外面ともに橙を呈する。胎土は2mm以下の赤褐・灰・黒色・半透明の砂粒を含む。30は、器台の底部でラッパ状を呈している。調整は、外面がハケ目の後、縦方向のミガキで縦方向のハケ目をほどこしているものである。色調は外面が橙で内面が浅黄橙や橙を呈しているものである。7mm以下の赤褐色粒、4mm以下の灰色粒、3mm以下の灰白・黒色粒・2.5mm以下の半透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。31は、台付鉢で口唇部が外反している。調整は、外面がナデや縦方向のナデで内面が横・斜め方向のナデ調整である。色調は、外面が黄橙と鈍い黄橙である。胎土は、2mm以下の赤褐色・褐色・灰色の粒・1mm以下の半透明光沢粒または、乳白色の粒を含む。32は、高台付碗で外面の調整は縦・斜め方向のミガキで内面は縦・横方向のミガキがある。色調は内外面と

もに橙である。胎土は1mm以下の褐色・赤褐色・半透明の光沢粒である。0.5mm以下の黒色光沢粒や乳白色粒を含んでいる。33は、ミニチュアの鉢で丸底で口径が8.8cmで器高が5.5cmである。調整は、外面がナデで内面はナデと指押さえである。色調は外面が黄橙と橙で内面が橙である。34もミニチュアの鉢である。口径が3.3cmである。外面の調整は、外面はナデ調整で内面はナデと指押さえである。内外面の色調は浅黄橙である。胎土の状況は、2mm以下の灰白色粒で1mm以下の黒色粒・赤褐色粒・半透明の黒色等光沢粒を含んでいる。35は、3つ口の壺で外面の調整は横ナデと指押さえである。内面は横ナデと指押さえと縦方向の工具跡がみられる。

SA2 出土の遺物

甕 (36~39)

36は、甕の完形で胴部の張りが少なく口縁部がくの字に外反するもので口径が22.3cmで内外面の調整は、横・縦方向のナデ調整が施されている。色調は内外面ともに橙である。37は、甕の口縁部から胴部で口縁部がくの字口縁が外反するもので胴部の張りが少ない。調整は、外面が斜め・縦方向のミガキや横方向のミガキがみられる。色調は内外面ともに橙である。胎土の状況は、4.5mm以下の赤褐色粒・4mm以下の黒色・灰色の粒で3mm以下の半透明・透明光沢粒・乳白色粒を多く含んでいる。38は、甕の口縁部から胴部で口径は13.2cmで調整は外面が斜め・縦方向のミガキで内面が横方向のミガキとハケ目の後、横・斜め方向のミガキが施されている。39は、甕で口径が25.4cmで底径が7.5cmで器高は、29.2cmで口縁部が区の字に外反するものである。調整は、外面に指押さえや横・縦方向のナデを持ち、内面に横・斜め方向のナデと工具による上方向のナデや指押さえが施してある。色調は外面が浅黄橙と黄橙で内面が浅黄橙と橙である。胎土の状況は、6mm以下の灰色粒と4mm以下の乳白色粒で5mm以下の褐色・赤褐色の粒や2mm以下の黒色の光沢粒を多量に含んでいる。

壺 (40~42)・高坏 (43)・鉢 (44)

40は、壺の完形品で頸部があまり絞まらず緩やか気味に立ち上がるものである。口径が8.45cmで底径は、18.95cmで器高は10.05cmである。外面の調整は横ナデとハケ目で指ナデが施してあり、底部に工具痕もみられる。内面は指ナデが施してある。色調は内外面ともに橙である。41も壺の完形品で頸部が40よりも絞まり気味で口縁部が外反するタイプのもので胴部が丸く張っている。口径が8.4cmで底径が4.4cmで器高が18.5cmである。調整は、横ナデや斜め方向のナデを外面に横ナデを内面に施してある。色調は浅黄橙が外面で黄橙が内面である。胎土は、4mm以下の赤褐色の粒や2.5mm以下の褐色粒・半透明の光沢粒や灰色・黒・茶色の砂粒を含む。42は、壺の口縁部で二重口縁の櫛描波状紋である。調整は、外面がナデ調整と工具痕が施され、内面は、横方向の指ナデと指押さえが施されている。色調は、外面が浅黄橙と内面が黄橙である。4mm以下の茶・灰・褐色・半透明の砂粒を含んでいる。

43は、高坏の脚部でラッパ状を呈している。底径は20.75mmで調整は、縦方向のミガキを外部にナデや指ナデを内面に施している。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土は2.5mm以下の赤褐色粒で2mm以下の灰色粒や1mm以下の乳白色粒や半透明・黒色等の光沢粒も含まれている。

44は、鉢で口径が23.3cmで底径が8.4cm・器高が17.8cmで調整は、外面に工具による横・斜め方向のナデや内面は工具による横・斜め方向のナデや斜め方向のハケ目がみられる。色調は浅黄橙や橙が外面に施され、内面に橙が施されている。3mm以下の赤褐色・茶色・灰色の砂粒を含んでいる。

S A 3 出土の遺物 甕 (45~46)・壺 (47~49)・鉢 (50)・ミニチュア (51~52)・紡錘車 (53)

45は、甕の口縁部で口径が21.6cmで調整は、外面に横ナデやハケ目工具ナデを施してあり、内面は横ナデ調整である。色調は、外面が橙で内面は浅黄橙と橙である。胎土は、3mm以下の茶色・灰色・半透明・黒の砂粒を含んでいる。46は、甕の口縁部で調整は、内外面ともに斜め方向のナデである。色調は、外面が浅黄橙で内面が黄橙である。2mm以下の灰黒・褐色の砂粒を含んでいる。47は、壺の完形で口径が8.5cmで底径が2.1cmである。器高は14.1cmである。胴部が丸く張りやや直線的に立ち上がるものである。調整は、外面が横ナデや工具ナデで内面が横ナデや指押さえ等である。色調は外面が鈍い橙で内面が明褐灰で淡橙である。胎土は、3mm以下の灰白・茶色・乳白色・半透明の砂粒を含んでいる。48は、壺の胴部で丸い張りをもつものである。調整は、斜め方向の工具ナデや内面は、斜め方向のナデや横方向の工具ナデが施してあり、色調は外面が浅黄橙や褐灰で内面は灰白である。胎土の状況は3mm以下の灰白・黒・茶の砂粒や2mm以下の透明の砂粒を含む。49は、壺の胴部から底部で平底である。調整は外面が工具ナデや指ナデ・ナデが施されていて内面は、横・縦方向の工具ナデが施されている。色調は外面が橙と鈍い橙で内面が浅黄橙である。胎土は、3mm以下の茶・灰・灰白の砂粒・透明の光沢粒を含んでいる。50は、鉢の完形で平底のタイプである。口径が18.7cmで底径が5.5cm・器高が8.8cmである。調整は、外面が横ナデやナデ・指押さえが施されている。内面にナデや放射状にハケ目がみられる。色調は外面が橙・褐灰・黒褐で内面が褐灰・浅黄橙・鈍い橙である。胎土は、4mm以下の暗灰・灰白・茶色の砂粒を含んでいる。51は、ミニチュアの鉢で口径が6.6cmで底径が2.2cmである。また、器高が4.7cmである。内外面の調整は外面がミガキで内面がナデである。52もミニチュアで口径5.55cm・2.05cm・3.3cmである。調整は内外面が指ナデやナデ調整が施してある。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土は3mm以下の灰・茶・半透明の砂粒が含まれている。53は、紡錘車で外面の調整はナデで色調は外面が灰褐である。3mm以下の茶褐色・乳白色の砂粒を含んでいる。

S A 4 出土の遺物

甕 (54~58)・壺 (59)・高台付碗 (60)・高坏 (61)・ミニチュア (62)

54は、甕の口縁部で緩やかに外反するタイプである。調整は外面にナデや横ナデを内面に指ナデや斜め方向に工具痕等がみられる。色調は外面が淡黄で内面が灰白である。胎土の状況は、4mm大の茶色の粒・3mm以下の灰・赤・褐色・茶色の砂粒を含んでいる。55も甕の口縁部で内外面の調整は、横ナデとナデ調整で色調は外面が浅黄橙で内面はそれに灰白が含まれている。胎土の状況は3mm以下の灰褐色・茶色の砂粒・透明の光沢粒を含んでいる。56も甕の口縁部で調整は内外面ともにナデ調整で色調も内外面ともに浅黄橙である。胎土は2mm以下の灰褐・茶

の砂粒を含んでいる。57は、甕の胴部から底部で平底のタイプである。底径が8.8cm で外面の調整は横・縦方向のナデ調整が施されている。外面の色調は明褐灰と内面の色調は灰白である。3～5mm大の茶・灰褐色の粒・2mm以下の灰・茶色・灰白・黒の砂粒を含んでいる。58は、甕の底部で上げ底である。底径は、5.1cmで調整は内外面ともにナデ調整が施されている。色調は外面はにぶい黄橙で内面が浅黄橙である。4～7mm大の茶・灰褐色の粒・3mm以下の灰白・茶・半透明の砂粒を含んでいる。59は、壺の口縁部でくの字に大きく外反するもので、口径が12.3cmである。外面の調整は、横ナデと工具痕をもつ縦ナデである。内面はナデと縦方向の指ナデが施してある。色調は外面が浅黄橙と内面が橙である。胎土の状況は2mm以下の灰白・褐灰・茶・半透明の砂粒や黒・透明の光沢粒を含んでいる。60は、高台付碗の底部から脚部で、調整は、内外面ともに荒いナデを施している。色調は外面が橙で内面が黄橙である。3mm以下の灰白・茶・灰色の砂粒をおおく含んでいる。61は、高坏の口縁部で調整は、横方向の工具ナデや横ナデを外面に横方向の工具ナデを内面に施してある。62は、ミニチュアの甕で上げ底である。口径が2.2cm・底径が2.65cm・器高が5.9cmで外面の調整は荒いナデや指押さえやナデ調整を施している。内面はナデ調整である。色調は外面が黄橙で内面が浅黄橙である。胎土は2mm以下の黒い灰白・灰色の砂粒を多く含んでいる。

S A 5 出土の遺物

甕 (63～65)・壺 (66)・鉢 (67)

63は、甕の口縁部で口唇部にかけて緩やかに外反するタイプである。外面の調整はナデ調整で内面に横・斜め方向のナデ調整が施されている。色調は、外面が黄灰で内面が灰黄である。4mm大の褐色の粒が3mm以下の灰白・灰褐色の砂粒を含んでいる。64は、甕の口縁部で口唇部がゆるく外反しているタイプのもので調整は外面が横ナデやナデの後斜め方向のハケ目が施されている。色調は、黄橙が外面で内面は浅黄橙である。65は、甕の口縁部で調整は、外面がナデや横ナデ調整が施されている。内面は横ナデや指ナデ調整がある。色調は、内外面ともに橙である。3mm以下の灰褐・灰・茶・黒色・半透明の砂粒・黒色の光沢粒を含まれている。66は、壺の口縁部で口唇部が外反するものである。内外面の調整は、横ナデやナデ調整を施している。色調は内外面ともに橙である。胎土の状況は3mm以下の灰白・褐・黒色・半透明の砂粒を含んでいる。67は、鉢で上げ底である。口径は、11.9cm・5.8cm・11cmである。調整は外面が横・斜めのナデと指押さえで内面がナデと指ナデと指押さえである。色調は内外面ともに浅黄橙である。胎土の状況は4mm以下の灰・黒・褐色の砂粒を含んでいる。

S A 6 出土の遺物 甕 (68～70)・壺 (71)・高坏 (72～76)・ミニチュア (77)

68は甕で胴部が張り、くの字に外反するものである。底部は平底である。口径が23cmで底径が41cmで器高が19.3cmである。調整は、内外面にナデや横方向の工具ナデが施されている。色調は内外面ともに浅黄橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は、4.5mm以下の灰色粒・4mm以下の黒褐色粒・3mm以下の黒色粒・2.5mm以下の褐色粒・赤褐色・黒色光沢粒・2mm以下の黄色粒が含まれている。69は、甕の胴部で調整は外面に荒いナデや斜め方向のナデや内面はナデ調整で

ある。色調は内外面ともに赤褐である。2mm以下の暗赤褐色・乳白色・半透明の砂粒が含まれる。70は、甕の胴部で内外面の調整は縦・斜め方向のナデや工具ナデである。色調は外面が黄橙とにぶい黄橙で内面が浅黄橙である。胎土の状況は3mm以下の褐色・灰色・黒・半透明の砂粒を含んでいる。また、外面に沈線が施されている。71は、壺の胴部から底部で平底である。調整は、外面にナデ調整が施され内面にはナデや指押さえ・指ナデがみられる。色調は外面が橙で内面が黄灰である。胎土の調整は、5mm以下の褐色粒・3.5mm以下の黒色・灰白色粒・2.5mm以下の半透明・黒色・光沢粒・2mm以下の赤褐色・乳白色・透明光沢粒を含んでいる。72は、高坏の坏の部分で調整は、外面に斜め方向のナデやミガキが施され、内面は斜め方向のナデやヘラ磨きが施されている。色調は、外面が橙で、内面が浅黄橙が褐灰である。3mm以下の灰・褐色・半透明の砂粒・黒の光沢粒を含んでいる。73は、高坏の口縁部で内外面の調整は、ミガキが施されている。色調は外面は橙と黒褐で内面は橙である。胎土の状況は、3mm以下の赤褐・茶・黒の砂粒・透明・黒・の微細な光沢粒を含んでいる。74は、高坏の胴部で調整は、外面に横方向のミガキが施され、内面に横方向の丁寧なミガキが施されている。色調は浅黄橙と褐灰が外面で内面が黒褐である。胎土の状況は、4mm大の黒色粒・3mm以下の灰白・黒・半透明砂粒・黒の光沢粒を含んでいる。75は、高坏の脚部で透かしをもっている。外面の調整は縦方向のミガキや縦方向のナデが施されていて内面の調整は横斜め方向のハケ目や横ナデが施されている。色調は外面が鈍い黄橙で内面が浅黄橙で4mm大の黒色粒・3mm以下の黒褐色・灰白・黄橙・半透明砂粒を含んでいる。76も高坏の脚部で底径が21.7cmで内外面の調整は、ミガキや横ナデが施してある。内外面の色調は橙や黄橙である。胎土の状況は、3mm以下の赤褐色・灰色・黒の砂粒を含んでいる。77は、ミニチュアの高坏の脚部で内外面の調整はナデ調整である。色調は内外面ともににぶい黄橙である。胎土は1mm以下の赤褐色粒を含んでいる。

SL1 出土の遺物

甕 (78~94)

78は、甕の完形で胴部が少し張り口縁部がくの字に外反するもので口径が26.4cmで底径が8.6cmで器高が33.1cmである。調整は内外面に横・斜め方向のナデや工具痕がある。色調は外面が橙と浅黄橙である。胎土は、6.5mm以下の赤褐色・5.5mm以下の灰色・5mm以下の黄色・4mm以下の褐色・乳白色・半透明光沢粒・3.5mm以下の黒色・3mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。79も甕の完形で口縁部は口径は、22.8cm・底径は5.3cm・器高は、29.75cmである。調整は、外面に斜め方向のナデ調整と横・縦方向の工具ナデが施されている。内面には、横・縦・斜め方向のナデ調整が施されている。色調は、外面が橙とにぶい褐・内面が橙と黒褐である。胎土の状況は、4.5mm以下の灰色・乳白色粒・3.5mm以下の褐色粒・3mm以下の半透明光沢粒・2.5mm以下の赤褐色粒・2mm以下の黒色粒が含まれる。80は、甕の完形で口径は25.7cm・底径は5.9cm・器高は、31cmである。外面の調整は縦・横・斜め方向のナデ調整が施され、内面にはナデ・斜め方向のナデや指押さえ等が施されている。色調は、外面が橙・にぶい橙・黒褐で内面は橙で、灰褐・黒褐である。胎土の状況は、5.5mm以下の赤褐色・4mm以下の灰色・黒色の褐色粒及び半透明の

褐色粒を含んでいる。81は、甕の完形で口径は22.65cm・底径は5.6cm・器高は、27.7cmで、調整は、縦斜め方向の工具ナデや横ナデを施している。内面は縦・斜め方向の工具ナデや横ナデを施している。色調は、外面に橙やにぶい赤褐で内面は橙である。胎土の状況は3mm以下の褐・灰褐・赤褐黒の砂粒・微細な黒い透明光沢粒を多く含んでいる。82は、甕の口縁部で、口径は14.8cmである。調整は外面が横ナデや斜め方向のナデで、内面は、工具ナデが施してある。色調は、外面が浅黄橙とにぶい黄橙で内面は浅い黄橙である。胎土の状況は、6mm以下の灰色・灰白色粒・5mm以下の赤褐色粒・3mm以下の半透明光沢粒を含んでいる。83は、甕の口縁部で、口径が17.1cmである。調整は内外面ともに工具ナデである。色調は、外面が橙と明黄褐で内面が橙と浅黄橙である。胎土の状況は、7mm以下の乳白色・4mm以下の褐・赤褐色粒・2.5mm以下の半透明の光沢粒・黒色光沢粒を含んでいる。84は、甕の完形で胴部が少し張り口縁部がくの字に外反するタイプである。口径が28.1cm・底径が6.2cm・器高が34.75cmである。内外面の調整は、ナデや工具ナデが施され、色調は、内外面ににぶい橙や橙・黄橙である。6mm以下の褐色・赤褐色粒4.5mm以下の灰褐色・4mm以下の灰白色・3mm以下の半透明光沢粒を含む。85は、甕の完形で上げ底のタイプである。口縁部の外反部が84よりも小さいようである。口径が24.15cm・底径が5.4cm・器高が33.35cmで内外面の調整は、横・斜め方向のナデ調整を施している。内外面の色調は、褐灰や橙・にぶい赤褐である。胎土の状況は3～5mm大の灰色・褐色粒・3mm以下の灰・灰白・黒の砂粒を多く含んでいる。また、3mm以下の透明光沢粒を少し含んでいる。86は、甕の口縁部から胴部で口径が17.2cmで内外面の調整横・縦・斜め方向のハケ目や横ナデを施されている。内外面の色調は、にぶい赤褐・赤褐・明赤褐で8mm以下の淡黄色粒・4mm以下の赤褐色粒・2mm以下の透明光沢粒を含んでいる。87は、甕の完形で口径は24.7cm・底径は7.8cm・器高は、33.1cmである。内外面の調整は横・縦・斜め方向の工具ナデが施されている。内外面の色調は橙やにぶい黄橙・灰褐色などがみられる。4.5mm以下の赤褐色・4mm以下の灰色粒・3mm以下の透明・半透明光沢粒を含んでいる。88も甕の完形で上げ底で口縁部の反りが短いものである。口径が18.3cm・底径が5.85cmで器高が23.8cmである。内外面の調整は、ナデや指押さえて内外面の色調は、浅黄橙・にぶい褐・橙などである。胎土の状況は6mm以下の赤褐色・褐色粒・4mm以下の黄色・灰白色粒・4mm以下の半透明光沢粒・1.5mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。89は、甕の口縁部から胴部にかけてのもので、口径は24.3cmほどになる。内外面の調整は横ナデ・工具ナデ・斜め方向のナデである。また、内外面の色調は橙・鈍い黄橙・灰黄褐である。5.5mm以下の赤褐・白色粒・5mm以下の灰褐色・灰色の粒・3.5mm以下の半透明光沢粒・2.5mm以下の黒色光沢粒・2mm以下の透明光沢粒を含んでいる。90は、甕の完形で口径が28.1cmで底径が6.9cm・器高は34.15cmで、内外面の調整は、横・斜め方向の工具ナデや横ナデが施してある。内外面の調整は橙で、胎土の状況は6mm以下の赤褐色・4mm以下の灰色・白色粒・半透明光沢粒・3.5mm以下の黒色粒・3mm以下の黒色光沢粒を多く含んでいる。91は、甕の完形で口唇部が外反していて張付刻目突帯を頸部に施している。胴部の張りが少なく底部は平底気味である。口径が30.4cmで底径が7.85cm・器高が47.2cmで外面の調整は、斜め方向のハケ目やナデや指押さえなどがある。内面の調整は、横・斜め方向のハケ目や指ナデがみられる。色調は内外面

に橙やにぶい黄橙・浅黄橙などがみられる。胎土の状況は、5mm以下の褐色・4mm以下の灰色・半透明・黒色光沢粒・3.5mm以下の赤褐色粒を含んでいる。92は、甕で口縁部が短めに外反していて、胴部が丸く張るタイプである。口径が13cmで、器高が16.5cmである。内外面の調整はナデや横ナデである。また内外面の色調は、橙やにぶい橙・にぶい褐である。胎土の状況は、3mm以下の褐・黄色粒・2.5mm以下の灰色粒・2mm以下の半透明光沢粒・1.5mm以下の透明・黒色等光沢粒を含んでいる。93は、甕の完形で胴部の張りが少ないもので底部は平底のタイプである。口径が11.5cmで底径が3.8cmで器高が10.7cmで内外面の調整は、横方向のハケ目と横・斜め方向のナデ調整・ナデなどである。内外面の調整は、浅黄橙と黄橙である。胎土の調整は、4mm以下の褐色・3.5mm以下の灰色・乳白色・3mm以下の黒・赤褐色粒・半透明の光沢粒2.5mm以下の透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を多く含んでいる。94は、甕の完形品で平底で口縁部の外反が少なく、胴部の張りが少ないタイプのものである。口径が15.2cmで底径が3.4cm・器高が16.1cmのもので、内外面の調整は、横・斜め方向に工具ナデが施されている。また、横・斜め方向のハケ目や指押さえが施されている。内外面の色調は橙やにぶい褐で胎土の状況は6mm以下の赤色粒・4mm以下の黄色粒・3mm以下の褐色褐色粒・灰色粒・黒色・半透明等光沢粒を含む。

壺 (95～103)

95から98は、二重口縁で、櫛描波状紋と線刻を施してある。95は、口径が10.8cmで底径が4.8cmで器高が24.3cmである。内外面の調整は、ハケ目・丁寧なナデや横・斜め方向のハケ目・横ナデ・指ナデ等が施されているものが多いようである。内外面の色調は、黄橙やなどの色をしている。99～103は、壺の胴部から底部のもので、99・100・102・103は胴部が丸く張っていて平底のタイプである。それに対して101は、胴部が著しく張っているものである。内外面の調整などはナデや斜め方向のハケ目や指押さえ等が施してある。内外面の色調は、橙やにぶい黄橙等が多い。

高坏 (104～106)

104は、高坏の完形で坏の口縁部が大きく外反するもので脚部がラッパ状を呈するものである。口径が32.4cm底径が19.8cm・器高が24.2cmで内外面の調整は、横・縦方向のミガキや横・斜め方向のミガキや指押さえなどが施されている。内外面の色調は橙や浅黄橙・黒などである。6.5mm以下の赤褐色・4.5mm以下の灰白色・3mm以下の褐色粒・2.5mm以下の半透明黒色等光沢粒を多く含む。105は、坏の下方の部分から脚部の部分で脚部がラッパ状を呈しているものである。底径が19.2cmで内外面の調整は、縦方向のミガキとナデ調整がみられる。内外面の色調は浅黄橙と黄橙・橙である。胎土の状況は6.5mm以下の赤褐色・3.5mm以下の灰色粒・半透明光沢粒・3mm以下の淡黄色・白色粒・2.5mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。106は、高坏の脚部で透かしを3カ所もっている。内外面の調整は、ナデの上をミガキ・指ナデを施している。内外面の色調は、橙と灰黄褐色である。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色・3.5mm以下の褐色粒・2mm以下の黒色・半透明の光沢粒を多く含む。

脚台付鉢 (107~108)

107は、口縁部が大きく外反するタイプのもので底部がラッパ状を呈するものである。口径が18.8cmで底径が11.2cm・器高が15.95cmで内外面の調整は横ナデやナデ調整で内外面の色調は橙と明黄褐色である。胎土の状況は、5.5mm以下の赤褐色・灰色・褐色粒・4mm以下の黒色光沢粒・2.5mm以下の半透明光沢粒を多く含む。108は、107より胴部が張り口縁部の反りが小さいものである。内外面の調整は、ナデ・縦方向の工具ナデなどが施されている。また、内外面の調整は橙が多い。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の褐色粒・灰色粒・半透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を含む。

鉢 (109) ・甌 (110)

109は、鉢の完形で平底のタイプである。口径が15.3cmで底径が5.1cm・器高が12.8cmで内外面の調整はナデや横ナデ・ハケ目の後ナデ・指押さえが施してある。内外面ともに色調は橙で、胎土の状況は、4mm以下の褐色粒・3mm以下の灰色粒・2.5mm以下の乳白色赤褐色の粒・2mm以下の半透明黒色等光沢粒を多量に含んでいる。110は、甌で把手が2カ所あり、底部に穿孔がある。口径が14.1cmで底径が4.95cm・器高が15.7cmである。内外面の調整はナデや指押さえやハケ目などがみられる。色調は橙である。胎土の状況は、6mm以下の赤褐色粒・3.5mm以下の半透明光沢粒・3mm以下の灰白粒・2.5mm以下の褐色粒・2mm以下の黒色光沢粒を多く含む。

S L 2 出土の遺物

甕 (111~127)

111は、甕の口縁部から胴部で、口縁部が大きく外反するタイプである。口径は、24cmで内外面の調整は、横・斜め方向のナデ調整や指押さえが施されている。内外面の色調は、にぶい橙・にぶい褐・橙などである。4~5mm大の褐色の粒・3mm以下の灰褐色・褐色・黒・淡黄橙の砂粒を含んでいる。112は、甕の口縁部で111と同様に大きく外反している。内外面の調整は、ナデや横ナデで色調は浅黄橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は、3mm以下の茶・黒・灰褐色・灰色の砂粒を多量に含み、1mm以下の透明・黒の光沢粒を少し含んでいる。113は、口径が24.8cmで内外面の調整はハケ目や横・斜め方向のハケ目やナデが施されている。内外面の色調は淡黄やにぶい黄橙・浅黄橙である。胎土の状況は、4mm大の褐色の粒・3mm以下の褐色・灰褐色の砂粒・2mm以下の透明の光沢粒を含んでいる。114は、甕の口縁部で口縁部が緩やかに外反するタイプである。口径が18.5cmで内外面の調整は、ナデやハケ目が施されている。内外面の色調はにぶい黄橙と浅黄である。胎土の状況は、3mm以下の灰褐色・灰・茶・半透明の砂粒を含む。115は口縁部が緩やかに外反するタイプのものである。口径は20.8cmである。内外面の調整は、横・縦・斜め方向ナデや工具ナデ・工具による横方向の端部痕などの調整を施している。色調は橙や浅黄橙・明黄褐色である。4~5mm大の茶・灰褐色の粒・3mm以下の灰・茶・黒の砂粒を含む。116は、甕の完形で口径が16cmで底径が5.2cmで器高が19.1cmの少し上げ底気味のタイプで口縁部の外反は、短いものである。内外面の調整はヘラ工具による縦方向のナデと横・

斜め方向のナデ・指押さえである。内外面の調整は、橙やにぶい橙・にぶい黄橙からなっている。胎土の状況は、3mm以下の褐色・灰・黒・半透明の砂粒を含んでいる。117は、甕の口縁部から胴部で内外面の調整はナデ調整である。貼付突帯を有している。内外面の色調は浅黄橙と黄橙である。胎土の状況は、5mm以下の褐灰色粒・4mm以下の赤褐色・灰白色・乳白色の粒・3.5mm以下の黒色粒・3mm以下の半透明光沢粒・2mm以下の黒色光沢粒を多量に含んでいる。118は、貼付突帯をもつもので口縁部が大きく外反している。内外面の調整はナデ調整で、内外面の色調は黄橙や橙などである。4mm以下の灰色粒・3.5mm以下の褐色粒・3mm以下の半透明光沢粒・乳白色・2.5mm以下の黒色粒を多量に含んでいる。119は、甕の口縁部で内外面の調整はナデ・縦方向の上から横方向のナデと横方向のナデがみられる。色調は、浅黄橙で胎土の状況は4mm以下の赤褐色粒・3.5mm以下の灰白色粒・3mm以下の褐色粒・2mm以下の半透明光沢粒を含んでいる。120は、口縁部で119が緩やかに外反するのに対して120は、外反が大きい。内外面の調整は、縦・斜め方向からのナデの上から横方向のナデと横・斜め方向のナデ調整を施している。内外面の色調は浅黄橙である。胎土の状況は、4.5mm以下の褐色粒・3mm以下の灰白色粒・2mm以下の半透明光沢粒を含んでいる。121は、口縁部から胴部にかけてのもので口縁部が大きく外反している。内外面の調整は、ナデや横・斜め方向のナデを施している。内外面の色調は橙と黄橙・浅黄橙である。胎土の状況は、3～4mm大の褐色の粒・3mm以下の灰褐色・黒・半透明の砂粒を多く含む。122は、口縁部から胴部にかけてのところで122は、121に比べて外反が少ない。内外面の調整は、ナデや横ナデ・部分的ハケ目等が多い。また、内外面の色調は橙や浅黄橙・褐灰などである。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色・灰色の粒を含む。123は、底部で底径4.7cmで内外面の調整はナデや指押さえが施されている。内外面の色調は灰白と褐灰である。124は、底径5.9cm底部で内外面の調整は縦・横・斜め方向のナデと指押さえなどが施してある。内外面の色調は浅黄橙と褐色灰である。胎土の状況は、3mm以下の暗褐色・灰白・半透明の砂粒を含む。125は、底径5.7cmの内外面の調整は、工具で撫でた後指ナデや指押さえなどが施してある。内外面の色調は浅黄橙・明褐灰・褐灰である。126は、底径は、5.2cmの内外面の調整は、ハケ目やナデ・横ナデが施されている。内外面の色調は浅黄橙やにぶい黄橙がみられる。胎土の状況は、4mm以下の茶・灰褐色・灰色の砂粒・2mm以下の透明・黒の光沢粒を含んでいる。127は、底部で上げ底タイプである。底径が5cmで内外面の調整はナデや縦方向のナデ・指ナデ等が施されている。内外面の色調は、にぶい橙・灰褐で胎土の状況は、3mm以下の黒・褐色の砂粒・2mm以下の透明の光沢粒を含んでいる。

壺 (128～137)

128は、二重口縁の壺で櫛描波状紋を施すタイプである。胴部が大きく張っているものでもある。内外面の調整は、ナデや工具ナデや指押さえ・指ナデ等が施されている。内外面の色調は橙や浅黄などである。胎土の状況は、4mm以下の灰色・褐色・黒色・赤褐色の粒・3mm以下の白色粒・2mm以下の半透明の光沢粒を含む。129は、二重口縁の櫛描波状紋を施すタイプで内外面の調整は、ナデや工具ナデ・指ナデ・指押さえなどが施されている。内外面の色調は浅黄橙

と明黄褐色・にぶい黄橙等である。3mm以下の赤褐色・褐色・灰・黒の砂粒・2mm以下の透明・黒の光沢粒を含んでいる。130は、口径12.2cmの二重口縁の壺で内外面の調整は横・縦方向の工具ナデや横方向の工具ナデや横方向のミガキがみられる。内外面の調整は浅黄橙で、胎土の状況は3mm以下の褐色粒・灰白色粒・半透明の光沢粒・1mm以下の黒色光沢粒も含んでいる。131は、二重口縁で内外面の調整は横ナデで内外面の調整は黄橙と浅黄橙である。胎土の状況は、4～5mm大の褐色の粒・3mm以下の灰白・灰・黒・灰褐色の砂粒・黒・透明の光沢粒を含んでいる。132までは、壺の口縁部で口縁部が大きく外反するタイプのものである。内外面の調整は、横ナデやミガキ・ナデなどが施されている。内外面の色調は、黄橙や浅黄橙・にぶい黄橙である。胎土の色調は、4mm以下の灰色・赤褐色の粒・3mm以下の乳白色・黒色・褐色の粒・2.5mm以下の半透明光沢粒も含んでいる。133は、壺の底部で底径が4cmのものである。内外面の調整は横ナデやヘラ状工具による横・縦方向のナデ調整・指ナデが施されている。内外面の色調は浅黄橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は、4mm以下の灰色・赤褐色の粒・3mm以下の乳白色・黒い槽・褐色の粒・2.5mm以下の半透明光沢粒を多く含む。134は底径3.9cmの壺の底部で、内外面の調整はハケ目がみられる。内外面の調整は明黄褐・にぶい黄橙である。胎土の状況は2mm以下の半透明・乳白色の砂粒を少し含む。135は、壺の底径4.9cmの底部で平底のものである。胴部は丸く張っている。内外面の調整は、縦・斜め方向のナデなどが施されている。色調は明黄橙・にぶい黄橙などである。136は、口径15.7cm・底径6.15cm・器高が43.35cmの壺の完形で内外面の調整は横ナデやナデ・ミガキなどが施されている。内外面の色調は、橙とにぶい黄橙である。胎土の状況は4.5mm以下の赤褐色粒・4mm以下の灰色・黒色・褐色の粒・3.5mm以下の半透明光沢粒・橙色粒・3mm以下の黒色光沢粒を多量に含む。137は、壺の完形で口縁部の外反が少なく胴部が張り気味のタイプである。両方ともに平底のタイプである。内外面の調整は、横ナデやミガキ斜め方向のナデなどがみられる。内外面の色調は橙やにぶい黄橙等がみられる。胎土の状況は、7mm以下の褐色粒・3.5mm以下の赤褐色粒・3mm以下の灰色粒・2.5mm以下の半透明光沢粒・2mm以下の透明・黒色等光沢粒を多量に含んでいる。

高坏 (138～142)

138は、高坏の完形で口径が25cm・底径15.45cm・器高が22.9cmで三方透かしをもっているタイプである。脚部がラッパ状を呈している。内外面の色調は、ナデや横・縦・斜め方向のミガキや指押さえなどが施されている。内外面の色調は橙やにぶい黄橙・黒褐色である。胎土の状況は、4mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の灰色粒・2mm以下の透明光沢粒を含んでいる。139は、口縁部がやや外反するタイプのものである。口径は、29.4cmで内外面の調整は、横・斜め方向のミガキである。また、内外面の色調は橙やにぶい黄橙である。3～6mmの褐色粒・2mm以下の透明・黒の光沢粒で少し含む。2mm以下の褐色灰色の砂粒を少し含んでいる。140は、口縁部が大きく外反するものである。口径は、42.6cmで横ナデや丁寧なナデやミガキ等を施している。内外面の色調は、黄橙や橙・浅黄橙・褐灰などである。胎土の状況は、3mm以下の褐色粒・半透明光沢粒・1.5mm以下の黒色光沢粒を含んでいる。141は、高坏の脚部で、ラッパ状を呈して

いる。底径は、18.6cmで内外面の調整は、ミガキや横ナデ・指押さえなどが施こされている。内外面の色調は、橙である。胎土の状況は、5mm以下の赤褐色粒・2mm以下の半透明・黒色等・光沢粒を含んでいる。142は、脚部でラッパ状を呈している。底径が9.4cmで内外面の調整はナデ調整で内外面の色調は、浅黄橙である。胎土の状況は、3mm以下の灰褐色・灰・白・黒・半透明の砂粒・透明の光沢粒を含んでいる。143は、脚部でラッパ状を呈したものである。底径は、21.5cmで内外面の調整は、横方向のナデである。色調は橙である。胎土の状況は、4mm以下の灰褐色粒・3mm以下の赤褐色粒・2.5mm以下の黒色光沢粒・2mm以下の半透明光沢粒・灰色粒を含んでいる。

鉢 (144～146)

144は、浅い鉢である。口径は、24.3cmで底径6.2cmで器高は、8.05cmである。内外面の調整は、ナデや横・縦・斜め方向のナデが施されている。内外面の色調は橙である。胎土の状況は、3mm以下の茶・灰褐色・灰・半透明の砂粒・2.5mm以下の透明・黒の光沢粒を含んでいる。145は、鉢の完形で口縁部がやや直線的に立ち上がるものである。口径は、11.9cmで器高は9.75cmで底部は丸底である。内外面の調整は、荒いナデやハケ目がみられる。内外面の色調は黄橙や明黄褐・灰黄褐・橙等である。胎土の状況は、5mm以下の褐色粒・2.5mm以下の黒色光沢粒・4mm以下の灰色・赤褐色の粒・3mm以下の乳白色粒・半透明光沢粒である。146は口唇部がやや外反しているものである。口径は、32.8cmで内外面の調整は横・斜め方向のナデやなどである。内外面の色調は、浅黄橙・黄橙・にぶい黄橙等である。胎土の状況は、3mm以下の褐色灰・灰褐色・半透明の砂粒を含む。

S L 3 出土の土器

甕 (147～149)

147は、甕で内外面の調整はナデや工具ナデや横ナデが施されている。内外面の色調は、浅黄橙と浅黄・暗灰黄である。胎土の状況は、3mm以下の灰褐色・赤褐色・褐色・褐灰の砂粒・1～2mmの半透明の光沢粒を多く含んでいる。148は、甕で斜め方向の工具ナデや横・斜め方向のナデが施してある。内外面の色調は、明褐色・暗褐色・明黄褐色・黄橙・浅黄橙である。胎土の色調は、5mm以下の赤褐色・灰褐色・灰色の砂粒・1～2mmの半透明の光沢粒を含んでいる。149は、甕の口縁部で口唇部が外反しているものである。内外面の調整は、横・斜め方向のナデや工具ナデが施されている。色調は浅黄橙や黄橙などである。3mm以下の黒・灰・褐色・灰色の砂粒を多く含む。

壺 (150～151)

150は、壺の頸部から胴部にかけてのところである。内外面の調整は、工具ナデを含むナデ調整である。内外面の色調は、黄橙や浅黄橙・にぶい黄橙等である。胎土の状況は14mm以下の赤褐色・灰褐色の砂粒・3mm以下の灰・灰褐色・灰白色の砂粒・2mm以下の透明・黒色の光沢粒を含んでいる。151は、壺の胴部から底部で平底のタイプで胴部の張りは少ない。内外面の調整は、斜め方向のナデとハケ目・指押さえからなるものが多い。色調は、黄橙や浅黄橙・にぶい

黄橙・橙からなっている。胎土の状況は、2mm以下の赤褐色と橙・灰・褐色灰色の砂粒を含んでいる。

SC2 出土の遺物

152は、甕の口縁部である。内外面の調整は、横ナデで内外面の色調は橙と黄橙である。胎土の状況は、2mm以下の灰・褐色・黒・半透明の砂粒を含んでいる。153は、甕の完形で口唇部がやや外反するタイプのものである。内外面の調整は、荒いナデと指押さえなどである。内外面の色調はにぶい黄橙や浅黄橙などである。胎土の状況は、4～5mm以下の褐色・赤褐色粒・3mm以下の灰・褐色砂粒を含んでいる。

包含層出土の土器

甕 (154～173)

154と155は、甕の口縁部から胴部にかけてのところで口縁部が大きく外反するタイプのものである。内外面の調整は、横・斜め方向のナデやナデ調整が施してある。色調は、橙やにぶい黄橙・浅黄橙などがある。

156～159は、甕の口縁部でくの字に大きく外反するタイプのものである。内外面の調整は横ナデや工具痕を含む斜め方向のナデがみられる。また、内外面の色調は浅黄橙やにぶい黄橙・橙等である。160～165は、甕の口縁部で口縁部の外反は少ないものである。内外面の調整は、ナデや横ナデ調整が多く、色調はにぶい黄橙や浅黄橙・橙・灰白・灰褐等が多いようである。166～168・169～173は、甕の底部で168と170・172は、上げ底である。内外面の調整は、縦や斜め方向ナデや指押さえが施されている。内外面の調整は、橙やにぶい黄橙・褐灰などである。

壺 (174～188)

174と175・178は、壺の口縁部で口縁部がほぼ内側に立ち上がるタイプのものである。内外面の調整は、ナデや工具痕などがあり、内外面の調整は浅黄橙や橙である。176・177・181は、二重口縁壺の櫛描波状紋を施すタイプである。180は、長頸壺の口縁部で口縁部がわずかに外反している。内外面の調整は、横ナデや工具ナデまたは、指押さえなどが施されているものである。内外面の色調は浅黄橙やにぶい黄橙や褐色灰などがみられる。182～184は、壺の頸部から胴部にかけてのところで182と183は、張付突帯をもつもので184は、線刻がある。内外面の調整は、横ナデやナデが多く色調は浅黄橙や橙や褐灰などがみられる。185は、壺の胴部から底部で平底のタイプである。186は、胴部に丸い張りをもつタイプで、187は、頸部で188は平底の底部である。内外面の調整は、横ナデやナデ・ミガキなどが施されている。内外面の調整は、浅黄橙や褐色灰にぶい橙・明褐などである。

高坏 (189～194)

189～191・194は、高坏の坏部で口縁部が大きく外反するタイプである。192～193は、脚部で193は、ラッパ状を呈している。内外面の調整は、横ナデやナデ調整などを施してあり斜め方向のナデや工具痕もみられる。内外面の色調は浅い黄橙や橙・明褐色などである。

碗・鉢 (195・197・196)

195と197は、鉢で内外面の調整は横ナデやナデ調整で色調は浅黄橙が多いようである。196は碗である。

S A 3・S A 5・S L 2 出土の石器

1は、石包丁で2個の穿孔を有している。2は、磨製石鏃である。3は、砥石で全体的に研かされている。4も砥石である。5は、磨製石斧で6は、軽石製品である。

第20表 中大五郎第2遺跡出土土器観察表

レイ 791 群	種別	器種	出土 地点	法量 (cm)			調 整		色 調		胎 土	備 考
				口径	底径	器高	外 面	内 面	外 面	内 面		
1		壺	SB8				ナデ	ナデ 指押え	灰白 (10YR 8/2) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	灰白 (7.5YR 8/2)	4ミリ以下の褐・赤褐・灰・黒色の砂粒 を多く含む。2ミリ以下の半透明・透 明・黒色の光沢粒を含む。	外面…一部黒菱 丸底
2		土師 質皿	SC1	11.95	7.6	3.7	横ナデ	横ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1ミリ以下の褐・灰色の砂粒を少し含む。	糸切り底
3		◇	SC1	12.05	7.1	3.7	横ナデ	横ナデ	浅黄橙 (7.5YR 8/3 10YR 8/3)	灰白 (7.5YR 8/2) 浅黄橙 (7.5YR 8/3)	1ミリ以下の褐・赤褐・黒色の砂粒を 少し含む。	糸切り底

第21表 中大五郎第2遺跡出土石器観察表

レイアウト 番号	グリッド	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
1	S A 3	石 包 丁	5.85	10.1	0.6	60.0	頁 岩	
2	S A 3	磨製石鏃	—	2.8	0.25	2.2	◇	先端部欠損
3	S A 3	砥 石	14.8	2.8	1.3	97.0	◇	
4	S A 3	砥 石	9.65	3.35	0.95	47.0	◇	
5	S A 5	磨製石斧	13.3	5.5	2.0	198.9	◇	
6	S L 2	砥 石	15.75	14.2	5.05	303.4	軽 石	

第4節 中近世と時期不明の遺構と遺物

1. 中世の掘立柱建物・近世の土坑

SB8

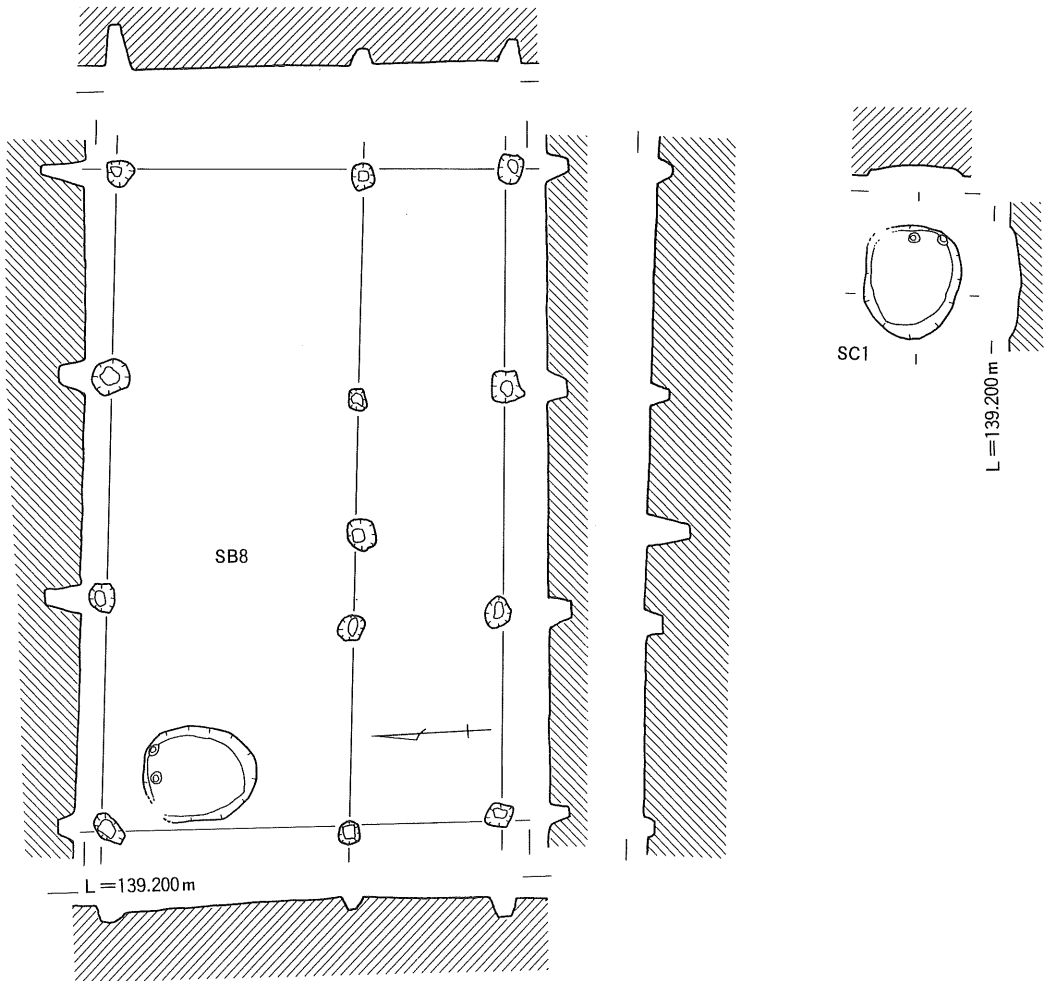
SB8は、2間×3間で屋敷内に土塙をもっている。柱穴数は、8個でpit径は、22~32cmでpitの深さは、11~30cmである。また、床面積は、12.06㎡である。

SC1

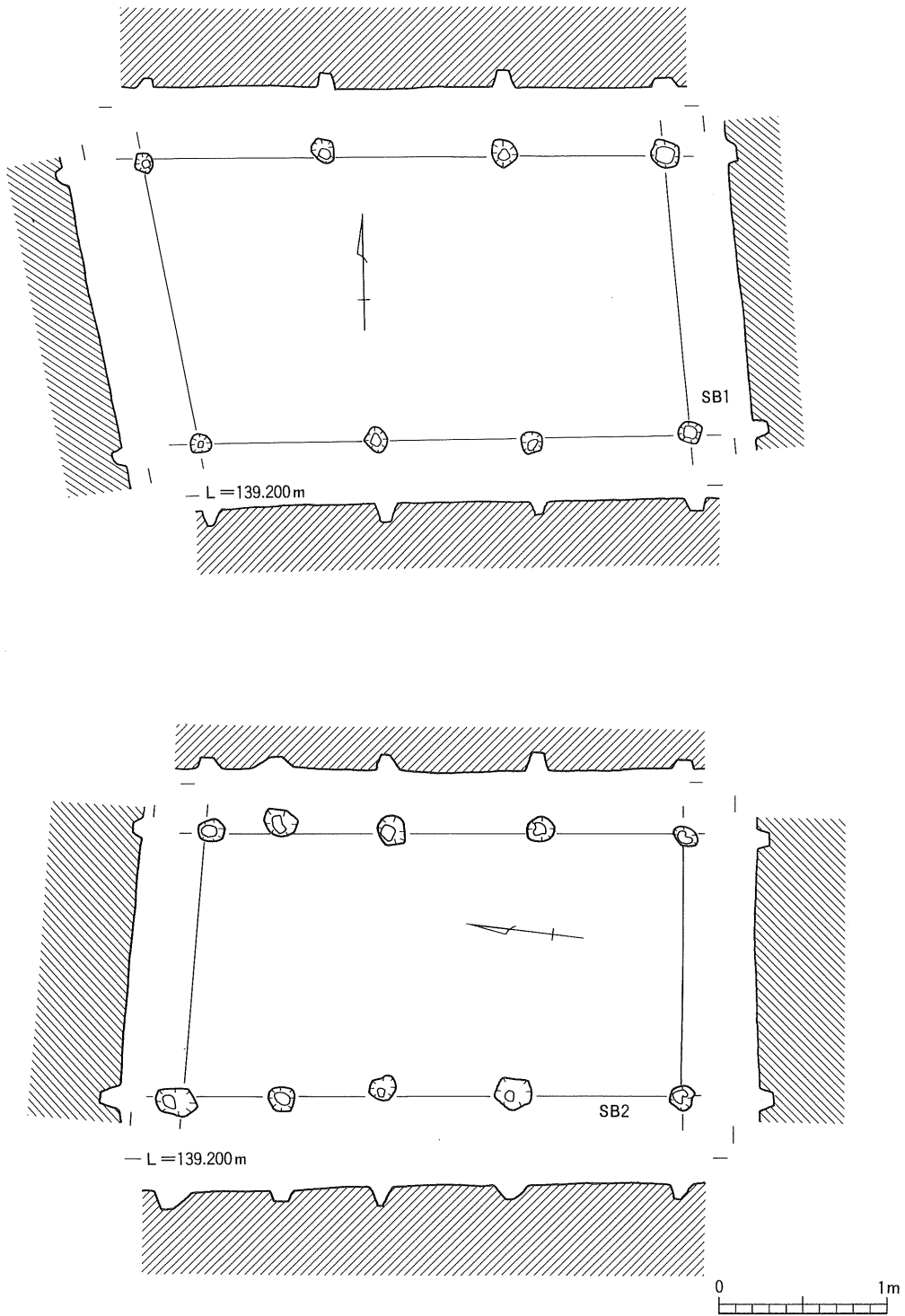
SB8の敷地内にあり、長径1.2m×短径1mの楕円形プランで深さは、10cmである。北の方向に土師器が配列されていたので土塙墓の可能性はある。

2・SB8・SC1出土の遺物

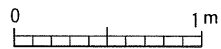
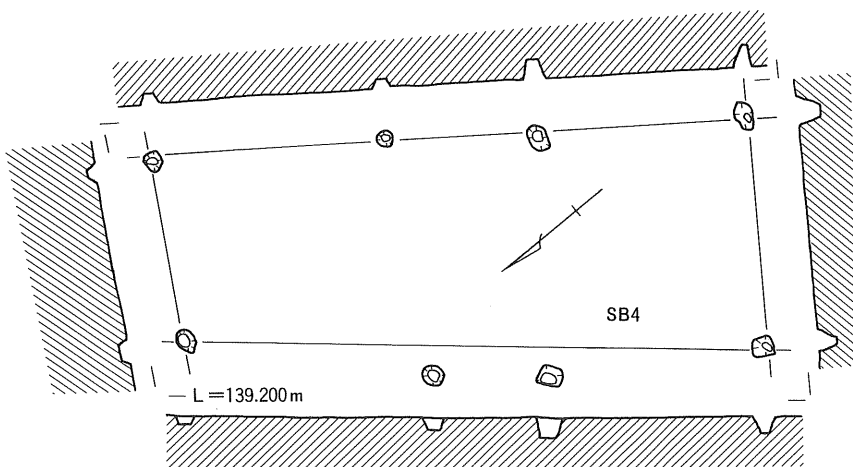
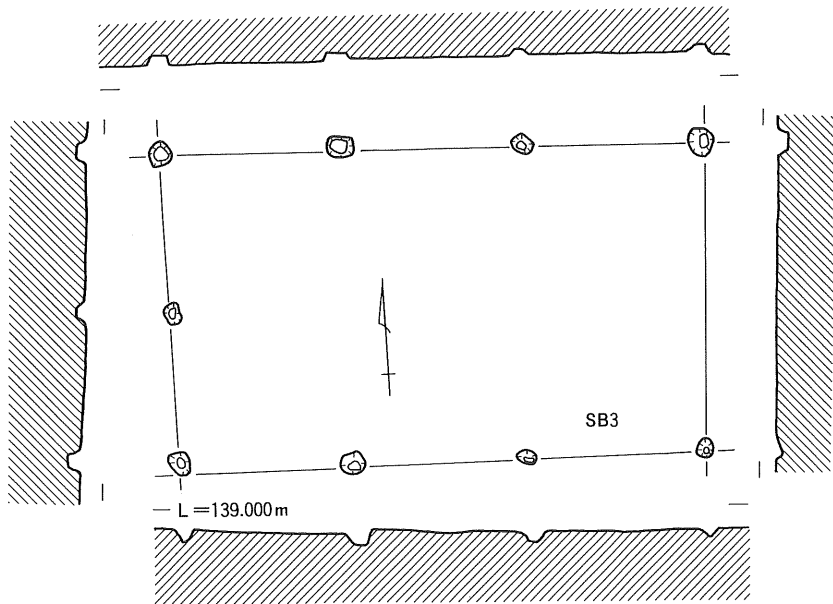
1は、壺の底部付近で指押えの痕がある。2・3は、糸きり底の土師器である。



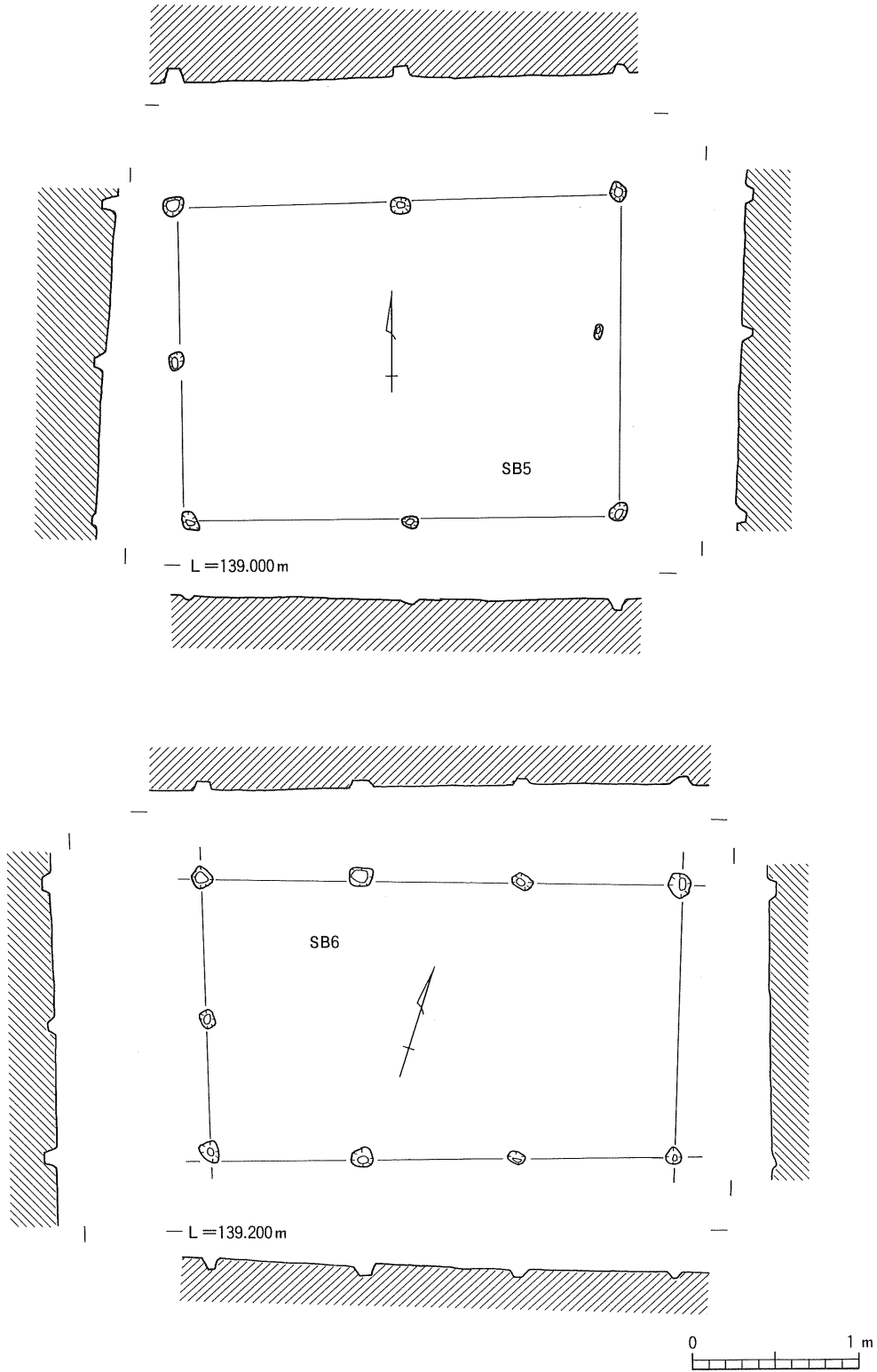
第55図 中大五郎第2遺跡SC1・SB8実測図



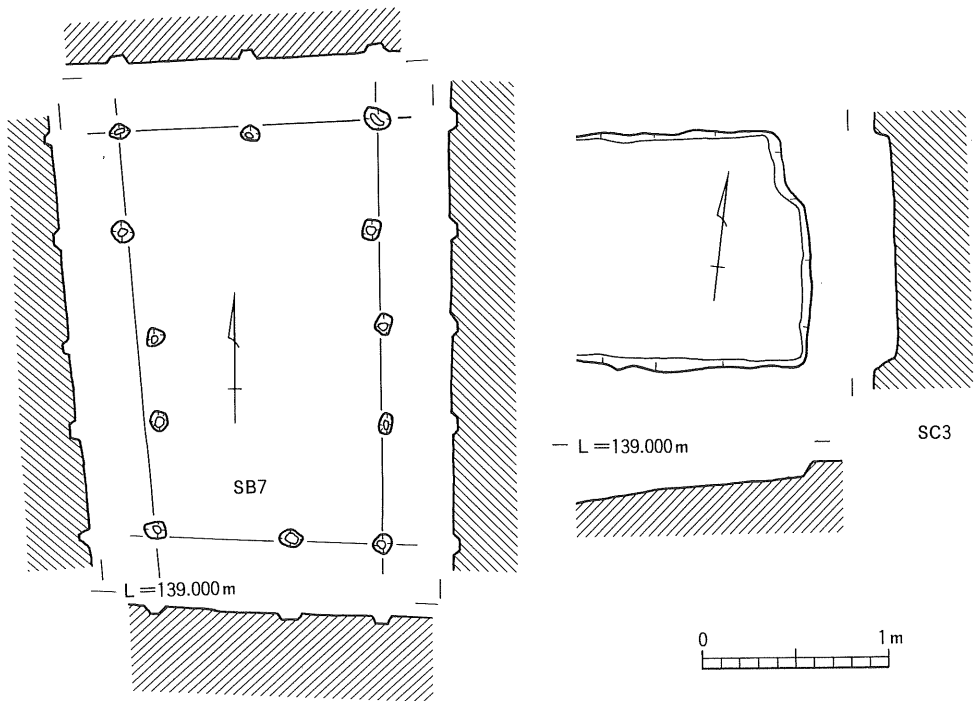
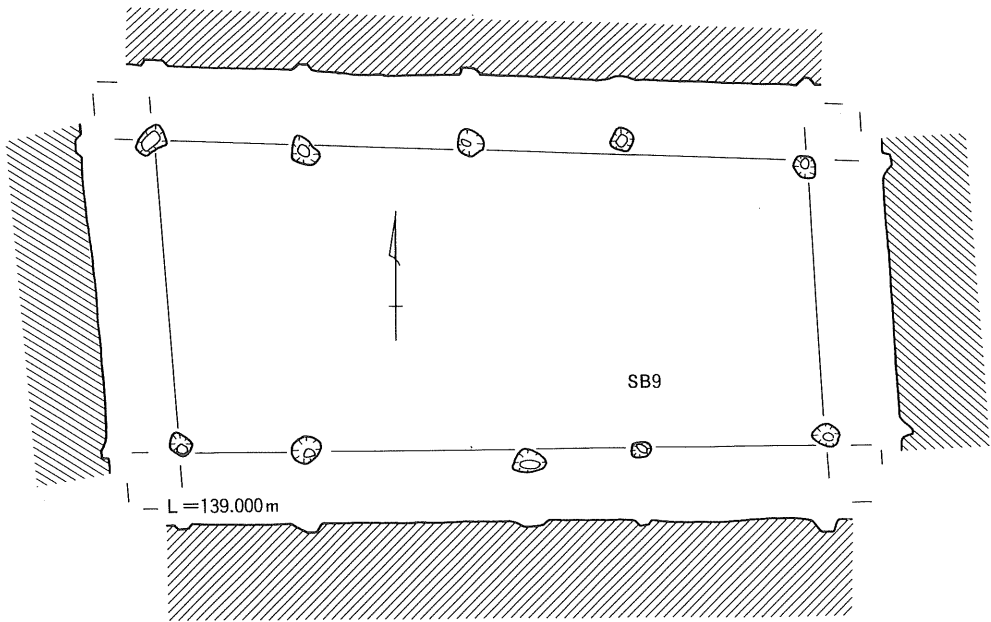
第56図 中大五郎第2遺跡SB1・SB2実測図



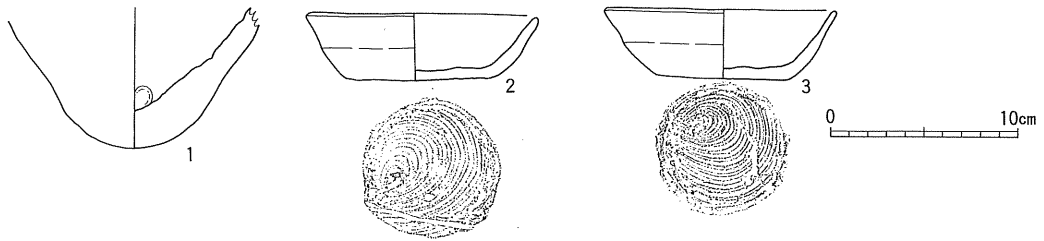
第57図 中大五郎第2遺跡SB3・SB4実測図



第58図 中大五郎第2遺跡SB5・SB6実測図



第59図 中大五郎第2遺跡SB7・SB9・SC3実測図



第60図 中大五郎第2遺跡SB8・SC1出土土器実測図

3. 時期不明の遺構

SB1

SB1は、1間×3間で柱穴数は10個でpit径は29～49cmでpitの深さは10cm～24cmである。床面積は21.5㎡である。

SB2

SB2は、1間×4間で柱穴数は10個でpit径は30cm～49cmでpitの深さは、7cm～16cmである。また、床面積は21.45㎡である。

SB3

SB3は、2間×3間で柱穴数は、10個でpit径は18cm～34cmで床面積は24.96㎡である。

SB4

SB4は、1間×4間で柱穴数は8個でpit径は22cm～30cmでpitの深さは、9cm～22cmである。床面積は17.47㎡である。

SB5

SB5は、2間×2間で柱穴数は8個でpit径は17cm～29cmでpitの深さは、5cm～17cmである。床面積は23.31㎡である。

SB6

SB6は、2間×3間で柱穴数は9個でpit径は19cm×29cmでpitの深さは、7cm～14cmである。床面積は21.17㎡である。

SB7

SB7は、2間×4間で柱穴数は12個でpit径は12cm～29cmでpitの深さは9cm～18cmである。床面積は14.54㎡である。

SB9

SB9は、1間×4間で柱穴数は、10個でpit径は28cm×34cmでpitの深さは7cm～13cmである。床面積は17.16㎡である。

SC3

SC3は、直径2.5mの竪穴状の遺構で深さは13cmと浅く目立った遺物はなく時代を特定できなかった。

以上は遺構の時期を特定する遺物がなかったのであえて時期不明の遺構としている。

SE1

SE1は、全長31.9mで幅は、1mであるが深さは平均10.5cmと浅く埋土も分けられず包含する遺物もないので時期を特定できなかった。

第5節 小結

中大五郎第二遺跡は、弥生時代から中近世に至るまで様々な遺構が検出された複合遺跡である。宮崎県教育委員会が平成2年度に下大五郎遺跡・平成5・6年度に山ノ田第一遺跡など、ここ数年間に丸谷町周辺で発掘調査が多く行われている。その中で多くは、弥生時代の後期から古墳時代初頭までと中世の遺構遺物が多く検出されている。本遺跡でもこの時代を中心に検出されている。ここでは、この時代を中心に考察してみたい。

弥生時代～古墳時代初頭

弥生時代～古墳時代初頭の中大五郎第二遺跡は、竪穴住居跡が6軒検出されている。住居跡の形態は、円形の花弁状住居が1軒と方形住居が4軒で、残りの1軒は不整形のものである。住居跡の埋土は黒色土にボラ混じりの土で床面に近づくにしたがってボラの含有率が多くなる。住居跡の中には、主柱が炭化したと思われるものもあった。一般的に住居跡の残りはよく、住居跡内土壌をもつものもあった。住居跡の時期であるがSA1は、小型丸底壺を有していることから弥生時代終末～古墳時代初頭に比定できる。SA2・SA3・SA4・SA5・SA6は、弥生時代の後期から弥生時代終末と考えられる。住居跡の外には、周溝状遺構が3基検出されているが、SL1とSA1出土の遺物が接合できることからSA1と同時期であろうと考えられる。SL2・SL3も同様であろう。SB10は、棟持ち柱をもつ掘立柱建物で弥生時代後期から終末にかけてのものだと思われる。

中・近世

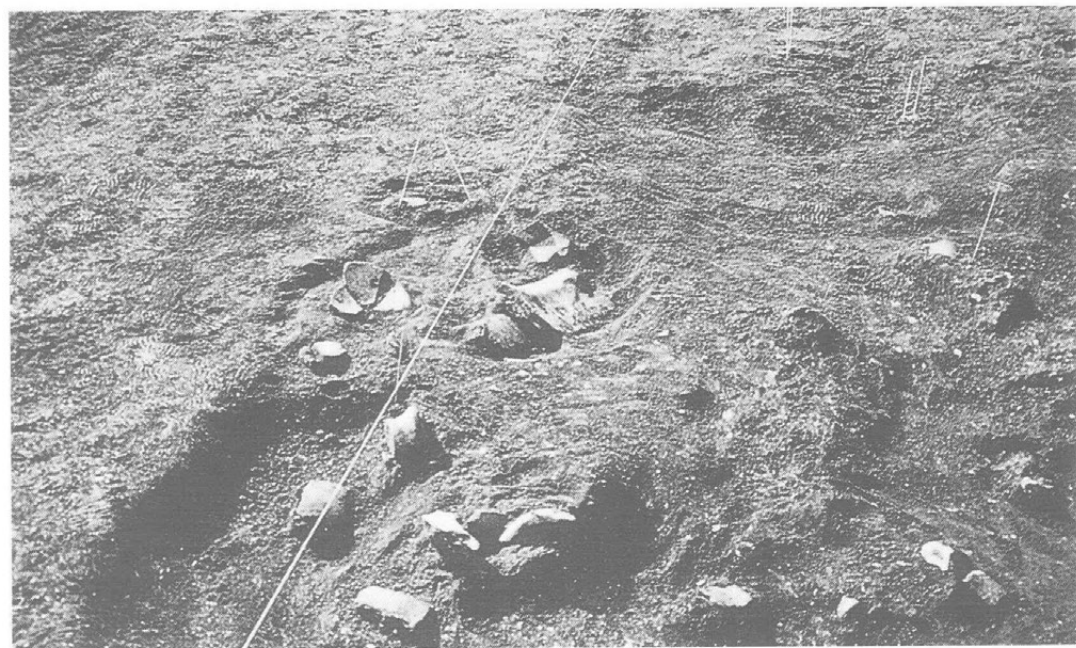
中大五郎第二遺跡では中・近世の遺構が検出されているがSB8は、東西に庇をもっている。もう1カ所有ると考えられたが検出することはできなかった。SC1は、SB8の敷地内にあるが、遺物が近世のものであることから、屋敷が廃絶されてから土壌を掘った可能性が考えられる。他に明確な出土遺物がないために時期不明とした掘立柱建物が8軒ほどあるがそのおおくは、2間×4間か1間×4間が多いようである。

以上簡単ではあるが本遺跡の調査結果をまとめてみた。最後に本遺跡の周辺では数多くの遺跡が存在し、ここ数年間に、県や都城市で発掘調査が行われてきた。その中で、丸谷川を望む低位段丘上に立地している本遺跡を含む一連の遺跡群は弥生時代後期～古墳時代初頭の集落跡である。また、丸谷川に開拓された低地部に谷ノ口遺跡、下川原遺跡があるが中世以降の水田跡が検出されている。しかし、まだ弥生時代の水田等は、検出されていない。これからの調査に期待がもてると思われる。

〈参考文献〉

- (1) 都城市教育委員会 『祝吉遺跡』 都城市文化財調査報告書第2集 1982
- (2) 都城市教育委員会 『上大五郎遺跡・前畑遺跡』
都城市文化財調査報告書第26集 1994
- (3) 都城市教育委員会 『丸谷地区遺跡群・上大五郎遺跡』
都城市文化財調査報告書第22集 1993
- (4) 都城市教育委員会 『松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡』
都城市文化財調査報告書第7集 1989
- (5) 都城市教育委員会 『天神・河内第1遺跡』 1991
- (6) 都城市教育委員会 「前原北遺跡」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第4集 1988
- (7) 都城市教育委員会 「熊野原遺跡」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985

版 图



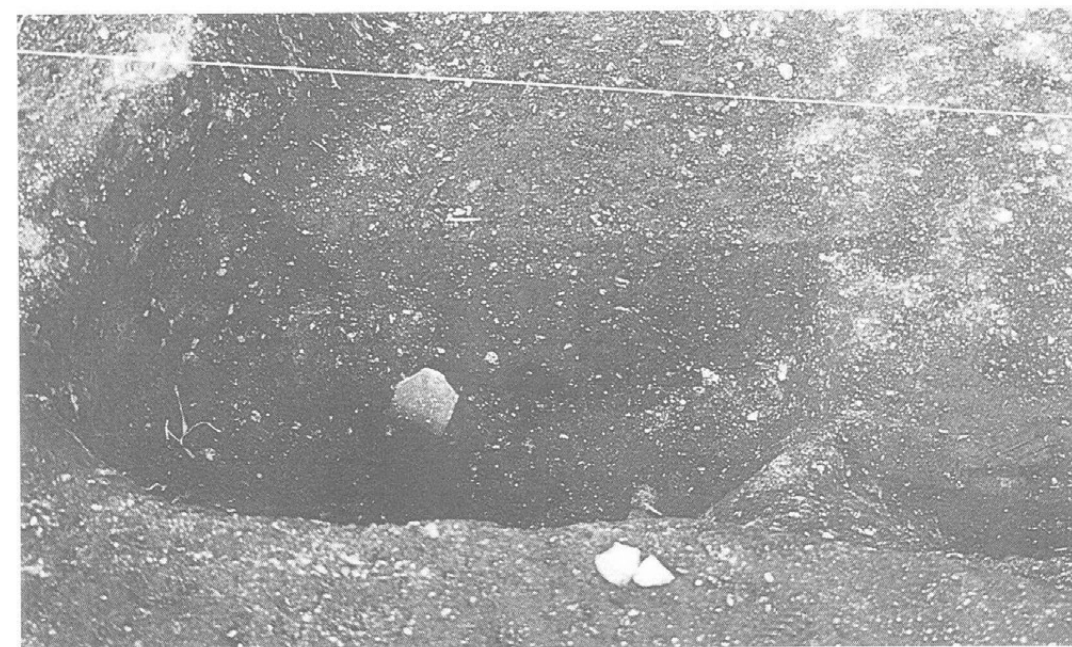
中大五郎第2 SA1 土器出土状況(1)



中大五郎第2 SA1 土器出土状況(2)



中大五郎第2 SA1 土器出土状況(3)



中大五郎第2 SA2 土器出土状況(1)



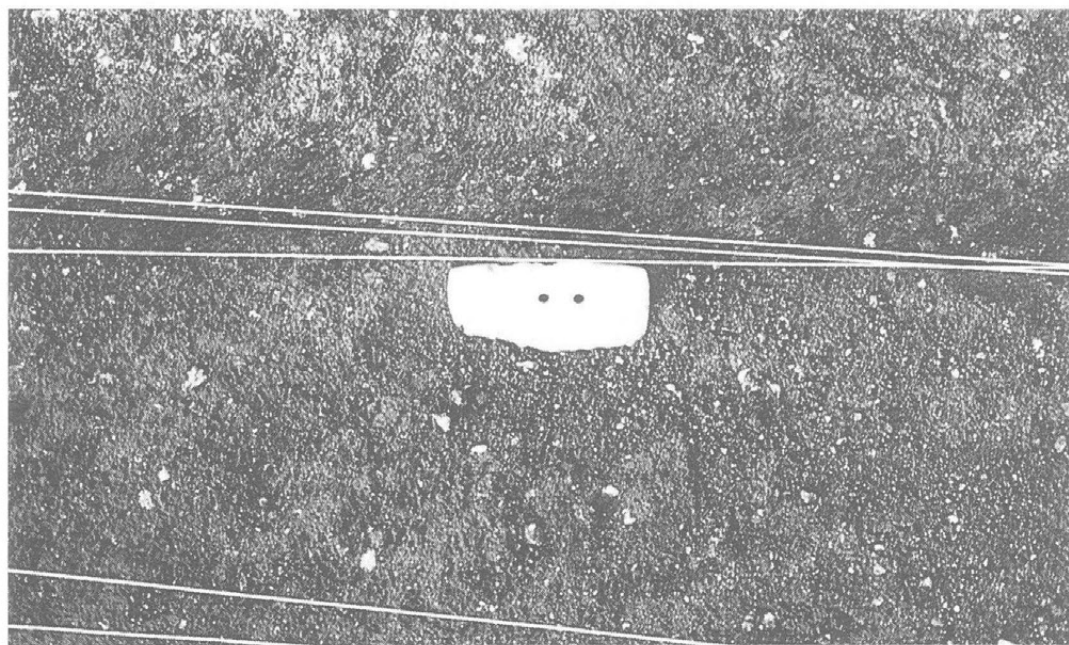
中大五郎第2 SA 2 土器出土状況(2)



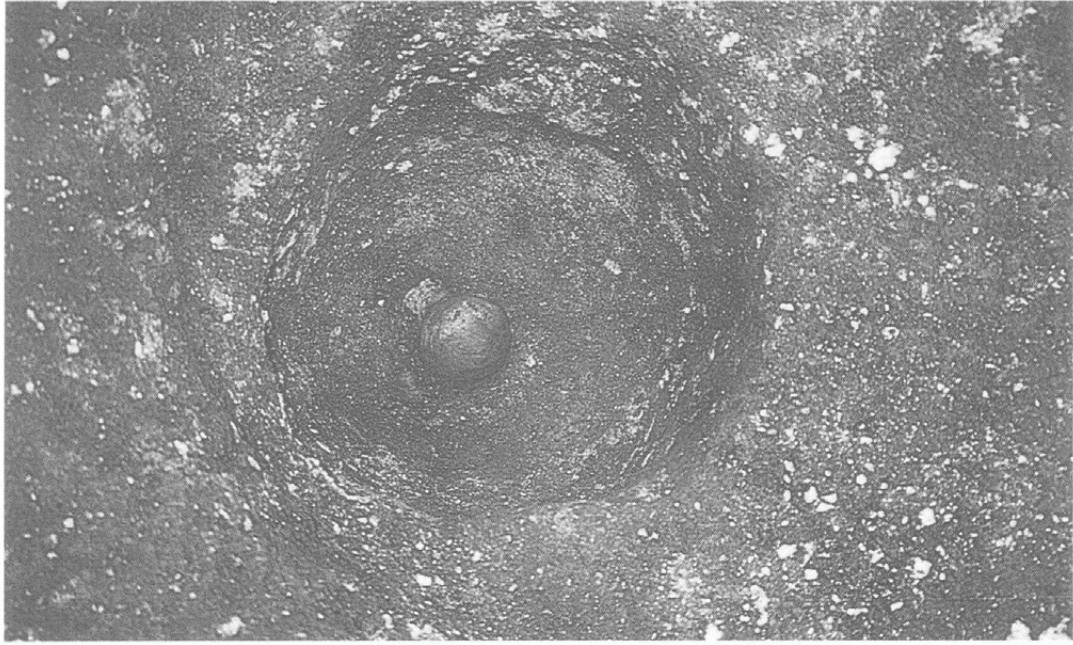
中大五郎第2 SA 3 土器出土状況(1)



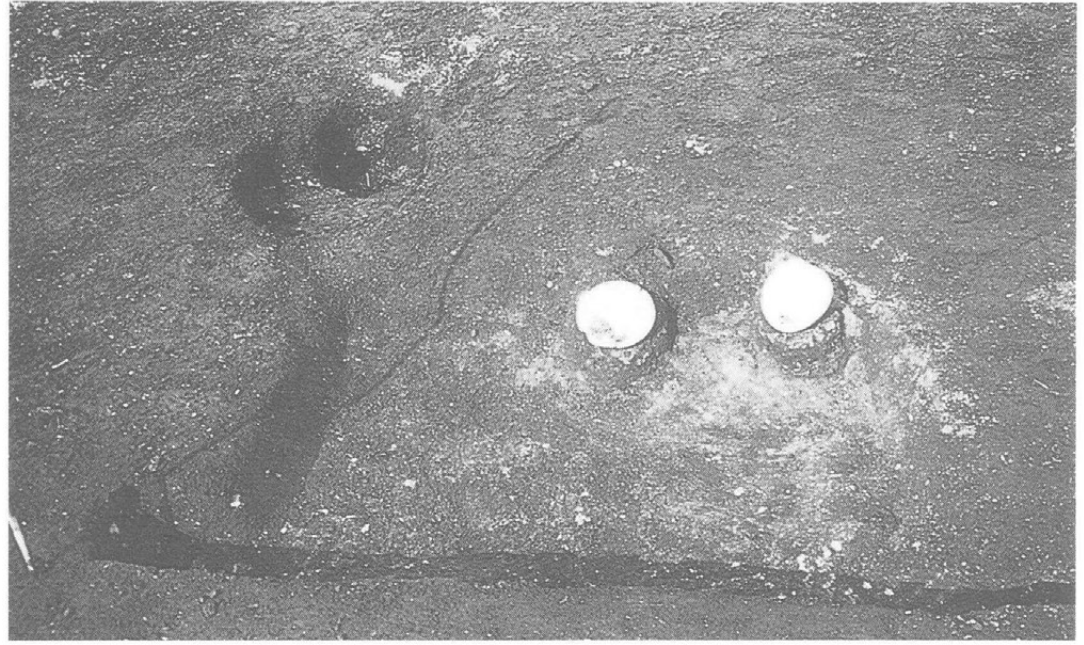
中大五郎第2 SA 3 土器出土状況(2)



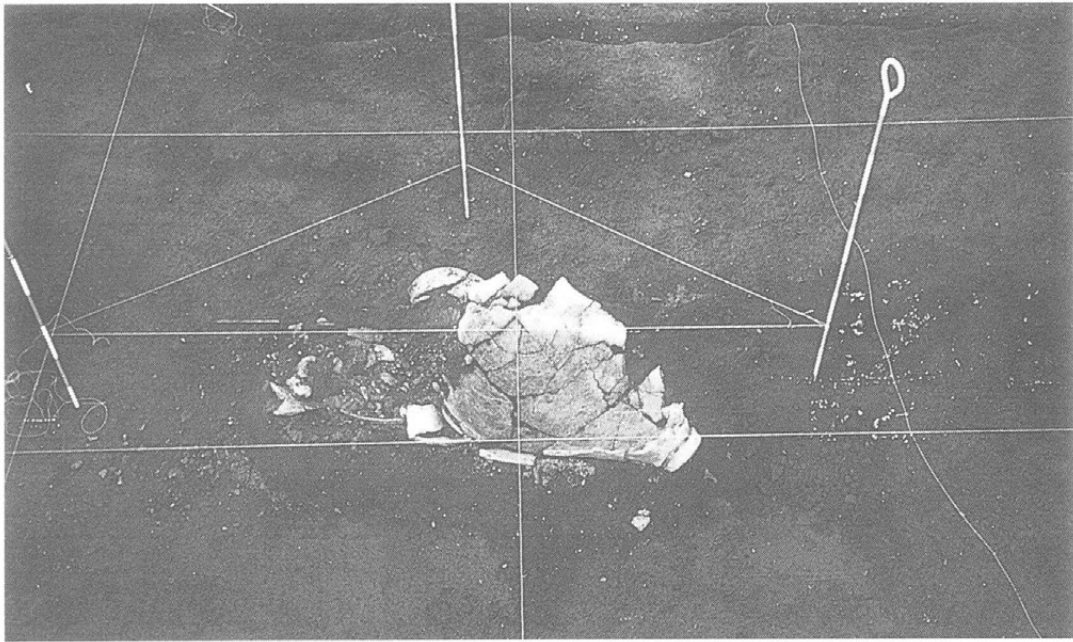
中大五郎第2 SA 3 出土土器



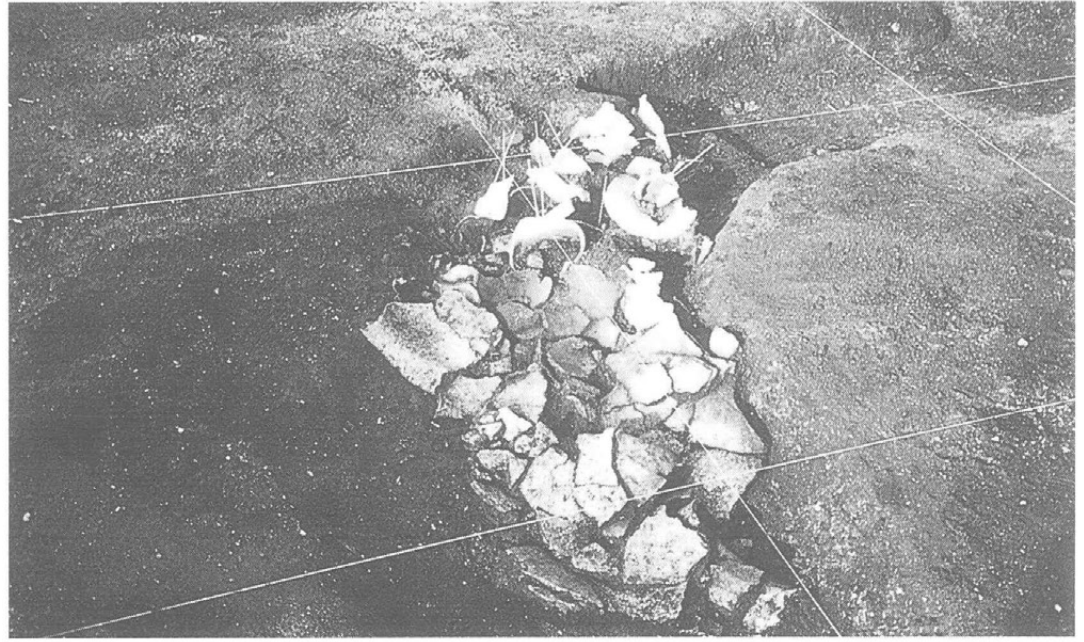
中大五郎第2 SA3 土器出土状況(3)



中大五郎第2 SC1 出土土師器



中大五郎第2 出土土器



中大五郎第2 SL1 土器出土状況(1)



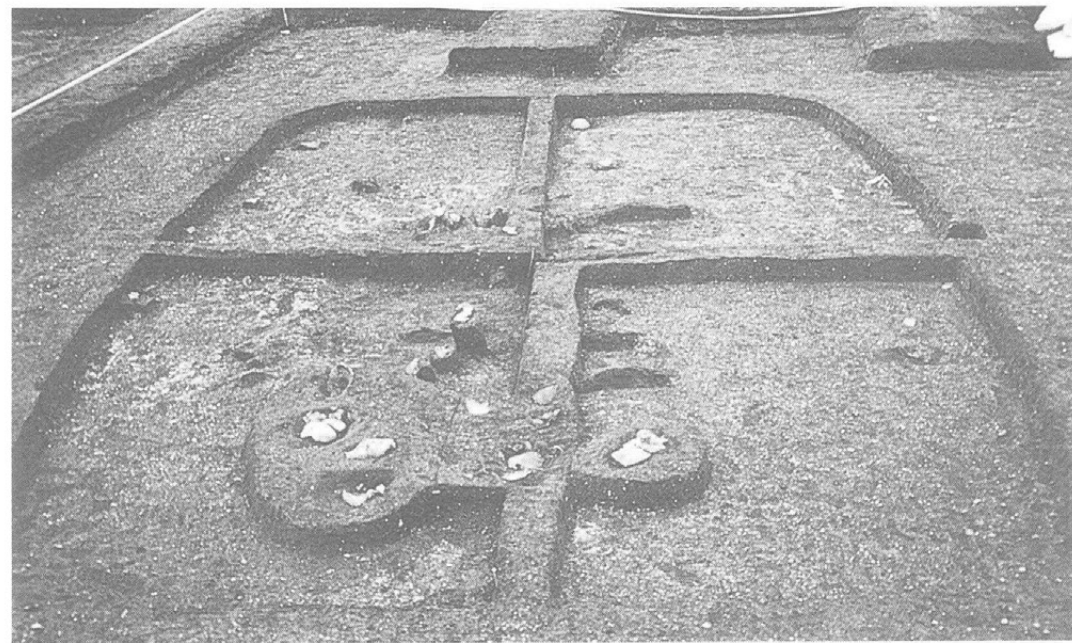
中大五郎第2 SL1 土器出土状況(2)



中大五郎第2 SL2 土器出土状況(1)



中大五郎第2 SL2 土器出土状況(2)



中大五郎第2 SA2 検出状況



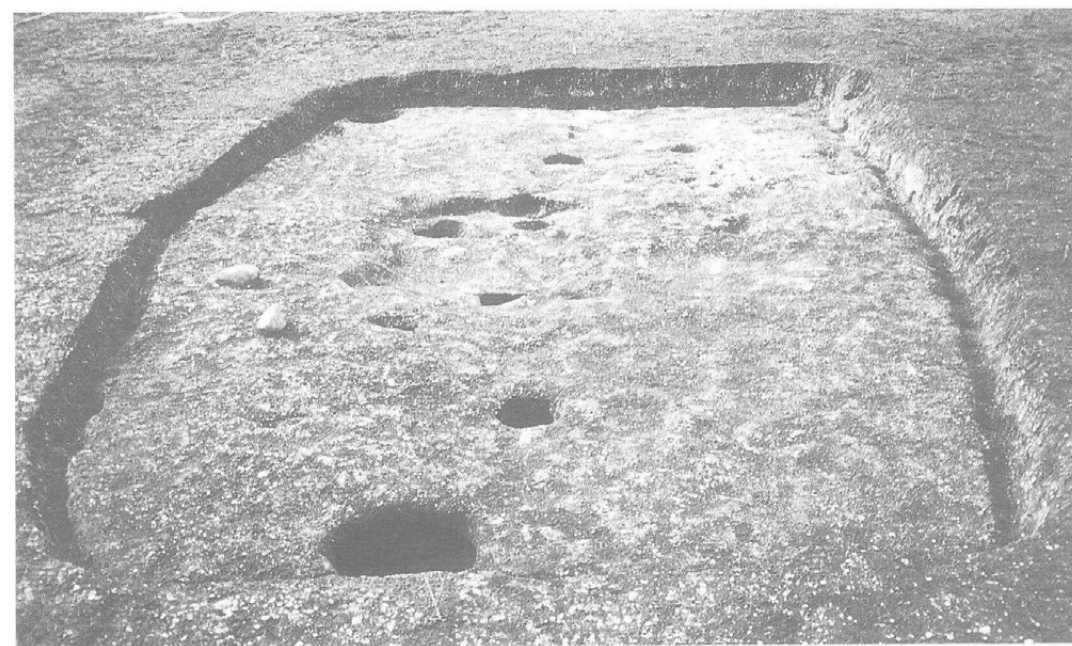
中大五郎第2 SA3 検出状況



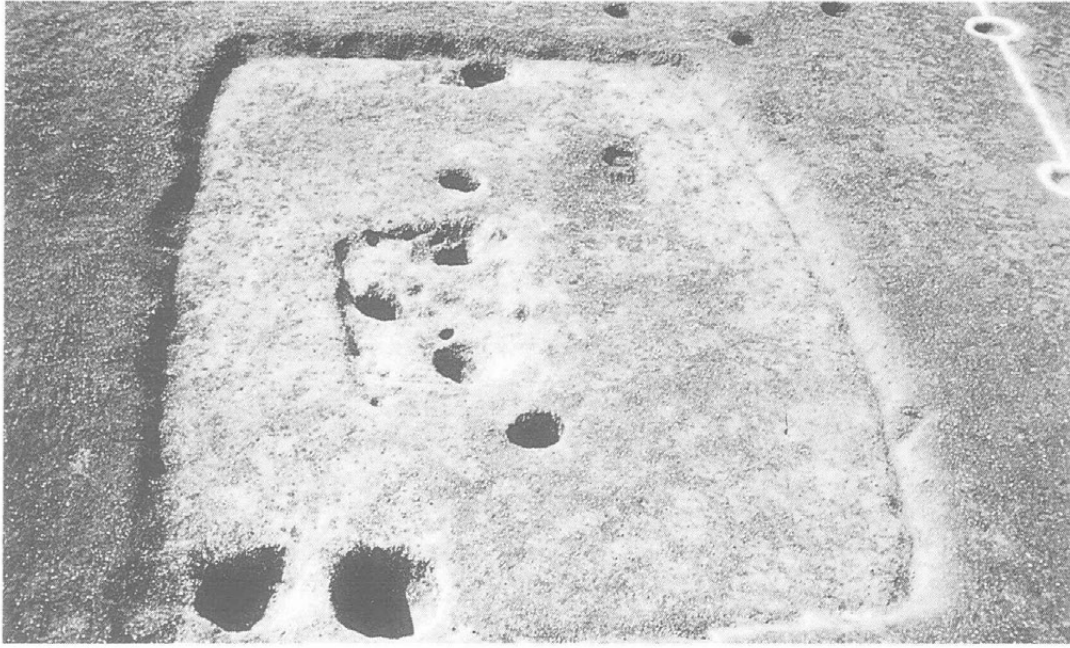
中大五郎第2 SA5 検出状況



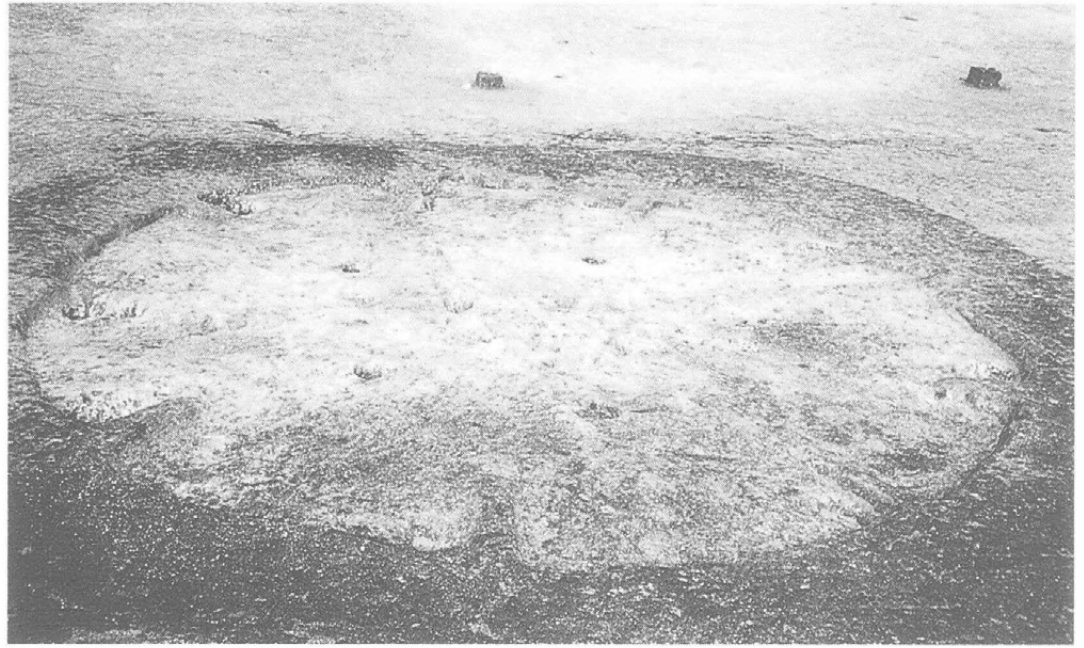
中大五郎第2 SL3 検出状況



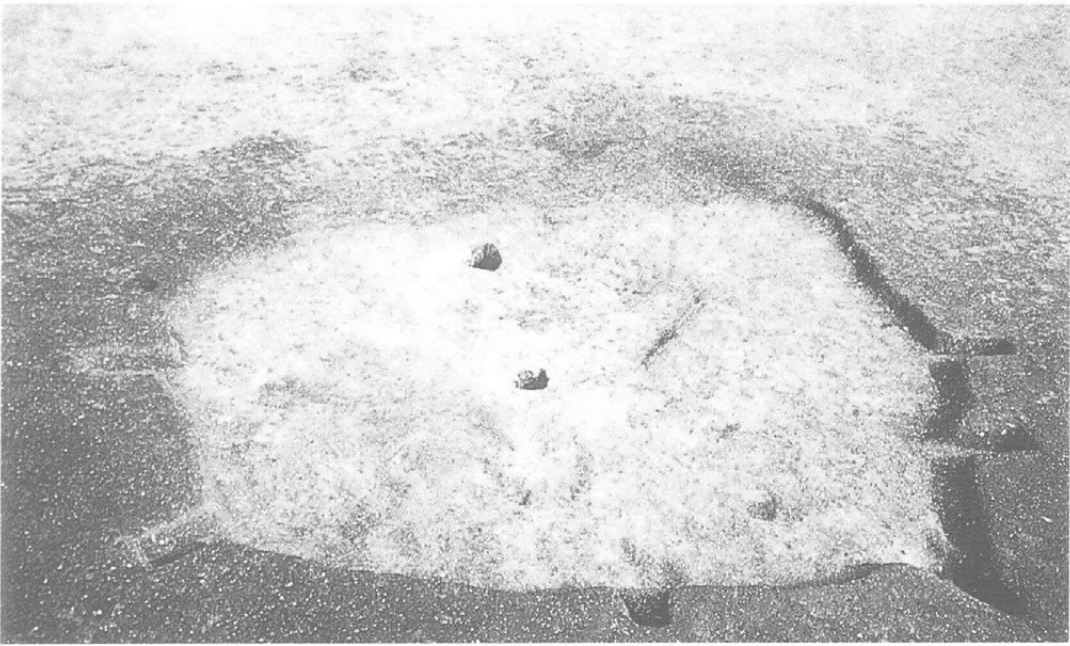
中大五郎第2 SA1 完掘状況



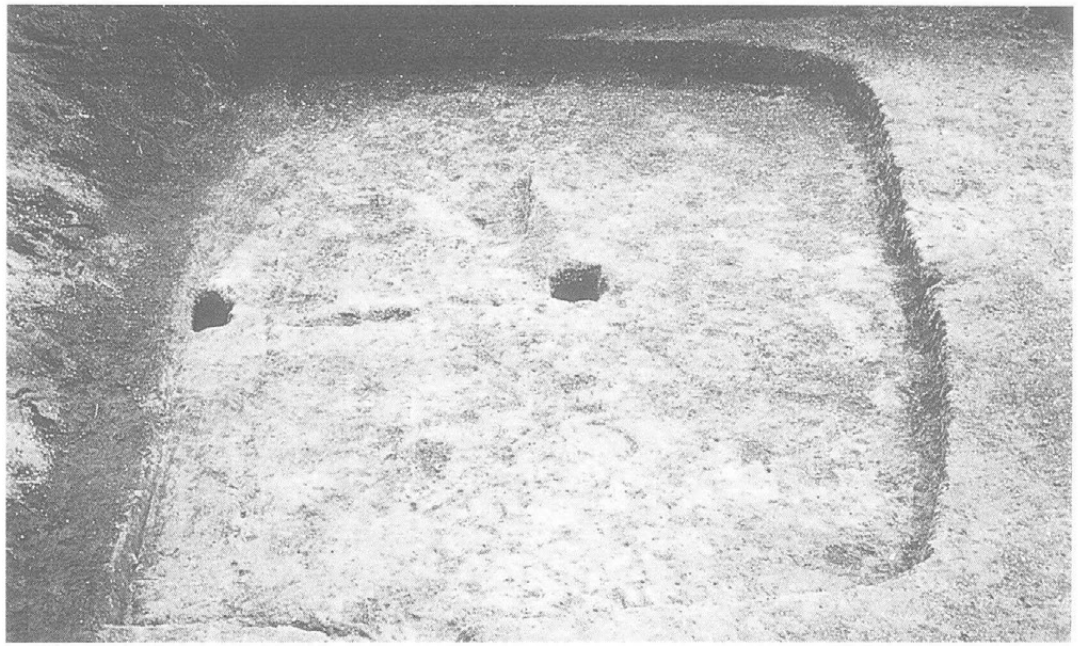
中大五郎第2 SA 2 完掘状況



中大五郎第2 SA 3 完掘状況



中大五郎第2 SA 4 完掘状況



中大五郎第2 SA 6 完掘状況